

授業科目の概要

博士前期課程

博士前期課程 科目一覧

受講場所	【○】全ての講義が受講可能 【△】一部の講義を受講 【無印】受講不可
------	--

コード	科目名	講師所在	対面受講可能場所			遠隔ZOOM
			本郷	浦安	三島	
1010	看護学研究方法論	浦安		△		△
1020	応用統計学	本/浦				○
1030	看護理論特論	浦安		○		○
1040	看護倫理特論	浦安				○
1050	コンサルテーション論	浦安		○		△
1060	家族関係論	本郷	△			△
1070	看護行政政策論	本郷	△			△
1080	国際保健論	浦安	△			△
1090	高度先端医療・医科学特論	浦安		△		△
1100	保健医療連携特論	本郷	○			△
1110	福祉特論	本郷				○
1120	医療情報論	本郷				○
1130	機能病態学特論	本/浦/三	△			○
1140	健康科学特論 ※2024年度休講	本郷	○			
1150	医療経済特論	本郷	△			△
1160	臨床薬理学	本郷	△			△
1170	グローバルメディカルコミュニケーション	浦安	○			
1180	医療看護学特別講義	本郷	○			
1190	リサーチ トピックス - M	-	-	-	-	-
2011	看護教育学特論Ⅰ(基礎・継続教育)	浦安				○
2012	看護教育学特論Ⅱ(CNS)	浦安				○
2013	看護技術開発学特論	浦安/三島		△	△	△
2021	看護管理学特論Ⅰ(看護管理論)	本郷	△			△
2022	看護管理学特論Ⅱ(人的資源管理論)	本郷/浦安	△	△		△
2030	フィジカルアセスメント特論	本郷/浦安	○			○
2151	慢性看護学特論Ⅰ(慢性病看護論)	本郷/三島	○		○	○
2152	慢性看護学特論Ⅱ(慢性病療養支援論A)	本郷/三島	○		○	○
2153	慢性看護学特論Ⅲ(慢性病療養支援論B)	本郷	○			○
2154	慢性看護学特論Ⅳ(慢性病療養システム論)	本郷	○			○
2155	慢性看護学特論Ⅴ(慢性病病態・治療論)	本郷	○			○
2046	慢性看護学実習Ⅰ(CNS役割実習)	実習(科目責任者に確認)				
2047	慢性看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)	実習(科目責任者に確認)				
2048	慢性看護学実習Ⅲ(統合実習)	実習(科目責任者に確認)				
2051	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ(ウイメンズヘルス概論)	浦安		△		△
2052	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅱ(周産期ケア概論)	浦安		△		△
2053	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅲ(ウイメンズヘルスケア概論)	浦安		△		△
2054	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅳ(女性のヘルスプロモーション)	浦安		△		△
2055	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅴ(ウイメンズヘルスケアシステム論)	本郷/浦安	△	△		△
2056	ウイメンズヘルス看護学実習Ⅰ(CNS役割実習)	実習(科目責任者に確認)				
2057	ウイメンズヘルス看護学実習Ⅱ(女性の健康問題支援実習)	実習(科目責任者に確認)				
2058	ウイメンズヘルス看護学実習Ⅲ(統合実習)	実習(科目責任者に確認)				
2061	小児看護学特論Ⅰ(小児看護対象論)	本郷/三島	△		△	△
2062	小児看護学特論Ⅱ(小児サポートシステム論)	浦安		△		△
2063	小児看護学特論Ⅲ(小児援助方法論)	本郷	△			△
2064	小児看護学特論Ⅳ(小児高度看護実践論)	本郷/浦安	△			△
2065	小児看護学特論Ⅴ(小児疾病病態論)	本郷	△			△
2066	小児看護学実習Ⅰ(CNS役割・機能実習)	実習(科目責任者に確認)				
2067	小児看護学実習Ⅱ(小児診断・治療実習)	実習(科目責任者に確認)				
2068	小児看護学実習Ⅲ(統合実習)	実習(科目責任者に確認)				
2071	地域看護学特論Ⅰ(公衆衛生看護学原論)	本郷/浦安	△	△		△
2072	地域看護学特論Ⅱ(公衆衛生看護学活動論)	本郷/浦安	△	△		△
2081	在宅看護学特論Ⅰ(在宅ケアマネジメント論)	本/浦/三	△	△	○	△
2082	在宅看護学特論Ⅱ(在宅看護アセスメント論)	浦安/三島		△	○	△
2083	在宅看護学特論Ⅲ(在宅看護援助論)	浦安		△		△
2084	在宅看護学特論Ⅳ(在宅医療ケア論)	浦安		△		△
2085	在宅看護学特論Ⅴ(訪問看護管理論)	浦安		△		△
2086	在宅看護学実習Ⅰ(在宅ケアマネジメント実習)	実習(科目責任者に確認)				

コード	科目名	講師所在	対面受講可能場所			遠隔 ZOOM
			本郷	浦安	三島	
2087	在宅看護学実習Ⅱ(在宅高度実践看護実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2088	在宅看護学実習Ⅲ(訪問看護管理実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2091	精神看護学特論Ⅰ(精神医療福祉論)	本郷/浦安	△	△		△
2092	精神看護学特論Ⅱ(精神評価方法論)	本郷/浦安	△	△		△
2093	精神看護学特論Ⅲ(治療方法論)	本郷/浦安	△	△		△
2094	精神看護学特論Ⅳ(援助支援論)	本郷/浦安	△	△		△
2095	精神看護学特論Ⅴ(リエゾン精神看護論)	本郷/浦安	△	△		△
2096	精神看護学実習Ⅰ(役割実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2097	精神看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2098	精神看護学実習Ⅲ(統合実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2101	がん看護学特論Ⅰ(がん病態看護論)	浦安				○
2102	がん看護学特論Ⅱ(がん看護理論)	浦安				○
2103	がん看護学特論Ⅲ(がん看護援助論)	浦安				○
2104	がん看護学特論Ⅳ(がん薬物療法看護論)	浦安				○
2105	がん看護学特論Ⅴ(がん緩和ケア論)	浦安				○
2106	がん看護学実習Ⅰ(CNS役割実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2107	がん看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2108	がん看護学実習Ⅲ(統合実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2111	感染看護学特論Ⅰ(感染症制御論)	浦安				○
2112	感染看護学特論Ⅱ(感染予防・マネジメント論)	浦安	△			○
2113	感染看護学特論Ⅲ(感染症診断・病態論)	本郷/浦安				○
2114	感染看護学特論Ⅳ(感染症看護支援論)	浦安				○
2115	感染看護学特論Ⅴ(感染症制御システム論)	浦安	△			○
2116	感染看護学実習Ⅰ(感染看護高度実践/感染対策室実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2117	感染看護学実習Ⅱ(感染症診断実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2118	感染看護学実習Ⅲ(地域感染予防実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2121	高齢者看護学特論Ⅰ(高齢者看護学原論)	浦安				○
2122	高齢者看護学特論Ⅱ(アセスメント論)	浦安				○
2123	高齢者看護学特論Ⅲ(支援システム論)	浦安				○
2124	高齢者看護学特論Ⅳ(急性期ケア論)	浦安				○
2125	高齢者看護学特論Ⅴ(認知症看護論)	浦安				○
2126	高齢者看護学実習Ⅰ(認知症看護実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2127	高齢者看護学実習Ⅱ(急性期看護実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2141	クリティカルケア看護学特論Ⅰ(対象論)	浦安				○
2142	クリティカルケア看護学特論Ⅱ(アセスメント論)	浦安				○
2143	クリティカルケア看護学特論Ⅲ(治療管理論)	浦安				○
2144	クリティカルケア看護学特論Ⅳ(看護援助論A)	浦安				○
2145	クリティカルケア看護学特論Ⅴ(看護援助論B)	浦安				○
2146	クリティカルケア看護実習Ⅰ(実践実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2147	クリティカルケア看護実習Ⅱ(統合実習)	実	習(科目責任者に確認)			
2171	シミュレーション看護学特論	浦安		△		△
3000	演習	演	習(指導教員に確認)			
3040	演習(慢性看護CNS)	演	習(指導教員に確認)			
3050	演習(ウィメンズヘルス看護CNS)	演	習(指導教員に確認)			
3060	演習(小児看護CNS)	演	習(指導教員に確認)			
3080	演習(在宅看護CNS)	演	習(指導教員に確認)			
3090	演習(精神看護CNS)	演	習(指導教員に確認)			
3100	演習(がん看護CNS)	演	習(指導教員に確認)			
3110	演習(感染看護CNS)	演	習(指導教員に確認)			
3120	演習(高齢者看護CNS)	演	習(指導教員に確認)			
3130	演習(急性・重症患者看護CNS)	演	習(指導教員に確認)			
4000	特別研究	研	究(指導教員に確認)			
4040	課題研究(慢性看護CNS)	研	究(指導教員に確認)			
4050	課題研究(ウィメンズヘルス看護CNS)	研	究(指導教員に確認)			
4060	課題研究(小児看護CNS)	研	究(指導教員に確認)			
4080	課題研究(在宅看護CNS)	研	究(指導教員に確認)			
4090	課題研究(精神看護CNS)	研	究(指導教員に確認)			
4100	課題研究(がん看護CNS)	研	究(指導教員に確認)			
4110	課題研究(感染看護CNS)	研	究(指導教員に確認)			
4120	課題研究(高齢者看護CNS)	研	究(指導教員に確認)			
4130	課題研究(急性・重症患者看護CNS)	研	究(指導教員に確認)			

※科目によって変更の場合があります。

※詳しくは科目責任者へお問い合わせください。

科目名	看護学研究方法論	必修・選択	必修
英語科目名	Nursing Research Methodology	対象学年	1年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、飯島佐知子※、櫻井しのぶ※、高谷真由美※、湯浅美千代※、大西麻美※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	看護学の発展に寄与する研究法について、看護研究方法の種類と概要（質的研究、量的研究）、研究のプロセス（研究計画から発表まで）、研究倫理を学ぶ。研究論文のクリティックを通して、研究の実際を学び、自らの研究計画と研究論文を作成する際の基盤となるよう理解を深める。研究倫理については、自ら遂行する研究ならびに自部署等で看護職や他職種が遂行する研究において、倫理行為を判断、遵守するための具体的な手続きについて探求する。 さらに、研究成果を看護実践にどのように活用するか、研究を通して看護実践がどのように発展していくかを探求する。				
授業の位置づけ	研究方法論と研究に必要な事項を学び、研究計画と研究論文作成の基盤とする。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学研究の目的と意義が説明できる。 2. 主要な研究デザインと手法、そのプロセスを説明できる。 3. 目的に合った研究論文を検索し、クリティックできる。 4. 研究を計画するために準備すべきことを述べるができる。 5. 研究する上で遵守すべき倫理的事項を述べるができる。 6. 研究成果を自分の看護実践にどのように活用するかを述べるができる。 7. 自分の看護実践の経験をふまえて研究疑問を述べるができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	演習、課題研究、特別研究				
学修上の注意	対面かzoom形式かは変更となる場合あり。 各授業終了時に課題が提示される。発表にあたっては事前に資料を準備する。 不明な点は事前に担当教員に確認すること。 研究計画発表会・研究報告会に積極的に参加し、各研究を理解するよう努め、質問することを通して研究者としての態度を体験する（出席必須）。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料（40%）、ディスカッションへの参加状況（20%）、まとめのレポート（40%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学研究の目的と意義が説明できる。 2. 主要な研究デザインと手法、そのプロセスを説明できる。 3. 目的に合った研究論文を検索し、クリティックできる。 4. 研究を計画するために準備すべきことを述べるができる。 5. 研究する上で遵守すべき倫理的事項を述べるができる。 6. 研究成果を自分の看護実践にどのように活用するかを述べるができる。 7. 自分の看護実践の経験をふまえて研究疑問を述べるができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業内でコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	Nursing Research - An Introduction 3rd ed.	Moule, P. Aveyard, H. & Goodman M.	SAGE Publications Ltd	978-1473953420	2017
参考文献					
参考文献は以下のほか、授業内で紹介する。 ・Polit, D. F. & Beck C. T.: Nursing Research-Principle and methods 7th ed, 2004, 近藤潤子訳, 看護研究-原理と方法 第2版, 医学書院, 2010. ・Grove, S.k., Burns, N., Gray, J.R.: The Practice of Nursing Research 7th ed, 2013, 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功監訳, パーンズ&グローブ 看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成 原書第7版, エルゼビア・ジャパン, 2015. ・前田 樹海, 江藤 裕之: APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール 第2版, 医学書院, 2023. ・牧本清子編: エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー, 日本看護協会出版会, 2013. ・Walker, L.O. & Avant, K.C.: Strategies for Theory Construction in Nursing 4th ed., 2005, 中木高夫, 川崎修一訳, 看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008. ・市原清志: バイオサイエンスの統計学, 南江堂, 1993. ・Holloway, I. & Wheeler, S. 著, 野口美和子監訳: ナースのための質的研究入門 第2版, 医学書院, 2006.					

その他				
連絡先・オフィスアワー	各担当者にメールで連絡する。			
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 4/20 1限 zoom	種市ひろみ	オリエンテーション 看護学領域における研究の意義 研究のプロセス①研究計画から発表まで	講義	復習90分
2 4/20 2限 zoom	図書館司書白川智子、種市ひろみ	研究のプロセス②文献検討の意義と方法	講義、討議	予習・復習各90分
3 4/27 1限 zoom	飯島佐知子	量的研究法① 概念枠組みと仮説設定、検証の考え方	講義、討議	予習・復習各90分
4 4/27 2限 zoom	飯島佐知子	量的研究法② 横断研究、コーホート研究、交絡要因、因果関係	講義、討議	予習・復習各90分
5 5/18 1限 zoom	大西麻美	量的研究法③ 実験研究・準実験研究、介入研究（RCT）	講義、討議	予習・復習各90分
6 5/18 2限 zoom	大西麻美	量的研究法④ 尺度の活用と開発	講義、討議	予習・復習各90分
7 6/1 1限 zoom	櫻井しのぶ	質的研究法① データ収集の特徴	発表、討議、講義	予習・復習各90分
8 6/1 2限 zoom	櫻井しのぶ	質的研究法② データ分析の方法	発表、討議、講義	予習・復習各90分
9 6/15 1限 zoom	櫻井しのぶ	質的研究法③ データ分析の実際	発表、討議、講義	予習・復習各90分
10 6/15 2限 zoom	高谷真由美	研究のプロセス③ 研究倫理	講義、討議	予習・復習各90分
11 6/22 1限 zoom	種市ひろみ	研究論文のクリティーク① 量的研究 グループワーク	発表、討議	予習・復習各90分
12 6/22 2限 zoom	飯島佐知子	研究論文のクリティーク② 量的研究 グループワーク	発表、討議	予習・復習各90分
13 7/6 1限 対面	湯浅美千代	研究論文のクリティーク③ 質的研究 グループワーク	発表、討議	予習・復習各90分
14 7/6 2限 対面	湯浅美千代	研究論文のクリティーク④ 質的研究 グループワーク	発表、討議	予習・復習各90分
15 7/13 1限 zoom	種市ひろみ	看護学領域における研究成果の活用と看護実践の発展 グループ討議	講義、討議	予習・復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	応用統計学	必修・選択	必修
英語科目名	Applied statistics	対象学年	1年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	戸ヶ里 泰典	ナンバリング	
担当教員	戸ヶ里泰典※、米倉佑貴※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	看護学研究において実施されることが多い社会調査法（いわゆるアンケート調査）におけるデータ収集と測定方法、尺度開発方法など、基本的なことを学び、さらに実際に統計ソフトを動かしながら最終的には多変量解析について理解を深める。データ処理統計ソフトについては看護領域で用いられることの多いSPSSを扱う。				
授業の位置づけ	統計学は根拠に基づく医療・看護（Evidence Based Medicine (EBM)、Evidence Based Nursing (EBN)）を支える学問であり、臨床実践において重要である。研究において、文献レビューを適切に行うために必須であるほか、量的研究デザインを使用する場合には、本科目で扱う社会調査法、データ収集・測定方法、尺度の開発・使用方法、統計解析ソフトの使用法に関する知識・技術は必須のものであり、特別研究、課題研究の基盤となる科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 推測統計の基礎について理解する 2. 二変量間の関係に関する統計結果を読み取ることができる 3. 多変量解析の基礎について理解する 4. 重回帰分析・因子分析に関する結果を読み取ることができる 5. SPSSを用いてデータ分析を行い結果を読み取ることができる 				
先修要件	なし				
関連科目	看護学研究方法論、特別研究、課題研究				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前に参考文献やインターネット検索等を用いて、各回のテーマに関する知識を深めておく 2. 与えられた課題文献の読み込みや、データ解析を行う ※各授業につき予習2時間、復習2時間を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（50%）、日々の学習状況（25%）、受講態度（25%）				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 推測統計の基礎について理解する 2. 二変量間の関係に関する統計結果を読み取ることができる 3. 多変量解析の基礎について理解する 4. 重回帰分析・因子分析に関する結果を読み取ることができる 5. SPSSを用いて上記の解析を実行することができる 6. SPSSを用いた解析結果を整理し、図表を作成することができる 7. SPSSを用いた解析結果を解釈し、記述・説明することができる 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題レポートについては、後日解答例を示す					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
土田昭司・山川栄樹著 新・社会調査のためのデータ分析入門—実証科学への招待 有斐閣 中山和弘著 看護学のための多変量解析入門 医学書院					
その他					
連絡先・オフィスアワー	戸ヶ里：電子メール（ttogari@ouj.ac.jp）で随時質問を受け付ける 米倉：授業終了後に質問を受け付けるほか、電子メール（yyonekura@slcn.ac.jp）で質問を受け付ける				
備考					
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法*	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	戸ヶ里	調査デザインとサンプリング、検定の基礎	講義	予習：これまでに学んできた調査デザインやサンプリングに関する資料・図書を自身で整理・調べて学習を行う（2時間） 復習：配布資料を参照して授業内容について振り返る（2時間）	

2	戸ヶ里	平均と分散、平均値の差の検定	講義	予習：代表値や統計学的検定に関する情報・知識を図書やウェブサイトを自身で調べて学習を行う（2時間） 復習：配布資料を参照して授業内容について振り返る（2時間）
3	戸ヶ里	ノンパラメトリック検定	講義	予習：事前配布資料およびノンパラメトリック検定に関する情報・知識を図書やウェブサイトを自身で調べて学習を行う（2時間） 復習：配布資料を参照して授業内容について振り返る（2時間）
4	戸ヶ里	相関と回帰	講義	予習：事前配布資料および多変量解析に関する情報・知識を図書やウェブサイトを自身で調べて学習を行う（2時間） 復習：配布資料を参照して授業内容について振り返る（2時間）
5	戸ヶ里	重回帰分析とその応用	講義	予習：事前配布資料および重回帰分析に関する情報・知識を図書やウェブサイトを自身で調べて学習を行う（2時間） 復習：配布資料を参照して授業内容について振り返る（2時間）
6	戸ヶ里	因子分析とその応用	講義	予習：事前配布資料および因子分析に関する情報・知識を図書やウェブサイトを自身で調べて学習を行う（2時間） 復習：配布資料を参照して授業内容について振り返る（2時間）
7	戸ヶ里	多変量解析を使用した研究論文の読み方	グループワーク・討議・発表	予習：課題として与えられた多変量解析を用いた先行研究をグループで協力して整理する（2時間） 復習：各グループからの配布資料を参照して授業内容について振り返る（2時間）
8	戸ヶ里	尺度開発法入門	講義	予習：事前配布資料および多項目尺度開発法に関する情報・知識を図書やウェブサイト自身で調べて学習を行う（2時間） 復習：配布資料を参照して授業内容について振り返る（2時間）
9	米倉	SPSSでの分析の準備とデータの確認（データの読み込み、加工）	講義	予習：事前配布資料を読む（2時間） 復習：配布資料や講義動画を参照しながら、講義時に行った操作を再度行い、確認する（2時間）
10	米倉	SPSSを使った基本的な統計解析（度数分布表、記述統計量の算出）	講義	予習：事前配布資料を読む（2時間） 復習：配布資料や講義動画を参照しながら、講義時に行った操作を再度行い、確認する（2時間）
11	米倉	SPSSを使った2変量の統計解析（t検定、一元配置分散分析、相関係数、単回帰分析）	講義	予習：事前配布資料を読む（2時間） 復習：配布資料や講義動画を参照しながら、講義時に行った操作を再度行い、確認する（2時間）
12	米倉	SPSSを使った多変量解析（重回帰分析）	講義	予習：事前配布資料を読む（2時間） 復習：配布資料や講義動画を参照しながら、講義時に行った操作を再度行い、確認する（2時間）
13	米倉	SPSSを使った多変量解析（重回帰分析）	講義	予習：事前配布資料を読む（2時間） 復習：配布資料や講義動画を参照しながら、講義時に行った操作を再度行い、確認する（2時間）
14	米倉	SPSSを使った多変量解析（因子分析）	講義	予習：事前配布資料を読む（2時間） 復習：配布資料や講義動画を参照しながら、講義時に行った操作を再度行い、確認する（2時間）
15	米倉	SPSSを使った多変量解析（因子分析）	演習	予習：事前配布資料を読む（2時間） 復習：配布資料や講義動画を参照しながら、講義時に行った操作を再度行い、確認する（2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護理論特論	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing Theory	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	永野 光子	ナンバリング	
担当教員	永野光子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>「看護学とは何か」を問いつつ、看護理論の歴史の変遷を概観し、看護理論の体系について理解する。また、既存の看護理論の概要ならびに卓越した看護の基盤となる、実践・教育・研究への看護理論の適用の実際について議論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論とは 2. 看護理論の歴史の変遷 3. 看護理論の概要とクリティーク 4. 看護理論の実践、教育、研究への適用 <p>授業方法：講義、グループワーク(GW)、プレゼンテーション</p>				
授業の位置づけ	<p>本科目は、看護理論を理解するための基礎知識の獲得と活用の実際について理解することを目的としている。本科目の学習成果を基盤として各専門分野が用いる看護理論の活用に応用することができる。</p>				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理論を理解するために必要な基本的知識を修得し、関心のある看護理論を選択し、概要を説明することができる。 ・看護理論を看護実践へ適用することにより看護現象を看護学的に説明することができる。 ・卓越した看護実践・教育・研究の理論的基盤として、看護理論活用の意義と重要性を説明することができる。 ・様々な看護理論に興味を示し、実践・教育・研究の活用に向けディスカッションに参加することができる。 				
先修要件	特になし				
関連科目	特になし				
学修上の注意	<p>授業で取り上げる看護理論について、事前に参考書を読んでおく。 講義やプレゼンテーションを通じて興味を持った理論家の著書を読む。 プレゼンテーションについて行うディスカッションに積極的に参加する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>ディスカッションへの参画度(30%)、プレゼンテーション(40%)、最終レポート(30%)を総合して評価する。</p>				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・関心のある看護理論の概要をプレゼンテーションすることができる。 ・関心のある看護理論を、自己の実践・教育・研究に適用し、現象を看護学的に説明することができる。 ・プレゼンテーションの内容について質問や意見を述べたり、他者の意見を聞きディスカッションしたりすることができる。 ・看護実践に看護理論を適用する意義について、ディスカッションの場で述べること、レポートに記述することができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポートは個別にコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<p>筒井真優美編集：看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院。 A M-Tomey, 都留伸子監訳：看護理論家とその業績 第3版、医学書院。 J. B. George, 南裕子他訳：看護理論集-より高度な看護実践のために、日本看護協会出版会。 J. Fawcett, 小島操子監訳：看護モデルの分析、医学書院。 筒井真優美編集：看護理論 看護理論21の理解と実践への応用 改訂第3版、南光堂。 野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論 第2版、メヂカルフレンド社。 各看護理論家の著書</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	mnagano@へご連絡ください。				
備考	三島キャンパスとの遠隔授業については、浦安キャンパスと同様に講義の視聴と質疑応答を行う。発表については遠隔授業システムを用い相互に発表を行う。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	永野	授業ガイダンス 授業の目的や内容、スケジュールの確認、看護理論に関する学習背景の確認、選択する看護理論の決定	講義	予習：シラバスを読み、看護理論の種類を調べておく(学習時間：2時間) 復習：担当する回の資料を収集する(学習時間：2時間)	

2	永野	基礎編①：看護理論とは -看護理論の定義、構成要素	プレゼンテーションおよび講義	予習：参考書の該当箇所を読む。(学習時間：2時間) 復習：看護理論の定義、構成要素について整理し理解する。(学習時間：2時間)
3	永野	基礎編②：看護理論とは -看護におけるメタパラダイム	プレゼンテーションおよび講義	予習：参考書の該当箇所を読む。(学習時間：2時間) 復習：メタパラダイム、看護理論におけるメタパラダイムについて、整理する。(学習時間：2時間)
4	永野	基礎編③：看護理論の歴史	プレゼンテーションおよび講義	予習：参考書の該当箇所を読む。(学習時間：2時間) 復習：看護理論の歴史について整理し、看護理論の発展のポイントとなる出来事を理解する。(学習時間：2時間)
5	永野	基礎編④：看護理論のクリティーク	プレゼンテーションおよび講義	予習：参考書の該当箇所を読む。(学習時間：2時間) 復習：看護理論のクリティークについて、整理し理解する。(学習時間：2時間)
6	永野	看護理論の実践、教育、研究への適用 -キング看護理論の概要と実践への適用の実際	講義	予習：参考書の該当箇所を読み、キング看護理論の概要を知る。(学習時間：2時間) 復習：キング看護理論の概要を整理し、自己の実践への活用について考察する。(学習時間：2時間)
7	永野	看護理論の実践、教育、研究への適用① -各自が選択した看護理論の概要と実践への適用	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習：参考書の該当箇所を読み、選択された看護理論の概要を知る。(学習時間：2時間) 復習：プレゼンテーションされた看護理論について整理し、自己の実践への活用について考察する。(学習時間：2時間)
8	永野	看護理論の実践、教育、研究への適用② -各自が選択した看護理論の概要と実践への適用	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習：参考書の該当箇所を読み、選択された看護理論の概要を知る。(学習時間：2時間) 復習：プレゼンテーションされた看護理論について整理し、自己の実践への活用について考察する。(学習時間：2時間)
9	永野	看護理論の実践、教育、研究への適用③ -各自が選択した看護理論の概要と実践への適用	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習：参考書の該当箇所を読み、選択された看護理論の概要を知る。(学習時間：2時間) 復習：プレゼンテーションされた看護理論について整理し、自己の実践への活用について考察する。(学習時間：2時間)
10	永野	看護理論の実践、教育、研究への適用④(プレゼンテーション) -各自が選択した看護理論の概要と実践への適用	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習：参考書の該当箇所を読み、選択された看護理論の概要を知る。(学習時間：2時間) 復習：プレゼンテーションされた看護理論について整理し、自己の実践への活用について考察する。(学習時間：2時間)
11	永野	看護理論の実践、教育、研究への適用⑤ -各自が選択した看護理論の概要と実践への適用	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習：参考書の該当箇所を読み、選択された看護理論の概要を知る。(学習時間：2時間) 復習：プレゼンテーションされた看護理論について整理し、自己の実践への活用について考察する。(学習時間：2時間)
12	永野	看護理論の実践、教育、研究への適用⑥ -各自が選択した看護理論の概要と実践への適用	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習：参考書の該当箇所を読み、選択された看護理論の概要を知る。(学習時間：2時間) 復習：プレゼンテーションされた看護理論について整理し、自己の実践への活用について考察する。(学習時間：2時間)
13	永野	看護理論の授業計画を立案する-看護基礎教育編-	グループワークおよびプレゼンテーション	予習：授業計画立案に関する資料を読む。(学習時間：2時間) 復習：看護理論を教授する授業計画の立案に関わる知識を確認し、看護理論の授業におけるミニマムエッセンシャルズを整理する。(学習時間：2時間)
14	永野	看護理論の授業計画を立案する-看護継続教育編-	グループワークおよびディスカッション	予習：看護継続教育に関する資料を読む。(学習時間：2時間) 復習：看護継続教育において対象に応じた看護理論の授業の展開方法を考察する。(学習時間：2時間)
15	永野	まとめ 看護理論を実践へ適用する意義	講義	予習：これまでの授業資料を確認し、学んだことを整理する。(学習時間：2時間) 復習：看護理論を理解し実践に活用する意義について考察する。(学習時間：2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	看護倫理特論	必修・選択	選択
英語科目名	Opinions on nursing ethics	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	宮脇 美保子	ナンバリング	
担当教員	宮脇美保子	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>人間科学としての看護学における「生命」「個人の尊重」「人間の尊厳」とは何かについて、看護専門職の責務という観点から教授する。また、先端医療および日常的看護実践における看護職者の倫理的感受性を高め、倫理的意思決定の過程ならびに医療者間の倫理的調整を行うために必要な能力について教授する。さらに、ケアの倫理を中心とした倫理モデルについてその可能性と限界について批判的に論じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイオエシックス(生命倫理)と医療倫理 2. 倫理原則 3. 正義の倫理とケアの倫理 4. 倫理的感受性、倫理的ジレンマ 5. 事例を用いた倫理的問題の分析 6. 倫理的調整の役割 				
授業の位置づけ	CNS教育課程における共通科目Aの中に設定されている。看護倫理は、看護現場において倫理的な問題・葛藤について関係者間での調整を行うために必要な高度実践看護師としての知識を教授する科目として設定されている。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理、看護倫理問題が生じる歴史的・社会的背景を踏まえ、倫理の実践について討議できる。 2. 倫理モデル、倫理原則を踏まえ、臨床倫理における倫理的問題事例について検討できる。 3. 倫理的問題にかかわる人々の価値観を尊重し、その調整に向けて対応を検討できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	倫理は、看護実践に内在しているため、CNSの各コースで設定されている科目と関連している。				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理、医療倫理に関する最新情報に関心をもつ 2. 看護実践を倫理的視点から意識的に考える <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参画-プレゼンテーション、倫理事例提出、討議(40%) ・最終レポート(60%) 				
評価基準	<p>プレゼンと討議(40%)：2回目以降から毎回学習内容について議論するため、担当回のプレゼンと毎回の授業における発言内容で評価する</p> <p>レポート(60%)：自身の看護実践および学習した内容を踏まえ、「倫理的に行動できる看護者になるために」のレポート課題で評価する</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業前に提示した予習課題は、当該授業内において学生が発表し、解説を行う科目のまとめとして提示するレポート課題は、科目責任者がコメントする					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	看護実践のための倫理と責任, 宮脇美保子, 中央法規出版, 978-4-8058-3959-1				
参考文献					
<p>参考文献</p> <p>下記以外の文献は、授業内で提示する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮脇美保子 身近な事例で学ぶ看護倫理、中央法規出版 ・浜渦辰二、宮脇美保子 シリーズ生命倫理学 第14巻 看護倫理 丸善出版 ・サラT フライ著、看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド 日本看護協会出版会 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問がある方は、mmiyawa@keio.jpまでご連絡下さい。				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では自分の意見を積極的に言語化しよう心掛けてください。 ・必読文献は、必ず事前に読んでください。 ・事例検討については、授業で積極的な議論ができるよう各自で検討し、言語化できるよう準備してきてください。 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	宮脇	授業の進め方 ・看護実践に内在する倫理 ・自分自身の看護実践を振り返って	講義	予習・復習各90分
2	宮脇	第1章：倫理について I. 倫理とは何か：法、倫理、道徳 II. 医療倫理：医療倫理の歴史の変遷 ・医療倫理の原則、インフォームドコンセント III. 臨床倫理：4分割法の活用 (担当ページ「看護実践のための倫理と責任」pp.10-51)	プレゼン&ディス カッション	予習・復習各90分 「看護実践のための倫理と責任」p.10-51を 必ず読んで授業に参加すること
3	宮脇	第1章：倫理について IV. 看護倫理 (p.52-61) ・看護教育と倫理 ・看護職の倫理綱領 V. 看護研究と倫理 (p.62-66) ・ベルモントレポート ・研究倫理指針	プレゼン&ディス カッション	予習・復習各90分 「看護実践のための倫理と責任」pp.52-66 を必ず読んで授業に参加すること
4	宮脇	患者の権利とその擁護(院生プレゼン・討議) ・患者の権利：患者の権利運動、リスボン宣言、患者の権利章典 ・看護におけるアドボカシー	プレゼン&ディス カッション	予習・復習各90分 「看護実践のための倫理と責任」pp.68-79 を必ず読んで授業に参加すること
5	宮脇	倫理実践を求める患者・家族のニーズ(院生プレゼン・討議) ・患者の患者を理解 ・ケアリング	プレゼン&ディス カッション	予習・復習各90分 「看護実践のための倫理と責任」pp.80-92 を必ず読んで授業に参加すること
6	宮脇	医療現場の人間関係(院生プレゼン・討議) ・医療者-患者関係の勾配:i-patient、信頼と責任 ・看護師の道徳的苦悩:個人的、職業的、組織的価値観	プレゼン&ディス カッション	予習・復習各90分 「看護実践のための倫理と責任」pp.93-141 を必ず読んで授業に参加すること
7	宮脇	倫理的問題の分析と対応過程(院生プレゼン・討議) ・倫理的感受性、倫理的判断、実行 ・臨床倫理の4分割法(Jonsen) サーバントリーダーシップ	プレゼン&ディス カッション	予習・復習各90分 「看護実践のための倫理と責任」pp.142- 160を必ず読んで授業に参加すること
8	宮脇	正義の倫理とケアの倫理(院生プレゼン・討議) ・正義の倫理：コールバーグの道徳的発達、普遍的原理、正義 ・ケアの倫理：ギリガンの道徳的発達、関係性におけるケアと応答責任 ・正義の倫理とケアの倫理の相補的關係	プレゼン&ディス カッション	予習・復習各90分 「看護実践のための倫理と責任」pp.142- 160を必ず読んで授業に参加すること
9	宮脇	看護実践における倫理的問題-事例分析 (1) (討議) ・患者の尊厳(拘束、守秘義務)等に関する事例	ディスカッション	予習・復習各90分 検討事例を必ず読んでくること
10	宮脇	看護実践における倫理的問題-事例分析 (2) (討議) ・インフォームドコンセント等に関する事例	ディスカッション	予習・復習各90分 検討事例を必ず読んでくること
11	宮脇	看護実践における倫理的問題-事例分析 (3) (討議) ・先端医療、移植等に関する事例	ディスカッション	予習・復習各90分 検討事例を必ず読んでくること
12	宮脇	看護実践における倫理的問題-事例分析 (4) (討議) ・生殖医療等に関する事例他	ディスカッション	予習・復習各90分 検討事例を必ず読んでくること
13	宮脇	看護実践における倫理的問題-事例分析 (5) (討議) ・終末期、延命医療等に関する事例他	ディスカッション	予習・復習各90分 検討事例を必ず読んでくること
14	宮脇	看護実践における倫理的問題(討議) ・倫理的ジレンマ、道徳的苦悩	予習・復習各90分 「看護実践のため の倫理と責任」 pp.162-175を必ず 読んで授業に参加 すること	プレゼン&ディスカッション
15	宮脇	看護実践における倫理調整(討議) ・チーム医療と倫理調整 ・倫理コンサルテーション	予習・復習各90分 授業内容を踏まえ て、自身の考えを 言語化してくるこ と	ディスカッション

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	コンサルテーション論	必修・選択	選択
英語科目名	Consultation	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、大島泰子※、北村幸恵※、白井教子※、込山洋美※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	<ul style="list-style-type: none"> 看護臨床でのコンサルテーションの目的、コンサルテーションのモデルとタイプ、コンサルタンの機能・役割・プロセスについて理解を深める。 複数分野の専門看護師が実際にコンサルテーションを行う際の工夫、どのように知識・態度・技能を活用して相談活動を展開しているのかを学び、臨床で生かせるコンサルテーションの基礎能力を養う。 チーム医療におけるコンサルテーションの機能と役割に関する知識を習得する。 			
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 高度実践看護師（専門看護師；CNS）認定試験受験に必要な「共通科目A」の科目に位置する。 援助関係を築き、支援に携わる職種に利用できる理論とスキルを提供する。CNSコース以外の学生にとっても参考になる内容を提供する。 			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> コンサルテーションの概念と類似概念との比較からコンサルテーションの目的と役割を説明できる。 コンサルテーションのプロセスを確認する。 コンサルテーションの機能と役割に関する4つのモデルと2つのタイプを識別できる。 コンサルテーション時の援助関係の特徴とコンサルタントとしての態度を学ぶ。 個人、グループ、組織へのコンサルテーションの展開方法を説明する。 ロールプレイを通して、コンサルタントとしての役割と技術を習得する。 ロールプレイを通してコンサルタントとしての態度を洞察し、自身の課題を明確にする。 			
先修要件	なし			
関連科目	なし			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> テキスト2の担当箇所について効果的なプレゼンテーションを行う。 討議ができるよう準備しておく。 <p>※プレゼンテーションでは、テキストのcut & pasteを避け、自分が理解した言葉で説明するよう努めること。</p>			
成績評価の方法				
評価方法	プレゼンテーションと討議への貢献度 50%、演習状況とレポート内容 50%を統合して評価する。			
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションでは担当箇所について明確な説明ができる。 討議では積極的な発言がある。 演習では学修した理論、知識、スキルの具現化への努力がみられる。 演習を通してコンサルタントとして自身の傾向や課題の気づきがある。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
<ul style="list-style-type: none"> 4~6名のグループでロールプレイを行い、コンサルタントとして関わったケースを振り返り、自分の課題を明確にする。 オブザーバーとしての教員から具体的な指導を受ける。 				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
1. インターナショナルナーシングレビュー, 18(5):4-12, 23-30, (1995) コンサルテーションの概要-コンサルタンの立場から.	アンダーウッドPR, 勝原裕美子訳	日本看護協会出版会		
2. プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと. (1999)	シャインEH著, 稲葉元吉ほか訳	白桃書房	978-4-561-13140-3	
3. 高度実践看護統合的アプローチ第2版	Tracy MF, O'Grady ET著, 中村みすずほか監訳	へるす出版	978-4-89269-996-2	3章、9章
4. ジェラルド・キャプランのメンタルヘルス・コンサルテーションの概要	丹羽郁夫	コミュニティ心理学, 18:160-174, 2015.		
参考文献				
<ol style="list-style-type: none"> 井部俊子監修, 専門看護師の臨床推論研究会編: 専門看護師の思考と実践, 医学書院, 2020. Caplan G. & Caplan R. : Chapter 6, 7, 11, 12, In Mental Health Consultation and Collaboration, Waveland Press, 1993. Lippitt G. & Lippitt R. : Chapter 4, 5, In The Consulting Process in Action, Jossey-Bass / Pfeiffer, 1986. 野末聖香編著, リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために, 医歯薬出版, 2004. 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問と相談は授業内で受け付ける。適宜、メール連絡も可。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・開講曜日：月曜2限、数回1・2限となるので注意する。 ・演習ではコンサルタント、コンサルティ、オブザーバー役でロールプレイを行う。コンサルティは相談内容を2～3件準備しておくこと。 			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 (9/30 ・2限 zoom)	水野恵理子	コンサルテーションの概念：コンサルテーションの機能、コンサルテーションのモデルとタイプ（テキスト1 4-12）	講義、討議	予習：テキスト1を読んでおく。（学習時間90分） 復習：医療場面でのコンサルテーションと類似した概念の相違を復習し、コンサルテーションの特徴・定義・4つのモデル・2つのタイプの介入スタイルの特徴を明確にしておく。（学習時間90分）
2 (10/7 ・2限 zoom)	水野恵理子	専門看護師の役割と活動 米国における高度実践看護師の歴史的概要	講義、プレゼンテーション、討議	予習：日本看護協会の専門看護師の該当箇所、日本専門看護師協会のHPに目を通しておく。テキスト3の3章を2名で担当し、プレゼンテーションの準備をしておく。（学習時間120分） 復習：専門看護師の役割と活動についての理解を深める。（学習時間90分）
3・4 (10/2 1・1～ 2限 zoom)	水野恵理子	看護組織へのコンサルテーションの実際、コンサルタントに必要な教育（テキスト1 23-30） メンタルヘルス・コンサルテーションの概観（テキスト4） コンサルテーション（テキスト3の9章、テキスト2の1章）	講義、プレゼンテーション、討議	予習：テキスト3の9章とテキスト2の1章を各2名で担当し、プレゼンテーションの準備をしておく。（学習時間120分） 復習：対象理解に必要な精神力動の考え方防衛機制についての理解を深める。高度実践看護の定義を明確にしておく。（学習時間90分）
5・6 (10/28, 11/11 ・2限 zoom)	水野恵理子	プロセス・コンサルテーション（テキスト2の2～5章）	プレゼンテーション、討議 各章を2名で担当する 10/28 テキスト2の2章、3章 11/11 テキスト2の4章、5章	予習：担当箇所のプレゼンテーションと討議に参加できるよう準備しておく。（学習時間120分） 復習：プレゼンテーションの内容の理解を深める。（学習時間90分）
7～8 (11/18・1～ 2限 zoom)	白井教子	組織開発とプロセス・コンサルテーション：組織アセスメント、組織へのコンサルテーションの工夫	講義、討議	予習：これまでの授業内容を復習しておく。（学習時間90分） 復習：自分が所属する組織について、授業内容を参考に直す。（学習時間90分）
9 (11/25・2限 zoom)	込山洋美	コンサルテーションの実際1：小児看護専門看護師の活動	講義、討議	予習：これまでの授業内容の整理と確認をしておく。（学習時間90分） 復習：小児看護専門看護師のコンサルテーション方法や考え方を整理する。（学習時間90分）
10(12/2・2限 zoom)	大島泰子	コンサルテーションの実際2：精神看護専門看護師の活動	講義、討議	予習：これまでの授業内容の整理と確認をしておく。（学習時間90分） 復習：精神看護専門看護師のコンサルテーション方法や考え方を整理する。（学習時間90分）
11 (12/9 ・2限 zoom)	北村幸恵	コンサルテーションの実際3：慢性疾患看護専門看護師の活動	講義、討議	予習：これまでの授業内容の整理と確認をしておく。（学習時間90分） 復習：慢性疾患看護専門看護師のコンサルテーション方法や考え方を整理する。（学習時間90分）
12～15 (12/16, 12/23 ・1～2 限 対 面)	水野恵理子, 大島泰子, 北 村幸恵	コンサルテーションの演習：コンサルテーションの4つのモデルについて事例を用意し、ロールプレイを行う。	グループでのロールプレイ、討議	予習：今までの授業内容を確認しておく。コンサルティ役の相談内容事例を準備しておく。（学習時間120分） 復習：自分がコンサルタントになった時のことを振り返り、課題を明確にする。コンサルテーションをどのように捉えたか、課題についてどのような解決や改善ができるかを考え、レポートにまとめる。（学習時間120分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	家族関係論	必修・選択	選択
英語科目名	Family Relationships	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	日下 華奈子	ナンバリング	
担当教員	日下華奈子	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>「家族」という概念は社会、文化によって多様な意味を有する。こと近年においては「家族」「家族機能」が私たちのQOLに寄与することも注目されてきている。その背景には、従来、個人内で理解されてきた心理的、行動的な問題が、家族、社会といった個人を超えた高次のシステムの視点、さらには家族の関係性の視点を導入したことにより、よりよい支援に結びつくことが実証されてきた経緯があるからだ。</p> <p>さらに、個人のライフサイクルと家族の発達段階、家族のライフサイクルと並行してゆく視点は、個人のクライシスへの理解をより促進することにも役立つ。</p> <p>本科目では、多様な様相を呈する「家族」の概念、文脈の理解に努めるとともに、医療保健領域において、どのような家族問題がテーマとして扱われるのか、その家族問題に対してどのようにアプローチしているのかを概観する。そこから今後期待される家族支援とは何かについて考察を深めていくことを目的とする。</p> <p>古くは「精神疾患」や「症状」が家族病因説と捉えられていた時代を経て、現在では家族機能をどのように支援に役立てゆくか、に至った研究や最新の知見を紹介し、現代の家族支援の在り方を具体的な事例を用いて紹介する。</p> <p>家族関係をみる、さらには関係性をアセスメントするとは具体的にどのようなことなのか、について、ロールプレイや教材を用い、臨床場面で活用できる技法を習得する。</p> <p>また、自身の専門性と絡めた積極的な議論を期待する。</p>				
授業の位置づけ	疾患による家族内で生じるストレス、さらには家族の持つ資源「レジリエンス」を見立て、援助要請が乏しい患者または家族とどう繋がるかについて、家族システム、関係性の視点をを用いて具体的かつ実践的なスキル獲得を目指す。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とは、何かを理解できる。 2. 現代の家族問題について理解できる。 3. 家族システムについて、理解できる。 4. 家族アセスメント、関係性へのアセスメントの方法を理解できる。 5. 家族の発達周期に生じやすいクライシスについて、プレゼンテーションできる。 6. 医療保健領域で必要な家族支援の技法について習得できる。 7. 医療保健領域で必要な家族支援の役割について理解できる。 8. 家族支援における他領域との連携について理解できる。 9. 上記について、最近の知見をもとに討議できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	特になし				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開始前に、社会環境の変化が家族に及ぼす影響について、予習しておくこと。 2. 家族周期、家族発達段階について、予習しておくこと。 3. 自身の専門性について考えておくこと。 <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	期末レポート（20%）、講義内での取り組み（60%）、日々の学習状況（20%） 日々の学習状況に照らし合わせながら主として評価はレポートを重視する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. システム論を説明できる。 2. 家族システムの見方で家族の関係性を説明できる。 3. 家族ライフサイクルを説明し、実践に応用するためのスキルにつなげることができる。 4. 医療看護領域、保健福祉領域との連携並びに治療方針において家族の視点を取り入れた支援を計画できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
講義内での質問に対しては講義内で扱う。コメントについては出席者の専門療育に応じたコメントをする。出席者からのコメントや考察をもとに議論を深めていく。最終レポートとして本講義での知見を実践や教育にどのように行かせるかについてのまとめや考察を求める。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	特になし				
参考文献					
①家族療法テキストブック 日本家族研究・家族療法学会編 金剛出版 ②家族看護学 南江堂 ③その他関連する論文（海外文献を含む） 講義内で適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時・講義前に講義資料をメールにて送付する。適宜メールにて連絡されたし。				
備考	テキストはあると望ましいが、必ずしも購入の必要はない。希望者はオリエンテーション時に購入希望を受け付ける。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	日下	オリエンテーション	講義	予習：受講にあたり自身の領域において「家族」「関係性」の知識習得の必要性を整理しておく（2時間）
2	日下	I. 家族関係という文脈の理解 -家族システム論について- 1. 主要な鍵概念①	講義	予習：健康な家族とはどういうものかについて考えておくこと（1時間） 復習：看護領域における家族支援の位置付けの確認。医療者のコンテンツ、家族のコンテクストの差異について理解する（1時間）
3	日下	2. 主要な鍵概念②	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：円環的因果律と直線的因果律、システム論の概要を理解する（1時間）
4	日下	II. 家族発達段階にみる関係性の変化とクライシス 1. 家族ライフサイクル	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：家族ライフサイクル、各段階で生じるストレスについて理解する（1時間）
5	日下	2. 家族発達段階にみる関係性の変化とクライシス 健康な家族とは 家族レジリエンス	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：レジリエンスの成り立ちと概念の整理。家族レジリエンスについて理解する（1時間）
6	日下	III. 家族関係への理解を深める 1. ジェノグラムを関係理解に活用する	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：ジェノグラムを作成することでの体験を振り返る*提出、発表は求めない（2時間）
7	日下	2. 家族療法家による面接と技法の実際	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：印象に残った介入や場面を整理する（1時間）
8	日下	3. アセスメントと介入のポイント	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：印象に残った介入や場面を整理する（1時間）
9	日下	IV. 精神科医療保健、地域精神保健における家族支援の役割 -現代的な家族問題- 1. カップル、夫婦関係への支援	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：ライフサイクルと絡めた諸問題を整理する（1時間）
10	日下	2. 周産期から乳幼児期子どもをもつ家族への家族支援	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：ライフサイクルと絡めた諸問題を整理する（1時間）
11	日下	3. 児童・思春期の子どもをもつ家族	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：ライフサイクルと絡めた諸問題を整理する（1時間）
12	日下	4. 青年期・成人期の子どもをもつ家族	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：ライフサイクルと絡めた諸問題を整理する（1時間）
13	日下	5. 高齢家族、認知症の家族への家族支援	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：ライフサイクルと絡めた諸問題を整理する（1時間）
14	日下	VI. 危機介入における役割 1. 自死を経験した家族と支援	講義	予習：事前配布資料を読む（1時間） 復習：自死とその家族への影響について、整理する（1時間）
15	日下	まとめ	講義	課題レポート：テーマは講義内にて提示する

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護行政政策論	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing Administration	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	飯島 佐知子	ナンバリング	
担当教員	飯島佐知子、橋本美穂、岩澤由子、伊勢田暁子、石田昌宏、石原美和	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	CNSや認定看護管理者等専門性の高い看護師は、対象患者に質の高い看護を提供することのみならず、保健・医療・福祉の政策上の諸問題を改善し政策的な働きかけする役割を果たすことが期待されている。そのために本授業では、政策立案に必要な調査データ、モデル事業の実施・評価の手法を教授し、Evidence Based Policy Makingの理解を促進する。さらに診療報酬・介護報酬について看護技術やサービス提供体制の評価に資する方法論を教授し、医療・介護の受療者である患者・利用者にとって価値ある医療・介護サービスとはなにかを討論する。これによりCNSや認定看護管理者等専門性の高い看護師が備えるべき看護政策の視点を涵養し、看護の質向上のために医療制度の改善を目指した政策的な働きかけを行うために必要な知識を修得する。				
授業の位置づけ	保健、医療、福祉施設内の看護サービスの提供は、医療制度や看護政策の影響を受けている。また、社会の変化により対象者のニーズも刻々と変化している。これに対応してより良い看護を提供するためには、新しい制度政策を創造することが求められる。本講義では、看護政策の立案、実施過程を当事者である国会議員、政策秘書、看護協会職員から学び、政策案を作成する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の人材確保・育成に関する政策の概要及び実際について説明できる 2. 看護の質向上・看護職者の質向上を図るための政策課題が説明できる 3. 政策決定過程を理解し、看護政策を提言することができる。 4. 診療報酬決定過程を理解し、CNS等の看護技術に対する技術評価提案書を作成できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	看護管理学特論Ⅰ(看護管理論)、看護管理学特論Ⅱ(人的資源管理論)、医療経済特論、				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・看護に関する政策課題について調べ論点を整理して授業に参加すること。 ・厚生労働省、社会保障審議会、看護関連検討会の傍聴 自身の関心のある分野での看護の課題、それに対して現行の制度・政策がどのように関連・影響しているか、さらに、その課題に対し、今後どのような医療・看護政策が必要と考えるかまとめておく ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	授業中の質疑応答30%、医療技術評価提案書40%、政策提言30%				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の人材確保・育成に関する政策の概要及び実際について説明できる 2. 看護の質向上・看護職者の質向上を図るための政策課題が説明できる 3. 政策決定過程を理解し、看護政策を提言することができる。 4. 診療報酬決定過程を理解し、技術評価提案書を作成できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題の発表後にコメントをフィードバックします。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
(参考文献) 野村陽子：看護政策と政策、法政大学出版局、2015。 池上 直己：医療・介護問題を読み解く、日本経済新聞出版、2014。 権文善一：医療介護の一体改革と財政：再分配政策の政治経済学Ⅵ、慶應義塾大学出版会、2015 小池智子：看護政策研究、看護管理学習テキスト8：看護管理研究、日本看護協会出版会、2014。 東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット：医療政策集中講義：医療を動かす戦略と実践 医学書院、2015 筒井 孝子：地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略-integrated careの理論とその応用、中央法規出版、2014。 松田 晋哉：医療のなにかが問題なのか：超高齢社会日本の医療モデル、勁草書房、2013。 井部俊子ほか（2011）看護管理学習テキスト。第7巻看護制度・政策論、日本看護協会出版会 見藤隆子ほか（2006）看護職者のための政策過程入門、日本看護協会出版会 日本看護協会編（2010）．日本看護協会の政策提言活動、日本看護協会出版会					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時。事前に連絡してください。sijjima@juntendo.ac.jp				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	飯島	政策とは 看護政策を学ぶことの重要性、看護政策の立案プロセス ・社会保険制度改革における看護政策の現状と課題を俯瞰する。 ・政策決定プロセスと看護専門職の決定プロセスの参画について歴史的 背景を踏まえ教授する。	講義	予習90分、復習90分
2	石原美和	我が国の看護政策の変遷: Evidence Based Policy Making ・2035年の保健医療の姿を踏まえ、看護政策の課題を整理する	講義	予習90分、復習90分
3	石原美和	看護政策の政策提案にしてみよう	講義、発表、ディスカッション	予習90分、復習90分
4	飯島	看護政策を提案してみよう	発表、ディスカッション	予習90分、復習90分
5	伊勢田	医療と看護政策、看護職の政策過程への参画	講義	予習90分、復習90分
6	伊勢田	医療と看護政策、看護職の政策過程への参画	講義	予習90分、復習90分
7	橋本	職能団体の政策課題 専門性の高い専門看護師、実践能力の高い認定看護師、特定行為研修修了者の人材育成の推進	講義	予習90分、復習90分
8	岩澤	看護の質向上のためのデータベース事業 (DiNQL事業) の推進	講義	予習90分、復習90分
9	石田・飯島	医療・看護政策に関わる法案の成立と看護系国会議員の役割の実際 参議院議員 石田昌宏 代議士事務所 見学実習	フィールドワーク	予習90分、復習90分
10	石田	医療・看護政策に関わる法案の成立と看護系国会議員の役割の実際 参議院議員 石田昌宏 代議士事務所 見学実習	フィールドワーク	予習90分、復習90分
11	石田	医参議院議員 石田昌宏 代議士事務所 見学実習 医療・看護政策に関わる法案の成立と看護系国会議員の役割の実際	フィールドワーク	予習90分、復習90分
12	飯島	我が国の看護政策の変遷: 診療報酬決定過程と看護 ・患者の目線や国民の立場 (アウトカム志向の視点) を踏まえ、看護サービスの「価値 (Value)」との関連を、日本の診療報酬決定過程及びイギリスとの違いについて解説する。	講義	予習90分、復習90分
13	飯島	診療報酬決定に関わる技術評価提案書の意義と内容: CNSが日々の臨床実践に伴い臨床研究のデータを集積することに必要性和 診療報酬評価の決定に必要な技術評価提案書の具体的内容について解説する	演習	予習90分、復習90分
14	飯島	CNS、看護管理者等高度実践看護に関わる技術評価提案書の発表	発表、ディスカッション	予習90分、復習90分
15	飯島	CNS、看護管理者等高度実践看護に関わる技術評価提案書の発表	発表、ディスカッション	予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	国際保健論	必修・選択	選択
英語科目名	Global Health	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	岡本 美代子	ナンバリング	
担当教員	岡本 美代子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	グローバル社会における人々の健康と保健・医療・福祉の現状を概観し、対象となる人々について理解を深める。また、人々の健康に影響を及ぼす人口学的、社会経済的、文化的な要因等について学ぶ。さらに、保健・医療関連分野での国際協力の理念と多様な組織の国内外における活動を理解する。				
授業の位置づけ	共通科目の一つとして各分野の基盤となる科目であり、現代の国内外のグローバル社会に生活する人々についての幅広い保健・医療関連分野の教養を学修する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル社会における人々の健康と保健・医療の現状について理解を深めることができる 2. 保健・医療関連分野での国際協力の理念と多様な組織の国内外における活動が理解できる 3. グローバル社会における保健・医療関連分野の活動の可能性について具体的に考察できる 4. グローバル社会における保健・医療関連分野の活動の実践を演習により学修する 5. 保健・医療関連分野における参考書やアカデミック・ペーパー読解の演習を通して、関心のある領域の国際的なトレンドを学修する 				
先修要件	なし				
関連科目	領域に関わらず共通科目として受講できます。				
学修上の注意	現在の日本社会と国際社会を取り巻く保健・医療に関するトピックスをグローバルな視点を持って理解するための科目です。受講者との対話・議論を重視し、基本的に日本語で、講義、演習を行います。参考文献は、授業内で紹介します。参考書、アカデミック・ペーパーの読解演習は、初心者に向けて読み方のコツや押さえておきたい基本について学修します。その他、時事ニュース等、国際的な保健・医療関連分野の情報に関心を持ってください。到達目標の4については、その時期に開催される関連イベントや活動への積極的参加を推奨します。尚、講義スケジュールや内容は、受講者の希望を踏まえて相談の上、再調整する予定です。				
成績評価の方法					
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的授業参加（演習・ディスカッション）（40%） 2. 課題（プレゼンテーション）（40%） 3. 最終レポート（20%） 				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的授業参加（演習・ディスカッション） <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会における人々の健康と保健・医療の現状について説明し、ディスカッションすることができる ・保健・医療関連分野での国際協力の理念と多様な組織の国内外における活動について説明し、ディスカッションすることができる 2. 課題（プレゼンテーション） <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会における人々の健康と健康に導く活動についてまとめ、説明ができる ・関心のある領域の国際的なトレンドについて説明できる 3. 最終レポート <ul style="list-style-type: none"> ・授業での学びをリフレクションし、今後の自らの活動への展望を述べるることができる 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
試験はありません。授業内の課題については事後の授業でのフィードバックを行います。最終レポートについては、個々に評価コメントをメールで送付します。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
購入指定のテキストはありません。以下の参考図書について授業内で紹介します。 1) Richard Skolnic著、木原正博訳「Global Health Third Edition」(Medical Science International) 2) Sarah E. Boslaugh著「Health Care Systems Around the world」(SAGE) 3) 国際看護研究会編「国際看護学入門」(医学書院) 4) PHC開発研究会訳「パッシュ国際保健学講座」(じほう) 5) Michael Marmot著、栗林寛幸監訳「健康格差」(日本評論社) 6) Karen Holland, Christine Hogg著 日本赤十字九州国際看護大学国際看護研究会監訳「多文化社会の看護と保健医療」 7) WHO「Classification And Minimum Standards For Foreign Medical Teams In Sudden Onset Disaster」 8) 岡本美代子編著「海外で国際協力をしたい人のための活動ハンドブック」(遠見書房) その他、関連論文、時事の国際的な保健・医療関連分野の課題に対応した資料・ウェブサイト情報等					
その他					
連絡先・オフィスアワー	E-mail: myokamo@ オフィスアワー：月から土曜日（9:00-18:00）：対面希望の場合は、メールでアポイントメントをお取りください。				
備考	開講後のスケジュールや教室、授業形式は、受講者と話し合いながら柔軟に決めていきます。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1-2	岡本美代子	グローバル社会における人々の健康 I 身近なグローバル社会（日本における多文化社会）	講義 GW	予習：最近の健康に関連する国際的なニュースについて内容を把握しておく。「国際保健論」の授業で特に学びたいことを明確にしておく。（学習時間：2時間） 復習：授業内容をリフレクションし、身近なグローバル社会について整理しておく。（学習時間：2時間）
3-4	岡本美代子	グローバル社会における人々の健康 II 健康に影響を及ぼす要因	講義 GW	予習：「健康の社会的決定要因」について予め調べて内容を把握しておく。（学習時間：2時間） 復習：授業内容をリフレクションし、「健康の社会的決定要因」がどのように人々の健康に影響を及ぼすかについて整理しておく。（学習時間：2時間）
5-6	岡本美代子	グローバル社会における人々の健康 III 開発途上国と健康問題	講義 GW	課題：開発途上国を1つ選び、健康に影響を及ぼす要因と健康指標についてプレゼンテーションの準備をしておく。（学習時間：2時間） 復習：授業内容をリフレクションし、国際社会と人々の健康の概観について整理しておく。（学習時間：2時間）
7-8	岡本美代子	グローバル社会における人々の健康 IV 開発途上国での主要な健康課題	講義 GW	課題：選んだ開発途上国の健康課題とその対策について考察し、プレゼンテーションの準備をしておく。（学習時間：2時間） 復習：授業内容をリフレクションし、国際社会での健康対策の概観について整理しておく。（学習時間：2時間）
9-10	岡本美代子	保健・医療関連分野における国際的トレンド 参考書、アカデミック・ペーパー読解	講義 GW	予習：関心のある領域の最近発行されたアカデミック・ペーパーを準備する（学修時間：2時間） 復習：授業内容をリフレクションし、関心のある領域の国際的なトレンドについて整理しておく。（学習時間：2時間）
11-12	岡本美代子	保健・医療関連分野での国外における活動 理念と組織 国際協力活動	講義 GW	予習：日本の国際協力活動についていくつか調べてくる。（学修時間：2時間） 復習：授業内容をリフレクションし、国際協力の理念や組織、活動について整理しておく。（学習時間：2時間）
13-14	岡本美代子	保健・医療関連分野での国内における活動 多文化共生社会と健康 子どもの貧困と健康格差	講義 GW	予習：多文化共生、相対的貧困について調べてくる。（学修時間：2時間） 復習：授業内容をリフレクションし、多文化共生、相対的貧困について整理しておく。（学習時間：2時間）
15	岡本美代子	まとめ	講義 GW	予習：これまでの授業内容をリフレクションし、理解が不十分な点について明確にしてくる。（学修時間：2時間） 課題（最終レポート）：授業内容より関心が高まったトピックスについて考察し、今後の自らの活動への展望をする。（学習時間：2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	高度先端医療・医科学特論	必修・選択	選択
英語科目名	Advanced Medical Treatment and Medical Science	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	岩瀬 和久	ナンバリング	
担当教員	岩瀬和久※、岡本健※、中山仁志※、田中裕※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	現代科学のめざましい進歩は、医療技術を高度で精緻なテクノロジーへと変化させています。その原動力となっているものは、生命現象が分子生物学的手法や細胞生物学の技術を駆使して分子レベルで解明され、医療技術へと直ちに適用できるようになったことにあります。本特論は、高度先端医療の現場で行われている医療を裏付けているテクノロジーの原理や方法と、それをもたらした細胞生物学、生化学、分子生物学や免疫学的なメカニズムを学ぶことで、看護職者としてより高度な能力を身につけることを目指します。 教室での講義を中心とします。一部体験学習を行います。 実際の研究現場での集中講義等を行う場合があります。				
授業の位置づけ	先端医療の科学的理論や実践について理解する				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	高度先進医療や救命救急医療において実践されている医療技術の基礎となる科学知識を理解する。				
先修要件	なし				
関連科目	バイオテクノロジー、医療工学、救命医療、災害医療				
学修上の注意	講義項目について、参考書などを利用して予習し、講義中に配布されたプリントの内容を各自まとめ直す。 学生の希望により、実際に研究装置を用いて、高度先進医療に应用されている基礎医学分野の科学技術の実際を体験する。				
成績評価の方法					
評価方法	授業参加度（50%）、学習態度・課題レポート（50%）で評価する。				
評価基準	授業で紹介した先進医療に関わる内容が理解できたか				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題に対して回答する					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
講義等で適宜知らせます。					
その他					
連絡先・オフィスアワー					
備考					
研究現場は環境医学研究所などの順天堂大学大学院医学研究科の研究施設です。					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	岩淵	高度先端医療に活かされる最先端の科学にはどのようなものがあるか	講義	予習90分・復習90分
2	岩淵	高度先端医療と分子生物学	講義	予習90分・復習90分
3	中山	高度先端医療における分析技術の利用と原理	講義	予習90分・復習90分
4	中山	高度先端医療と免疫学 (I)	講義	予習90分・復習90分
5	中山	高度先端医療と免疫学 (II)	講義	予習90分・復習90分
6	岩淵	オーダーメイド医療とは	講義	予習90分・復習90分
7	中山	最先端医療におけるiPS細胞の可能性～その原理と問題点～	講義	予習90分・復習90分
8	岩淵	最先端医療とその問題点	講義	予習90分・復習90分
9	岡本	救命救急医療の最前線	講義	予習90分・復習90分
10	岡本	救急医療と臨床倫理	講義	予習90分・復習90分
11	岡本	救急医療は社会を映す	講義	予習90分・復習90分
12	岡本	災害医学研究の最前線	講義	予習90分・復習90分
13	岩淵	最先端の分析技術に触れてみる (I)	演習	予習90分・復習90分
14	中山	最先端の分析技術に触れてみる (II)	演習	予習90分・復習90分
15	岩淵	最先端の分析技術に触れてみる (III)	演習	予習90分・復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	保健医療連携特論	必修・選択	選択
英語科目名	Public Health Coordination	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	
担当教員	櫻井しのぶ※、湯浅美千代※、種市ひろみ※、原田静香※、秋山正子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>医療が病院単体で、自己完結することは減少し、地域における医療連携が重要になってきた。本特論は、医療と介護の機能分担と連携強化のために、①病院退院時の退院支援の方策、②地域における主治医と看護職者および、福祉職者（ケアマネジャー等）の連携の方法、③医療と介護との連携などの地域における医療と介護の包括的・継続的マネジメント、④医療ニーズの高い重度者の在宅生活を支援する医療と介護の機能分担と連携の方策などについて探求する。</p> <p><授業形態と進め方> 講義・事例検討 医療連携に関して講義した後、事例を提示し、より良い医療連携の在り方を、参加者全員で検討していく。 問題解決型の授業を目指している。 時には、現場を訪問・見学し、担当者の生の意見を聞くことを計画している。</p>				
授業の位置づけ	共通科目として、現在の保健・医療体制における看護実践に必須となっている地域連携、多職種連携の考え方や実際に学ぶ。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を提示し、その事例における課題を明確にすることができる ・明確となった課題から自身の次の支援へのヒントを得ることができる ・自組織の課題が明確となり、今後の自己の活動のヒントを得ることができる 				
先修要件	なし				
関連科目	看護行政政策論、福祉特論、医療経済特論、看護管理学特論Ⅰ、地域看護学特論Ⅰ、在宅看護特論Ⅰ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回の授業終了後に示した事例発表、プレゼンテーションのための資料を作成 ・自組織（もしくは、以前所属していた組織）における退院支援の流れについて説明できるよう復習し、理解しておくことが望ましい。 ・医療連携は、常に進化している。事例検討をしつつ、日々の看護の実践に有意義であるよう授業展開をするので、主体的に参加してほしい。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料（30%）、ディスカッションへの参加状況（30%）、レポート（40%）を総合して評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された事例における課題を明確にすることができる ・地域連携、多職種連携に関する自組織と自身の課題を述べるることができる ・明確となった課題から自身の今後の実践活動について述べるることができる 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業内または授業後にコメントする。メールでの質問、相談に対応する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア	秋山正子	医学書院		2016年出版
参考文献					
授業の際に最新の資料を配布する予定である。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	順天堂メールアドレスにて随時連絡可能 櫻井：ssakura@ 湯浅：myuasa@ 種市：h.taneichi.uh@ 原田：sharada@ 秋山：授業終了後に教室あるいはメールで質問を受け付ける。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	櫻井しのぶ	医療の機能分化と役割を理解し、医療の継続性について考える。	講義、ディスカッション	予習・復習各90分
2	湯浅美千代	患者の意思決定と退院支援マネジメント	講義、ディスカッション	予習・復習各90分
3	種市ひろみ	医療ニーズの高い重度者の在宅生活を支援する医療と福祉の機能分担と連携	講義、プレゼンテーション、ディスカッション	予習・復習各90分 プレゼンテーション事例を考察したものをレポート提出する
4	種市ひろみ	医療ニーズの高い重度者の在宅生活を支援する医療と福祉の機能分担と連携	講義、プレゼンテーション、ディスカッション	予習・復習各90分 プレゼンテーション事例を考察したものをレポート提出する
5	原田静香	医療ニーズの高い重度者の在宅生活を支援する医療と福祉の機能分担と連携	講義、プレゼン、ディスカッション	予習・復習各90分 プレゼンテーション事例を考察したものをレポート提出する
6	原田静香	医療ニーズの高い重度者の在宅生活を支援する医療と福祉の機能分担と連携	講義、プレゼンテーション、ディスカッション	予習・復習各90分 プレゼンテーション事例を考察したものをレポート提出する
7	櫻井しのぶ	医療ニーズの高い重度者の在宅生活を支援する医療と福祉の機能分担と連携	プレゼンテーション、ディスカッション	予習・復習各90分 第1回目の授業で提示した課題についての発表準備とまとめ
8	秋山正子	地域における主治医と看護職者及び福祉職者（ケアマネジャー等の連携の方法）	講義	予習・復習各90分
9	秋山正子	地域における主治医と看護職者及び福祉職者（ケアマネジャー等の連携の方法）	講義・演習	予習・復習各90分
10	秋山正子	地域における主治医と看護職者及び福祉職者（ケアマネジャー等の連携の方法）	講義・演習	予習・復習各90分
11	秋山正子	地域における主治医と看護職者及び福祉職者（ケアマネジャー等の連携の方法）	講義・演習	予習・復習各90分
12	秋山正子	地域における医療と福祉の包括的・継続的マネジメント	講義	予習・復習各90分
13	秋山正子	地域における医療と福祉の包括的・継続的マネジメント	講義・演習	予習・復習各90分
14	秋山正子	地域における医療と福祉の包括的・継続的マネジメント	講義・演習	予習・復習各90分
15	秋山正子	地域における医療と福祉の包括的・継続的マネジメント	講義・演習	予習・復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	福祉特論	必修・選択	選択
英語科目名	Social Welfare	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	松山 毅	ナンバリング	
担当教員	松山毅※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>保健や医療の分野でも、福祉に関心もたれて久しい。要因としては、疾病の主たる内容が、急性期・伝染性疾患よりも、長期にわたる慢性疾患へと大きく変化してきたことがある。また、心身の機能が徐々に低下する高齢者の割合が年々増加してきていること、障害者や難病患者も加わって、地域社会や福祉施設でも医療需要は高まってきていることもあげられる。</p> <p>さらに、近年重要性を増している、疾病・介護予防や健康管理・健康増進においても、日常生活が営まれる地域社会や社会福祉とのかわり、ますます大きくなってきている。</p> <p>講義形式ではなく、毎回1～2名程度のレポーターによる話題提供と、それに基づく討議・講義を行う。</p> <p>下記基本テキストおよび参考文献等の中から、レポーターは自分の興味関心のある分野を選択し、その内容について概要をまとめ、自分の考えも加えて発表する。レポーター以外の受講者もテキスト該当箇所を読んでおき、積極的に議論に参加することを期待したい。</p>				
授業の位置づけ	<p>共通科目として、社会福祉学・ソーシャルワークという観点からふまえて、広く健康・社会・文化の文脈の中に「ヘルスプロモーション」「ケア」を位置づけて考えていきたい。ますます地域社会や福祉・医療現場で推進される「保健・医療・福祉の連携」を前提とした、「健康を支える社会的な支援の考え方」の習得を目標とする。</p>				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力</p>				
到達目標	<p>①学際的な視点からケアについて考えられるようになること ②健康の概念について、多様性を考慮した上で健康支援について考察することができること ③個別支援とともに、地域支援や社会資源開発などの観点からも健康支援について考えられるようになること</p>				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	<p>基本テキストの中から各自の担当箇所を発表してもらいますので、報告者以外も該当箇所を通読して授業に臨むこと。 受講生自身の研究テーマと関連付けて課題図書を読み、考察すること。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<p>授業で発表するレポート(60%)、学期末のレポート試験(40%)で評価します。基本的には、授業で発表したレポートを、授業内の質疑や討議を踏まえて論文形式でまとめなおし、考察を加えたものを学期末レポートにしたいと考えています。詳細は授業内で指示します。</p>				
評価基準	<p>①学際的な視点からケアについて考えられるようになっているか ②健康の概念について、多様性を考慮した上で健康支援について考察できているか ③個別支援とともに、地域支援や社会資源開発などの観点からも健康支援について考えられるようになっているか</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>報告レポートに関しては授業内でコメントする。課題レポートなどについてはメールなどでコメント等をフィードバックする。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<p>基本テキスト： 『講座ケア 全4巻 ミネルヴァ書房』 ①広井良典編「ケアとはなんだろうか」、②大橋謙策編「ケアとコミュニティ」、③中西直編「ケアと人間」、④近藤克則編「ケアと健康」 *使用テキストは受講生と相談して決めます。 参考テキスト： 上野千鶴子他編著『ケア その思想と実践 1～6』岩波書店 2008年 川本隆史編『ケアの社会倫理学』有斐閣選書、2005年、等 その他、随時紹介します。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>担当：松山毅 E-mail：tmatsuya[at]juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。</p>				
備考	<p>授業の進め方、発表の順番・担当箇所などについてはオリエンテーション時に相談します。</p>				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	松山	オリエンテーション	講義	(予習：2時間) 事前配布の資料を読み、自分の興味関心と本講義を履修した動機や目的などを考えておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
2	松山	現代の社会福祉を取り巻く状況について（講義）	講義	(予習：2時間) 事前配布の資料を読み、自分の興味関心と本講義を履修した動機や目的などを考えておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
3	松山	発表	講義	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
4	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
5	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
6	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
7	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
8	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく

9	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
10	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
11	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
12	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
13	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
14	松山	発表	発表	(予習：2時間) テキストの報告該当箇所についてあらかじめ読んでおき、わかったところ、わからなかったところ、ディスカッションで深めたいテーマなどを整理しておく (復習：1時間) 授業で理解できたこと、わからなかったことを調べておく
15	松山	まとめ	講義	(予習：2時間) 本講義全体を通して理解したこと、考えたこと、獲得された新しい視点、などについて短いレポートを作成しておく (復習：1時間) 講義課題レポートの作成

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	医療情報論	必修・選択	選択
英語科目名	Medical Information	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	阿曾沼 元博	ナンバリング	
担当教員	阿曾沼元博※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>医療情報学は、医療情報工学や科学と領域的には別物である。本科目の「医療情報論」は医療情報学分野の授業である。情報学とは「情報の本質に関する様々なことを主に考える学問分野であり情報の分類に関する検討や、情報の利活用のあり方、更には標準化などを考える学問分野である」</p> <p>また、情報学の特徴は以下の通りである</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実学であること 【実学】とは、理論より実用性・技術を重んずる学問。実際生活の役に立つ学問。農学・工学・商学・医学など。（三省堂「大辞林」より） 2. 医療のあらゆる側面と関係すること 予防、診断、治療等の医療行為及び関係する事務処理を始め、社会が必要とする。医療関係情報のあらゆる処理を対象とする。 3. 制度・政策に依存する部分が多い 国際的に共通する部分もあるが、国や地域の事情に合わせた独自要素が存在する。日本では医療法、薬事法、診療報酬体系に影響される！ <p>本授業では、この特徴を踏まえ、医療情報とどう向き合い、どう使いこな（活用）し、そしてどう取り扱う（処理の方法等）かを、社会情勢との関わりや、医療制度との関わりを重視して論じる。実学である為、日々の医療活動を踏まえて講義を行う。また最新の動きとして、政府が推進する医療DX推進本部の動き、内閣府が推進するデジタル田園健康特区の動きなどについても検証していく。</p>				
授業の位置づけ	我々一人一人が情報とどう向き合うか、また情報の信憑性を判断し価値のある情報に辿り着き、利活用の精度・質を上げるための考え方を学ぶ。また近年医療情報の共有化の必要性が真剣に論じられているが、情報の共有に関して必要な法的整備、政府の動きなども理解していく。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	「情報」の持つ意味を理解すると共に、患者・家族にとって、組織にとって、そして自分自身にとって価値ある情報をどう収集し、どう蓄積し、そしてどう活用するかという方策を理解することを目標とする。 また組織内、更には社会で、情報システム構築を行う場合におけるプロジェクト・マネジメントのあり方も勉強し、リーダーシップが発揮でき、プロジェクトリーダーと成りうる人材となることを期待している。				
先修要件	特になし				
関連科目	特になし				
学修上の注意	色々なモバイル機器やPCを自由に使える様に日々活用できることが基本となる。その為の情報武装を自ら行い、医療情報、電子カルテ、医療制度改革、更には情報に関わる全ての項目におけるICT関連項目を調べておく。また最近のデジタル社会関連の情報に触れておく				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（50%）、日々の学習状況（25%）、受講態度（25%） 講義終了後、講義で論じた内容の中から、自らがテーマを選択し、そのテーマについて論じるレポートを提出する。レポートは、テーマ選択の理由・現状認識の論述・課題の整理・課題克服の為の方策提示・・・という起承転結がしっかりしていることが求められる。授業の中で、レポートの書き方なども言及する。				
評価基準	授業に向き合う姿勢、質問をする姿勢、そしてレポート内容				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポートに関しては種々のコメントを付記して返す					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
講義のテキストは授業内容に合わせ、講師作成のテキストをその都度配布する。また必要なものは授業で配布する。					
参考文献 「情報の文明学」 梅棹忠夫（著）中公文庫 「それは情報ではない」 リチャード・S.ワーマン（著）エムディエヌコーポレーション マーシャル・マクルーハン「メディア論」等の書籍、書評、厚労省、内閣府、経済産業省発出の医療情報関連情報（HP掲載情報）など					
その他					
連絡先・オフィスアワー	asonuma-m@juntendo.ac.jp				
備考	医療制度、病院の機能・組織、地域社会における医療等など、勤務や生活の中で疑問を常に持つことを心掛けて授業に臨んでほしい。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法*	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	阿曾沼	「情報」の持つ意味を理解すると共に、「情報」と付き合う姿勢について学ぶと共に、講義全体の構成について概説する	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。予習復習各90分	

2	阿曾沼	「医療情報学」について理解するために、授業概要に示した情報学の本質について引き続き学ぶ（AI時代の医療情報システムについても言及する）	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
3	阿曾沼	社会と医療情報学の関わりを理解する上で、現在の医療制度と医療情報処理分野における関わりについて学ぶ ・我が国の医療制度を概観し、医療情報学との関わりを理解する ・医療制度が時として医療DX化のブレーキとなるが、事例を検証する	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
4	阿曾沼	講義1～3を復習しながら、医療制度との関わりを更に解説する また、医療情報学の有効ツールである医療情報処理システム（以下；医療ICTと云う）の歴史を学ぶ① （1970年代から2000年代初頭の創世期から定着期までの歴史を中心に）	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
5	阿曾沼	医療情報学の有効ツールである医療ICTの歴史を学ぶ② ・電子カルテを法的に「診療録」とする為の行政との攻防について	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
6	阿曾沼	医療情報学の有効ツールである医療ICTの歴史を学ぶ③（2000年以降の電子カルテ時代を中心に）。歴史を学び現在や将来に活かす。	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
7	阿曾沼	病院における医療ICT（電子カルテシステム導入を中心に）のプロジェクトマーケティングの方策と課題を学ぶ ・何の為に情報（ICTシステム）化するのか ・電子カルテシステムを安定稼働させる為の課題と方策（順天堂の事例を踏まえて）等	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
8	阿曾沼	病院における電子カルテシステム導入の効果を考える ・厚生科研（阿曾沼班）での研究をベースに学ぶ。電車カルテシステムの導入効果をどう判断するか。	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
9	阿曾沼	病院や社会における電子カルテシステムの活用例を学ぶ ・データ後利用として、経営支援側面や医療高質化の為の活用例 ・次世代医療基盤法下での匿名情報の二次利用の実例を示していく	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
10	阿曾沼	医療制度と医療ICTの関わりの実例を学び、課題を考える① ・オンライン医療システムと医療制度との関わり ・インターネット医薬品販売と医療制度との関わり	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
11	阿曾沼	人工知能の基本を学び、人工知能の功罪を考える① ・ディープラーニング能力とビッグデータ処理の進展によって、人工知能が脚光を浴びている。人工知能技術が社会に与えるインパクトを考える	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
12	阿曾沼 （外部講師/医療ベンチャー創業者を予定）	人工知能の基本を学び、人工知能の功罪を考える② ・人工知能システムの現場から開発者の話を聞くことを予定している。	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
13	阿曾沼	講義実施の時期に開催される予定の医療情報学関連の学会や病院見学会で適当なものがあれば参加をし、多くのテーマに触れることとする（課外授業を計画する）。状況によって計画をする。	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
14	阿曾沼	14回講義での実地体験を踏まえてのディスカッションを実施すると共に、大質問大会、放談会的なコミュニケーション会を行う	講義（状況によってZOOMオンライン）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分
15	阿曾沼	レポート課題に関する議論、レポートの書き方などを示す。また前回に続き、現在国が行っている医療情報関連の委員会、実証実験などをベースに意見交換会を行う。	病院現場での見学、交流会（状況によって講義）	次回以降、前回授業の振り返りを行うが、講義内容で興味ある点に関してはネットなどで理解を深めるための探索に心掛けて欲しい。探索した上での質問にも応じる。予習復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	機能病態学特論	必修・選択	選択
英語科目名	Disease Mechanisms	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	植木 純	ナンバリング	
担当教員	植木純※、岩淵和久※、加茂敦子※、加藤洋一※、北村庸雄※、小池道明※、佐野裕子※、濱田千江子※、平井周※、小崎綾子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	本特論では器官別に代表的な疾患をとりあげ、生理機能の異常や病態生理を分子病態、分子薬理学を含めて理解することで、様々な疾患の病態やその評価に基づく臨床看護判断能力、適切な治療介入を選択する能力を養う。				
授業の位置づけ	本科目では、疾患の病態、診断、そして最先端の治療についても解説する。本科目の理解は、疾患の理解に加え、看護臨床判断能力を高め、柔軟性のある質の高い看護実践能力につながる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な疾患に関わる臓器の生理学的な機能とその異常を説明できる。 2. 代表的な疾患の病態や全身に及ぼす影響を説明できる。 3. 代表的な疾患の病態の発症と治療について説明することができる。 4. 薬物療法、非薬物療法の機能病態学的な視野から説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに関わる文献を読み、講義内でのディスカッションの準備をする。 2. 関心のある特定領域について文献検討を行いレポートにまとめる。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	授業内でのディスカッションへの参加状況(60%)、レポート(40%)を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な疾患に関わる臓器の生理学的な機能とその異常を説明できる。 2. 代表的な疾患の病態や全身に及ぼす影響を説明できる。 3. 代表的な疾患の病態の発症と治療について説明することができる。 4. 薬物療法、非薬物療法の機能病態学的な視野から説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーション、討議については、その場でコメントする。 課題レポートは提出後に評価し、内容と結果をメール等で伝える。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
テキストは用いない。配付資料に基づき講義を行う。講義が多領域、多分野にわたるため、学術論文は講義毎に紹介する。					
参考資料・文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1) Harrison's Principles of Internal Medicine 20th edition, 2018, McGraw-Hill 2) ハリソン内科学第5版, メディカル・サイエンス・インターナショナル 2017 3) 日本呼吸器学会(編). COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン第5版. メディカルレビュー社, 東京, 2018 4) Nutritional assessment and therapy in COPD: a European Respiratory Society statement. Eur Respir J. 2014;44:1504-20 5) COPDの身体活動性をめぐるサイエンス, 日本呼吸器学会誌 2015;4-46 6) 図説分子病態学5版, 中外医学社 2014 7) やさしい分子薬理学-分子構造から薬理活性へ-, 共立出版 2010 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者: 植木 純 junueki@				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に参加すること。 ・オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡を取って、積極的にコンタクトを取ること。 ※教員により受講場所が変更となる場合があります。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	加茂	看護に活かす解剖生理と病態の知識 I	講義	予習・復習各90分
2	加茂	看護に活かす解剖生理と病態の知識 II	講義	予習・復習各90分
3	平井	病態の理解を深める病理学の知識	講義	予習・復習各90分
4	植木	呼吸器系疾患の病態生理と診断・治療の考え方 I	講義	予習・復習各90分
5	植木	呼吸器系疾患の病態生理と診断・治療の考え方 II	講義	予習・復習各90分
6	佐野	筋骨格系疾患の病態生理と診断・治療の考え方 I	講義	予習・復習各90分
7	佐野	筋骨格系疾患の病態生理と診断・治療の考え方 II	講義	予習・復習各90分
8	加藤	循環器系疾患の病態生理と診断・治療の考え方 I	講義	予習・復習各90分
9	加藤	循環器系疾患の病態生理と診断・治療の考え方 II	講義	予習・復習各90分
10	濱田	腎臓・泌尿器疾患の病態生理と診断・治療の考え方	講義	予習・復習各90分
11	小池	血液疾患の病態生理と診断・治療の考え方	講義	予習・復習各90分
12	岩渕	免疫異常による疾患の発症機構と病態生理、治療の考え方	講義	予習・復習各90分
13	北村	消化器疾患の病態生理と診断・治療の考え方 I	講義	予習・復習各90分
14	北村	消化器疾患の病態生理と診断・治療の考え方 II	講義	予習・復習各90分
15	小崎	看護の視点からみた事例検討	講義	予習・復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	医療経済特論	必修・選択	選択
英語科目名	Health economics	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	飯島 佐知子	ナンバリング	
担当教員	飯島佐知子※、野中時代※、鎌田健司※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	我が国の医療施設では、医師・看護師など人材・資源が不足している中で、医療ニーズの高い高齢者の増加に対応し、質の高い医療を提供する必要がある。本講義の目的は、医療や看護によって患者のQOLを高めるために、限られた資源を効果的にかつ効率的配分するための経営学・経済学理論や方法を用い探求することである。 授業内容は、保健経済学について医療サービス財の特徴や市場の失敗などの基本理論を学ぶ。健康保険制度と診療報酬制度の仕組みと看護師の労働市場の特徴と看護サービスの評価について学ぶ。病院の財務諸表と原価計算の方法および費用効果分析など経済評価の方法を学ぶ。				
授業の位置づけ	看護をするために必要な人的、物的資源を確保したり、看護によってどのように報酬が得られるのかを知ることは看護管理の重要な役割の1つである。本講義では、病院の財務管理や質評価と連携したバランスドスコアカード、診療報酬制度のあり方、その評価方法として費用効果分析について学習する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	1. 所属施設の財務諸表の情報を分析し経営課題を抽出できる。 2. バランスドスコアカードを作成できる。 3. 経済学的な費用の範囲と分析の立場の関連が説明できる。 4. 看護に関連した費用効果分析の文献をクリティークできる。				
先修要件	なし				
関連科目	看護管理学特論Ⅰ(看護管理論)、看護管理学特論Ⅱ(人的資源管理論)、医療経済特論、看護行政政策論、				
学修上の注意	所属施設の財務分析に必要な関連資料を収集する。 所属施設の財務情報を分析し経営課題を抽出し、改善案を作成する。 看護の費用効果分析の文献を収集する。 集めた文献を基準に従ってクリティークし、発表原稿を作成する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	授業でのディスカッション(30点)、財務分析および改善案の提案(30点)、文献レビューの発表(40点)を総合して評価する。				
評価基準	課題の発表内容 50% 質疑 50%				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題発表時に行う					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
鎌江伊三夫, 林 良造, 城山英明/監: 医療技術の経済評価と公共政策, 海外の事例と日本の針路, じほう, 2013 Michael F. Drummond, George W. Torrance, 久繁 哲徳, 岡 敏弘(翻訳): 保健医療の経済的評価-その方法と適用(単行本), じほう, 2003. Sachiko Iijima: Cost-benefit analysis of comprehensive mental health prevention programs in Japanese workplaces: a pilot study. Ind Health. 51(6):627-33, 2013 横山 和仁, 飯島佐知子: 【こころの健康とその政策的課題-こころの健康政策構想会議の提言を踏まえて-】 精神保健と現代社会 わが国における精神疾患による経済損失, 保健の科学, 53(9) 585-589, 2011. 飯島佐知子, 横山和仁: 精神病早期介入の医療経済学的評価, 臨床精神医学41(10) 1381-1386, 2013 大島弓子, 飯島佐知子: 改訂版 看護管理と医療安全, 放送大学出版会, 2018 飯島佐知子, 他: 大腸癌手術症例における手術部位感染予防対策の費用効果分析. 環境感染. 21(2), 103-108, 2006. 飯島佐知子: 看護の費用効果分析の方法. 看護教育. 47(10), 922-925, 2006. 飯島佐知子: 看護の費用効果分析の事例. 看護教育. 47(11), 1151-1155, 2006. 飯島佐知子, 他: 症例別原価計算における診療行為別原価計算方法の比較. 病院管理35(5) 25-34, 2003					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時。事前に連絡してください。sijima@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	飯島	経営学と経済学、保健経済学とは、医療サービスの財としての特徴	講義	予習：医療経済学に関連する文献を収集して読む（90分） 復習：関連する文献を読む（90分）
2	鎌田	マルチレベル分析の理論	講義	予習：マルチレベル分析に関連する文献を収集して読む（90分） 復習：関連する文献を読む（90分）
3	鎌田	マルチレベル分析の方法	講義、演習	予習：マルチレベル分析に関連する文献を収集して読む（90分） 復習：マルチレベル分析のデータを解析してみる（90分）
4	飯島	看護師にもできる財務分析	講義、演習	予習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表を収集する、電卓を用意する（90分） 復習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表を分析してみる（90分）
5	飯島	財務分析をしてみよう（演習）	演習	予習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表を収集する、電卓を用意する（90分） 復習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表を分析してみる（90分）
6	野中	看護部にもできる経営改善	講義、演習	予習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表を収集する、電卓を用意する（90分） 復習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表を分析してみる（90分）
7	野中	看護部にもできる経営改善	講義、演習	予習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表を収集する、電卓を用意する（90分） 復習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表を分析してみる（90分）
8	飯島	病院の管理会計 部門別、疾病別、バス別、DPC別原価計算の方法	講義	予習：関連する文献を収集して読む（90分） 復習：学習したことを整理する（90分）
9	飯島	看護管理に用いるバランスド・スコアカード	講義	予習：バランスド・スコアカードに関する文献を読む（90分） 復習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表や経営指標、職員数、加算等の情報を収集する（90分）
10	飯島	バランスド・スコアカードを作成してみよう	演習、グループワーク	予習：自己の所属施設やそれに類似した施設の財務諸表や経営指標、職員数、加算等の情報を収集する（90分） 復習：自己の所属施設やそれに類似した施設のバランスド・スコアカードを作成する（90分）
11	飯塚・石田	順天堂医院の財務分析	講義	予習：これまで学習した財務諸表の用語を復習しておく（90分） 復習：順天堂医院の財務諸表について分析し、改善点について考察する。（90分）
12	飯島	バランスド・スコアカードの発表	発表、ディスカッション	予習：発表の準備（90分） 復習：学習内容について整理する。（90分）
13	飯島	費用最小化分析、費用効果分析の方法	講義、演習	予習：関連する文献を収集して読む（90分） 復習：学習内容について整理する。（90分）
14	飯島	看護の費用効果分析の事例検討	講義、演習	予習：関連する文献を収集して読む（90分） 復習：学習内容について整理する。（90分）
15	飯島	費用効果分析に関する文献レビュー発表	発表	予習：関連する文献を収集して読み、基準に沿って評価する（90分） 復習：学習内容について整理する。（90分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	臨床薬理学	必修・選択	選択
英語科目名	Clinical pharmacology	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	岩淵 和久	ナンバリング	
担当教員	岸野史志※、木村利美※、加藤俊介※、宮崎哲朗※、中野真理子※、岩淵和久※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>生物学的製剤など新たな医薬品が次々と患者に投与されており、看護職者は臨床の場において薬物治療や医薬品の知識を備えている必要がある。本授業では薬物治療の基礎や薬物治療の科学的根拠、医薬品の適正使用に必要な臨床薬理学の基礎的知識を習得する。さらに、緊急応急処置や慢性疾患管理等に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力向上に関する知識とそれらを基にした看護技術について学ぶ。</p> <p>授業形態はセミナー形式の予定である。</p>				
授業の位置づけ	看護実践する上で必要な薬物治療や医薬品の知識と理論を修得する上で必要な授業である。。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	<p>①臨床の場において、正しく医薬品を使用するために必要となる臨床薬理学の基礎知識を学び、対象患者の治療薬使用の判断の根拠、使い方を説明できる。</p> <p>②薬剤投与後の患者モニタリングの意義を理解する。</p> <p>③患者の服薬管理能力が向上するような服薬に関する説明・観察・指導などが説明できる。</p>				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	<p>1. 事前にシラバス内容に基づき、参考書等に目を通して概要を把握し、理解できないところを抽出しておく。</p> <p>2. 配布された資料の内容や授業中のメモを教科書や参考書と照合して理解を深める。</p> <p>※各授業につき予習30分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	授業における参加度（50%）、課題レポート（50%）で評価する。				
評価基準	<p>①臨床の場において、正しく医薬品を使用するために必要となる臨床薬理学の基礎知識を学び、対象患者の治療薬使用の判断の根拠、使い方を説明できる。</p> <p>②薬剤投与後の患者モニタリングの意義を理解する。</p> <p>③患者の服薬管理能力が向上するような服薬に関する説明・観察・指導などが説明できる。</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
掲示板にて学習すべきことなどを通知する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
指定しない 薬が見えるvol.1, vol.2（メディアックメディア）、イラストで学ぶ薬理学（医学書院）、図解 薬理学（医学書院）					
その他					
連絡先・オフィスアワー	iwabuchi@ 随時受け付けます。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	岸野	臨床薬理学とは	講義	予習90分、復習90分
2	岸野	医薬品の適正使用 I 個体差の要因	講義	予習90分、復習90分
3	岸野	医薬品の適正使用 II 血中薬物濃度の臨床的意義と役割	講義	予習90分、復習90分
4	岸野	医薬品の適正使用 III PK/PDの考え方：抗菌剤、抗真菌剤、等	講義	予習90分、復習90分
5	岸野	医薬品の適正使用 IV PK/PDの応用：抗悪性腫瘍薬、等	講義	予習90分、復習90分
6	岸野	医薬品の適正使用 V 特別な配慮を要する医薬品、相互作用、注射薬の配合変化、等	講義	予習90分、復習90分
7	岸野	医薬品の適正使用 VI 医薬品の管理に必要な知識の向上（医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件、特別な配慮を要する医薬品、注射薬調製時の留意点、等）	講義	予習90分、復習90分
8	岸野	医薬品の適正使用 VII 治療方針決定の根拠（EBM：Evidence Based Medicine）：臨床上の疑問を解決するための臨床研究などの科学的データに基づいた、患者にとって最も有益で害の少ない治療法	講義	予習90分、復習90分
9	木村	臨床における適切な薬物使用の実際 I 消化器系・循環器系作用薬	講義	予習90分、復習90分
10	木村	臨床における適切な薬物使用の実際 II 抗菌薬化学療法と感染制御	講義	予習90分、復習90分
11	加藤	臨床における適切な薬物使用の実際 III 抗腫瘍薬の適応、症状調整としての支持療法	講義	予習90分、復習90分
12	宮崎	心不全の発症機序と薬物治療	講義	予習90分、復習90分
13	宮崎	動脈硬化の発症機序と薬物治療	講義	予習90分、復習90分
14	中野	臨床薬理学の臨床看護実践への活用 薬物療法における看護師の役割	講義	予習90分、復習90分
15	岩瀬	生物薬剤の原理と使用の実際・まとめと総合討議	講義	予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	グローバルメディカルコミュニケーション	必修・選択	必修
英語科目名	Global Medical Communication	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	金子 育世	ナンバリング	
担当教員	金子育世※、植木純※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	医療や看護に関する最新テキストの事例を通して当該領域における基本的な英語力を身につける。臨床現場での会話を中心に、症状や疾患名、医療器具や検査などの医療英語を修得し、使いこなすことを目標とする。授業では、テキストの他に、欧米の医療・看護ジャーナルから履修者の専門領域に関連する英語論文を選び、読解・批評を行いながら、実践的な英語読解力を養う。CDを使用しているリスニング練習、使用頻度の高い表現の反復学習、医療系語彙の練習、読解問題のほか、希望によりテキストの内容を深める形でディスカッション・プレゼンテーション課題も適宜行う。			
授業の位置づけ	医療や看護を専門とする研究者に必要とされる英語力の基礎を築くための科目である。また、グローバルに活躍できる医療従事者となる素地を作る科目でもある。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・看護系の語彙や表現を理解できる。 ・各事例で扱った症状、疾患、ケアの方法について英語で説明できる。 ・英語で書かれた医療・看護系の論文の主旨を理解できる。 ・医療トピックに対して医療従事者として意見を述べるができる。 			
先修要件	なし			
関連科目	なし			
学修上の注意	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの文献は辞書を引き、大まかな内容を把握しておく。 ・テキストの学習範囲を読み、わからない単語の意味を調べ、問題を解いておく。 ・論文講読では担当以外の部分についても内容を把握し、内容について批評する。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱った文献の用語・表現などをまとめる。 ・授業で扱った事例（症状・疾患・ケア方法）についてより詳しく調べる。 ・論文講読では、事前に理解できなかった英語表現を見直し、読解のポイントを確認する。 			
成績評価の方法				
評価方法	期末レポート（50%）、プレゼンテーション（30%）、授業参画度（20%）を統合して評価する。			
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・看護系の語彙や表現を理解できるか ・各事例で学習した症状や疾患、ケアの手順を英語で表現できるか ・医療・看護系の英語論文の内容を理解できるか ・医療・看護系の英語論文の内容を批評できるか ・医療トピックについて医療従事者として意見を述べるができるか 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
課題等に対するフィードバックの希望者には、随時メールで受け付ける。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Instructions will be given in the first class				
参考文献				
授業中に適宜紹介する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと） ikaneke@			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	金子	授業ガイダンス、課題説明 英語学術論文の書き方&読み方 論文の構成、abstractの読み方	講義 ディスカッション	予習：英語論文の構成要素やabstractの書き方を確認し、日本語論文と比較してみる。abstractによく使われている単語や表現を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
2	金子	Outpatient Care: Visit to the Clinic Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
3	金子	Outpatient Care: Injury and Pain Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
4	金子	Outpatient Care: Medical Examination Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
5	金子	論文1 医療・看護英語ジャーナルの論文講読&批評	プレゼンテーション ディスカッション	予習：該当論文を読み内容を把握し、内容について批評する。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
6	金子	Women's Health and Family Care: Women's Health Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
7	金子	Women's Health and Family Care: Delivery Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
8	金子	Women's Health and Family Care: Children's Health Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
9	金子	Chronic Illness: Lifestyle-related Disease Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
10	金子	論文2 医療・看護英語ジャーナルの論文講読&批評	プレゼンテーション ディスカッション	予習：該当論文を読み内容を把握し、内容について批評する。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)

11	金子	Chronic Illness: Dietary Restrictions Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
12	金子	Chronic Illness: Dementia Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
13	金子	Inpatient Care: Admission for Surgery Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
14	金子	Inpatient Care: Daily Life in the Hospital Vocabulary, Conversation Practice, Listening Comprehension, Communication Activity	講義 ディスカッション	予習：テキストの該当箇所を読み、わからない単語の意味を調べておく。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)
15	金子	論文3 医療・看護英語ジャーナルの論文講読&批評	プレゼンテーション ディスカッション	予習：該当論文を読み内容を把握し、内容について批評する。(学習時間：2時間) 復習：授業で扱った文献の用語・表現などをまとめ、事前に理解できなかった箇所を読み直す。(学習時間：2時間)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	医療看護学特別講義	必修・選択	選択
英語科目名	Special lecture on medical care nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	2単位
代表教員	谷川 武	ナンバリング	
担当教員	谷川 武※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	医療看護学に必要な衛生学・公衆衛生学の重要なテーマについて、最新の情報を専門家から学ぶ。 2022（令和4）年度は、「オフの量と質から考える働く人々の疲労回復：勤務間インターバルとつながらない権利」、「新型コロナウイルス感染症対策のための国際協力：JICAの事例」「長寿を生き抜くメディカルフィットネス」などとした。				
授業の位置づけ	衛生学・公衆衛生学の重要なテーマについて理解し、保健・医療・福祉環境の変化に対応できる高度な教育研究能力を有する看護専門職を目指す。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力				
到達目標	医療看護学に必要な衛生学・公衆衛生学の課題について説明できる。				
先修要件	なし				
関連科目	衛生学、公衆衛生学				
学修上の注意	医学部の衛生・公衆衛生合同ゼミナールの参加となるため、日程等詳細は別途通達する。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート（60%）、受講態度（40%） レポートは、A4用紙1枚程度にまとめ、講義終了後2週間以内に公衆衛生学講座（j-koshueisei@juntendo.ac.jp）宛に提出する。				
評価基準	医療看護学に必要な衛生学・公衆衛生学の課題について説明できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
講義後のレポートは、最後の講義後にまとめてフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
特にないが、テーマに応じて紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】医学研究科公衆衛生学講座（j-koshueisei@juntendo.ac.jp） 【オフィスアワー】月～金：9時～18時				
備考	月1回、年10回。 原則として毎月第3火曜日午後6時～ 2022年度はZoom開催				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1～10	各回により異なる	医療看護学に必要な衛生学・公衆衛生学に関する重要なテーマについて専門家から講義してもらう。	講義	各回予習・復習90分 各回、A4、1枚程度のレポート提出（Wordファイル）	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	リサーチ トピックス - M	必修・選択	選択
英語科目名	Research Topics - M	対象学年	1年
開講学期	1～2年次/通年	単位数	2単位
代表教員	平井 周	ナンバリング	
担当教員	-	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	国内外の学会・研究会・大学等が主催する招請講演・教育講演・研修会および順天堂大学が主催する講演会・研修会等への参加により、医療看護研究に関連する最新の知見を深める。 対象となる講演会・研修会等および手続き等については下記詳細を参照。				
授業の位置づけ	本科目では、国内外の学会・研究会や講演会、研修会等に参加することにより、専門分野の研究能力、質の高い看護ケアが実践できる能力、国際的・社会的に貢献できる能力の基礎を育成する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	・他者の研究を自身の研究に引き付けて捉えることができる。 ・他者の発表内容を簡潔にまとめ、わかりやすく報告することができる。				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	15回の出席で2単位とする。 (1回 60～90分)				
成績評価の方法					
評価方法	傍聴記50%、平常点50%を総合して評価する。				
評価基準	・他者の研究を自身の研究に引き付けて捉えることができる。 ・他者の発表内容を簡潔にまとめ、わかりやすく報告することができる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
研究指導教員から随時指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
なし					
その他					
連絡先・オフィスアワー	各研究指導教員へ随時連絡する。				
備考					
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
		<p>【対象】 下記で研究科委員会の承認を得たもの ・国内外の学会・研究会・大学等の主催する招請講演・教育講演・研修会（分野に関連するもの。発表の有無を問わない。） ・順天堂大学の主催するFDワークショップ、FD講演会、国際交流講演会、外国人講師による遠隔講義 ・その他</p> <p>【手続き】 ①対象となる講演会・研修会等に参加後、出席表に必要事項を記入し、研究指導教員の署名・捺印を得る。 （学会・研究会への参加の場合、参加を証明できる書類を添付） ②出席が15回に達したら、出席一覧表（最終レポート）に必要事項を記入、研究指導教員の署名・捺印を得たものを、①とあわせて浦安キャンパス事務室に提出。</p> <p>出席表および出席一覧表（最終レポート）の様式については別途案内する。</p>		<p>予習各回90分 学会参加前に、事前に関連する基礎的な内容や、直近の研究成果を確認しておく。</p> <p>復習各回90分 聴講した発表、およびその質疑応答の内容をまとめておく。</p>	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護教育学特論Ⅰ(基礎・継続教育)	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing Education I	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	野崎 真奈美	ナンバリング	
担当教員	野崎真奈美※、鈴木小百合※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>1.看護教育課程の歴史の変遷を学び、今日の看護教育の問題点や課題について検討する。さらに、望ましい看護教育プログラム(基礎教育及び継続教育)のあり方を考察する。</p> <p>2.看護学教育に関わる立場であることをふまえ、教育活動を効果的に展開するために必要な基本的知識を、教育学・教育心理学・教育工学等の関連分野からも学ぶ。</p> <p>3.教授-学習方略と教育評価について学び、看護学の授業展開に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>4.学習者の動機づけを高め、自己教育力を育成することのできる看護の教育方法・教育評価のあり方を考察する。</p> <p>5.看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境づくり等、継続教育に関する知識と技術を探求する。</p> <p>以上を通して、看護学を発展させるための将来的展望を持つことができる。 授業方法は、講義・プレゼンテーション・討議を基本とする。</p>				
授業の位置づけ	看護基礎教育、継続教育に関する現象について問題意識をもって振り返り、教育方法・教育評価に関する研究疑問の導出に貢献する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育カリキュラムの作成過程を説明することができる。 ・教育方法の種類と特徴について説明することができる。 ・教育評価の目的と方法、限界について説明することができる。 ・指導の実際を通して、自己の指導技術を評価できる。 ・学習の動機づけ理論について説明することができる。 ・アクティブラーニングを促進する教育の在り方について提案することができる。 ・今日の看護学教育の問題・課題を想起できる。 				
先修要件	特になし				
関連科目	看護教育学特論Ⅱ(CNS)				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された文献の批判的検討を行う。 ・自己の実践する指導案を立て、教材を準備する。 ・提示された課題について調べ、自分の意見をもって授業に臨む。 <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・討議への参加度(積極性と貢献度)(40%) ・プレゼンテーション(30%) ・成果物(30%) 				
評価基準	カリキュラム作成過程において授業設計の位置づけを理解しているか、かつアクティブラーニングを導くための教育のあり方を提案できるかについて着目して評価する。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外の学習成果については、授業中にフィードバックする。 ・最終課題は授業中に評価し、即時コメントする。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	特になし				
参考文献					
テキストは使用しない。 参考文献は、随時提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時電子メール(ma-nozaki@)で質問を受け付ける				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	野崎	看護教育に関する基礎知識 看護教育課程の変遷 看護の学問的発達の経緯	講義	予習・復習各90分を目安に討議に備える
2	野崎	看護教育における授業設計	講義	予習・復習各90分を目安に討議に備える
3	鈴木	アクティブラーニングの特徴と実際	講義	予習・復習各90分を目安に討議に備える
4	野崎、鈴木	看護学教育における教授法、基盤にある学習理論	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習各90分を目安にプレゼンテーションと討議に備える
5	野崎、鈴木	看護学教育における教授法、基盤にある学習理論	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習各90分を目安にプレゼンテーションと討議に備える
6	野崎、鈴木	プロジェクト学習による教材の作成	グループワーク プロジェクト学習	予習・復習各90分を目安にグループワークに備える
7	野崎、鈴木	プロジェクト学習による教材の作成	グループワーク プロジェクト学習	予習・復習各90分を目安にグループワークに備える
8	野崎、鈴木	プロジェクト学習による教材の作成	グループワーク プロジェクト学習	予習・復習各90分を目安にグループワークに備える
9	野崎、鈴木	プロジェクト学習による教材の作成	グループワーク プロジェクト学習	予習・復習各90分を目安にグループワークに備える
10	野崎、鈴木	プロジェクト学習による教材の作成	グループワーク プロジェクト学習	予習・復習各90分を目安にグループワークに備える
11	野崎	教育評価の基礎知識とプロジェクト学習の補講	講義 グループワーク プロジェクト学習	予習・復習各90分を目安にグループワークに備える
12	野崎、鈴木	プロジェクト学習による教材の作成	グループワーク プロジェクト学習	予習・復習各90分を目安にグループワークに備える
13	野崎、鈴木	プロジェクト学習による教材の作成 プレゼンテーションの準備	グループワーク プロジェクト学習	予習・復習各90分を目安にグループワークに備える
14	野崎、鈴木	プロジェクト学習による教材の作成 プレゼンテーションと成長確認	発表とディスカッション	予習・復習各90分を目安に発表・討議に備える
15	野崎	今日の看護学教育の問題・課題、対策	講義とディスカッション	予習：90分を目安に討議に備える 復習：90分を目安に今日の看護学教育の問題・課題について考察する

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護教育学特論Ⅱ (CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing Education II	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	石塚 淳子	ナンバリング	
担当教員	石塚淳子※、永野光子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	高等教育が目指すところをふまえて、看護基礎教育および継続教育において、看護学（看護）の教授活動に必要な知識と技術を学ぶ。さらに、個々の具体的な実践例を通して、看護実践の質向上に資する、看護職への教育的な働きかけや環境づくり、リーダーシップのあり方等について理解する。これらを通して、看護学および看護実践を発展させるための将来的展望を持つことができる。				
授業の位置づけ	CNSに求められる教育方法・教育評価に関する基礎的知識・技術を習得する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の看護教育カリキュラムの特徴を説明することができる。 ・わが国の看護職の人材育成のあり方について説明することができる。 ・インストラクショナルデザイン（ID理論）と看護教育におけるその活用方法について説明することができる。 ・看護学教育に活用できる学習理論について説明することができる。 ・教育の実際を通して、自己の指導技術を評価できる。 ・看護実践の質向上のための現認教育の在り方について提案することができる。 ・チーム医療を促進するための教育の在り方について提案することができる。 ・EBN実践のための看護研究の在り方について提案することができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	看護教育学特論Ⅰ（基礎・継続教育）および各分野のCNS関連科目				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育に関する自らの課題を明確にしておく。 ・提示された文献の批判的検討を行う。 ・自己の実践する指導案を立て、教材を準備する。 ・提示された課題について調べ、自分の意見をもって授業に臨む。 <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・討議への参加度（積極性）(20%) ・プレゼンテーション（30%）（教材・評価表の内容、わかりやすさを評価） ・レポート(50%) 				
評価基準	学習理論を活用して授業設計できるかに着目して評価する。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業時間外の学習成果については、授業中にフィードバックする。最終課題は授業中に評価し、即時コメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・ロバート・M. ガニエ他(著) 岩崎信、鈴木克明(監訳)：インストラクショナルデザインの原理，北大路書房，2007 ・鈴木克明(著)：研修設計マニュアル：人材育成のためのインストラクショナルデザイン，北大路書房，2015 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時電子メールで受け付ける（jishidu@）				
備考	授業方法は、講義・プレゼンテーション・ディスカッションを基本とする。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	石塚	カリキュラムの変遷からみた今日の看護基礎教育と継続教育の位置づけ	講義	予習・復習 (学習時間90分)
2	石塚	わが国の看護教育制度と諸外国の看護教育制度、それに関連する法規、その他の要因	講義	予習・復習 (学習時間90分)
3	永野	看護職者の人材育成と大学院教育	講義	予習・復習 (学習時間90分)
4	石塚	看護教員のためのインストラクショナルデザイン	講義	予習・復習 (学習時間90分)
5	石塚	看護学教育における教授法、それを支える学習理論	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
6	石塚	看護学教育における教育評価	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
7	石塚	看護実践場面の教材化と指導の実際	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
8	石塚	看護継続教育に活用できる学習理論とその展開	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
9	永野	看護実践の質向上を目指した現任教育の実際	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
10	永野	看護実践の質向上を目指した現任教育の課題と展望	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
11	石塚	チーム医療を促進するための方略の実際	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
12	石塚	チーム医療を促進するための方略の課題と展望	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
13	石塚	成人教育およびリフレクションに関する文献の検討	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
14	永野	患者教育に関する文献の検討	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)
15	石塚	看護実践の質向上を目指した看護研究指導の実際、課題、展望	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習 (学習時間90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	看護技術開発学特論	必修・選択	選択
英語科目名	Development of Nursing Skills	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	野崎 真奈美	ナンバリング	
担当教員	野崎真奈美※、石塚淳子※、高梨あさき※、鈴木小百合※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	「看護技術とは何か」を問い、実践と教育における看護技術の過去と現在から今後の看護技術研究の課題を探求し、将来のあり方について探求する。また、文献検討を通して、看護技術の科学的根拠と看護技術開発の展望について検討する。				
授業の位置づけ	日々の看護実践を問題意識をもって振り返り、研究疑問を抽出し、研究活動に発展させる一助とする。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護技術」は発展する、変化する、その意味を述べることができる。 ・看護技術の原理とは何かを述べるができる。 ・EBNの観点から、検討すべき看護技術は何かを探求することができる。 ・看護技術教育の変遷から、そのあり方を批判的に検討することができる。 ・今日的な看護技術教育の方法について提案することができる。 				
先修要件	特になし				
関連科目	特になし				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな参考文献を用いて、自分が考える「看護技術とは」を定義する。 ・エビデンスのある看護技術、エビデンスのない看護技術について調べる。 ・変化してきた看護技術について調べる。 ・現在実践されている看護技術の教育方法について調べる。 ・看護技術の教育上の課題について調べる。 ・一部、対面演習を含む。演習実施日は履修者と調整して決定する。 				
成績評価の方法					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参画度（積極性、貢献度）（20%） ・プレゼンテーション（40%） ・レポート（40%） 				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・課題についてプレゼンテーションを行い、看護技術について意見を述べているか。 ・プレゼンテーションの内容について、質問や意見を述べているか。 ・他者の意見に耳を傾け、ディスカッションすることにより考えを深めているか。 ・看護技術の発展について、看護技術教育について、学んだことをレポートに記述しているか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外の学習成果については、授業中にフィードバックする。 ・最終課題は授業中に評価し、即時コメントする。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 氏家幸子：看護基礎論，医学書院，2004 ・ 坪井良子他編：考える基礎看護技術Ⅰ 看護の基本 第3版，NOUVELLE HIROKAWA，2005 ・ 阿曾洋子他編著：実践へつなぐ 看護技術教育，医歯薬出版株式会社，2006 ・ 三枝博音：技術思想の探究，こぶし文庫3，こぶし書房，1995 ・ 池川清子：看護-生きられる世界の実践知-，ゆみる出版，1991 ・ 村中陽子他編著：学ぶ・試す・調べる 看護ケアの根拠と技術 第2版，医歯薬出版株式会社，2013 ・ Patricia A. Potter, Anne Griffin Perry: Fundamentals of Nursing 8th, Elsevier-Health Sciences Division, 2012. ・ 阿部幸恵編著：看護のためのシミュレーション教育，医学書院，2013. 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時電子メール(ma-nozaki@)で質問を受け付ける				
備考	受講に際して各回の授業テーマに関連する、疑問や課題などをもち、主体的に学習する。				
授業計画					

授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	野崎	ガイダンス 看護技術論（看護技術とは） ・看護における技術の意味	講義	予習：自身の看護実践を振り返っておく（学習時間：90分） 復習：看護技術、看護実践能力における課題を抽出する（学習時間：90分）
2	野崎	看護技術の開発研究の特徴と動向を把握する。	プレゼンテーションとディスカッション	予習：看護技術研究論文を検索する（学習時間：90分） 復習：看護技術研究の課題について考える（学習時間：90分）
3	野崎	看護技術の今後のあり方を検討する。 看護技術開発研究の発展の発展と課題を考察する。	プレゼンテーションとディスカッション	予習：看護技術研究論文を検索する（学習時間：90分） 復習：看護技術の発展と課題について考察する（学習時間：90分）
4	高梨	看護実践の科学的根拠 薬理学生理学的アプローチ	講義とディスカッション	予習：看護における実験的研究の意義について自分の考えをまとめる。（学習時間：60分） 復習：発表で共有したことをもとに、興味ある文献を検索し、精読する。（学習時間：90分）
5	高梨	看護における実験研究の現状	プレゼンテーションとディスカッション	予習：興味ある実験研究の論文を読み、内容について発表できるように整理する。（学習時間：60分） 復習：発表で共有したことをもとに看護技術の開発に必要な研究について考察する（学習時間：90分）
6	高梨	看護実践の科学的根拠 実験演習の計画	プレゼンテーションとディスカッション	予習：実験計画の具体的なスケジュール、役割分担について検討する。（学習時間：60分） 復習：実験結果の仮説を立てる。（学習時間：90分）
7	高梨	看護実践の科学的根拠 実験研究の実際 実験演習①	演習（実験） プレゼンテーションとディスカッション	予習：実験の役割分担をグループで検討する。（学習時間：90分） 復習：実験結果から計画の修正を行う。（学習時間：90分）
8	高梨	看護実践の科学的根拠 実験研究の実際 実験演習②	演習（実験） プレゼンとディスカッション	予習：実験の結果を整理し、グループで検討できるよう改善点、修正点を整理する。（学習時間：90分） 復習：得られた結果を整理し、考察に必要な文献を読む。（学習時間：90分）
9	高梨	看護実践の科学的根拠 実験演習の結果発表、共有	プレゼンとディスカッション	予習：実験結果の整理、考察をグループで検討しプレゼン資料を準備する。（学習時間：90分） 復習：他のグループの結果を踏まえ看護における実験研究について考察する。（学習時間：90分）
10	鈴木	看護技術の原理・原則 看護技術における倫理的要素	講義とディスカッション	予習：事前配布資料を読む（学習時間：90分） 復習：看護実践を振り返り、看護技術における倫理的要素について考察する（学習時間：90分）
11	鈴木	看護技術教育の現状と課題 看護師教育の技術項目と到達度 新人看護師の技術習得について	講義とディスカッション	予習：事前配布資料を読む（学習時間：90分） 復習：看護技術教育の課題について考察する（学習時間：90分）
12	鈴木	看護技術教育の現状と課題 新人・若手看護師の育成のあり方	プレゼンテーションとディスカッション	予習：興味ある技術研究の論文を読み、内容について発表できるように整理する（学習時間：60分） 復習：授業内容を振り返り、看護学生および新人・若手看護師の育成のあり方を考察する（学習時間：90分）
13	石塚（三島キャンパス）	看護技術の教育方法（三島キャンパス）	講義・演習	予習 事前配布資料を読む（学習時間：2時間） 復習 授業当日に渡した資料をまとめる（学習時間：2時間）
14	石塚（三島キャンパス）	看護技術の教育方法（三島キャンパス）	講義・演習	予習 事前配布資料を読む（学習時間：2時間） 復習 授業当日に渡した資料をまとめる（学習時間：2時間）
15	石塚（三島キャンパス）	看護技術の教育方法（三島キャンパス）	講義・演習	予習 事前配布資料を読む（学習時間：2時間） 復習 授業当日に渡した資料をまとめる（学習時間：2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護管理学特論 I (看護管理論)	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing Administration I	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	飯島 佐知子	ナンバリング	
担当教員	飯島佐知子※、大西麻未※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	保健・医療・福祉の動向を概観し、看護専門職の果たすべき役割について探求する。また、今日の看護管理に求められる主要な3要素である、医療・看護の質の管理、人的資源管理、効率性の管理の諸理論について講述し、看護管理のあり方を探求する。看護管理の視点から現在の日本の医療が求めるCNSの活用・活躍のあり方について提案する。				
授業の位置づけ	看護管理学には質管理、人的資源管理、看護プロセスの管理、財務管理、及び看護制度、政策で構成される。本講義は、日本の医療制度の評価、質評価と看護組織の評価を学ぶ。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の医療の現状を分析し、看護専門職の果たすべき役割について説明できる。 2. 医療・看護の質評価の概念枠組みを理解し、社会や組織における看護の質をどのように評価し改善するのか具体的に設定し説明できる。 3. CNSまたは看護専門職が役割を果たすために必要な組織での位置づけ、役割、および施設内での活動目標およびその評価基準について具体的にプレゼンテーションできる。 				
先修要件	特になし				
関連科目	診療報酬、医療・看護の質の第三者評価、組織デザイン、組織文化、マネジメントとリーダーシップ、チームマネジメント、組織変革				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの自身の活動や所属施設における管理上の課題を、シラバスのテーマに沿って考えておく。 2. 割り当てられた課題に従って関連文献を読み、発表準備をする。 3. 13～15回目の講義では、「自己のCNS（または看護専門職等）としての活動計画」という課題でプレゼンテーションを行う。発表内容には <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の看護活動の目標及び評価指標。 2) 組織において自己の活動をどのように位置づけるか（組織図上の位置、職務内容と権限およびそれらをどのように交渉し確保するのか）を含めること。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。 				
成績評価の方法					
評価方法	評価は課題の発表（80%）及び授業中のディスカッションへの参加（20%）で評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の医療の現状を分析し、看護専門職の果たすべき役割について説明できる。 2. 医療・看護の質評価の概念枠組みを理解し、社会や組織における看護の質をどのように評価し改善するのか具体的に設定し説明できる。 3. CNSまたは看護専門職が役割を果たすために必要な組織での位置づけ、役割、および施設内での活動目標およびその評価基準について具体的にプレゼンテーションできる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題発表終了時に授業内で発表内容の優れている事項、改善の必要な事項についてコメントします。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
飯島佐知子, 大島弓子編著：看護管理と医療安全, 放送大学出版会, 東京, 2018 Eleanor J. Sullivan : Effective Leadership and Management in Nursing (8th Edition), PEARSON, 2012 Diane M : Nursing Outcomes: The State of the Science, Jones & Bartlett Pub; 2版 .2010 井部俊子, 勝原由美子：看護組織論, 日本看護協会出版会, 2011.					
その他					
連絡先・オフィスアワー	火曜日、金曜日 または 随時（事前にメール連絡をください。sijima@mami-o@）				
備考	三島キャンパスとの遠隔授業については、本郷/浦安キャンパスと同様に講義の視聴と質疑応答を行う。発表については遠隔授業システムを用い相互に発表を行う。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	飯島	看護管理とは、医療保険制度改革の動向、看護師の専門職性とCNS医療システムの評価の枠組みについて	講義	予習：参考文献の「看護管理と医療安全」等、日本の医療制度の課題に関する文献を収集し読む（学習時間：90分） 復習：授業中に説明した枠組みに沿って、日本の医療の現状を分析して、結果とそれに基づいて、看護専門職の果たすべき役割についてプレゼンテーション資料を作成し期限までに提出する。（学習時間：90分）
2	飯島	日本の医療システムの評価について自己の分析を発表する	受講者による発表とディスカッション	予習：授業中に説明した枠組みに沿って、日本の医療の現状を分析して、結果とそれに基づいて、看護専門職の果たすべき役割についてプレゼンテーション資料を作成し期限までに提出する。（学習時間：90分） 復習：他の受講者の発表、ディスカッションを参考に不足部分を追記、修正する。（学習時間：60分）
3	飯島	医療保険制度、診療報酬と看護の報酬	講義	予習：参考文献の「看護管理と医療安全」等、医療保険制度、診療報酬と看護の報酬に関する文献を収集し読む（学習時間：90分） 復習：自己の専門分野や関連のある診療報酬の支払い要件や点数、技術評価提案書にはどのようなものがあるか調べる。（学習時間：90分）
4	飯島	医療の質の概念枠組み、第三者評価の種類と動向 看護の質の評価指標	講義	予習：看護の質評価に関する文献を収集し読む（学習時間：90分） 復習：授業中に説明した概念枠組みに沿って、自己の専門分野や関連のある看護の質評価指標を調べてプレゼンテーションを作成する（学習時間：90分）
5	飯島	自らの専門分野の看護の質の評価指標を作成し発表する	受講者による発表とディスカッション	予習：授業中に説明した概念枠組みに沿って、自己の専門分野や関連のある看護の質評価指標を調べてプレゼンテーションを作成する（学習時間：90分） 復習：他の受講者の発表、ディスカッションを参考に不足部分を追記、修正する。（学習時間：60分）（学習時間：60分）
6	飯島	自らの専門分野の看護の質の評価指標を作成し発表する	受講者による発表とディスカッション	予習：授業中に説明した概念枠組みに沿って、自己の専門分野や関連のある看護の質評価指標を調べてプレゼンテーションを作成する（学習時間：90分） 復習：他の受講者の発表、ディスカッションを参考に不足部分を追記、修正する。（学習時間：60分）（学習時間：60分）
7	大西	組織のデザイン	講義	予習、復習各2時間
8	大西	組織のデザインをテーマとした課題発表	学生による発表・ディスカッション	予習：資料や講義内容をもとに、自身の所属する組織の強み・弱みについて分析し発表準備をする。（学習時間：2時間） 復習：発表に対する質疑・ディスカッション内容をもとに、活動目標や活動計画について再検討する。（学習時間：2時間）
9	大西	マネジメントとリーダーシップ、組織変革	講義	予習、復習各2時間
10	大西	マネジメントとリーダーシップ、組織変革をテーマとした課題発表	学生による発表、ディスカッション	予習：マネジメントやリーダーシップに関する指定論文を読み、自分の考えをまとめておく。発表担当者は発表準備をする。（学習時間：2時間） 復習：発表内容やディスカッション内容を踏まえ、考えたことや課題を整理する。（学習時間：2時間）

11	大西	組織文化とチームマネジメント	講義	予習、復習各2時間
12	大西	組織文化とチームマネジメントに関する課題発表	学生による発表・ディスカッション	予習：組織文化やチームに関する指定論文を読み、自分の考えをまとめておく。発表担当者は発表準備をする。（学習時間：2時間） 復習：発表内容やディスカッション内容を踏まえ、考えたことや課題を整理する。（学習時間：2時間）
13	飯島 大西	自己のCNSまたは看護専門職としての活動計画の発表	受講者による発表とディスカッション	予習：1) 自己の看護活動の目標及び評価指標。 2) 組織において自己の活動をどのように位置づけるか（組織図上の位置、職務内容と権限およびそれらをどのように交渉し確保するのか）を含めプレゼンテーション資料を作成する。（学習時間：90分） 復習：教員のコメントや他の受講者の発表、ディスカッションを踏まえてに不足部分を追記、修正する。（学習時間：60分）
14	飯島 大西	自己のCNSまたは看護専門職としての活動計画の発表	受講者による発表とディスカッション	予習：1) 自己の看護活動の目標及び評価指標。 2) 組織において自己の活動をどのように位置づけるか（組織図上の位置、職務内容と権限およびそれらをどのように交渉し確保するのか）を含めプレゼンテーション資料を作成する。（学習時間：90分） 復習：他の受講者の発表、ディスカッションを参考に不足部分を追記、修正する。（学習時間：60分）
15	飯島 大西	自己のCNSまたは看護専門職としての活動計画の発表	受講者による発表とディスカッション	予習：1) 自己の看護活動の目標及び評価指標。 2) 組織において自己の活動をどのように位置づけるか（組織図上の位置、職務内容と権限およびそれらをどのように交渉し確保するのか）を含めプレゼンテーション資料を作成する。（学習時間：90分） 復習：他の受講者の発表、ディスカッションを参考に不足部分を追記、修正する。（学習時間：60分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護管理学特論Ⅱ(人的資源管理論)	必修・選択	選択
英語科目名	Nursing Administration II	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	大西 麻未	ナンバリング	
担当教員	大西麻未※、水野基樹	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	ヘルスケアシステムの変革が進む中、より質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するために、医療施設で働く人的資源を社会的組織的財産とみなしていかかに活用すればよいかを学ぶ。本講義では、人的資源管理の実践を支える理論のうち、ヘルスケア領域で特に重要と考えられる理論について講義を行う。また、それらをテーマとした看護の文献を輪読し、現状と課題について議論する。				
授業の位置づけ	看護管理学において人的資源管理は重要領域の一つである。看護管理学特論Ⅰで一部組織論やリーダーシップ理論を取り上げているが、本授業ではさらにそれらについて詳しく学ぶこと、また実際の研究論文から最近のトピックに触れ、この領域における研究方法を学んだり、研究上の課題について考えることを目指している。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. 人的資源を効果的に活用するための基本的な理論を理解する。 2. 基本的な理論を看護における人的資源管理に適用する際にどのような課題があるかを考え、人的資源管理を効果的に展開するための分析的視点や考え方を身につける。				
先修要件	特になし				
関連科目	看護管理学特論Ⅰ				
学修上の注意	文献を個人またはグループで読み、内容を整理して発表するための準備を要する。また議論に参加するため、文献を読む必要がある。また、文献のテーマは一例であり、受講生の関心等に基づいて決定する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	1. 成績評価方法 授業への参画(50%)、発表内容(50%)から総合的に評価する。 2. 成績評価基準 授業内容に関連する理論について説明でき、看護における活用方法について考察・討議できる。				
評価基準	各授業の中の討議に積極的に参加し、自分の経験と理論を踏まえながら意見を述べることができる。 論文内容を適切に整理して評価し、わかりやすく発表することができる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
課題に対するフィードバックは授業内の討論の中で行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
佐久間信夫、坪井順一編著、『第三版 現代の経営管理論』学文社、2016年					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は随時メールで受け付けます。 大西麻未 : mami-o@ 水野基樹 : mtmizuno@				
備考	講義、発表テーマ及び順序は受講生と相談の上決定する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大西	イントロダクション-看護における人的資源管理論の意義、主要なテーマの理解	講義	予習：人的資源管理の領域において自身の関心あるテーマなどを考えておく。(学習時間：70分) 復習：70分
2	水野	ミクロ・マクロ組織論を概観し、人的資源管理論的組織論の学問的位置づけを確認する。	講義(座学)形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	予習：当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。(学習時間：90分) 復習：授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。(学習時間：90分)
3	水野	モチベーション理論における欲求系/認知系/報酬系を包含する三次元理論を理解する。	受講者参加(主導)型のケーススタディ法を用いる。	予習：当該ケースに関するケースレポートを事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、ケースの事前理解を深める。(学習時間：90分) 復習：グループ討議、ディスカッションの続きと発表の準備。(学習時間：90分)
4	水野	管理者の役割とリーダーシップ理論を俯瞰し、リーダーシップ戦略の有効性を探る。	講義(座学)形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	予習：当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。(学習時間：90分) 復習：授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。(学習時間：90分)
5	水野	管理者の役割とリーダーシップ理論を俯瞰し、リーダーシップ戦略の有効性を探る。	受講者参加(主導)型のケーススタディ法を用いる。	予習：当該ケースに関するケースレポートを事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、ケースの事前理解を深める。(学習時間：90分) 復習：グループ討議、ディスカッションの続きと発表の準備。(学習時間：90分)
6	水野	組織変革の実践事例を紹介し、管理者の在り方やチームビルディングの方法を考える。	講義(座学)形式を中心としながらも、体験学習としてグループワークも適宜取り入れる。	予習：当該テーマに関する参考資料を事前に配布し、テキストの該当箇所と合わせてリーディング・アサインメントを課し、事前理解を深める。(学習時間：90分) 復習：授業で扱ったテーマ、問題についての資料を配布し、事後理解を深めるとともに、課題レポート等を課し、提出させる。(学習時間：90分)
7	水野	組織変革の実践事例を紹介し、管理者の在り方やチームビルディングの方法を考える。	受講者参加(主導)型のケーススタディ法を用いる。	予習：当該ケースに関するケースレポートを事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、ケースの事前理解を深める。(学習時間：90分) 復習：グループ討議、ディスカッションの続きと発表の準備。(学習時間：90分)
8	大西	看護におけるリーダーシップ理論の展開 看護領域でよく用いられているリーダーシップ理論について文献を通して理解し、討議する。	学生による発表・ディスカッション	予習：担当文献について内容を整理し、クリティークを行い発表資料としてまとめる。(学習時間：2時間) 復習：ディスカッション内容の整理(学習時間：90分)
9	大西	看護におけるモチベーション理論の展開 看護におけるモチベーション理論の活用例について文献を通して理解し、討議する。	学生による発表・ディスカッション	予習：担当文献について内容を整理し、クリティークを行い発表資料としてまとめる。(学習時間：2時間) 復習：ディスカッション内容の整理(学習時間：90分)
10	大西	看護における職場環境研究 看護における職場環境(Work environment)研究の実例を文献を通して理解し、その意義や活用について討議する。	学生による発表・ディスカッション	予習：担当文献について内容を整理し、クリティークを行い発表資料としてまとめる。(学習時間：2時間) 復習：ディスカッション内容の整理(学習時間：90分)
11	大西	看護における職場環境研究 看護における職場環境(Work environment)研究の実例を文献を通して理解し、その意義や活用について討議する。	学生による発表・ディスカッション	予習：担当文献について内容を整理し、クリティークを行い発表資料としてまとめる。(学習時間：2時間) 復習：ディスカッション内容の整理(学習時間：90分)

12	大西	医療におけるチーム研究 ヘルスケアチームを対象とした研究の実例について文献を通して理解し、討議する。	学生による発表・ディスカッション	予習：担当文献について内容を整理し、クリティークを行い発表資料としてまとめる。（学習時間：2時間） 復習：ディスカッション内容の整理（学習時間：90分）
13	大西	看護師個人の能力開発 看護における能力評価やキャリア開発に関する研究について文献を通して理解し、討議する。	学生による発表・ディスカッション	予習：担当文献について内容を整理し、クリティークを行い発表資料としてまとめる。（学習時間：2時間） 復習：ディスカッション内容の整理（学習時間：90分）
14・15	大西	まとめ-人的資源管理の諸理論の活用	学生による発表・ディスカッション	予習：これまでの授業の中で学んだことを整理し、今後の研究や臨床での活動にどのように活用するかをまとめておく（学習時間：各2時間） 復習：ディスカッション内容の整理（学習時間：各90分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	フィジカルアセスメント特論	必修・選択	選択
英語科目名	Physical Assessment	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	植木 純	ナンバリング	
担当教員	植木純※、加茂敦子※、佐野恵美香※、佐野裕子※、竹内万里子※、村田風友	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	質の高い看護実践、看護研究の展開に際して必要なフィジカルアセスメントについて探求し、実際に臨床の場での判断や先進的な研究で用いられているアセスメント法、アセスメントに必要な手技を習得する。さらに、健康関連QOL、心理社会的なアセスメントに必要な知識の理解を深め、アセスメントを展開するための基礎能力を身につける。身体および健康問題を科学的かつ系統的全身を診査でき、包括的に臨床病態および健康問題を把握できる能力を養う。				
授業の位置づけ	本科目では、解剖生理学や臨床病態学等の統合的な理解をもとに実施されるアセスメント技術について解説する。本科目の理解は、質の高い看護実践能力を養うための基礎となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの意義を述べることができる。 2. 健康関連QOLをアセスメントができる。 3. 心理社会的なアセスメントができる。 4. Head to toeのフィジカルエグザミネーションを行うことができる。 5. 心音、心雑音を適切にアセスメントできる。 6. 肺音を適切にアセスメントできる。 7. フィジカルアセスメントで得られた所見から病態を評価することができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前に提示された課題についてテキストを熟読し、授業でディスカッションに参加できるよう準備しておく。 2. 心音、肺音の特徴をPC等で繰り返し聴いて復習すること。 3. 講義中に配布された文献を読み復習すること。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	各授業におけるディスカッションへの貢献度 (60%) 呼吸音等のアセスメントスキルのテスト(40%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの意義を述べることができる。 2. 健康関連QOLをアセスメントができる。 3. 心理社会的なアセスメントができる。 4. Head to toeのフィジカルエグザミネーションを行うことができる。 5. 心音、心雑音を適切にアセスメントできる。 6. 肺音を適切にアセスメントできる。 7. フィジカルアセスメントで得られた所見から病態を評価することができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーション、討議については、その場でコメントする。 課題レポートは提出後に評価し、内容と結果をメール等で伝える。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
テキスト 1) 看護技術がみえるvol.3 フィジカルアセスメント、メディックメディア社、東京 2015 参考資料・文献 2) Bates Guide to Physical Examination and History Taking. Eleventh Edition. Wolters Kluwer Health, Lippincott Williams & Wilkins. 2013 3) 看護に生かすフィジカルアセスメント、植木 純/宮脇美保子(監、編)、照林社、東京、2007 4) Luckett T, et al. Choosing between the EORTC QLQ-C30 and FACT-G for measuring health-related quality of life in cancer clinical research: issues, evidence and recommendations. Ann Oncol. 2011 Oct;22(10):2179-90					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者：植木 純 junueki@				
備考	自主的に参加すること。 積極的に教員とディスカッションを行い、系統的に全身を診査する技術を習得して臨床病態および健康問題を把握できる能力を養うこと。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	植木	フィジカルアセスメントと形態機能・病態 (Head to toeのフィジカルエグザミネーションの考え方)	講義	予習・復習各90分
2	佐野(恵)	フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント -健康関連QOLのアセスメント-	講義	予習・復習各90分
3	村田	フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント -心理社会的アセスメント-	講義	予習・復習各90分
4	竹内	呼吸器系のアセスメント(1) (体表解剖、呼吸機能とガス交換、肺音、打診・声音振盪と病態の考え方)	演習	予習・復習各90分
5	佐野(裕)	呼吸器系のアセスメント(2) (息切れ、胸郭運動と病態の考え方)	演習	予習・復習各90分
6	加茂	頭頸部のアセスメント (顔面、頭蓋、頭皮、甲状腺、頭頸部リンパ節と病態の考え方)	講義	予習・復習各90分
7	加茂	腹部のアセスメント (肝・胆・膵、消化器、腎・泌尿器系と病態の考え方)	講義	予習・復習各90分
8	佐野(恵)	循環器系のアセスメント(1) (体循環と肺循環の特徴、頸動・静脈、末梢循環系と病態の考え方)	講義	予習・復習各90分
9	佐野(恵)	循環器系のアセスメント(2) (心音・心雑音の病態と考え方)	演習	予習・復習各90分
10	加茂	乳房と腋窩のアセスメント (良・悪性疾患、腋窩・鎖骨リンパ節と病態の考え方、自己検診法)	講義	予習・復習各90分
11	加茂	直腸・肛門・生殖器のアセスメント (直腸・肛門疾患、生殖器疾患と病態の考え方)	講義	予習・復習各90分
12	佐野(裕)	筋・骨格系のアセスメント (骨関節、骨格筋と病態の考え方)	演習	予習・復習各90分
13	竹内	中枢神経系のアセスメント (脳神経系、錐体路・錐体外路、感覚機能などと病態[脳卒中など]の考え方)	講義	予習・復習各90分
14	竹内	がんのアセスメント (悪液質、運動器障害などのアセスメント法と病態[がんロコモなど]の考え方)	講義	予習・復習各90分
15	植木	事例から見るHead to toeのフィジカルエグザミネーションと病態の考え方 呼吸音・心音のテスト	演習	予習・復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	慢性看護学特論Ⅰ（慢性看護論）	必修・選択	選択
英語科目名	Chronic Illness and Conditions Nursing I	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	高谷真由美（浦安）、東めぐみ（三島）	ナンバリング	
担当教員	高谷真由美※、長瀬雅子※、東めぐみ※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	慢性病をもつ人々及び家族が抱える複雑で解決困難な問題と背景、患者の反応や行動に関する諸理論について理解し、諸理論の活用について探求する。				
授業の位置づけ	慢性看護学の研究・教育等における基盤となる理論やモデルについて学ぶ。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病をもつ人々の行動、心理を理解するための視点を持つことができる。 2. 慢性病をもつ人々や家族の援助に必要な主要な概念・理論の要点を説明できる。 3. 各概念・理論の臨床応用について自身の実践事例と結び付けて発表できる。 4. 慢性病をもつ人々や家族を支援するための概念・理論の活用についての考えを記述できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	慢性看護学特論Ⅱ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する資料・文献を読み、ディスカッションの準備をする。 ・テーマに関する文献を読み、事例をまとめるなどプレゼンテーションの準備をする。 ・関心のある特定領域について文献検討を行い、研究・実践の現状と問題点、指向すべき方向を検討し、レポートにまとめる。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	事前学習・プレゼンテーション（60%）、討議（30%）、レポート（10%）				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病をもつ人々の行動、心理を理解するために必要な理論やモデルについて説明できる。 2. 慢性病をもつ人々や家族の援助に必要な主要な概念・理論の要点を説明できる。 3. 各概念・理論の臨床応用について自身の実践事例と結び付けて発表できる。 4. 慢性病をもつ人々や家族を支援するための概念・理論の活用についての考えを記述できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーションや、各回の討議内容についてその都度フィードバックする。また、提出されたレポートについて、個別にフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1) アーサー・クライマン著／江口重幸他訳：病いの語り-慢性の病いをめぐる臨床人類学，誠心書房，1996. 2) A. Bandura監修／本明寛・野口京子監訳(1995)：Self-Efficacy in Changing Societies／激動社会の中の自己効力，金子書房，1-15，1997. 3) E. Goffman／石黒毅訳：スティグマの社会学-烙印を押されたアイデンティティ改訂版，せりか書房，2001. 4) I. M. Lubkin 他著／黒江ゆり子他訳：クロニクイルネス-人と病の新たなかかわり，医学書院，2007. 5) Pirre Woog ed.／黒江ゆり子他訳：慢性疾患の病みの軌跡-コービンとストラウスによる看護モデル／The chronic illness trajectory framework, The Cobin Strauss Nursing Model, 医学書院，2005. 6) A. L. Strauss and Juliet Corbin et. al／南裕子監訳：慢性疾患を生きる-ケアとクオリティ・ライフの接点／Chronic Illness, 医学書院，2000. 7) リチャード・S・ラザルス，スーザン・フォルクマン／本明寛監訳：ストレスの心理学，認知的評価と対処の研究，実務教育出版，1991. 8) シェルドン・コーエン編著／小杉正太郎他監訳：ソーシャルサポートの測定と介入，川島書店，2005. 9) Karen Glanz and Frances Marcus Lewis et al／曾根智史他訳：健康行動と健康教育-理論・研究・実践，医学書院，2006. 10) 野川道子：看護実践に生かす中範囲理論，メデカルフレンド，2010. 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	浦安：高谷真由美 mtakaya@ 浦安：長瀬雅子 mnagase@ 三島：東めぐみ mghiga@				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習に基づくプレゼンテーションを中心に授業を進めるので、十分に準備をして授業に望むこと。 ・慢性看護のなかで各自がコアとする特定領域を教員の助言を受けて絞りこんでいくこと。 ・オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡を取って、積極的にコンタクトを取ること。 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	本郷/浦安：高 谷・長瀬 三島：東	授業の進め方 慢性病とは	講義	予習 90分 復習 90分
2～6	本郷/浦安：高 谷・長瀬 三島：東	慢性病をもつ人とその家族の体験を理解するための諸理論	プレゼンテーション、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備あるいは討議に向けた事前準備を行う。
7	本郷/浦安：高 谷・長瀬 三島：東	小括：慢性の病と慢性病をもちながら生活する人々の体験	講義	予習 90分 復習 90分
8～13	本郷/浦安：高 谷・長瀬 三島：東	慢性病をもつ人の行動の特徴と行動を理解する諸理論	プレゼンテーション、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備あるいは討議に向けた事前準備を行う。
13～14	本郷/浦安：高 谷・長瀬 三島：東	まとめ：慢性病をもつ人への看護援助方策と課題	講義とプレゼンテーション	各回予習90分、復習90分を目安とする。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	慢性看護学特論Ⅱ(慢性病療養支援論A)	必修・選択	選択
英語科目名	Chronic Illness and Conditions Nursing II	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	高谷真由美(浦安), 東めぐみ(三島)	ナンバリング	
担当教員	高谷真由美※、長瀬雅子※、樋野恵子※、東めぐみ※、栗原明美※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	慢性病をもつ人や家族の多様で複雑な状況を捉え、療養支援のために必要な概念、理論を活用し、慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法を探求する。				
授業の位置づけ	慢性病患者と家族の理解、療養支援に有用な概念、理論を理解するだけでなく、実践に活用できるようにすることを意図して学修を進める。慢性看護学特論Ⅰの内容を看護実践への活用という方向で深め、特論Ⅲ～Ⅴや演習の内容と統合させて慢性疾患看護に関する基盤を作る。CNS実習の履修者においては、慢性看護学実習Ⅲの基礎に位置づけられる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病を持つ人々の生活体験、変化を捉えるための理論と支援方法を説明できる。 2. 慢性病をもつ人の多様な病期における適切な支援方法を選択するための概念、理論、技法・ツールを説明できる。 3. 慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法を説明できる。 4. 慢性病をもつ人の家族やサポート資源を活用するための理論や概念を理解し、質の高い生活を送れるようにするための考えを述べることができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	慢性看護学特論Ⅰ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・配布する資料を読み、ディスカッションの準備をする。 ・患者または家族に関するライフヒストリーを作成し、慢性病をもつ人の生活体験を理解するためのプレゼンテーションの準備をする。 ・関心のある領域の変化する健康レベルに応じた支援方法、課題を文献検討に基づいてまとめておく。 ・関心のある領域の患者および家族支援についてQOLの向上と自己実現を促す支援について文献検討を行い、現状と問題点、指向すべき方向についてレポートにまとめる。 <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	事前学習・プレゼンテーション(40%)、討議(40%)、レポート(20%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病を持つ人々の生活体験、変化を捉えるための理論を説明しそれを用いた具体的な支援方法を例示し、実践への活用方法を想定できる。 2. 慢性病をもつ人の多様な病期における適切な支援方法を選択するための概念、理論、技法・ツールを他者に説明できる。 3. 慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法を具体的事例を用いて既習の知識を用いて説明できる。 4. 慢性病をもつ人の家族やサポート資源を活用するための理論や概念を理解し、質の高い生活に関する考えをまとめ、看護支援によってそれを実現するために必要な課題を幅広い視点から述べるができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業内でのプレゼンテーション、討議内容についてはその場でフィードバックする。課題レポートは提出後総合的な評価とコメントをメール等で伝える。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1) アルフレッド・シュッツ/森川真規雄訳：現象学的社会学，文化人類学叢，1980. 2) クリス・バルマン，スー・シュッツ/田村由美訳：看護における反省的実践 原著第5版，看護の科学社，2014. 3) I. M. Lubkin, P. D. Larsen/黒江ゆり子監訳：クロニックイリネス-人と病いの新たななかかわり，医学書院，2007. 4) ハーバート・ブルーマー/後藤将之訳：シンボリック相互作用論-パースペクティブと方法，勁草書房，1991. 5) サラ・T・フライ/片田範子監訳：看護実践の倫理-倫理的意思決定のためのガイド，日本看護協会出版会，2010. 					
その他は授業内に適宜紹介する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(講義担当教員にメールで連絡のこと)				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの体験および事例に基づくプレゼンテーションを中心に授業を進めるので、十分に準備をして授業に望むこと。 ・慢性病看護のなかで各自がコアとする特定領域を中心に、事例報告、研究成果などを文献検討しておく。 ・オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡を取って、積極的にコンタクトを取ること。 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	本郷/浦安：高谷 三島：東	授業の進め方 慢性病をもつ人への疾病の進行と生活体験を考慮した支援の必要性	講義・討議	予習：慢性病を持つ人への支援に有用な理論・概念についての現在の知識や活用経験を振り返って複数の事例を提示できるようにしておく。(学習時間2時間) 復習：慢性疾患看護に有用な理論を理解する前提となる知識・用語の定義を再確認し、曖昧だったり誤った知識を修正する。理論の活用における自己の課題を抽出しておく。(学習時間2時間)
2	本郷/浦安：高谷 三島：東	慢性病をもつ人の生活体験を理解し支援する方法① 内省と語り	講義・討議	予習90分、復習90分
3	本郷/浦安：高谷 三島：東	慢性病をもつ人の生活体験を理解し支援する方法② 相互作用、コミュニケーション	講義・討議	予習90分、復習90分
4	本郷/浦安：高谷 三島：東	慢性病をもつ人の生活体験を理解し支援する方法③ ナラティブアプローチ	講義・討議	予習90分、復習90分
5	本郷/浦安：樋野 三島：栗原	慢性病をもつ人の生活体験を理解し支援する方法： 意思決定支援	講義・討議	予習90分、復習90分
6	本郷/浦安：樋野 三島：栗原	慢性病をもつ人の生活体験を理解し支援する方法： 家族やサポート資源	課題発表・討議	予習90分、復習90分
7	本郷/浦安：高谷 三島：栗原	慢性病をもつ人の生活体験を理解し支援方法： ライフヒストリーをもとにした事例検討	課題発表・討議	予習90分、復習90分
8	本郷/浦安：高谷 三島：東	慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法 予防から看取りまでの多様な病期における支援方法の選択	講義・討議	予習90分、復習90分
9	本郷/浦安：高谷 三島：栗原	慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法 セルフマネジメント	講義・討議	予習90分、復習90分
10	本郷/浦安：高谷 三島：東	慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法 関心領域でのセルフマネジメントの文献・事例検討	課題発表・討議	予習90分、復習90分
11	本郷/浦安：高谷 三島：東	慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法 症状マネジメント、行動変容、ヘルスプロモーション	講義・討議	予習90分、復習90分
12	本郷/浦安：高谷 三島：東	慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法 関心領域での文献・事例検討	課題発表・討議	予習90分、復習90分
13	本郷/浦安：長瀬 三島：栗原	慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法 エンドオブライフケア	講義・討議	予習90分、復習90分
14	本郷/浦安：長瀬 三島：栗原	慢性病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法 関心領域でのエンドオブライフケアの文献・事例検討	発表・討議	予習90分、復習90分
15	本郷/浦安：高谷 三島：東	慢性病をもつ人のQOLと自己実現にむけた支援上の現状と問題点、指すべき方向	講義・課題発表	予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	慢性看護学特論Ⅲ(慢性病療養支援論B)	必修・選択	選択
英語科目名	Chronic Illness and Conditions Nursing III	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	長瀬 雅子	ナンバリング	
担当教員	長瀬雅子※、青木きよ子※、鶴澤久美子※、宮澤初美※、下西麻美※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	慢性病をもつ人々が質の高い生活を維持していくための支援(サポートネットワークづくり、社会資源の活用など)について理解し、治療や療養環境(病棟、外来、地域、職場など)を調整する方略について探求する。				
授業の位置づけ	慢性看護専門看護師の実践を中心とした講義から、療養支援システムを整えるための方策と政策提言の実践について学ぶ。この授業が慢性看護学実習Ⅰの課題につながる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病をもつ人々とその家族に対する倫理調整を含めた治療や療養環境の整備について説明できる。 2. 他職種や他施設、地域との多職種連携の方法やネットワーク構築について説明できる。 3. 療養システムを評価するために変革理論の要点を説明できる。 4. 慢性病をもつ人々とその家族を取り巻く治療や療養環境の課題について、関心領域における事例を用いてプレゼンテーションし、その解決方略について討議できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	慢性看護学特論Ⅳ、演習、慢性看護学実習Ⅰ～Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・指定したテキスト・参考書、文献を事前に熟読しておく。 ・関心領域あるいは自施設を中心に、実践、調整・連携などについて組織診断をしておく。 ・療養システム構築の課題について、関連する文献を整理し、研究成果をまとめておく。 <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	事前学習・プレゼンテーション(40%)、討議(40%)、レポート(20%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病をもつ人々とその家族に対する倫理調整を含めた治療や療養環境の整備について説明できる。 2. 他職種や他施設、地域との多職種連携の方法やネットワーク構築について説明できる。 3. 療養システムを評価するために変革理論の要点を説明できる。 4. 上記について、アセスメント、介入方略の立案ができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
各回のプレゼンテーションで担当教員がフィードバックする。またレポートに対して個別にコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<p>東めぐみ 編著：進化する慢性病看護 不確かさのなかにある病のプロセスをともに歩む、看護の科学、2010.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) I. M. Lubkin 他著/黒江ゆり子他訳：クロニックイルネス-人と病の新たななかかわり、医学書院、2007. 2) E. シャイン：問いかける技術-確かな人間関係と優れた組織をつくる、英治出版、2014. 3) パトリシア・R・アンダーウッド：組織の変化促進者としてのコンサルタント、インターナショナル・ナーシング・レビュー、20(2)、31-37. 4) E. H. シャイン：プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと、白桃書房、2002. 5) 森山美知子編著：新しい慢性疾患ケアモデル-ディジーズマネジメントとナーシングケースマネジメント、中央法規、2007. 6) E. シャイン：謙虚なコンサルティングクライアントにとって「本当の支援」とは何か、英治出版、2017. 7) S. P. ロビンス：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2009/2017. 8) E. C. エドモンドソン：チームが機能するとはどういうことか、英治出版、2014/2017. 9) 鶴若麻理・長瀬雅子編：看護師の倫理調整力-専門看護師の実践に学ぶ、日本看護協会出版会、2018. 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	長瀬雅子 mnagase@				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・関心領域あるいは自施設を中心に、実践、調整・連携などについて組織診断をし、これらに基づくプレゼンテーションすることから、十分に準備をして授業に望むこと。 ・療養システム構築の課題については、慢性病看護のなかで各自がコアとする特定領域の研究成果を中心に検討する。 ・オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡を取って、積極的にコンタクトを取ること。 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	長瀬	授業の進め方 慢性病をもつ人々の療養に関わる現状と課題	講義	予習 90分 復習 90分
2	青木	慢性病をもつ人々の予防から看取りに関わる制度的、物理的、人的システムなど、療養環境や社会資源の現状	講義	予習 90分 復習 90分
3	青木	慢性病をもつ人々の予防から看取りに関わる制度的、物理的、人的システムなど、療養環境や社会資源の課題	講義	予習 90分 復習 90分
4	長瀬	慢性病をもつ人々への質の高い生活に向けた家族・地域社会支援方策	講義	予習 90分 復習 90分
5	宮澤	慢性病をもつ人々の治療環境およびサポートを調整する方策 (CNSによる組織診断をもとにした実践)	講義	予習 90分 復習 90分
6	鶴澤	慢性病をもつ人々の治療環境およびサポートを調整する方策 (CNSによるコンサルテーション)	講義	予習 90分 復習 90分
7	鶴澤	慢性病をもつ人々の治療環境およびサポートを調整する方策 (CNSによる組織診断をもとにした実践、教育、研究、組織・社会貢献)	講義	予習 90分 復習 90分
8	鶴澤	慢性病をもつ人々の治療環境およびサポート：関心領域または自施設を中心とした組織診断	プレゼンテーション、討議	予習 90分 復習 90分
9	鶴澤	慢性病をもつ人々の治療環境およびサポートを調整する方策 (CNSによる教育、研究、組織・社会貢献)	講義	予習 90分 復習 90分
10	鶴澤	慢性病をもつ人々への質の高い生活に向けた家族・地域社会支援方策： 関心領域または自施設を中心とした連携・調整事例検討	プレゼンテーション、討議	予習 90分 復習 90分
11	宮澤	慢性病をもつ人々の治療環境およびサポートを調整する方策 (CNSによるコーディネーション)	講義	予習 90分 復習 90分
12	宮澤	慢性病をもつ人々への質の高い生活に向けた調整方策 (CNSによる他職種との協働、患者・家族との協働)	講義	予習 90分 復習 90分
13	宮澤	慢性病をもつ人々への質の高い生活に向けた家族・地域社会支援方策：関心領域または自施設を中心とした調整事例検討	プレゼンテーション、討議	予習 90分 復習 90分
14	宮澤	慢性病をもつ人々への質の高い生活に向けた倫理調整：関心領域または自施設を中心とした倫理調整事例検討	プレゼンテーション、討議	予習 90分 復習 90分
15	長瀬	慢性病をもつ人々とその家族を取り巻く治療や療養環境に関する問題と革新方略の探求	講義	予習 90分 復習 90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	慢性看護学特論Ⅳ(慢性病療養システム論)	必修・選択	選択
英語科目名	Chronic Illness and Conditions Nursing IV	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	長瀬 雅子	ナンバリング	
担当教員	長瀬 雅子※、高谷 真由美※、佐野 裕子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	慢性病をもつ人々に適用される医療・福祉の制度や体制を理解し、療養生活を継続する上での制度・体制上の課題とその革新的方策について探求する。				
授業の位置づけ	慢性看護CNSコースの必修科目である。慢性病の治療、療養を取り巻く環境を理解し、慢性病患者を支援する方略を検討する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病をもつ人々に適用される医療・福祉の制度および社会資源の概要を説明できる。 2. 関心領域の医療・福祉制度および活用可能な社会資源の実態を調査し、医療・福祉制度及び治療環境の革新方法について事例を用いて討議できる。 3. 慢性病をもつ人々とその家族に適用される医療・福祉の制度や体制、その活用及び革新方策についての考えを記述できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴ CNS共通科目A/B				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された文献、資料を読み、討議の準備をする。 ・文献及び官公庁のデータなどを参考に慢性病をもつ人々に適用される保健医療福祉制度について調査し、討議の準備をする。また、討議課題を明らかにして授業に臨む。 ・プレゼンテーション、討議を経て、療養システムを改善していくための調整方策、組織変革、制度改革を含めた課題についてレポートする。 <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	事前学習・プレゼンテーション(60%)、討論への参加度(20%)、レポート(20%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病をもつ人々に適用される医療・福祉の制度および社会資源の概要を説明できる。 2. 関心領域の医療・福祉制度および活用可能な社会資源の実態を調査し、医療・福祉制度及び治療環境の革新方法について事例を用いて討議できる。 3. 慢性病をもつ人々とその家族に適用される医療・福祉の制度や体制、その活用及び革新方策についての考えを記述できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業内でのプレゼンテーション、討議内容についてはその場でフィードバックする。 課題レポートは提出後総合的な評価とコメントをメール等で伝える。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1) ブルーノ・バリエ著/近藤純五郎監修：医療制度改革-先進国の実情とその課題，医学書院，2014. 2) 府川哲夫/磯部文雄：保健医療福祉制度論 改訂版，ミネルヴァ書房，2011. 3) 本庄恵子・野月千春・本館教子：セルフケア看護，ライフサポート社，2015. 4) L. マグワイア/小松源助・稲沢公一訳：対人援助のためのソーシャルサポートシステム，川島書店，1994. 5) 野嶋佐由美：家族エンパワーメントをもたらす看護実践，へるす出版，2005. 6) 島崎謙治：日本の医療-制度と政策，東京大学出版，2011. 7) 二木 立：地域包括ケアと地域医療連携，勁草書房，2015. 8) 厚生労働統計協会：国民衛生の動向2022/2023，2022. 9) 厚生労働統計協会：国民の福祉と介護の動向2022/2023，2022. 10) 社会保障の手引 2023年版-施策の概要と基礎資料，中央法規，2022. 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	長瀬雅子 mnagase@				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・関心領域を中心に、医療・福祉制度体制などについて文献を中心に調べ、十分に準備をして授業に望むこと。 ・療養システム構築の課題については、慢性看護のなかで各自がコアとする特定領域を中心に、研究成果を中心に検討し、プレゼンテーションすること。 ・オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡を取って、積極的にコンタクトを取ること。 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	長瀬	授業の進め方 慢性病をもつ人に関連した政策や制度の概要について	講義、討議	予習・復習各90分を目安に討議に備える
2-3	長瀬	慢性病をもつ人に適用される医療及び福祉制度	講義、プレゼンテーション、討議	各回予習・復習各90分を目安に、プレゼンテーションや討議に備える。
4	長瀬	慢性病をもつ人々にかかわる政策と政策決定過程	講義、討議	予習・復習各90分を目安に、プレゼンテーションや討議に備える。
5-6	長瀬	現代の医療及び福祉制度や体制の国際比較と日本の課題	講義、プレゼンテーション、討議	各回予習・復習各90分を目安に、プレゼンテーションや討議に備える。
7-8	長瀬	慢性病をもつ人々にかかわる保健・医療・福祉専門職とその役割	講義、プレゼンテーション、討議	各回予習・復習各90分を目安に、プレゼンテーションや討議に備える。
9-10	佐野	リハビリテーションの概念とその変遷	講義、プレゼンテーション、討議	各回予習・復習各90分を目安に、プレゼンテーションや討議に備える。
11-12	高谷	日本の健康政策：慢性病の予防、健康教育と課題	講義、プレゼンテーション、討議	各回予習・復習各90分を目安に、プレゼンテーションや討議に備える。
13-14	長瀬	慢性病をもつ人々の社会生活を支える資源・制度	講義、プレゼンテーション、討議	各回予習・復習各90分を目安に、プレゼンテーションや討議に備える。
15	長瀬	慢性病を持つ人々への医療福祉制度や体制の構築に関する問題点と革新方策	講義、討議	予習・復習各90分を目安に、プレゼンテーションや討議に備える。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	慢性看護学特論Ⅴ(慢性病病態・治療論)	必修・選択	選択
英語科目名	Chronic Illness and Conditions Nursing V	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング	
担当教員	高谷真由美、北村幸恵、坂本亜弓、堺恭子、佐野裕子、植木純、大熊泰之	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	慢性病をもつ人の身体的アセスメントの方法と評価について理解する。慢性病をもつ人の病態・診断・治療過程を理解し、医学的診断・評価を含む包括的アセスメントに基づいた支援方法と、多職種連携・協働による実践的支援方法を学ぶ。			
授業の位置づけ	慢性看護学特論、CNS演習の学修内容と関連づけ、機能病態学特論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント論の学修内容を活用しながら、病態・診断・治療過程への理解を深める。慢性看護学実習、特に実習Ⅱの基盤になる授業である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病を持つ人の身体の病理学的・生理学的な変化と特徴を理解し、知識を統合させて複雑な病態から生じている機能障害をアセスメントできる。 2. 慢性病を持つ人の事例を用いて、病態・診断過程・治療管理について説明できる。 3. フィジカルアセスメントと医学的診断に基づき、慢性疾患をもつ人の生活状況に合わせた長期的な療養計画の立案と支援ができる。 4. 慢性疾患をもつ人への多職種連携・協働による支援について看護職の役割を述べることができ、職種の特性を活かした協働を含めた対象者への支援計画を立案できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、医学的診断・評価、療養支援、多職種連携・協働			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・配布する資料を読み、フィジカルアセスメントに関する知識を、これまでの経験と合わせて整理する。 ・関心領域の慢性疾患患者の事例を選び、病態・医学的診断・治療管理についてプレゼンテーションを行う準備をする。 ・関心領域の事例に関して、全体像や生活状況とフィジカルアセスメントに基づいた長期的治療計画をまとめる。 ・関心領域の医療処置に必要な実技を行う準備をする。 ・慢性疾患をもつ人の病態と治療をふまえた看護支援のありかたについて、文献検討を行い、研究・実践の現状と問題点、指向すべき方向についてレポートにまとめる。 <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>			
成績評価の方法				
評価方法	<p>事前学習・プレゼンテーション(40%)、討議(40%)、レポート(20%) 以下の視点で到達度を評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病を持つ人の身体の病理学的・生理学的な変化と特徴を理解し、機能障害についてアセスメントすることができているか。 2. 慢性病を持つ人の事例を用いて、病態・診断過程・治療管理について説明できる。 3. フィジカルアセスメントと医学的診断に基づき、慢性疾患をもつ人の生活状況に合わせた長期的な療養計画を立案し他者にわかるように説明できているか。 4. 慢性疾患をもつ人への多職種連携・協働による支援の実際を理解し、看護職者としての役割を具体的な活動計画を例示しながら説明することができているか。 			
評価基準	<p>以下の視点で到達度を評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病を持つ人の身体の病理学的・生理学的な変化と特徴を理解し、機能障害についてアセスメントすることができているか。 2. 慢性病を持つ人の事例を用いて、病態・診断過程・治療管理について説明できる。 3. フィジカルアセスメントと医学的診断に基づき、慢性疾患をもつ人の生活状況に合わせた長期的な療養計画を立案し他者にわかるように説明できているか。 4. 慢性疾患をもつ人への多職種連携・協働による支援の実際を理解し、看護職者としての役割を具体的な活動計画を例示しながら説明することができているか。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
<p>プレゼンテーション、討議については、その場でコメントする。 課題レポートは提出後に評価し、内容と結果をメール等で伝える。</p>				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
<ol style="list-style-type: none"> 1) I. M. Lubkin, P. D. Larsen/黒江ゆり子監訳：クロニックイルネス-人と病いの新たななかかわり，医学書院，2007. 2) Lynn S. Bickley/福井次矢・井部俊子監訳：ペイツ診察法，メディカルサイエンスインターナショナル，2008. 3) 松尾ミヨ子他編：ナーシンググラフィカ 基礎看護学-ヘルスアセスメント第4版，メディカ出版，2014. <p>他適宜講義内で提示</p>				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高谷	授業の進め方 慢性病をもつ人のヘルスアセスメント、医学的診断と治療過程の支援における看護の役割	講義・討議	予習90分、復習90分
2	高谷	慢性病をもつ人の身体の特徴①: 病理学的変化・生理学的変化とフィジカルアセスメント	講義・討議	予習90分、復習90分
3	北村	慢性病をもつ人の身体の特徴②: 機能障害とヘルスアセスメント 呼吸機能、循環機能、代謝機能、脳神経機能、運動機能障害など	講義・討議	予習90分、復習90分
4	坂本	慢性病をもつ人の身体の特徴③: 機能障害とヘルスアセスメント 呼吸機能、循環機能、代謝機能、脳神経機能、運動機能障害など	講義・討議	予習90分、復習90分
5	佐野	慢性病をもつ人の治療計画と管理: 理学療法 呼吸機能、循環機能、代謝機能、脳神経機能、運動機能障害など	講義・討議	予習90分、復習90分
6	堺	慢性病をもつ人の治療計画と管理: 薬物療法 呼吸機能、循環機能、代謝機能、脳神経機能、運動機能障害など	講義・討議	予習90分、復習90分
7	植木	慢性病をもつ人の治療計画と管理: 薬物療法 呼吸機能、循環機能、代謝機能、脳神経機能、運動機能障害など	講義・討議	予習90分、復習90分
8	大熊	関心領域における治療計画と管理: 薬物療法 呼吸機能、循環機能、代謝機能、脳神経機能、運動機能障害など	講義・討議	予習90分、復習90分
9	植木	関心領域におけるフィジカルアセスメントに基づく事例検討: 病態・医学的診断・治療管理	講義・討議	予習90分、復習90分
10	佐野	関心領域におけるフィジカルアセスメントに基づく事例検討: 残存機能の維持と症状緩和のための治療計画管理	講義・討議	予習90分、復習90分
11	植木	関心領域における症状マネジメントや特徴的な治療法、医療処置に伴う 長期的な療養計画の検討	講義・討議	予習90分、復習90分
12	堺	関心領域における症状マネジメントや特徴的な治療法、医療処置に伴う 長期的な療養計画の検討	課題発表・討議	予習90分、復習90分
13	大熊	関心領域における症状マネジメントや特徴的な治療法、医療処置に伴う 長期的な療養計画の検討	課題発表・討議	予習90分、復習90分
14	北村	関心領域における多職種連携・協働による支援の実際	課題発表・討議	予習90分、復習90分
15	高谷	慢性病をもつ人の病態・治療支援のあり方と今後の課題	課題発表・討議	予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	慢性看護学実習 I (CNS役割実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Chronic Illness and Conditions Nursing Practice I	対象学年	1年
開講学期	後期	単位数	2単位
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング	
担当教員	高谷真由美※、長瀬雅子※、青木きよ子※、坂本亜弓※、北村幸恵※、瀬尾昌枝※、鶴澤久美子※、小崎綾子※、堺恭子※、下西麻美※、宮澤初美※、田村美紀※、漆戸由紀子※、住吉由巳子※、菅谷千賀子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	慢性疾患看護専門看護師の活動の実際を通して、慢性病を持つ患者および家族のアセスメント、患者・家族への看護実践、コンサルテーションおよび教育活動等、専門看護師として役割を理解し、今後、慢性疾患看護専門看護師として活動する上での自己の課題を探索する。				
授業の位置づけ	慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習、CNS共通科目における学修を基に、慢性看護CNSとしての役割（①実践 ②コンサルテーション ③調整 ④倫理調整 ⑤教育 ⑥研究・社会貢献）をフィールドワークを通して学び、CNSを目指す上での自己の課題を明確にする。この課題は、実習Ⅰから実習Ⅲに進んだ際に取り組み課題の一つとして位置付けられるよう、実習計画を立てることになる、				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患看護CNSが行う慢性病を持つ人と家族の複雑で解決困難な事例に対する、諸理論やサポート資源・制度を活用した看護実践場面を通して、CNSの役割と機能について理解する。 慢性疾患CNSが行う看護職者を含むケア提供者に対するコンサルテーション、ケアに関わる人々と当事者のケアコーディネーションおよび倫理調整の実践場面を通して、CNSの役割と機能を理解する。 慢性疾患CNSが行う教育活動の実践場面を通して、看護ケアの質向上のためのCNSの役割と機能を理解する。 見学・参加した看護実践、教育、相談、連携、調整等の場面と事例を分析し、CNSとして活動する上での事項の課題を考察する。 				
先修要件	慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習（慢性看護CNS）				
関連科目	慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習（慢性看護CNS） CNS共通科目A/B				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 実習計画書を作成する。 実習指導者に実習計画を提示して実習スケジュールを調整する。 実習終了後は実習目的に沿ったレポートを作成する。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習計画 10% 実習内容 50% 成果報告 40%				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患看護CNSが行う慢性病を持つ人と家族の複雑で解決困難な事例に対する、諸理論やサポート資源・制度を活用した看護実践場面を通して、CNSの役割と機能について理解できたか。 慢性疾患CNSが行う看護職者を含むケア提供者に対するコンサルテーション、ケアに関わる人々と当事者のケアコーディネーションおよび倫理調整の実践場面を通して、CNSの役割と機能を理解できたか。 慢性疾患CNSが行う教育活動の実践場面を通して、看護ケアの質向上のためのCNSの役割と機能を理解できたか。 見学・参加した看護実践、教育、相談、連携、調整等の場面と事例を分析し、CNSとして活動する上での事項の課題を考察し、記述できたか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
定期的な実習報告に対して、フィードバックする。 実習中の学びについては、その都度指導者との討議を通して学びを深める。 成果報告では、担当教員、実習指導者から内容や学び、課題に対してコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
適宜、紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	高谷真由美：mtakaya@ 長瀬雅子：mnagase@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1日目	高谷真由美／ 長瀬雅子	実習の打ち合わせ	プレゼンテーション	<予習>担当教員の指導を受けながら、実習計画書を作成する。 時間 120分 <復習>実習指導者からのコメントに基づいて実習計画書を修正する。 時間 90分
2～9日目	高谷真由美／ 長瀬雅子	実習指導者の実践を観察する	シャドーイング	<予習>90分 <復習>90分
10日目	高谷真由美／ 長瀬雅子	実習の学びを報告する	プレゼンテーション	<予習>120分 <復習>60分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	慢性看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Chronic Illness and Conditions Nursing Practice II	対象学年	2年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング	
担当教員	高谷真由美※、長瀬雅子※、坂本亜弓※、鶴澤久美子※、内藤俊夫※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	慢性病者のフィジカルアセスメントに基づく診断・治療に関して、医師の診察・治療場面に同席し、専門的な臨床判断能力と療養生活における問題解決能力を習得する。また、変化する保健医療制度の中で、より質の高いケアを提供するために、多職種と協働する能力を養う。				
授業の位置づけ	慢性看護学特論(特に慢性看護学特論Ⅴ)、CNS演習での学習内容全般、および機能病態学、臨床薬理学、フィジカルアセスメント特論での学修内容を基盤に、実践場面での臨床判断能力、問題解決能力を養い、自己の課題を明確にする。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性病患者の診断・治療に必要なフィジカルアセスメントとそれに基づく薬物・検査・医療処置の選択や管理について説明できる。 慢性病患者の診断・治療に必要とされる多職種との協働・連携について説明できる。 慢性病患者の診断・治療場面に必要な看護実践・多職種連携等について考察し、専門看護師として活動する上での自己の課題を明確にできる。 				
先修要件	慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(慢性看護CNS)、慢性看護学実習Ⅰ				
関連科目	慢性疾患看護専門看護師 フィジカルアセスメント 診断・治療 他職種協働				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 実習計画書を作成する。 実習終了後は実習目的に沿ったレポートを作成する。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習計画書(10%)、日々の実習状況報告(20%)、事例検討会(30%)、最終レポート(40%)の内容により評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 慢性病患者の診断・治療に必要なフィジカルアセスメントとそれに基づく薬物・検査・医療処置の選択や管理について説明できたか。 慢性病患者の診断・治療に必要とされる多職種との協働・連携について説明できたか。 慢性病患者の診断・治療場面に必要な看護実践・多職種連携等についての考察に基づき専門看護師として活動する上での自己の課題を明確にし、それを記述できたか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>実習計画、最終レポートについては、実習指導担当教員が内容についてコメントし、評価を伝える。 日々の実習状況報告、事例検討については、実習指導・検討会等に参加した指導者、教員から随時コメントを伝える。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
実習指導担当教員から適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	実習指導担当教員に各自メールで連絡を取る。				
備考	与えられた課題を実施するだけでなく、自ら学習課題を見つけて能動的に学修を進める。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
14日間	高谷真由美、長瀬雅子、坂本亜弓、青木きよ子、鶴澤久美子、内藤俊夫	<ul style="list-style-type: none"> 慢性病者の診断・治療場面に同席し、病態把握のためのフィジカルアセスメントの実施とその評価、それらに基づく検査・医療処置・薬物処方を選択について学ぶ。 慢性病者の診断・治療に必要な実践・連携を通して、慢性疾患看護専門看護師として活動する上での自己の課題を探求する。 	<ul style="list-style-type: none"> 慢性病者に対して行われる診断・治療場面に同席し、フィジカルアセスメント・診断・治療過程を見学し、講義を受ける。 診断・治療場面に同席した慢性病患者の事例についてアセスメントし、指導医および医療チームと事例検討を行う。 慢性病者の診断・治療場面に同席し、診断・治療過程における、医学的視点からの多職種連携の内容と方法を学ぶ。 慢性疾患CNSとして活動する上で必要な臨床判断能力、検査・薬物の処方・医療処置の選択と治療管理における役割、多職種連携において必要な病態・診断・治療に関する知識について考察し、レポートにまとめる。 	各回予習90分、復習120分（実習計画、報告書の作成含む） 事例検討会資料作成、実習内容に応じたレポート作成、最終レポート作成

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	慢性看護学実習Ⅲ(統合実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Chronic Illness and Conditions Nursing Practice III	対象学年	2年
開講学期	前期	単位数	6単位
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング	
担当教員	高谷真由美※、長瀬雅子※、青木きよ子※、鶴澤久美子※、坂本亜弓※、小崎綾子※、塚恭子※、下西麻美※、漆戸由紀子※、北村幸恵※、瀬尾昌枝※、田村美紀※、宮澤初美※、	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴおよび演習で学んだこと、および慢性看護学実習Ⅰ・Ⅱを統合し、慢性病を持つ患者および家族の包括的アセスメント、患者・家族への療養支援、スタッフへのコンサルテーションおよび教育活動などを実践し、専門看護師として活躍する上での実践力を養う。実施した活動を内省し、慢性疾患看護専門看護師として活躍する上での課題を探索する。				
授業の位置づけ	慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴ、CNS演習、慢性看護学実習Ⅰ・Ⅱにおける学びを統合し、慢性病を持つ患者および家族の包括的アセスメント、患者・家族への療養支援、支援に必要なコーディネーション、看護スタッフへのコンサルテーションおよび教育活動などを実践する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患により生ずる複雑で解決困難な問題に対して諸理論やサポート資源・制度を活用した看護実践を行う。 2. 医師の指導の下、多職種と協働・連携しながら、コアとする特定領域の慢性病者の診断・治療に必要な薬物、検査、処置の選択や管理を学ぶ。 3. 看護者を含むケア提供者に対しコンサルテーション、ケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーションおよび倫理的な問題や葛藤の解決をはかる。 4. 慢性病を持つ人および家族の複雑で解決困難な事象に対して、諸理論やサポート資源・制度を活用し教育活動を行う。 5. 実施した看護実践、相談、連携・調整、教育等を内省し、慢性疾患看護専門看護師として活躍する上での課題を明確にする。 				
先修要件	慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(慢性看護CNS)、慢性看護学実習Ⅰ、Ⅱ				
関連科目	フィジカルアセスメント特論、機能病態学特論、臨床薬理学、コンサルテーション論、看護倫理特論、看護教育学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅰ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のためにふさわしい実習施設を選び、受け入れの打診をする。 ・実習計画書を作成する。 ・実習終了後は実習目的に沿ったレポートを作成する。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容(40%)、事例検討カンファレンスでのプレゼンテーション(40%)、実習レポート(20%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患により生ずる複雑で解決困難な問題に対して諸理論やサポート資源・制度を活用した看護実践ができたか。 2. 多職種と協働・連携しながら、コアとする特定領域の慢性病者の診断・治療に必要な薬物、検査、処置の選択や管理について適切な提案ができたか。 3. 看護者を含むケア提供者に対しコンサルテーション、ケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーションおよび倫理的な問題や葛藤の解決はかかれたか。 4. 慢性病を持つ人および家族の複雑で解決困難な事象に対して、諸理論やサポート資源・制度を活用し教育活動を実施できたか。 5. 実施した看護実践、相談、連携・調整、教育等を内省し、慢性疾患看護専門看護師として活動する上での自己の課題を明確にできたか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習内容、事例検討カンファレンスはその場でコメントする。 実習レポートについては、提出後コメントと総合評価をメール等で伝える。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
適宜指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	指導担当教員および実習指導者に適宜メール等で連絡をとる。 高谷 : mtakaya@ 長瀬 : mnagase@				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習施設の規則等に従って行動する。 ・能動的、積極的な姿勢で実習に臨む。 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
6週間	高谷・長瀬他	各実習施設にて、多職種と協働・連携しながら、履修者がコアとする領域で、慢性疾患CNSとしての役割（実践・コンサルテーション・調整・倫理調整・教育）を実践する。	臨床指導者、担当教員からの助言を受けながら、実践・調整・倫理調整・コンサルテーションの計画を立案する。 慢性疾患看護CNSの実践に該当するケースを指導者と共に選択し、アセスメント・計画立案・実践・評価修正を行う。 適宜事例報告会で実践内容を報告し、アドバイスを受ける。	予習90分、復習90分、 看護計画立案・評価・修正 事例検討会用資料作成
3~5回	高谷・長瀬他	実習（実践・調整・倫理調整・コンサルテーション・教育）で実施した内容をレポートにまとめ、報告する。 実習を通して看護現象の意味を探求し、慢性疾患CNSとして活動する上での自己の課題を考察し、発表する。	発表・討議	発表準備120分 復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ(ウイメンズヘルス概論)	必修・選択	選択
英語科目名	Women's Health in Nursing I	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	
担当教員	大月恵理子※、森田亜希子※、青柳優子※、竹田省※、吉田 幸洋※、牧野真太郎※、高島えり子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	女性のライフサイクルおよびリプロダクティブ・ヘルスにおける健康のとらえ方を理解し、ウイメンズヘルスを捉える上で必要な基本的知識（遺伝学的・生殖内分泌学的・女性医学的）及びフィジカルアセスメントについて学ぶ。女性のライフサイクルおよび周産期における健康問題の特徴と影響要因について理解する。女性のライフサイクルおよび周産期における発達課題を捉える上で必要な理論及び家族の発達との関連について学ぶ。				
授業の位置づけ	基礎教育および臨床経験をふまえ、各専門分野の特論と並行しながら、ウイメンズヘルスの対象理解を深め、ウイメンズヘルス看護の基盤となる知識を獲得し、後期のウイメンズヘルス看護学Ⅳ・Ⅴにつなげる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクルにおける健康のとらえ方について理解できる。 2. リプロダクティブ・ヘルスを捉える上で必要な基礎的知識を習得できる。 3. 女性のライフサイクルおよび周産期における健康問題の特徴と影響要因について理解できる。 4. 女性のライフサイクルおよび周産期における発達課題を捉える上で必要な理論について理解できる。 5. 女性のライフサイクルと家族の発達の関連について理解できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅱ、ウイメンズヘルス看護学特論Ⅲ				
学修上の注意	事前準備はオリエンテーション時に説明する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーションおよび資料（50%）、討議（50%）から総合的に評価する。				
評価基準	<p>成績評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクルにおける健康のとらえ方について説明できるか。 2. リプロダクティブ・ヘルスを捉える上で必要な基礎的知識を習得できたか。 3. 女性のライフサイクルおよび周産期における健康問題の特徴と影響要因について理解できたか。 4. 女性のライフサイクルおよび周産期における発達課題を捉える上で必要な理論について説明できるか。 5. 女性のライフサイクルと家族の発達の関連について理解できたか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
各担当者より指示する					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	ウイメンズヘルスとウエルネス、ライフ空間の視点からのアプローチ, エレン・F・オルシャスキー編, 高橋真理他監訳, ゆう書房, 978-4904089040				
参考文献					
参考図書、その他の指定図書はオリエンテーション時に指定する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は科目責任者または講義担当者に、メール等で行うかメールでアポイントをとってください。 科目責任者：e.otsuki.up@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大月恵理子	ウィメンズヘルス：女性の生涯の健康のとらえ方とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
2	吉田幸洋	リプロダクティブ・ヘルスと身体的特徴① 受胎のメカニズム、女性生殖器の構造・生理的メカニズム	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
3	牧野真太郎	リプロダクティブ・ヘルスと身体的特徴② 内分泌システムとホルモン調節	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
4	大月恵理子	リプロダクティブ・ヘルスと身体的特徴③ 性差と発達	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
5	牧野真太郎 大月恵理子	リプロダクティブ・ヘルスと遺伝① 遺伝の基本知識	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
6	牧野真太郎 大月恵理子	リプロダクティブ・ヘルスと遺伝② 染色体異常など遺伝カウンセリングに必要な知識	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
7	竹田 省	女性のフィジカルアセスメント① 一般・女性外来・婦人科における女性の健康アセスメントに必要なスクリーニング項目、検査方法	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
8	竹田 省	女性のフィジカルアセスメント② 周産期における女性の健康アセスメントに必要なスクリーニング項目、検査方法	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
9	大月恵理子	女性の生涯における健康① 思春期：思春期女性における健康問題の特徴（第二次性徴等）、発達に影響を及ぼす要因	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
10	青柳優子	女性の生涯における健康② 成熟期：成熟期女性における健康問題の特徴（月経・妊娠・不妊等）、健康に影響を及ぼす要因	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
11	高島えり子	女性の生涯における健康③ 更年期：更年期女性における健康問題の特徴（閉経・更年期障害・生活習慣病等）健康に影響を及ぼす要因	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
12	高島えり子	女性の生涯における健康④ 老年期：老年期女性における健康問題の特徴（エイジング等）健康に影響を及ぼす要因	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
13	青柳優子	周産期に関連する諸理論① 妊娠期の適応理論・発達危機理論	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
14	森田亜希子	周産期に関連する諸理論② 愛着理論・親役割理論	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
15	大月恵理子	女性のライフサイクルと家族の発達	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅱ(周産期ケア概論)	必修・選択	選択
英語科目名	Women's Health in Nursing II	対象学年	1年
開講学期	1, 2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	
担当教員	大月恵理子※、青柳優子※、森田亜希子※、竹田省※、清水俊明※、牧野真太郎※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	諸理論を活用した周産期ケアについて学ぶ。周産期ケアシステムと組織化に関する理論と実際、母子保健行政との関連について学ぶ。周産期医療・ケアにおける最新知識・技術・ガイドラインについて学び、関連する最新のエビデンスの獲得方法を学ぶ。				
授業の位置づけ	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰで学習した諸理論を活用した周産期ケアについて学び、ケアシステムや最新のエビデンスについて学びを深める。ウイメンズヘルス看護学特論Ⅳ、ウイメンズヘルス看護学特論Ⅴ、ウイメンズヘルス看護学実習の基礎となる科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 諸理論を活用した周産期の母子と家族への援助方法について理解できる。 2. 周産期ケアシステムとその組織化に関する理論と実際、母子保健行政について理解できる。 3. 周産期医療・ケアにおける最新知識・技術・ガイドラインを理解できる。 4. 周産期ケアにおける最新のエビデンスを獲得する方法を理解できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初回の授業時に提示された課題について文献を活用して事前に学習する。 2. 提示された課題について、資料に基づき、プレゼンテーションに臨む。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション (50%)、課題レポート (50%) を統合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 諸理論を活用した周産期の母子と家族への援助方法について説明することができるか 2. 周産期ケアシステムとその組織化に関する理論と実際、母子保健行政について説明することができるか 3. 周産期医療・ケアにおける最新知識・技術・ガイドラインを説明することができるか 4. 周産期ケアにおける最新のエビデンスを獲得する方法を説明することができるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
各担当者より説明する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
各担当者より随時指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡のこと) e.otsukai.up@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大月恵理子	周産期における母子と家族の援助① 専門的な健康診査技法	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
2	森田亜希子	周産期における理論の活用① 母親役割獲得の理論に基づいた母子の健康支援	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
3	森田亜希子	周産期における理論の活用② 家族発達理論、家族システム理論に基づいた家族機能の支援	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
4	大月恵理子	周産期における母子と家族の援助② ハイリスク新生児のケア	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
5	大月恵理子	周産期における母子と家族の援助③ 周産期におけるメンタルヘルス	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
6	青柳優子	周産期における母子と家族の援助④ 合併症をもつ妊産褥婦の継続ケア	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
7	大月恵理子	周産期における母子と家族の援助⑤ 母子分離した母子と家族のケア、周産期の喪失とケア	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
8	竹田 省	周産期医療ケアシステムと母子保健行政の動向① 周産期医療システム	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
9	清水俊明	周産期医療ケアシステムと母子保健行政の動向② 新生児医療システム	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
10	大月恵理子	周産期医療ケアシステムと母子保健行政の動向③ 母子保健行政、健やか親子21（第2次）、切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
11	飯田真理子	周産期ケアとガイドライン 助産業務ガイドライン	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
12	飯田真理子	周産期医療におけるガイドライン 産婦人科ガイドライン産科編	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
13	牧野真太郎	周産期医療・ケアにおける最新知識・技術① 不妊治療における最先端医療：卵子凍結	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
14	牧野真太郎	周産期医療・ケアにおける最新知識・技術② 慢性疾患・がん治療と妊孕性への支援	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
15	大月恵理子	周産期ケアにおける最新知識・最新エビデンス（EBP）を得る方法 ナラティブ・レビュー システマティック・レビュー	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅲ(ウイメンズヘルスケア概論)	必修・選択	選択
英語科目名	Women's Health in Nursing III	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	青柳 優子	ナンバリング	
担当教員	大月恵理子※、青柳優子※、森田亜希子※、飯田真理子※、高島えり子※、鈴木利人※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<ul style="list-style-type: none"> ・諸理論を活用した女性の健康問題の捉え方を教授する。 ・女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)の健康問題と健康支援に関する最新の知識・技術・ガイドラインについて教授する。 ・ヘルスケアシステムと組織化に関する理論及び保健政策について教授する。 ・ウイメンズヘルスケアシステムの構築について検討する。 				
授業の位置づけ	学部の基礎教育と実務経験をふまえて、各専門分野の特論と並行して、女性のライフサイクル全般にわたる援助について学習を深め、後期のウイメンズヘルス看護学特論Ⅳ・Ⅴにつなげる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)の健康問題と医療における最新知識・技術、ガイドラインおよび女性の健康に関する諸理論について理解できる。 2. 女性の健康問題と健康支援について考察できる。 3. わが国におけるヘルスシステムとその組織化に関する理論、保健政策などの課題について考察できる。 4. ウイメンズヘルスケアシステムの構築について考察できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ、演習、演習(ウイメンズヘルス看護CNS)				
学修上の注意	<p>文献を活用し、提示している講義内容に関して事前学習を行い、概要を把握しておく。 各担当者と連絡をとり、事前学習について確認しておく。 講義のスライド内容、資料を参考書、文献等と照合し、理解を深める。 事前学習により資料を整理し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーションおよび資料50%、討議50%				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)の健康問題と医療における最新知識・技術、ガイドラインおよび女性の健康に関する諸理論について説明できるか。 2. 女性の健康問題と健康支援について考察できるか。 3. わが国におけるヘルスシステムとその組織化に関する理論、保健政策などの課題について考察できるか。 4. ウイメンズヘルスケアシステムの構築について考察できるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
各担当者より指示する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	ウイメンズヘルスとウエルネス、ライフパンの視点からのアプローチ	エレン・F・オルシャンスキー編、高橋真理他監訳	ゆう書房	978-4904089040	
参考文献					
参考図書・指定図書は適宜指定する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は科目責任者または授業担当者にメールで行う。または、メールでアポイントを取ってから行う。 科目責任者: yaoyagi@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青柳優子	ウィメンズヘルスケア概説 リプロダクティブ・ヘルス/ライツと女性の医療ケア	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
2	大月恵理子	女性の健康における基礎理論の活用① ジェンダーからみた女性の健康問題の捉え方	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
3	大月恵理子	女性の健康における基礎理論の活用② フェミニズムからみた女性の健康問題の捉え方	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
4	大月恵理子	女性の健康における基礎理論の活用③ ヘルスプロモーション・エンパワメントからみた女性の健康問題の捉え方	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
5	鈴木利人 大月恵理子	メンタルヘルと女性の健康 ライフサイクルにおける女性の主なメンタルヘルス	講義、発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
6	青柳優子	女性の医療ケアとガイドライン ・女性のライフサイクル各期の医療ケアにおけるクリニカルガイドライン ・AHAによる女性心疾患のガイドライン	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
7	飯田真理子	思春期・成熟期女性の健康問題と健康支援① ・思春期女性の月経障害 ・成熟期女性のPMS、子宮内膜症	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
8	青柳優子	思春期・成熟期女性の健康問題と健康支援② ・成熟期女性の不妊症 ・不妊症ガイドライン	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
9	青柳優子	思春期・成熟期女性の健康問題と健康支援③ ・人工妊娠中絶 ・婦人科手術	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
10	高島えり子	更年期女性の健康問題と健康支援④ ・更年期障害 ・ホルモン補充療法、子宮ガン、卵巣がん、子宮筋腫、乳がん	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
11	高島えり子	老年期女性の健康問題と健康支援⑤ ・老年期女性のウエルエイジングと女性医療	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
12	大月恵理子	性感染症と健康支援⑥ ・思春期・老年期の性感染症 ・女性のHIV/AIDS	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
13	森田亜希子	女性へのバイオレンスの健康障害と健康支援⑦ ・女性へのバイオレンス	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
14	大月恵理子	女性の健康とヘルスケアシステム ・ヘルスケアシステムの諸理論 ・女性の健康とヘルスケアシステムの実際 ・ウィメンズヘルスケアシステムの構築	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
15	大月恵理子	女性の健康と健康政策 ・生涯を通じた女性の健康を守る健康政策 ・男女共同参画社会政策 ・新健康フロンティア ・女性の日など	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅳ(女性のヘルスプロモーション)	必修・選択	選択
英語科目名	Women's Health in Nursing IV	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	森田 亜希子	ナンバリング	
担当教員	大月恵理子※、青柳優子※、森田亜希子※、飯田真理子※、高島えり子※、植竹貴子※、	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	女性の健康と家族領域におけるヘルスプロモーションの基本的な理論を教授し、女性の各ライフサイクルにおける健康教育の手法とスキルを用いた看護援助方法を探求する能力を養う。				
授業の位置づけ	各専門分野の特論と並行し、特にウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学びをもとに女性のヘルスプロモーションについて深く学び、演習につなげる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. 女性の健康におけるヘルスプロモーションの諸理論とその特徴を探求できる。 2. ヘルスプロモーションを促進させるための健康教育のスキルの実際が修得できる。				
先修要件	なし				
関連科目	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ、演習、演習(ウィメンズヘルス看護CNS)				
学修上の注意	講義前に指定する課題を学習して講義に参加する。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーションおよび資料50%と討議50%				
評価基準	1. 女性の健康におけるヘルスプロモーションの諸理論を説明できるか。 2. 女性のヘルスプロモーションを促進させるための健康教育のスキルを説明できるか。 3. 女性のヘルスプロモーションを促進させるための健康教育のスキルの実際を修得できたか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
各担当教員の指示にしたがう。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	ウィメンズヘルスとウエルネス、ライフパンの視点からのアプローチ	エレン・F・オルシャスキー編集、高橋真理他監訳	ゆう書房	978-4904089040	
参考文献					
看護理論家の業績と理論評価(第2版): 筒井真由美、医学書院、2020 その他指定図書等は随時授業の中で紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は科目責任者(a.morita.zj@)または講義担当者にメールで行う。もしくは、メールでアポイントをとり行う。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	森田亜希子	ヘルスプロモーションとWomen's Health 女性の健康とヘルスプロモーションの基本的な考え方 女性のヘルスプロモーションを支える仕組み	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
2	大月恵理子	女性の健康教育と政策 健康行動理論と女性の健康政策：法律・雇用・学校、販売規制など	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
3	森田亜希子	健康教育モデル① PRECEDE-PROCEED MODEL (MIDORI モデル) とWomen's Health	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
4	森田亜希子	健康教育モデル② Pender のヘルスプロモーションモデルと女性の健康	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
5	森田亜希子	健康教育モデル③ ライフスキルと女性の健康	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
6	森田亜希子	健康教育モデル④ ストレスマネジメントと女性の健康	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
7	青柳優子	健康教育モデル⑤ 生活習慣の改善と女性の健康	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
8	飯田真理子	健康教育モデル⑥ ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーションと女性の健康	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
9	植竹貴子	健康教育モデル⑦ 統合医療	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
10	大月恵理子	健康教育技法の実際① 女性の健康とリラクゼーション技法	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
11	大月恵理子	健康教育技法の実際② 女性の健康とエクササイズ	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
12	青柳優子	健康教育技法の実際③ 女性の健康と栄養・食事	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
13	大月恵理子	健康教育技法の実際④ 女性の健康とヨガ	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
14	高島えり子	健康教育技法の実際⑤ 女性の健康と睡眠	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
15	森田亜希子	Women's Health と Wellness	演習	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅴ(ウイメンズヘルスケアシステム論)	必修・選択	選択
英語科目名	Women's Health in Nursing V	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	
担当教員	大月恵理子※、若林律子※、竹田省※、板倉敦夫※、牧野真太郎※、糸賀知子※、齋藤いずみ※、佐藤陽子※、西岡笑子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	女性の健康におけるヘルスケアシステムを多面的に捉え、今後のわが国におけるヘルスケアシステムのあり方をウイメンズヘルスの視点から探求することについて教授する。				
授業の位置づけ	各専門分野の特論と並行し、特にウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲをもとにし、ウイメンズヘルスケアシステムについて学び、演習につなげる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の健康におけるヘルスケアシステムを多面的に捉えることができる。 2. 今後のわが国における女性を中心としたヘルスケアシステムのあり方について、Women's Health の視点から探求することができる。 3. Women's Health Care Systemの構築に向けた活動戦略を考察できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、演習、演習(ウイメンズヘルス看護CNS)				
学修上の注意	<p>講義前に指定する課題を学習して講義に参加する。 各担当教員に事前課題を確認する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーションおよび資料50%と討議50%				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の女性の健康におけるヘルスケアシステムについて説明できる 2. 諸外国の女性の健康におけるヘルスケアシステムについて説明できる。 3. 女性の健康におけるヘルスケアシステムについて多面的な視点で説明できる 4. 今後のわが国における女性を中心としたヘルスケアシステムのあり方について、Women's Health の視点から探求することができる。 5. Women's Health Care Systemの構築に向けた活動戦略を考察できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
各担当教員の指示にしたがう					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に指定しない					
参考文献					
<p>Ellis Quinn Youngkin, Women's Health ? A primary care Clinical Guide, PEARSON Prentice Hall Catherine Ingram Fogel, Nancy Fugate Woods, WOMEN'S HEALTH CARE IN Advanced Practice Nursing, Springer 随時授業の中で紹介する。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は科目責任者または授業担当者にメールで行う。もしくは、メールでアポイントをとり、行う。 科目責任者 : e.otsuki.up@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大月恵理子	ウィメンズヘルスケアシステムとは Women and Health Care System	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
2	牧野真太郎 大月恵理子	Women's Health -女性特有なスクリーニングと予防 女性の健康問題におけるスクリーニング検査 子宮頸がん、体がん、乳がん	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
3	糸賀知子	Women's Health -外来診療 外来診療における性差とヘルスケアシステム	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
4	牧野真太郎 大月恵理子	Women's Healthと薬物 女性の健康と薬物の処方①	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
5	糸賀知子	Women's Healthと薬物 女性の健康と薬物の処方②	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
6	西岡笑子	Women's Health -女性特有な健康問題と治療 子宮筋腫、生殖器がん、生殖器脱 わが国にWomen's Health Hospitalは必要か	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
7	竹田省 大月恵理子	先端医療と治療 女性の最新医療ケアにおける治療選択と意思決定への支援	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
8	若林律子	女性政策とWomen's Health 女性政策と国際比較	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
9	齋藤いずみ	Women's Health Care System構築のためのモデル① 米国におけるWomen's Healthの発展（コナーズセンター） 米国ナースプラクティショナーによる女性の健康支援に関する活動の 実際	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
10	大月恵理子	Women's Health Care System構築のためのモデル② 「産後うつ」に対する豪州の政策とヘルスケアシステム・ Beyondblue Baby-Mother Unit	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
11	大月恵理子	Women's Health Care System構築のためのモデル③ 「女性への暴力」の予防と早期発見に対するビクトリア州のヘルスケア システム（CASA）	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
12	齋藤いずみ	Women's Health Care System構築のためのモデル④ Preconception Health(米国)	発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
13	板倉敦夫	わが国における女性の健康問題に対する社会政策 わが国の女性の健康問題に対する社会政策と参画	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
14	佐藤陽子 大月恵理子	Women's Health Care Systemの構築① Women's Health Care Systemとリーダーシップ わが国のWomen's Health Care Systemの今後とCNSの活動	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
15	佐藤陽子 大月恵理子	Women's Health Care Systemの構築② Women's Health Care Systemの構築に向けた（母性）CNS活動戦略の検討	講義、発表、討議	予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ウイメンズヘルス看護学実習 I (CNS役割実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Women's Health in Nursing Practice I	対象学年	2年
開講学期	1年後期	単位数	2単位
代表教員	森田 亜希子	ナンバリング	
担当教員	森田亜希子※、大月恵理子※、佐藤陽子※、田中ひとみ※、戸島郁子※、根岸万里子※、山本育子※、板倉敦夫※、牧野真太郎※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	女性の健康問題における医療の実際ならびに母性看護専門看護師としての看護ケアの実際について理解を深め、看護ケア実践における課題を考察する。女性とその家族の意思決定の問題および他職種との連携における課題について考察する。母性看護専門看護師として必要な高度看護実践・調整・倫理調整・相談・教育・研究の基礎的能力を養う。				
授業の位置づけ	自己の臨床経験をふまえ、ウイメンズヘルス看護学 I・II・III・IV・V および演習（ウイメンズヘルス看護CNS）の学びを基盤として、ウイメンズヘルス看護学実習 II・III につなげる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の健康問題の医療現場における基本的な診断方法、臨床検査方法と治療法を理解し、母性看護専門看護師として高度なアセスメントと卓越した看護実践スキルを用いた看護ケアの実際について理解を深めることができる。 2. 女性の健康問題の医療現場における女性とその家族の意思決定の問題や倫理的問題についてアセスメントすることができ、対応する上での課題について考察できる。 3. 女性の健康問題の医療・看護ケアにおける他職種との連携・協働についてアセスメントすることができ、連携・協働する上での課題について考察できる。 4. 女性の健康問題に対するケアの質向上のための改革やケアシステムを構築する上での戦略について考察し、計画を立案できる。 5. 母性看護専門看護師の役割（高度看護実践・調整・倫理調整・相談・教育・研究）を理解し、自己の課題を明示できる。 6. 包括的指示に基づく一部医行為（診断、薬剤の投与管理）を学ぶ。 				
先修要件	ウイメンズヘルス看護学特論 I～IV、演習（ウイメンズヘルス看護CNS）を履修していること				
関連科目	ウイメンズヘルス看護学特論 I・II・III・IV・V、演習（ウイメンズヘルス看護CNS）				
学修上の注意	ウイメンズヘルス看護学特論および演習で学習した内容を復習しておく。実習施設の概要および診療内容を事前に調べて、実習計画に反映させる。				
成績評価の方法					
評価方法	実習状況（20%）、カンファレンスへの参加状況（20%）、実習記録（20%）、実習レポート（40%）				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の健康問題における医療の実際を説明できるか 2. 母性看護専門看護師としての看護ケアの実際を説明できるか 3. 女性とその家族の意思決定や倫理的問題についてアセスメントし、対応する上での課題について考察できるか 4. 他職種との連携・協働についてアセスメントし、連携・協働する上での課題について考察できるか 5. ケアの質向上のための改革やケアシステムを構築する上での戦略について考察し、計画を立案できるか 6. 母性看護専門看護師の役割を理解した上で、自己の課題を分析できるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習終了時のカンファレンスおよび終了後の担当教員との面接					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	特に指定しない				
参考文献					
特に指定しない					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は科目責任者（a.morita.zj@）にメールにて行う。面接が必要な場合は、メールにてアポイントをとり相談する。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
第1週	板倉敦夫 牧野真太郎 田中ひとみ 戸島郁子 根岸万里子 山本育子 大月恵理子 森田亜希子	産婦人科外来及び女性総合診療科での実習 女性のフィジカルアセスメントおよびメンタルヘルスアセスメント 1. 産婦人科外来及び女性総合診療科外来における診療に参加し、診療の実際を学ぶ。 2. 初診時のアナムネ聴取事例についてアセスメントを行い必要な医療・ケアについて討議する。 3. 診療場面やカンファレンスに参加し、他職種との協働について考察する。 4. 診療場面やカンファレンスに参加し女性の自己決定の課題について考察する。 5. 医師・指導者のもとで包括的指示に基づく一部医行為について学ぶ	実習、発表、討議 個別指導	予習として自己の課題の明確化により実習計画立案。 復習として実習内容のリフレクション
第2週	佐藤陽子 大月恵理子 森田亜希子	母性CNSの役割実習（昭和大学病院） 1. 母性看護CNSの役割（看護実践・調整・倫理調整・相談・教育・研究）を理解する。 特に、周産期で婦人科的問題を抱えている対象に対するCNSの関わり（がん、DV、感染症） 2. 実習カンファレンスにおいて母性看護専門看護師としての課題を明確にする。 3. 実習の考察から選択した特定の課題について改革モデル案を作成し、ケア構築に向け討議する。	実習、発表、討議 個別指導	予習として自己の課題の明確化により実習計画立案。 復習として実習内容のリフレクション

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ウイメンズヘルス看護学実習Ⅱ(女性の健康問題支援実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Women's Health in Nursing Practice II	対象学年	2年
開講学期	前期	単位数	4単位
代表教員	青柳 優子	ナンバリング	
担当教員	大月恵理子※、青柳優子※、田中ひとみ※、戸島郁子※、根岸万里子※、佐藤典子※、山本育子※、菅原淳※、板倉敦夫※、牧野真太郎※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	女性の生涯において複雑な健康問題をもつ対象へのプライマリーケアの実践者として、専門看護師の役割を担うための能力を身につける。 生殖や周産期の問題および各ライフサイクルの健康問題に関して専門的な医療や支援を必要とする女性と家族への看護問題解決のための介入を行うことを通して、高度な看護実践能力を養う。臨床実践上の倫理的問題を捉えて倫理調整を実施できる能力を養う。また、ケアの質の評価と向上を目指したチームスタッフへの働きかけ、および関連分野の多職種との協働を行い、相談・教育・調整能力を養い、ケア提供の中でリーダーシップを発揮できる能力を養う。				
授業の位置づけ	病院臨床において健康問題をもつ女性とその家族に対して、プライマリーナースとしてかかわり、専門知識に基づく臨床判断と卓越した看護実践スキルを用いて高度な看護実践を行う。指導者のもとでの実践を通して専門看護師として必要な能力(実践、倫理調整、相談、教育、調整)を修得する。 実習はⅠからⅢまで段階的に設定しており、前段階の実習単位を履修することで、次の段階の実習に進むことができる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1. 生殖や周産期の問題および各ライフサイクルの健康問題に関して専門的な医療や支援を必要とする女性に対して、的確なフィジカルアセスメント、メンタルヘルスアセスメントを実施できる。 2. アセスメントに基づき健康問題への高度な看護支援を探索、実践する過程を自律して行うことができる。 3. 健康問題に関わる多分野の職種との連携を図り、調整活動を行う。 4. 看護チームにおいて、看護実践の評価およびケア向上に向けた提案を行うためのカンファレンスを開催し、相談・教育活動を行う。 5. 臨床実践の日常にある倫理的問題を捉え、解決に向けた調整活動を実施することができる。 6. 実習を通して実施した看護活動から、専門看護師としての役割と機能およびケアの開発や組織の変革に関して考察し、課題を説明できる。				
先修要件	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(ウイメンズヘルス看護CNS)を履修していること				
関連科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(ウイメンズヘルス看護CNS)、ウイメンズヘルス看護学実習Ⅰ 機能病態学特論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント特論				
学修上の注意	・ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(ウイメンズヘルス看護CNS)、ウイメンズヘルス看護学実習Ⅰ、で学修した内容を活用する。 ・実習施設の概要および診療内容を事前に調べて、実習計画に反映させる。(学習時間90分) ・実習スケジュールや方法は、指導者や教員と相談しながら主体的に計画する。				
成績評価の方法					
評価方法	・実習態度(10%)、看護実践状況(30%)、実習記録(30%)、課題レポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	1) 生殖や周産期の問題および各ライフサイクルの健康問題に関して専門的な医療や支援を必要とする女性に対して、的確なフィジカルアセスメント、メンタルヘルスアセスメントを実施する。 2) アセスメントに基づき健康問題への高度な看護支援を探索、実践する過程を自律して行うことができる。 3) 健康問題に関わる多分野の職種との連携を図り、調整活動を行う。 4) 看護チームにおいて、看護実践の評価およびケア向上に向けた提案を行うためのカンファレンスを開催し、相談・教育活動を行う。 5) 臨床実践の日常にある倫理的問題を捉え、解決に向けた調整活動を実施することができるか。 6) 実習を通して実施した看護活動から、専門看護師としての役割と機能およびケアの開発や組織の変革に関して考察し、課題を説明できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
・実習状況について、1週間に1回定期的にかンファレンスを行いコメントする。 ・課題レポートは、提出後2週間以内にコメントする。 (1) 受け持ちケースレポート (2) 病院における母性看護CNSとしての役割と機能に関して考察し、レポートにまとめる。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
なし					
その他					

連絡先・オフィスアワー	・随時（事前にメールで連絡のこと yaoyagi@）			
備考	2か所の病院でそれぞれ2週間以上、到達目標に至るまで実習を行う。			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1~2週	青柳優子	<p>一般病院の周産期病棟または女性病棟（外来を含む）において、生殖機能の問題や周産期におけるハイリスク状態にある女性と家族への看護を実践する。高度な医療や支援を必要とする対象と、対象を取り巻く環境への働きかけを含めたケアを実施する。診療科の医師、看護師の臨床指導者と密にコンタクトをとる。</p> <p>・女性の複雑な健康問題における看護実践上の倫理的問題を捉え、解決に向けてスタッフへの支援を実施する。</p> <p>・看護チームにおいてカンファレンスを開催し、看護実践の評価およびケア向上に関する指導的役割を果たす。</p> <p>・看護実践に関連する分野、部署のケア提供者との連携を図り、調整能力を身につける。</p> <p>・想定する受け持ち事例：生殖に関する高度な医療を必要とする女性（卵子凍結、慢性疾患患者及びがん患者への妊孕性温存）、各ライフサイクルにおける婦人科疾患患者、合併症をもつ妊産褥婦、ペアレネティングに問題を持つ女性、メンタルヘルスクアを必要とする女性等</p> <p>・実習施設と指導者 順天堂大学医学部附属浦安病院 指導者：菅原淳（看護教育課長補佐、小児看護専門看護師）</p>	<p>・学生各自の実習計画に基づきスケジュールを適宜調整する。</p> <p>・1週間に1回定期的にカンファレンスを行う。</p>	<p>予習</p> <p>・実習前に学生各自の実習計画を立案する。</p> <p>レポート課題</p> <p>・受け持ちケースレポート</p> <p>・病院における母性看護CNSとしての役割と機能に関して考察し、レポートにまとめる。 （実習Ⅱ終了1週間後に提出する）</p>
3~4週	青柳優子	<p>高齢者専門病院の外来・病棟において、女性の老年期ライフステージにおける特徴を踏まえて、身体的、精神的な健康問題をもつ女性および家族への看護を実践する。診療科の医師、看護師の臨床指導者と密にコンタクトをとる。老年看護CNSからの助言を得る。</p> <p>・女性の複雑な健康問題における看護実践上の倫理的問題を捉え、解決に向けてスタッフへの支援を実施する。</p> <p>・看護チームにおいてカンファレンスを開催し、看護実践の評価およびケア向上に関する指導的役割を果たす。</p> <p>・看護実践に関連する分野、部署のケア提供者との連携を図り、調整能力を身につける。</p> <p>・想定する受け持ち事例：女性生殖器疾患で手術を受ける高齢女性、高齢に伴う泌尿器科疾患をもつ女性 等</p> <p>・実習施設と指導者 順天堂東京江東高齢者医療センター 指導者：佐藤典子（看護部長、老年看護専門看護師）</p>	<p>・学生各自の実習計画に基づきスケジュールを適宜調整する。</p> <p>・1週間に1回定期的にカンファレンスを行う。</p>	<p>予習</p> <p>・実習前に学生各自の実習計画を立案する。</p> <p>レポート課題</p> <p>・受け持ちケースレポート</p> <p>・病院における母性看護CNSとしての役割と機能に関して考察し、レポートにまとめる。 （実習Ⅱ終了1週間後に提出する）</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ウィメンズヘルス看護学実習Ⅲ(統合実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Women's Health in Nursing Practice III	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	
担当教員	大月恵理子※、森田亜希子※、田中ひとみ※、戸島郁子※、根岸万里子※、山本育子※、菅原淳※、長坂桂子※、板倉敦夫※、牧野真太郎※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	関心の高い特定の領域において、疾患のみならず、ヘルスプロモーション（健康教育）、システムケアの視点から、母性看護専門看護師としての高度な看護実践活動を行う能力を習得する。看護実践の創造、改革、改善に向けた課題を見出し、臨床に有用な課題解決力を養う。				
授業の位置づけ	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ～Ⅴおよび演習（ウィメンズヘルス看護CNS）の学びを基盤とし、ウィメンズヘルス看護実習Ⅰ・Ⅱをふまえ、母性看護CNSとしての高度実践能力を獲得し、その役割の理解を深める。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心の高い特定の領域において、母性専門看護師として専門知識を用いたアセスメントを行い、高度な看護実践技術を用いてケアを実践できる。 2. 女性の生涯における健康問題（課題）を抱える個人または集団を受け持ち、健康教育や相談活動を実践できる。 3. 健康問題（課題）をもつ女性に対する医療やケアのあり方を倫理的視点でとらえ、倫理的判断に基づいて適切に対応することができる。 4. 女性への看護ケアを行うスタッフに対する相談を行うことができる。 5. 多職種との協働の中でリーダーシップを発揮して、必要なケアをコーディネートできる。 6. 看護スタッフによるカンファレンスや勉強会を企画、運営し、問題解決に向けて指導的な役割を果たすことができる。 7. ケアシステムの問題について考察し、政策提言に向けた活動ができる。 看護実践の創造、改革、改善に向けた課題を見出し、研究的アプローチを用いて臨床に有用な課題解決力が習得できる。				
先修要件	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習（ウィメンズ看護CNS）、ウィメンズヘルス看護学実習Ⅰ・Ⅱを履修していること				
関連科目	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（ウィメンズヘルス看護CNS）、課題研究（ウィメンズヘルス看護）				
学修上の注意	<p>ウィメンズヘルス看護学特論、演習、実習Ⅰ、Ⅱで学習した内容を活用する。 関心の高い領域について事前学習を行い、実習計画に反映させる。 事前に教員と打ち合わせを行い、関心の高い領域を選択し、主な実習場所拠点として1または2を選択し、実習テーマを決定し、地域の健康教育との連携を含めた実習を展開する。</p> <p>実習場所 1：順天堂大学医学部附属順天堂医院 2：順天堂大学医学部附属浦安病院</p>				
成績評価の方法					
評価方法	実習態度（20%）、実習記録（40%）、課題レポート（40%）				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心の高い特定の領域において、母性専門看護師として専門知識を用いたアセスメントを行い、高度な看護実践技術を用いてケアを実践できるか。 2. 女性の生涯における健康問題（課題）を抱える個人または集団を受け持ち、健康教育や相談活動を実践できるか。 3. 健康問題（課題）をもつ女性に対する医療やケアのあり方を倫理的視点でとらえ、倫理的判断に基づいて適切に対応することができるか。 4. 女性への看護ケアを行うスタッフに対する相談を行うことができるか。 5. 多職種との協働の中でリーダーシップを発揮して、必要なケアをコーディネートできるか。 6. 看護スタッフによるカンファレンスや勉強会を企画、運営し、問題解決に向けて指導的な役割を果たすことができるか。 7. ケアシステムの問題について考察し、政策提言に向けた活動ができるか。 8. 看護実践の創造、改革、改善に向けた課題を見出し、研究的アプローチを用いて臨床に有用な課題解決力が習得できるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習中のカンファレンス、実習記録に関する母性看護CNSのスーパーバイズ、実習終了後の教員との面接					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に指定しない					
参考文献					
特に指定しない					

その他				
連絡先・オフィスアワー		質問・相談は科目責任者にメールで行う。面接が必要な場合は、メールでアポイントをとり、面接する。 科目責任者：大月恵理子 e.otsuki.up@		
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大月恵理子	実習計画立案 自己の課題の明確化と実習計画の立案	個別指導 発表、討議	予習としてこれまでの実習を振り返り自己の課題を明確化する。 復習として立案した実習計画の修正を行う。
2~29 (4週間以上)	田中ひとみ、 山本育子、磯崎悠子、板倉敦夫 戸島郁子、菅原淳、青木まり子、牧野真太郎 根岸万里子 大月恵理子、森田亜希子	女性のライフサイクル各期の女性個人または集団を対象に看護実践を行う。 1. 臨床での高度な看護実践活動 2. ヘルスプロモーション活動 3. 多職種と調整して、必要なケアのコーディネートを行う。 4. 看護ケアカンファレンスや勉強会を企画、運営する。 5. ケアシステムの問題を考察し、政策提言に向けた改革案を作成する。 6. 看護実践の中から研究課題を見出し、研究的なアプローチで問題を解決する。	実習、発表、討議 個別指導	予習として看護実践に必要な技術・知識の確認 復習としてカンファレンスやスーパーバイズによって得た学びを整理する
30	長坂桂子 大月恵理子	実習のリフレクション	発表、討議	予習として実習の課題レポートを作成する。 復習としてスーパーバイズを受けたのち、修正する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護学特論Ⅰ(小児看護対象論)	必修・選択	選択
英語科目名	Child Health Nursing I	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	平田美佳、西田みゆき	ナンバリング	
担当教員	西田みゆき※、平田美佳※、込山洋美※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	<p>子どもの成長発達および親・家族や子どもを取り巻く環境との相互作用を理解するための主要な理論について学ぶとともに、子どもおよび子どもの生活に関する最近の知見を検討する。</p> <p>第1回：オリエンテーション 小児看護における子どもの理解と理論・研究の位置づけ 第2～4回：小児看護における理論・研究の看護実践への活用 第5～6回：子どもの権利 第7～12回：子どもの理解と援助 第13～15回：親・家族の発達と看護実践</p>			
授業の位置づけ	小児看護学の基盤となる、子どもの理解と理論・研究の位置づけと看護実践への活用の仕方、子どもの権利保障と子どもの理解と援助、そして親・家族の発達と看護実践について学修し、高度な看護実践活動及び研究活動の基礎と位置づける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども親の歴史の変遷について説明できる。 2. 小児看護における理論と研究の看護実践への活用について説明できる。 3. 子どもの権利について権利条約を基に説明できる。 4. 乳児期、幼児期、学童期、思春期各期の子どもの存在とその生活について説明できる。 5. 親・家族の発達とその看護実践について説明できる。 			
先修要件	特になし			
関連科目	小児看護学特論Ⅱ・Ⅲ			
学修上の注意	別途配布するスケジュール表に即して、学習要項に提示した学習内容について購読文献リストおよび自ら検索した文献を基に学習し、プレゼンテーション資料を毎回作成して授業の前に担当教員に提出する。			
成績評価の方法				
評価方法	授業への参加状況30%、プレゼンテーション30%、レポート40%の配分により総合して評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども親の歴史の変遷について説明できる。 2. 小児看護における理論と研究の看護実践への活用について説明できる。 3. 子どもの権利について権利条約を基に説明できる。 4. 乳児期、幼児期、学童期、思春期各期の子どもの存在とその生活について説明できる。 5. 親・家族の発達とその看護実践について説明できる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
講義内での討議によりフィードバックを行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし				
参考文献				
<ul style="list-style-type: none"> ・Erikson EH. 著, 仁科弥生訳. 幼児期と社会1, 2. みすず書房. 1977. ・Erikson EH. 著, 村瀬幸雄他訳. ライフサイクルその完結. みすず書房. 1996. ・Piaget J. 著, 波多野完治編集. ピアジェの認識心理学. 国土社. 1986. ・Piaget J. 著, 波多野完治監修. ピアジェの発生認識論. 国土社. 1984. ・Bowlby J. 著, 黒田実郎訳. 母子関係の理論Ⅰ. 愛着行動. 岩崎学術出版社. 1976. ・Bowlby J. 著, 黒田実郎訳. 母子関係の理論Ⅱ. 分離不安. 岩崎学術出版社. 1977. ・Bowlby J. 著, 黒田実郎訳. 母子関係の理論Ⅲ. 対象喪失. 岩崎学術出版社. 1981. ・Stern D. 著, 小此木啓吾訳. 乳児の対人世界. 岩崎学術出版社. 1989. ・Mooney CG. Theories of Childhood. Redleaf Press. 2000. ・岡堂哲雄. 家族心理学. 有斐閣双書. 1978. 他 ・舟島なをみ. 望月美知代. 看護のための人間発達学. 医学書院. 2023 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	・科目責任者 (mnishida@) または各授業の担当教員にメールで連絡をとる。			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を基に資料を作成してプレゼンテーションとディスカッション形式で進めます。 ・指定した文献を購読し、主体的に学習に取り組むことを期待します。 			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	西田	オリエンテーション 小児看護における子どもの理解と理論・研究の位置づけ	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
2	西田	小児看護における理論・研究の看護実践への活用 発達理論、セルフケア理論、家族発達理論	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
3	西田	小児看護における理論・研究の看護実践への活用	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
4	西田	小児看護における理論・研究の看護実践への活用	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
5	西田	子どもの権利 社会における子どもの権利：児童憲章、権利条約	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
6	西田	子どもの権利 小児看護における子どもの権利のあり方	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
7	西田	子どもの理解と援助：小児各期の成長発達と生活 乳児期の子ども：成長発達特性と生活	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
8	西田	子どもの理解と援助：小児各期の成長発達と生活 乳児期の子ども：ヘルスプロモーションのための援助の特徴	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
9	平田	子どもの理解と援助：小児各期の成長発達と生活 幼児期の子ども：成長発達特性と生活	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
10	平田	子どもの理解と援助：小児各期の成長発達と生活 幼児期の子ども：ヘルスプロモーションのための援助の特徴	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
11	込山	子どもの理解と援助：小児各期の成長発達と生活 学童・思春期の子ども：成長発達特性と生活	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
12	込山	子どもの理解と援助：小児各期の成長発達と生活 学童・思春期の子ども：ヘルスプロモーションのための援助の特徴	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
13	平田	親・家族の発達と援助 家族看護学の概要と家族理論	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
14	込山	親・家族の発達と援助 乳幼児期の子どもの家族の特徴と家族看護方法論	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
15	込山	親・家族の発達と援助 学童・思春期の子どもと家族の特徴と家族看護方法論	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護学特論Ⅱ(小児サポートシステム論)	必修・選択	選択
英語科目名	Child Health Nursing II	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	平田美佳、西田みゆき	ナンバリング	
担当教員	西田みゆき※、平田美佳※、川口千鶴※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>社会、特に保健医療・福祉・教育との関連において小児看護学を理解するために、社会における子どものサポートシステムの動向、健康レベルに応じた子どもと家族のサポートシステム、およびそれらにおける看護の役割・機能について探求する。</p> <p>第1回： オリエンテーション 小児看護学と社会におけるサポートシステム</p> <p>第2～4回： 子どもを取り巻く社会のサポートシステム</p> <p>第5～15回： さまざまな状況におけるサポートシステムと看護の役割・機能</p>				
授業の位置づけ	小児看護学の基盤となる知識を修得する				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学におけるサポートシステムのあり方について説明できる。 2. 子どもを取り巻く社会における主要な制度・政策について説明できる。 3. 保健医療、福祉、教育の側面からサポートシステムの概要について説明できる。 4. 子どもの健康の保持増進のためのサポートシステムについて説明できる。 5. 施設や医療機関に入所および入院している子どもと家族のサポートシステムについて説明できる。 6. 子どもの在宅医療を支えるサポートシステムについて説明出来る。 				
先修要件	小児看護学特論Ⅰ				
関連科目	小児看護学特論Ⅰ・Ⅲ				
学修上の注意	別途配布するスケジュール表に即して、学習要項に提示した学習内容について文献リストおよび自ら検索した文献を基に学習し、プレゼンテーション資料を毎回作成して授業前に担当教員に提出する。				
成績評価の方法					
評価方法	授業への参加状況30%、プレゼンテーション30%、レポート40%により総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学におけるサポートシステムのあり方について説明できる。 2. 子どもを取り巻く社会における主要な制度・政策について説明できる。 3. 保健医療、福祉、教育の側面からサポートシステムの概要について説明できる。 4. 子どもの健康の保持増進のためのサポートシステムについて説明できる。 5. 施設や医療機関に入所および入院している子どもと家族のサポートシステムについて説明できる。 6. 子どもの在宅医療を支えるサポートシステムについて説明出来る。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
講義内での討議によりフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・Adele Pillitteri. Maternal & Child Health Nursing. Care of Childbearing & Childrearing Family. 5th Lippincott Williams & Wilkins. 2007. ・Hockenberry & Wilson. WONG'S Nursing Care of Infants and Children. 2011 ・Votroubek W. & Tabacco A. Pediatric Home Care for Nurses. A Family-Centered Approach. 3rd Jone and Bartlett Publishers. 2010. ・及川郁子監修：新版小児看護学叢書Ⅰ. 健康な子どもの看護. メジカルフレンド社. 2005. ・安梅勸江編：根拠に基づく子育て・子育てでエンパワメント. 子育て環境評価と虐待予防. 日本小児医事出版社. 2009. ・安梅勸江. :コミュニティ・エンパワメントの技法. 当事者主体の新しいシステムづくり. 医歯薬出版. 2005. ・安梅勸江, 木村哲彦. :生活環境論. 第6版. 医歯薬出版. 2010. 他 ・坂越正樹：未来をひらく子ども学 子どもを取り巻く研究・環境・社会, 福村出版, 2023 ・日本プライマリケア連合：プライマリ・ケア看護学 小児期から成人期への移行支援 家族をケアユニットとした看護, 南山堂, 2023 ・小西恵理：医療×保健×福祉×保育×教育をつなぐ コミュニティ小児科学 診察室を出て地域と育む子どもの未来, 診療と治療, 2023 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・科目責任者 (mnishida@)または担当教員にメールで連絡を取ること				

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を基に資料を作成してプレゼンテーションとディスカッション形式で進めます。 ・指定した文献を講読し、主体的に学習に取り組むことを期待します。 			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	西田	オリエンテーション：小児看護学と社会のサポートシステム	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
2	西田	子どもを取り巻く社会のサポートシステム<1>	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
3	西田・川口	子どもを取り巻く社会のサポートシステム<2> 主な法律や制度・政策	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
4	西田・川口	子どもを取り巻く社会のサポートシステム<3> 保健医療、福祉、教育の分野におけるサポートシステム	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
5	西田	様々な状況におけるサポートシステムと看護の役割・機能<1> 健康な子どもの健康の保持増進のためのサポートシステム	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
6	西田	健康な子どもの健康の保持増進のためのサポートシステムの現状	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
7	西田	健康な子どもの健康の保持増進のためのサポートシステムの課題	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
8	西田	様々な状況におけるサポートシステムと看護の役割・機能<2> 施設に入所している子どものサポートシステム	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
9	西田	乳児院に入所している子どものサポートシステムの現状と課題	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
10	西田	児童養護施設に入所している子どものサポートシステムの現状と課題	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
11	平田	様々な状況におけるサポートシステムと看護の役割・機能<3> 医療機関に入院している子どものサポートシステム	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
12	西田	医療機関に入院している子どものサポートシステムの現状と課題	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
13	西田	様々な状況におけるサポートシステムと看護の役割・機能<4> 子どもの在宅医療を支えるサポートシステムの歴史の変遷	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
14	西田	子どもの在宅医療を支えるサポートシステムの現状	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
15	西田	子どもの在宅医療を支えるサポートシステムの課題	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護学特論Ⅲ(小児援助方法論)	必修・選択	選択
英語科目名	Child Health Nursing III	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	平田美佳、西田みゆき	ナンバリング	
担当教員	西田みゆき※、平田美佳※、込山洋美※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	小児看護学におけるさまざまな現象を理解する上で、重要な理論や研究報告、最近の知見を学び、子どもの健康レベルや状況に応じたより効果的なケアについて探求する。 第1～2回：オリエンテーション 小児看護学における倫理 第3～5回：小児看護学における健康促進のための援助 第6～15回：さまざまな状況にある子どもの理解と援助				
授業の位置づけ	小児看護学の基盤となる知識を習得するため、小児看護学特論Ⅰの小児看護対象論と小児看護学特論Ⅱの小児サポートシステム論を学修した後に、重要な理論や研究報告、最近の知見を学び、子どもの健康レベルや状況に応じたより効果的な看護ケアについて探求し、小児看護学における倫理、健康促進のための看護援助、様々な状況にある子どもの理解と看護援助について学修し、高度な看護実践活動と研究活動の基礎と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学における倫理の概要について説明できる。 2. 乳幼児期、学童思春期の子どもの地域における健康促進のための援助方法について説明できる。 3. 疾患や障害がある子どもの地域や施設における健康促進のための援助方法について説明できる。 4. 急性期および慢性疾患、障害がある子どものための援助方法について説明できる。 5. 虐待を受ける子どものための援助方法について説明できる。 				
先修要件	小児看護学特論Ⅰ・Ⅱ				
関連科目	小児看護学特論Ⅰ・Ⅱ				
学修上の注意	別途配布するスケジュール表に即して、学習要項に提示した学習内容について購読文献リストおよび自ら検索した文献を基に学習し、プレゼンテーション資料を毎回作成し担当教員に提出する。				
成績評価の方法					
評価方法	授業への参加状況30%、プレゼンテーション30%、レポート40%の配分により総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学における倫理の概要について説明できる。 2. 乳幼児期、学童思春期の子どもの地域における健康促進のための援助方法について説明できる。 3. 疾患や障害がある子どもの地域や施設における健康促進のための援助方法について説明できる。 4. 急性期および慢性疾患、障害がある子どものための援助方法について説明できる。 5. 虐待を受ける子どものための援助方法について説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
講義内での討議によりフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・ Wilson K.& James A. The Child Protection Handbook. The Practitioner's guide to safeguarding children. 3rd. ELSEVIER. 2007. ・ 松岡真里編：小児看護と看護倫理、へるす出版、2020 ・ 清水哲郎：医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学、医学書院、2022 ・ 宮坂道夫：弱さの倫理学 不完全な存在である私たちについて、医学書院、2023 ・ 生田陽二：小児期発症慢性疾患患者に寄り添う 希望の移行期医療、幻冬舎、2023 ・ 原田綾子：子どもの意見表明権の保障、信山社、2023 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	メール (mnishida@) により随時連絡可能。				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習を基に資料を作成してプレゼンテーションとディスカッション形式で進めます。 ・ 指定した文献を購読し、主体的に学習に取り組むことを期待します。 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	西田	小児看護と倫理<1> 生命倫理学と米国・欧州の倫理原則	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
2	平田	小児看護と倫理<2> 倫理的問題を抱える子どもと家族の事例検討	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
3	西田	小児看護における健康促進のための援助<1> 乳児期の子どもの援助	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
4	西田	小児看護における健康促進のための援助<2> 幼児期の子どもの援助	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
5	西田	小児看護における健康促進のための援助<3> 学童・思春期の子どもの援助	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
6	平田	さまざまな状況にある子どもの理解と援助<1> 慢性的な状況にある子どもの現状	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
7	平田	慢性的な状況にある子どもの援助方法	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
8	西田	さまざまな状況にある子どもの理解と援助<2> 急性状況にある子どもの現状	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
9	西田	急性状況にある子どもの援助方法	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
10	込山	さまざまな状況にある子どもの理解と援助<3> 先天的な疾患をもつ子どもの現状	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
11	込山	先天的な疾患をもつ子どもの援助方法	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
12	西田	さまざまな状況にある子どもの理解と援助<4> 障害がある子どもの現状	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
13	西田	障害をもつ子どもの援助方法	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
14	込山	さまざまな状況にある子どもの理解と援助<5> 虐待を受ける子どもの現状	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
15	込山	虐待を受ける子どもの援助方法	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護学特論Ⅳ(小児高度看護実践論)	必修・選択	選択
英語科目名	Child Health Nursing IV	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	西田 みゆき	ナンバリング	
担当教員	西田みゆき※、平田美佳※、込山洋美※、白幡峰子※、菅原淳※、齋藤身和※、川口千鶴※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	小児看護専門職として看護を実践するために必要な理論や研究報告、専門的な看護実践活動を行う上での関連領域との連携について、ケアシステム、ケアマネジメントにおける看護の役割および社会資源の活用の側面から理解する。さらに、小児看護の現状を分析し、小児看護専門職の課題および機能と役割について探求する。 第1～9回：小児看護専門職として必要な機能と役割 第10回：小児看護の現状と小児看護専門職の役割 第11～15回：小児看護の現状を踏まえた小児看護専門職の課題				
授業の位置づけ	小児看護専門職として看護を実践するために必要な理論や研究報告、専門的な看護実践活動を行うための関連領域との連携について、ケアシステム、ケアマネジメントにおける看護の役割及び社会資源の活用の側面から理解する。また、小児看護の現状を分析し、小児看護専門職の課題及び機能と役割について探求する。高度な看護実践活動及び研究活動の基礎と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. 小児看護専門職として看護実践、コンサルテーションの機能と役割について説明できる。 2. 小児看護専門職として教育の機能と役割について説明できる。 3. 小児看護専門職として倫理的問題への対処について説明できる。 4. 小児看護専門職として関係職種との連携のあり方について説明できる。 5. ケアシステム、ケアマネジメントにおける小児看護専門職の役割について説明できる。 6. 小児看護専門職として社会資源の活用の仕方について説明できる。 7. 小児看護の現状を分析して小児看護専門職の機能と役割について説明できる。 8. 小児看護の現状を踏まえた小児看護専門職の課題について説明できる。				
先修要件	小児看護学特論Ⅰ～Ⅲ				
関連科目	小児看護学特論Ⅰ～Ⅲ				
学修上の注意	別途配布するスケジュール表に即して、学習要項に提示した学習内容について購読文献リストおよび自ら検索した文献を基に学習し、プレゼンテーション資料を毎回作成して担当教員に提出する。				
成績評価の方法					
評価方法	授業への参加状況30%、プレゼンテーション30%、レポート40%により総合して評価する。				
評価基準	1. 小児看護専門職として看護実践、コンサルテーションの機能と役割について説明できる。 2. 小児看護専門職として教育の機能と役割について説明できる。 3. 小児看護専門職として倫理的問題への対処について説明できる。 4. 小児看護専門職として関係職種との連携のあり方について説明できる。 5. ケアシステム、ケアマネジメントにおける小児看護専門職の役割について説明できる。 6. 小児看護専門職として社会資源の活用の仕方について説明できる。 7. 小児看護の現状を分析して小児看護専門職の機能と役割について説明できる。 8. 小児看護の現状を踏まえた小児看護専門職の課題について説明できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
講義内での討議によりフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・Rudolf M, Lee T, & Levene M. Paediatric and Child Health. 3rd Wiley-Blackwell. 2011. ・Manley K, McCormack B, & Wilson V. International Practice Development in Nursing and Healthcare. Blackwell Publishing. 2008. ・Roy SC, & Jones DA. Nursing Knowledge Development and Clinical Practice. Springer Publishing Company. 2007. ・Mason DJ, Isaacs SL, & Colby DC. The Nursing Profession. Development, Challenges, and Opportunities. Jossey-Bass A Wiley Imprint. 2011. ・Beauchamp TL, & Childress JF. 著, 永安幸正, 立木教夫監訳. 生命医学倫理. 成文堂. 2007. ・四ノ宮成祥, 河原直人編著. 生命科学とバイオセキュリティ. デュアルユース・ジレンマとその対応. 東信堂. 2013. ・Hamric AB, Hanson CM, & Tracy MF. et al. 著, 中村美鈴, 江川幸二監訳. 高度実践看護-統合的アプローチ. へるす出版. 2020. ・佐藤直子. 専門看護制度-理論と実践-. 医学書院. 1999. ・宇佐美しおり, 野末聖香. 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会. 2009. ・野末聖香編. リエゾン精神看護ケアとナース支援のために. 医歯薬出版. 2004. ・Tracy MF, & O'Grady ET. Hamric AB, Hanson CM, & Tracy MF. et al. Hamric and Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach. 6e. Saunders. 2018. 					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	西田	小児看護専門職として必要な機能と役割 総論	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
2	白幡	看護実践	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
3	川口・西田	教育	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
4	西田	コーディネーション	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
5	菅原	コンサルテーション	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
6	平田・西田	倫理調整	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
7	平田	専門的な看護実践活動を行う上での関連領域との連携	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
8	西田	ケアシステム、ケアマネージメントにおける看護の役割	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
9	白幡	社会資源の活用	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
10	西田	小児看護の現状と小児看護専門職の役割	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
11	込山	小児看護の現状を踏まえた小児看護専門職の課題 小児看護の課題の抽出	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
12	込山	小児看護の課題に対する方略	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
13	齋藤	小児看護専門職としての活動の実践例<1> 入院生活を送る子どもと家族の療養生活支援	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
14	菅原	小児看護専門職としての活動の実践例<2> 在宅療養生活を送る子どもと家族の療養生活支援	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）
15	白幡	小児看護専門職としての活動の実践例<3> 小児看護に携わる看護師の教育	学生のプレゼンテーションとディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料の作成（180分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護学特論Ⅴ(小児疾病病態論)	必修・選択	選択
英語科目名	Child Health Nursing Ⅴ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	西田 みゆき	ナンバリング	
担当教員	東海林広道※、西田みゆき※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>小児看護領域における高度な技術を用いた看護実践、援助および方略の開発に向けて、小児各期の疾病や外傷の病態生理、診断、検査とその解釈法、治療法について修得し、症状マネジメントの実践方法について探求する。</p> <p>1) 系統的な小児疾病病態論の概要について学習する。 (1)循環器疾患 (2)呼吸器疾患 (3)消化器・肛門疾患 (4)脳神経疾患 (5)腎泌尿器疾患 (6)血液・腫瘍疾患 (7)皮膚粘膜・感覚器疾患 (8)神経・筋疾患 (9)骨格系疾患・外傷 (10)感染症 2) 小児特有の疾病病態と診断、検査とその解釈法について学習する。 3) 小児特有の疾病病態論と治療、経過、管理について学習する。 4) 小児領域で代表的な疾病病態の症状マネジメントの実践方法について学習する。</p>				
授業の位置づけ	小児看護学を実践する上での基礎的知識の修得				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<p>1. 系統的な小児疾病病態論の概要について説明できる。 2. 小児特有の疾病病態と診断、検査しその解釈法について説明できる。 3. 小児特有の疾病病態と治療、経過、管理について説明できる。 4. 小児領域で代表的な疾病病態の症状マネジメントの実践方法について説明できる。</p>				
先修要件	小児看護学特論Ⅰ～Ⅳ				
関連科目	小児看護学特論Ⅰ～Ⅳ 臨床薬理学 フィジカルアセスメント特論 機能病態学特論 コンサルテーション論				
学修上の注意	別途配布するスケジュール表に即して、学習要項に提示した学習内容について購読文献リストおよび自ら検索した文献を基に学習し、プレゼンテーション資料を毎回作成して授業の2日前に担当教員に提出する。				
成績評価の方法					
評価方法	授業への参加状況50%、レポート50%の配分により総合して評価する。				
評価基準	<p>1. 系統的な小児疾病病態論の概要について説明できる。 2. 小児特有の疾病病態と診断、検査しその解釈法について説明できる。 3. 小児特有の疾病病態と治療、経過、管理について説明できる。 4. 小児領域で代表的な疾病病態の症状マネジメントの実践方法について説明できる。</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
講義内での討議とレポートによりフィードバックを行なう。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・Rudolf M, Lee T, & Levene M. Paediatrics and Child Health. 3rd. Wiley-Blackwell. 2011. ・Chiocca EM. Advanced Pediatric Assessment. Lippincott Williams & Wilkins.2011. ・標準小児科学, 医学書院 ・標準小児外科学, 医学書院 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	メール (mnishida@) により随時連絡可能。				
備考	指定した文献を購読し、主体的に学習に取り組むことを期待します。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	東海林	系統別小児疾病病態論 循環器疾患の概要	講義	予習：テーマに関する文献学習(120分) 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認(60分) レポート：テーマに関するレポート作成(60分)	

2	東海林	系統別小児疾病病態論 (2)呼吸器疾患の概要	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
3	東海林	系統別小児疾病病態論 (3)消化器・肛門疾患	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
4	東海林	系統別小児疾病病態論 (4)脳神経疾患の概要	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
5	東海林	系統別小児疾病病態論 (5)腎泌尿器疾患の概要	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
6	東海林	系統別小児疾病病態論 (6)血液・腫瘍疾患の概要	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
7	東海林	系統別小児疾病病態論 (7)皮膚粘膜・感覚器疾患の概要	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
8	東海林	系統別小児疾病病態論 (8)神経・筋疾患の概要	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
9	東海林	系統別小児疾病病態論 (9)骨格系疾患・外傷の概要	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
10	東海林	系統別小児疾病病態論 (10)感染症の概要	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
11	東海林	小児特有の疾病病態と診断、検査とその解釈法<1>	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
12	清水	小児特有の疾病病態と治療と経過<2>	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
13	東海林	小児特有の疾病病態と治療管理<3>	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
14	東海林	小児領域で代表的な疾病病態の症状マネジメントの実践方法<1>	講義	予習：テーマに関する文献学習（120分） 復習：講義内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）
15	西田	小児領域で代表的な疾病病態の症状マネジメントの実践方法<2>	講義/ディスカッション	予習：テーマに関するプレゼンテーション資料作成（120分） 復習：討議内で生じた疑問や指摘に関する確認（60分） レポート：テーマに関するレポート作成（60分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護学実習 I (CNS役割・機能実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Child Health Nursing Practice I	対象学年	1年
開講学期	後期	単位数	2単位
代表教員	西田 みゆき	ナンバリング	
担当教員	西田みゆき※、込山洋美※、白幡峰子※、菅原淳※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	複雑な健康問題を抱える子どもと家族を対象として、チーム医療におけるコンサルテーションおよびコーディネーション活動、倫理調整活動を見学実習し、小児看護専門看護師の基本的な活動と役割、機能について探求する。また、小児看護専門看護師として活動していくための自己の課題を明確にする。				
授業の位置づけ	小児看護専門看護師の受験資格獲得のための基礎的知識の獲得				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度医療および地域医療において、子どもと家族に対する小児看護専門看護師の卓越した実践を観察できる。 2. 小児看護専門看護師のスーパービジョンの下で、実践、コーディネーション、倫理的問題への対処を必要とする複雑かつ困難な事例に対して実習計画を立案できる。 3. 小児看護専門看護師のスーパービジョンの下で、実習計画に基づいて実践、調整、倫理調整を学習できる。 4. 小児看護専門看護師のスーパービジョンの下で、看護実践の質向上のための対象者に対するコンサルテーション、教育活動を学習できる。 5. 実践した事例の経過とその評価をレポートにまとめ、専門看護師として小児看護の課題及び小児看護専門看護師としての援助について検討し、考察できる。 				
先修要件	小児看護学特論 I～IV 小児看護CNS演習				
関連科目	臨床薬理学 フィジカルアセスメント 機能病態学特論 コンサルテーション論				
学修上の注意	実習フィールドを確保し、小児看護専門看護師のスーパービジョンの下で、自ら実習計画を立案して実習当日の前週までに提出する。また、1週間に一回は学内で実習経過をまとめて評価し、次の課題を明確にしてフィールドに臨む。				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容50%、カンファレンスのプレゼンテーションおよび規格・運営30%、レポート20%により総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度医療および地域医療において、子どもと家族に対する小児看護専門看護師の卓越した実践を観察できる。 2. 小児看護専門看護師のスーパービジョンの下で、実践、コーディネーション、倫理的問題への対処を必要とする複雑かつ困難な事例に対して実習計画を立案できる。 3. 小児看護専門看護師のスーパービジョンの下で、実習計画に基づいて実践、調整、倫理調整を学習し説明できる。 4. 小児看護専門看護師のスーパービジョンの下で、看護実践の質向上のための対象者に対するコンサルテーション、教育活動を学習し説明できる。 5. 実践した事例の経過とその評価をレポートにまとめ、専門看護師として小児看護の課題及び小児看護専門看護師としての援助について検討し考察できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習報告会、討議、レポートによるフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・Hamric AB, Hanson CM, & Tracy MF. et al. 5th著, 中村美鈴, 江川幸二監訳, 高度実践看護—統合アプローチ, へるす出版, 2020 ・佐藤直子. 専門看護制度—理論と実践—, 医学書院, 1999 ・松岡真里編集. 小児看護と看護倫理, 日常的な臨床場面での倫理的看護実践, へるす出版, 2020 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時 (事前にメールで連絡のこと mnishida@)				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～15	西田みゆき、 込山洋美、白 幡峰子、菅原 淳	<p>複雑な健康問題を抱える子どもと家族を対象として、チーム医療における実践およびコーディネーション活動、倫理調整活動、コンサルテーション、教育活動を見学する。</p> <p>1) 高度医療において、子どもと家族に対する小児看護専門看護師の卓越した実践活動を観察する。 2) 小児看護専門看護師のスーパービジョンのもとで、実践、コーディネーション、倫理的問題への対処を必要とする複雑かつ困難な事例に対する実習計画を立案する。 3) 小児看護専門看護師のスーパービジョンのもとで、看護計画に基づいて実践、調整、倫理調整を見学する。 4) 小児看護専門看護師のスーパービジョンのもとで、看護実践の質向上のための対象者に対するコンサルテーション、教育活動を見学する。 5) 実践した事例の経過とその評価をレポートにまとめ、専門看護師として小児看護の課題および小児専門看護師としての援助について、検討し、考察する。</p> <p>実習場所：順天堂大学医学部附属順天堂医院、順天堂大学医学部附属浦安病院 他 実習期間：原則として、1年次後期1-2月を予定する</p>	見学実習	<p>予習：実習計画（120分） 復習：カンファレンス内での討議内容や疑問の確認（60分） レポート：終了後レポート（120分）</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護学実習Ⅱ(小児診断・治療実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Child Health Nursing Practice II	対象学年	2年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	西田 みゆき	ナンバリング	
担当教員	東海林広道※、古賀寛之※、西田みゆき※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	小児各期における疾病病態について診断技術と治療方法について学習し、問診、視診、触診、聴診等の身体診査と治療の実際、症状マネージメントの実践を通して高度な臨床判断能力を修得する。				
授業の位置づけ	小児看護専門看護師受験資格取得のための基礎的知識の獲得				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児科医、小児外科医の指導の下で、急性期および慢性疾患、発達障害の患者の診断のための身体診査について学習する。 2. 小児科医、小児外科医の指導の下で、各病態や障害に対する検査方法とその解釈法、治療方法について学習する。 3. 事例を通して、医学的判断に基づく症状マネージメントについて学習する。 4. 小児疾病病態の診断および治療について理解し、小児看護専門看護師として看護実践における医師との連携を通して自己の課題を考察できる。 				
先修要件	小児看護学特論Ⅰ～Ⅳ 小児看護学実習Ⅰ				
関連科目	小児看護学特論Ⅰ～Ⅳ 臨床薬理学 フィジカルアセスメント特論 機能病態学特論 コンサルテーション論				
学修上の注意	実習フィールドを確保し、小児科医、小児外科医の指導の下で実習計画を立案し、実習当日の前週までに提出する。 1週間に1回は学内で実習経過を評価し、次の課題を明確にしてフィールドに臨む。				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容50%、カンファレンスのプレゼンテーションおよび企画・運営30%、レポート20%により総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児科医、小児外科医の指導の下で、急性期および慢性疾患、発達障害の患者の診断のための身体診査について学習し説明できる。 2. 小児科医、小児外科医の指導の下で、各病態や障害に対する検査方法とその解釈法、治療方法について学習し説明できる。 3. 事例を通して、医学的判断に基づく症状マネージメントについて学習し説明できる。 4. 小児疾病病態の診断および治療について理解し、小児看護専門看護師として看護実践における医師との連携を通して自己の課題を考察できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習報告会、討議、レポートによるフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・内山聖編集, 標準小児科学, 医学書院, 2015 ・高松英夫編集, 標準小児外科学, 医学書院, 2017 ・Robert M Kliegman et al, 五十嵐隆 訳, ネルソン小児科学, 医学書院, 2015 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時(事前にメールで連絡のこと mnishida@)				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	東海林広道、古賀寛之、西田みゆき	<p>小児科医、小児外科医の指導のもとで、小児各期の疾病、検査方法とその解釈法、治療法について習得し、治療の管理、病状マネージメントを学習する。</p> <p>1) 小児科医、小児外科医の診療場面に同席し、小児各期の疾病病態の診察における身体審査、検査方法とその解釈法について見学し、医師の指導を受けながら診断の実施方法を学習する。</p> <p>2) 小児科医、小児外科医の指導のもとで、診断と検査後の治療の選択について事例検討を通して専門看護師に必要な疾病病態の治療管理について学習する。</p> <p>3) 小児科医、小児外科医の指導のもとで、患者に対する治療の管理と症状マネージメントを学習する。</p> <p>4) 実習経過をフィールドノートにまとめながら、診断と治療の実際、他職種との連携と調整を通して、専門看護師に必要な臨床判断、診断と検査、治療管理、症状マネージメントの実際、治療評価について考察する。</p> <p>5) 小児科医、小児外科医の指導のもとで、小児疾病病態の診断、検査とその解釈法、治療の選択について学習し、小児看護専門看護師に必要な疾病病態の診断と管理における自己の課題を明確にする。</p> <p>実習場所：順天堂大学医学部附属順天堂医院、順天堂大学医学部附浦安病院</p> <p>実習期間：原則として、2年次前期4-5月を予定とする。</p>	実習	<p>予習：実習計画（120分）</p> <p>復習：カンファレンス内での討議内容や疑問の確認（60分）</p> <p>レポート：終了後レポート（180分）</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護学実習Ⅲ(統合実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Child Health Nursing Practice III	対象学年	2年
開講学期	前期	単位数	6単位
代表教員	西田 みゆき	ナンバリング	
担当教員	西田みゆき※、込山洋美※、白幡峰子※、菅原淳※、川口千鶴※、平田美佳※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	これまでに修得した知識と技術を基盤として、統合実習を企画し、包括的ヘルスアセスメントによるケアとキューを統合した看護実践を展開し、必要な教育活動、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整活動、様々な問題や課題を見極めて改善策を講じて、小児看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得する。				
授業の位置づけ	小児看護専門看護師受験資格獲得のための最重要科目				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの疾病病態や治療などにより生ずる複雑で解決困難な問題に対して諸理論や社会資源、社会保障制度を活用し、事例に対する高度な看護を実践できる。 2. 多職種と協働・連携しながら、診断および治療を受ける子どもと家族に必要な検査、薬物、処置に関する看護をできる。 3. ケア提供者に対するコンサルテーション、保健医療・福祉・教育の関係職種者間のコーディネーション、子どもと家族ならびに関係職種者間に生ずる倫理的問題の改善を図ることができる。 4. 子どもや家族へのケアの質を向上させるために、関係職種者に対して教育活動を実践できる。 5. 専門看護師の各役割について実践経過を評価し、小児看護専門看護師としての自己の課題を明確にし、自己を洗練する方法について考察できる。 				
先修要件	小児看護学特論Ⅰ～Ⅳ 小児看護CNS演習 小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ				
関連科目	小児看護学特論Ⅰ～Ⅳ 臨床薬理学 フィジカルアセスメント ヘルスアセスメント特論 機能病態学特論 コンサルテーション論 小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ				
学修上の注意	実習フィールドを確保し、自ら実習計画を立案して実習当日の前週までに提出する。また、1～2週間毎に学内で実習経過を評価し、次の課題を明確にしてフィールドに臨む。				
成績評価の方法					
評価方法	実習内容50%、カンファレンスのプレゼンテーションおよび規格・運営30%、レポート20%により総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの疾病病態や治療などにより生ずる複雑で解決困難な問題に対して諸理論や社会資源、社会保障制度を活用し、事例に対する高度な看護を実践し説明できる。 2. 多職種と協働・連携しながら、診断および治療を受ける子どもと家族に必要な検査、薬物、処置に関する看護を実践し説明できる。 3. ケア提供者に対するコンサルテーション、保健医療・福祉・教育の関係職種者間のコーディネーション、子どもと家族ならびに関係職種者間に生ずる倫理的問題の改善を図り、その一連の看護実践について説明できる。 4. 子どもや家族へのケアの質を向上させるために、関係職種者に対して教育活動を実践し説明できる。 5. 専門看護師の各役割について実践経過を評価し、小児看護専門看護師としての自己の課題を明確にし、自己を洗練する方法について考察できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
カンファレンス、レポートによりフィードバックを行なう。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・Hamric AB, Hanson CM, & Tracy MF. et al. 5th著, 中村美鈴, 江川幸二監訳, 高度実践看護—統合アプローチ, 第2版, へるす出版, 2020 ・佐藤直子, 専門看護制度—理論と実践—, 医学書院, 1999 ・松岡真里編集, 小児看護と看護倫理, 日常的な臨床場面での倫理的看護実践, へるす出版, 2020 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時(事前にメールで連絡のこと mnishida@)				
備考	実習期間は6週間以上で科目の到達目標を達成するまでとし、実習終了までの期間は学生の個々の進行状況によって異なる。詳細については、別途実習要項に即して実施する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	西田みゆき、 込山洋美、白 幡峰子、菅原 淳、川口千 鶴、平田美佳	<p>高度医療及び地域医療の場において、自ら統合実習を規格し、小児看護専門看護師として複雑で解決困難な問題を抱える子どもと家族に対して高度な看護を実践できる能力を習得し、高度看護実践の方法をもとに統合実習を行う。</p> <p>1) 小児看護専門看護師が果たしているリーダーシップや関係職種との連携、卓越した実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育、研究を参考にして、各役割に即して自ら統合実習を企画する。</p> <p>2) 専門看護師の各役割場面における実習計画を立案して実践し、日々の経過をフィールドノートに記録する。</p> <p>3) 各役割場面における実践を通して、自ら指導を受ける必要性を判断し、適宜に小児看護専門看護師もしくは教員、他職種に指示を仰ぐ。</p> <p>4) 高度医療を受ける子どもと家族に対して、治療の管理、症状マネジメントを実践し、その経過を評価する。</p> <p>5) 小児科医、小児外科医、小児看護専門看護師、他職種の指導のもとで、定期的に事例検討を企画・運営し、対象者に対する高度看護実践を評価し、事例検討過程をフィールドノートにまとめながら高度な実践能力を修得する。</p> <p>6) 統合実習を通して、高度看護実践のあり方を探求し、小児医療および小児看護の課題、小児看護専門看護師としての自己の課題を明確にする。</p> <p>実習場所：順天堂大学医学部附属順天堂医院、順天堂大学医学部附浦安病院</p> <p>実習期間：原則として、2年次前期5-9月を予定とする。</p>	実習	<p>予習：実習計画（120分）</p> <p>復習：実習、カンファレンスでの疑問や課題の確認（120分）</p> <p>レポート：項目ごとのレポート作成（180分）</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	地域看護学特論Ⅰ（公衆衛生看護学原論）	必修・選択	選択
英語科目名	Community Nursing Ⅰ	対象学年	1年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	
担当教員	櫻井しのぶ※、岩清水伴美※、原田静香※、佐野裕子※、酒井太一※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	地域で生活する個人、家族、集団を対象にその特性に応じた健康問題の現状を把握し、その要因を探求し、適切な支援の方法と看護の役割や活動について考察し、検討する。				
授業の位置づけ	地域看護活動を展開するに必要な基礎となる事項を学び、地域看護論Ⅱ（公衆衛生看護学活動論）において様々な臨地や対象・集団に看護活動を展開できる基盤とする。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 個人、家族、集団の健康と予防に関する地域看護領域の諸理論と概念、一連の看護過程について説明できる。 地域ケアシステムを理解し、そのシステムの中での看護の役割や地域特有の倫理的課題について検討し、自分の考えを述べることができる。 保健医療福祉行政と地域自治体・産業・学校の場での健康支援の実践及び地域ケアシステムについて説明できる。 地域ケアシステムを効果的に実践する上での技法を学習し、他職種連携のあり方について検討し、自らの考えた有り方を提示することができる。 				
先修要件	特になし				
関連科目	なし				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> テキストの1) 2) 3) を事前に熟読して、公衆衛生看護に必要な基礎的知識（ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル、ヘルスリテラシー、エンパワーメント、セルフエフィカシーなど）についての理解を深めておく。 各授業の前後に提示された課題についてレポートを作成する ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。 				
成績評価の方法					
評価方法	原則としてレポート(25%)、レポート(25%)、討議(50%)とする。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 個人、家族、集団の健康と予防に関する地域看護領域の諸理論と概念、一連の看護過程について理解し、どのように現実の健康課題に展開できるのか説明できる。 地域ケアシステムを理解し、そのシステムの中での看護の役割や地域特有の倫理的課題について検討し、自分の考えを述べることができる。 保健医療福祉行政と地域自治体・産業・学校の場での健康支援の実践及び地域ケアシステムについて理解し、その内容を説明できる。 地域ケアシステムを効果的に実践する上での技法を学習し、他職種連携のあり方について検討し、自分の意見や考察を提示し、説明することができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
各担当者より指示する					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	実践 ヘルスプロモーション、ローレンスグリーン、マーシャルグロイター、神馬征峰 訳、医学書院、978-4-260-00171-7	ローレンス W. グリーン、他 著	医学書院	260-00171-X	
参考文献					
1) 公衆衛生看護学、JP・荒賀直子、後閑容子編・インターメディカル 2) ヘルスプロモーション WHO: オタワ憲章、 島内憲夫、鈴木美奈子、垣内出版					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時（事前にメールでの連絡をしてください ssakura@）				
備考	開催場所・日時は変更となる場合があるため、別表を配布します。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1	櫻井しのぶ	地域看護学の基盤となる考え方：地域の捉え方、健康、ニーズと情報収集、特定集団（行政・産業・学校）看護活動の方法、特徴、活動方法	講義、討議	予習：現在の医療保健福祉において問題となる健康課題に関して、自分の興味のある内容を調べる。（学習時間 2時間） 復習：地域看護の基盤となる概念について復習する（学習時間 2時間）	

2	岩清水伴美	特定集団の専門的実践の探求：母子保健における健康支援	講義、討議	予習：母子保健における現在の問題について調べる（学習時間 2時間） 復習：母子保健における現在の健康課題について整理する（学習時間 2時間）
3	岩清水伴美	特定集団の専門的実践の探求：母子保健における健康支援	講義、討議	予習：母子保健における健康課題の支援について調べる（学習時間 2時間） 復習：母子保健における健康課題の支援について整理する（学習時間 2時間）
4	原田静香	特定集団の専門的実践の探求：成人・高齢者保健における健康支援	発表、講義、討議	予習：成人・高齢者保健における健康課題の支援について調べる（学習時間 2時間） 復習：成人・高齢者保健における健康課題の支援について整理する（学習時間 2時間）
5	佐野裕子	地域における成人・高齢者におけるリハビリテーションの在り方	講義、討議	予習：成人・高齢者保健の健康課題に対するリハビリテーションの支援について調べる（学習時間 2時間） 復習：成人・高齢者保健の健康課題に対するリハビリテーションの支援について整理する（学習時間 2時間）
6	酒井太一	特定集団の専門的実践の探求：精神保健における健康課題とその要因	講義、討議	予習：精神保健における健康課題について調べる（学習時間 2時間） 復習：精神保健における健康課題とその要因について整理する（学習時間 2時間）
7	酒井太一	特定集団の専門的実践の探求：精神保健における健康支援	講義、討議	予習：精神保健における健康課題の支援について調べる（学習時間 2時間） 復習：精神保健における健康課題の支援について整理する（学習時間 2時間）
8	原田静香	地域看護領域で用いる諸理論と基盤となる概念①プリシードプロセス理論	発表、討議、講義	予習：プリシードプロセス理論について調べる（学習時間 2時間） 復習：プリシードプロセスの有用性や活用について整理する（学習時間 2時間）
9	原田静香	地域看護領域で用いる諸理論と基盤となる概念②ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー	発表、討議、講義	予習：ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシーについて調べる（学習時間 2時間） 復習：ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシーの実際の応用や支援について整理する（学習時間 2時間）
10	櫻井しのぶ	特定集団の専門的実践の探求：産業保健における健康支援①産業における健康課題の実際	発表、討議、講義	予習：産業保健における健康課題について調べる（学習時間 2時間） 復習：産業保健における健康課題について整理する（学習時間 2時間）
11	櫻井しのぶ	特定集団の専門的実践の探求：産業保健における健康支援②健康課題における産業保健の支援	発表、討議、講義	予習：産業保健における健康課題の支援について調べる（学習時間 2時間） 復習：産業保健における健康課題の支援について整理する（学習時間 2時間）
12	櫻井しのぶ	特定集団の専門的実践の探求：学校保健における健康支援①	討議、講義	予習：学校保健における健康課題の支援について調べる（学習時間 2時間） 復習：学校保健における健康課題の支援について整理する（学習時間 2時間）
13	櫻井しのぶ	特定集団の専門的実践の探求：学校保健における健康支援②	発表、討議、講義	予習：学校保健における健康課題の支援と今後の展望について調べる（学習時間 2時間） 復習：学校保健における健康課題の支援と今後の展望について整理する（学習時間 2時間）
14	櫻井しのぶ	地域看護行政・保健福祉医療行政の動向と国際比較①世界の保健福祉医療行政の動向	発表、討議、講義	予習：世界における保健福祉医療の実態について調べる（学習時間 2時間） 復習：世界における健康課題の動向とそれに対応した各国の医療保健福祉施策について整理する（学習時間 2時間）
15	櫻井しのぶ	地域看護行政・保健福祉医療行政の動向と国際比較②各国の看護医療行政の動向と今後の展望	発表、討議、講義	予習：各国における医療看護行政について調べる（学習時間 2時間） 復習：各国を比較して、今後の世界における健康課題の支援について整理する（学習時間 2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	地域看護学特論Ⅱ(公衆衛生看護学活動論)	必修・選択	選択
英語科目名	Community Nursing II	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	櫻井 しのぶ	ナンバリング	
担当教員	櫻井しのぶ※、原田静香※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	生涯にわたり健康を維持していくための方策を学び、地域のコミュニティとしての産業、学校、地域それぞれに焦点をあて健康の維持・増進のための施策・保健活動や先駆的な活動を、文献を素材に討論する。				
授業の位置づけ	あらゆる健康レベル、全ての成長発達段階における人々、個人・家族・集団を対象とした健康問題や健康課題について、公衆衛生的な観点や健康管理の視点から看護支援が有用であることのエビデンスを自分の興味関心あるテーマ等に沿って論じることができる内容であり、その後の特別研究の基盤とする。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり健康を維持していくための方策を学び、地域のコミュニティとしての産業、学校、地域それぞれに焦点をあて健康の維持・増進のための施策・保健活動や先駆的な活動を検討し、現状における課題を説明できる。 ・各集団の連携、健康政策の実践に必要な社会資源の開発等の基礎的知識を学習し、コミュニティにおける健康生活支援に必要な方法について説明できる。 				
先修要件	地域看護学特論Ⅰ				
関連科目	なし				
学修上の注意	討論するための文献等は提示するが、自分で関連文献を調べ、関連事象に関する実践活動などについて、各自が討論素材を充実させる創意工夫を行ってくる。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	課題レポート(90%) 学習の状況(10%)で総合的に評価する				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり健康を維持していくための方策を学び、地域のコミュニティとしての産業、学校、地域それぞれに焦点をあて健康の維持・増進のための施策・保健活動や先駆的な活動を検討し、現状における課題を提示し説明できる。 ・各集団の連携、健康政策の実践に必要な社会資源の開発等の基盤となる知識やコミュニティにおける健康生活支援に必要な方法について説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
提示した課題においては講義内において解説を加えながらコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	特になし				
参考文献					
文献等は適宜提示する Community and Public Health Nursing Advanced Community Health Nursing Practice					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前に必ずメール等で連絡のこと)				
備考	開催場所・日時は変更となる場合があるため、別表を配布します。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	櫻井しのぶ 原田静香	国内外における地域看護活動における公衆衛生的健康課題について	討議、講義	予習：国内外における地域看護活動における公衆衛生的健康課題について調べる（学習時間2時間） 復習：国内外における地域看護活動における公衆衛生的健康課題について整理する（学習時間2時間）
2~3	櫻井しのぶ	地域看護活動の立場から追求すべき看護事象や公衆衛生的健康課題について、設定された各臨地の特性に応じた国内の文献検討	発表、討議、講義	予習：各臨地における地域看護活動における公衆衛生的健康課題について調べる（学習時間2時間） 復習：各臨地における地域看護活動における公衆衛生的健康課題について整理する（学習時間2時間）
4~5	原田静香	前回の検討によって提示された課題を解決すべき方法について、国内の文献検討	発表、討議、講義	予習：各臨地における地域看護活動における公衆衛生的健康課題の解決方法について調べる（学習時間2時間） 復習：各臨地における地域看護活動における公衆衛生的健康課題の解決方法について整理する（学習時間2時間）
6~7	櫻井しのぶ	地域看護活動の立場から追求すべき看護事象や公衆衛生的健康課題について、設定された各臨地の特性に応じた国外の文献検討	発表、討議、講義	予習：国外における地域看護活動における公衆衛生的健康課題について調べる（学習時間2時間） 復習：国外における地域看護活動における公衆衛生的健康課題について整理する（学習時間2時間）
8~9	櫻井しのぶ	前回の検討によって提示された課題を解決すべき方法について、国外の文献検討	発表、討議、講義	予習：国外における地域看護活動における公衆衛生的健康課題の支援方法について調べる（学習時間2時間） 復習：国外における地域看護活動における公衆衛生的健康課題に支援方法について整理する（学習時間2時間）
10~12	原田静香	国内外の文献検討を基にして、地域看護学に分野における重名課題を特定し、課題に関連した看護支援に適した研究方法の検討	発表、討議、講義	予習：地域看護活動学における重要課題とそれに関連した看護支援について調べる（学習時間3時間） 復習：地域看護活動学における重要課題に関連した看護支援に適した研究方法について整理する（学習時間3時間）
13~15	櫻井しのぶ 原田静香	課題に関連した研究に使用する概念枠組みの検討と研究成果の活用	発表、討議、講義	予習：地域における健康課題の研究に使用する概念枠組みと研究成果の活用について調べる（学習時間3時間） 復習：地域における健康課題の研究に使用する概念枠組みと研究成果の活用について整理する（学習時間3時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	在宅看護学特論Ⅰ（在宅ケアマネジメント論）	必修・選択	選択
英語科目名	Home Nursing Ⅰ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	種市ひろみ、小川典子	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、伊藤隆子※、小川典子※、藤尾祐子※、宮本千恵美※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	わが国における在宅看護の歴史および在宅医療・訪問看護・在宅ケアの現状を学び、諸外国の在宅看護との比較の中でその特性を理解する。複雑で多様な健康レベルの人の在宅看護を可能にするために必要な保健医療福祉の諸制度やその活用方法を理解する。関係機関や多職種との連携及びネットワークの構築、退院支援・調整による在宅移行の可能性を検討するための統合的なケアマネジメント過程について学修する。 本授業は、ゼミナール方式で行う。生活の場で展開される在宅療養者とその家族の事例検討を行いながら発表と討議を行い、学びを統合してレポート作成を行う。				
授業の位置づけ	在宅看護学分野の講義科目であり、在宅看護CNSコースの必修科目である。特に在宅看護の歴史、保健医療福祉制度、多職種間連携、退院支援・調整、統合ケアマネジメントについて学修する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. わが国における在宅看護の歴史および在宅医療・訪問看護・在宅ケアの現状を理解し、諸外国の在宅看護との比較の中でその特性を説明できる。 2. 複雑で多様な健康レベルの人の在宅看護を可能にするために必要な保健医療福祉の諸制度やその活用方法を説明できる。 3. 関係機関や多職種との連携及びネットワークの構築、退院支援・調整による在宅移行の可能性を検討するための統合的なケアマネジメント過程について説明できる。				
先修要件	なし				
関連科目	在宅看護学特論Ⅱ				
学修上の注意	地域・在宅・公衆衛生看護学に関連する書籍や論文等から基本知識や動向について学習し臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション（40%）、討議（30%）、レポート（30%）を総合して評価する。				
評価基準	1. わが国における在宅看護の歴史および在宅医療・訪問看護・在宅ケアの現状、および諸外国の在宅看護との比較の中でその特性を説明できるか。 2. 複雑で多様な健康レベルの人の在宅看護を可能にするために必要な保健医療福祉の諸制度やその活用方法を説明できるか。 3. 関係機関や多職種との連携及びネットワークの構築、退院支援・調整による在宅移行の可能性を検討するための統合的なケアマネジメント過程について説明できるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
提示された事例については、授業中にフィードバックならびに協議を行う。 提出されたレポートについては、授業後添削をして返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・高橋 敏士：地域包括ケアを現場で語る 人を想い、地域を耕し、社会を変える人たちと、木星舎、2022 ・石垣和子、上野まり編：在宅看護論、自分らしい生活の継続をめざして、改訂第2版、南江堂、2017 ・河原加代子ほか：地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版 系統看護学講座(専門分野)、医学書院、2022 ・河原加代子ほか：地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版 系統看護学講座(専門分野)、医学書院、2022 ・清崎由美子 編著：訪問看護師のための診療報酬&介護報酬のしくみと基本 2022(令和4)年度診療報酬・2021(令和3)年度介護報酬改定対応版 メディカ出版、2022 ・永井康徳：たんぼ先生在宅報酬算定マニュアル第7版、日経NP社、2022 ・社会保険研究所：訪問看護業務の手引：介護保険・医療保険（令和4年4月版）、社会保険研究所、2022 ・訪問看護実務相談Q&A 令和4年版 一般社団法人全国訪問看護事業協会、2022 ・NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会 編：医療福祉総合ガイドブック2022年度版、2022 ・障害者総合支援法 事業者ハンドブック 報酬編(2022年版)、中央法規、2022 ・二本柳 寛：図解でわかる障害福祉サービス、中央法規、2022 ・筒井孝子：地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略—integrated careの理論とその応用、中央法規、2014 ・筒井孝子：地域包括ケアシステムの深化：integrated care理論を用いたチェンジマネジメント、中央法規、2019 ・日本ケアマネジメント学会：ケアマネジメント事典、中央法規出版、2021 ・河野高志：ソーシャルワークとしてのケアマネジメントの概念と展開、みらい、2021 ・白澤政和：ケアマネジメント論：わかりやすい基礎理論と幅広い事例から学ぶ、ミネルヴァ書房、2019 ・田中良明：新看護学4 保健医療福祉のしくみ 看護と法律 第22版、医学書院、2022 ・永田智子ら：外来で始める在宅療養支援：ニーズ把握と実践のポイント、日本看護協会出版会、2021 ・小坂鎮太郎：外来・病棟・地域をつなぐケア移行実践ガイド、医学書院、2022 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	連絡先：h.taneichi.uh@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				

備考	講義受講、事例検討の発表と討議への積極的な参加と意欲的自主的な学びを期待します。			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	オリエンテーション・わが国の在宅看護の歴史	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：在宅看護の年表
2	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	在宅ケアに関連する保健医療福祉制度の現状と課題① -診療報酬を含む現在の訪問看護を取り巻く制度	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：訪問看護を取り巻く背景
3	種市ひろみ (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	在宅ケアに関連する保健医療福祉制度の現状と課題② -在宅医療、介護保険制度の充実に向けて	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：在宅医療・介護保険制度の制度改正
4	伊藤隆子 (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	在宅療養生活を支える地域の社会資源の役割と課題① -在宅療養に直接関わる人と機関	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：訪問看護以外の社会資源や機関 地域密着型サービス
5	伊藤隆子 (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	在宅療養生活を支える地域の社会資源の役割と課題② -医療機関・退院支援部門	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：山本氏の文献クリティーク
6	種市ひろみ (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	諸外国の保険医療制度とわが国の制度の比較 (西欧諸国、東アジア等)	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：諸外国の保険医療制度
7	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	在宅ケアマネジメントと事例展開 -情報収集、アセスメント、統合的課題の導き方	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：在宅ケアマネジメント
8	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	在宅ケアマネジメントと事例展開 -ケアプランの立案、社会資源の活用、開発	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：社会資源
9	種市ひろみ (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	在宅ケアマネジメントと事例展開 -多職種との連携・協働	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：チームワークの促進
10	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	在宅ケアマネジメントと事例展開 -モニタリング、評価	発表、討議	各回予習90分、復習90分 課題：モニタリング
11	宮本千恵美 (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	医療機関における在宅療養移行支援と調整① -多問題を抱える困難事例の分析	発表、討議	各回予習90分、復習90分 自身の経験での多問題困難事例の在宅療養移行計画
12	宮本千恵美 (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	医療機関における在宅療養移行支援と調整② -終末期ケアを在宅で希望する事例の分析	発表、討議	各回予習90分、復習90分 ターミナル事例の在宅療養移行計画
13	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	ケアマネジメントから考える地域ケアシステムの構築① 個別のケアマネジメントに関わる訪問看護師が、プライマリケア、二次医療、専門医療（三次医療）など、様々なレベルの医療や関係職種との連携を効果的に行うための方法を学修し、地域ケアシステム構築に至った事例を検討する。	発表、討議	各回予習90分、復習90分 多職種連携・地域包括ケアシステムについて
14	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	ケアマネジメントから考える地域ケアシステムの構築② 個別のケアマネジメントに関わる訪問看護師が、かかりつけ医による往診と居宅介護サービスなど、多様なサービス提供者間の組織的共同とコミュニケーションを促進する方法を学修し、地域ケアシステム構築に至った事例を検討する。	発表、討議	各回予習90分、復習90分
15	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	本科目のまとめ	発表、討議	各回予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	在宅看護学特論Ⅱ(在宅看護アセスメント論)	必修・選択	選択
英語科目名	Home Nursing II	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	種市ひろみ、小川典子	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、伊藤隆子※、菱田一恵※、佐野裕子※ 小川典子※、藤尾祐子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	在宅療養者とその家族の健康と生活に活用できる家族アセスメント、セルフケア能力アセスメント、生活環境アセスメントを実践するために有用な基礎理論やモデルを学修する。さらにどのような理論やアセスメントモデルが、身体情報の把握、心理・社会的問題の解決あるいは家族ケアや家族の生活力量形成のアセスメントに適しているのか、どのような介入技術が有効であるのかを学修する。また在宅療養者および家族のQOLやストレス、介護負担感、在宅看護に対する満足感やケアニーズなど在宅療養支援のアウトカム評価についての研究方法を学修する。 本授業は、ゼミナール方式で行う。地域で生活する多様な健康レベルの人々を支援する看護実践能力、研究能力を高めるため、社会情勢を反映した事例、文献等を使用しながら発表と討議を行う。				
授業の位置づけ	在宅看護学分野の講義科目であり、在宅看護CNSコース必修科目である。特に包括的アセスメント、アセスメントモデル、アウトカム指標について学修する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. 在宅療養者とその家族の健康と生活に活用できる家族アセスメント、セルフケア能力アセスメント、生活環境アセスメントを実践するために有用な基礎理論やモデルを説明できる。 2. どのような理論やアセスメントモデルが、身体情報の把握、心理・社会的問題の解決あるいは家族ケアや家族の生活力量形成のアセスメントに適しているのか、どのような介入技術が有効であるのかを説明できる。 3. また在宅療養者および家族のQOLやストレス、介護負担感、在宅看護に対する満足感やケアニーズなど在宅療養支援のアウトカム評価について説明できる。				
先修要件	なし				
関連科目	在宅看護学特論Ⅰ				
学修上の注意	地域・在宅・公衆衛生看護学に関連する書籍や論文等から基本知識や動向について学習し臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション(40%)、討議(30%)、レポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 在宅療養者とその家族の健康と生活に活用できる家族アセスメント、セルフケア能力アセスメント、生活環境アセスメントを実践するために有用な基礎理論やモデルを説明できるか。 2. どのような理論やアセスメントモデルが、身体情報の把握、心理・社会的問題の解決あるいは家族ケアや家族の生活力量形成のアセスメントに適しているのか、どのような介入技術が有効であるのかを説明できるか。 3. また在宅療養者および家族のQOLやストレス、介護負担感、在宅看護に対する満足感やケアニーズなど在宅療養支援のアウトカム評価について説明できるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
提示された事例については、授業中にフィードバックならびに協議を行う。 提出されたレポートについては、授業後添削をして返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・正野逸子、本田彰子：関連図で理解する在宅看護過程第2版、メヂカルフレンド、2018 ・山内 豊明、岡本 茂雄：生命・生活の両面から捉える訪問看護アセスメント・プロトコル 改訂版、中央法規出版、2015 ・黒川幸雄、木村哲彦：生活環境論 第6版 生活支援の視点と方法、医歯薬出版株式会社、2010 ・渡辺裕子監修：家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 第6版、日本看護協会出版会、2022 ・小林奈美：実践力を高める家族アセスメントPartⅠ ジェノグラム・エコマップの描き方と使い方、医歯薬出版株式会社、2009 ・小林奈美：実践力を高める家族アセスメントPartⅡ ファシリテートのエキスパートをめざして、医歯薬出版株式会社、2011 ・小林奈美：グループワークで学ぶ家族看護論第2版 カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ、医歯薬出版株式会社、2011 ・法橋尚宏：新しい家族看護学 理論・実践・研究、メヂカルフレンド社、2010 ・道又元裕：訪問看護のフィジカルアセスメントと急変対応(Q&Aと事例でわかる訪問看護)、中央法規、2016 ・介護と医療研究会、河村雅明(監修)：現場で使える訪問看護便利帖(現場で使える便利帖)、翔泳社2016 ・関永信子：ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開、ふくろう出版、2017 ・上田敏：ICF(国際生活機能分類)の理解と活用、萌文社、2005 ・鈴木央、平原優美：症状別 在宅看護ポイントブック、照林社、2015 ・萱間真美：ストレングスマodel実践活用術、医学書院、2020 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	連絡先：h.taneichi.uh@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				
備考	講義受講、事例検討の発表と討議への積極的な参加と意欲的自主的な学びを期待します。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	在宅療養者の包括的アセスメントに基づいた看護実践① 在宅療養者の健康状態をアセスメントする尺度 (呼吸、栄養、排泄) を活用した在宅看護実践について学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
2	種市ひろみ (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	在宅療養者の包括的アセスメントに基づいた看護実践② 在宅療養者の健康状態をアセスメントする尺度 (精神状態、清潔、移動、ADL) を活用した在宅看護実践について学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
3	伊藤隆子 (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	家族アセスメントの理論と援助方法① -家族看護学の基礎的理論	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
4	伊藤隆子 (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	家族アセスメントの理論と援助方法② -家族発達理論	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする 課題: 精神疾患のアセスメント
5	伊藤隆子 (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	家族アセスメントの理論と援助方法③ -家族システム理論	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
6	伊藤隆子 (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	家族アセスメントの理論と援助方法④ -家族ストレス理論	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
7	伊藤隆子 (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	家族アセスメントの理論と援助方法⑤ -カルガリー式家族看護モデル	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする 課題: カルガリー式家族看護モデル
8	種市ひろみ (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	ICFを活用した自立支援へのアセスメントの展開① 国際生活機能分類 (ICF) の理念について学修し、人間が生活する上で使用するすべての機能である生活機能低下した状態と、それに影響する因子、個人的因子について、実際の在宅看護実践を用いて解釈する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする 課題: ICF文献レビュー
9	種市ひろみ (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	ICFを活用した自立支援へのアセスメントの展開② 医学モデルによる問題志向型アセスメントと、社会モデルによる目標志向型アセスメントを、実際の在宅看護実践を用いて解釈し、医学モデルと社会モデルの統合について学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
10	佐野裕子 (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	生活環境アセスメントの理論と援助方法 -生活環境論	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
11	種市ひろみ (本郷・浦安) 藤尾祐子 (三島)	QOL評価の手法と活用① QOL評価方法の種類 (質的評価法、量的評価法)、意味と特徴、構成する要素について学修し、実際の在宅看護実践を用いて解釈する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
12	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	QOL評価の手法と活用② QOL尺度の種類 (健康状態を測定するプロフィール型尺度、効用・値を測定する価値付加尺度) について学修し、実際の在宅看護実践を用いて解釈する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする 課題: QOL尺度
13	菱田一恵 (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	在宅療養者および家族のストレスのアセスメントと評価① 在宅療養者および家族のストレス尺度およびストレス反応尺度 (介護負担感尺度、バーンアウト (燃えつき症候群) 尺度など) を学修し、実際の在宅看護実践を用いて解釈する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする 課題: 家族のストレス文献レビュー
14	菱田一恵 (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	在宅療養者および家族のストレスのアセスメントと評価② 在宅療養者および家族のストレス反応に対するコーピング尺度 (主観的健康観尺度、主観的幸福感尺度など) を学修し、実際の在宅看護実践を用いて解釈する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
15	種市ひろみ (本郷・浦安) 小川典子 (三島)	本科目のまとめ	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	在宅看護学特論Ⅲ(在宅看護援助論)	必修・選択	選択
英語科目名	Home Nursing III	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、伊藤隆子※、菱田一恵※、渡邊美也子※、佐藤直子※、佐藤知子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	在宅療養者の看護計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程を展開する方法を学修する。療養上複雑で多様な課題をもち保健医療福祉支援の必要な在宅療養者とその家族に対し、そのケアニーズに応じた臨床判断や倫理的判断、権利擁護に必要な知識を深め、それらをふまえた計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程を展開する方法を学修する。さらに感染管理、事故予防などの安全管理・リスクマネジメントの特性について理解し実践方法を学修する。本授業は、ゼミナール方式で行う。地域で生活する多様な健康レベルの人々を支援する看護実践能力、研究能力を高めるため、社会情勢を反映した事例、文献等を使用しながら発表と討議を行う。			
授業の位置づけ	在宅看護CNSコースの必修科目である。在宅看護において必要とされる高度実践看護の技術、特に在宅看護過程、倫理的課題、臨床的判断、意思決定支援、リスクマネジメントについて学修する。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力			
到達目標	1. 療養上複雑で多様な課題をもつ在宅療養者とその家族に対し、そのケアニーズに応じた臨床判断や倫理的判断、権利擁護に必要な知識を深め、それらをふまえた計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程を展開できる。 2. 感染管理、事故予防などの安全管理・リスクマネジメントの特性と実践方法について説明できる。			
先修要件	在宅看護CNS選択者のみ受講可			
関連科目	在宅看護学特論Ⅰ、在宅看護学特論Ⅱ			
学修上の注意	地域・在宅・公衆衛生看護学に関連する書籍や論文等から基本知識や動向について学習し臨むこと。			
成績評価の方法				
評価方法	プレゼンテーション(40%)、討議(30%)、レポート(30%)を総合して評価する。			
評価基準	1. 療養上複雑で多様な課題をもつ在宅療養者とその家族に対し、そのケアニーズに応じた臨床判断や倫理的判断、権利擁護に必要な知識を深め、それらをふまえた計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程を展開できるか。 2. 感染管理、事故予防などの安全管理・リスクマネジメントの特性と実践方法について説明できるか。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
提示された事例については、授業中にフィードバックならびに協議を行う。 提出されたレポートについては、授業後添削をして返却する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
<ul style="list-style-type: none"> ・井部俊子、大生定義監修：専門看護師の思考と実践、医学書院、2015 ・井部俊子、村上靖彦編集：現象学でよみとく専門看護師のコンピテンシー、医学書院、2019 ・鶴若麻理編：看護師の倫理調整力-専門看護師の実践に学ぶ、日本看護協会出版会、2018 ・箕岡真子：臨床倫理入門、へるす出版、2017 ・正野逸子、本田彰子：関連図で理解する在宅看護過程第2版、メヂカルフレンド、2018 ・石垣和子、上野まり編：在宅看護論、自分らしい生活の継続をめざして、改訂第2版、南江堂、2017 ・宇都宮宏子：入退院支援パーフェクトガイド：看護がつなぐ「在宅ケア移行支援」の実践、メディカ出版、2019 ・河原加代子ほか：地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版(系統看護学講座(専門分野))、2022 ・河原加代子ほか：地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版(系統看護学講座(専門分野))、2022 ・吉武久美子：看護師のための 倫理的合意形成の考え方・進め方、医学書院、2017 ・手島恵：これからの倫理と看護、日本看護協会出版会、2021 ・サラ T. フライ：看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド、第3版、日本看護協会出版会、2010 ・ジョイス・E. トンプソン：看護倫理のための意思決定10のステップ、日本看護協会出版会、2004 ・宮崎和加子：在宅ケア リスクマネジメントマニュアル 第2版、日本看護協会出版会、2016 ・全国訪問看護事業協会：そこが知りたい! 事故事例から学ぶ訪問看護の安全対策、日本看護協会出版部、2013 ・NPO法人 HAICS研究会 PIGSプロジェクト：訪問看護師のための在宅感染予防テキスト改訂2版、メディカ出版、2020 ・仙道由香：心理療法に先立つアセスメント・コンサルテーション入門、誠信書房、2019 ・小澤和子：アセスメントに自信がつく臨床推論入門、メディカ出版、2019 ・一般社団法人日本在宅ケア学会：エビデンスにもとづく在宅ケア実践ガイドライン、医歯薬出版、2022 ・洪愛子編：病院・施設・地域で使える 看護師のための感染対策、中央法規出版、2021 ・大滝周編：感染管理ベシクブック口口、メヂカルフレンド社、2020 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	連絡先：h.taneichi.uh@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。			
備考	講義受講、事例検討の発表と討議への積極的な参加と意欲的な自主的な学びを期待します。			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	種市ひろみ	在宅看護過程の基本特性① -情報収集・アセスメント・課題の抽出	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
2	種市ひろみ	在宅看護過程の基本特性② -計画立案・社会資源の活用	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
3	種市ひろみ	在宅看護過程の基本特性③ -実施・評価・モニタリング	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
4	伊藤隆子	在宅看護場面における倫理的・臨床的課題に基づく臨床的判断① -倫理的ジレンマ	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
5	伊藤隆子	在宅看護場面における倫理的・臨床的課題に基づく臨床的判断② -意思決定支援	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
6	伊藤隆子	在宅看護場面における倫理的・臨床的課題に基づく臨床的判断③ -合意形成	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
7	佐藤直子	事例検討① 複数疾患をもち機能低下の見られる高齢二人暮らしの療養者-討論・考察	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
8	佐藤直子	事例検討② 複数疾患をもち機能低下の見られる高齢二人暮らしの療養者-討論・考察	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
9	佐藤知子	事例検討③ 早期退院を希望する医療依存度の高い多職種連携が必要な1人暮らしの高齢者-討論・考察	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
10	佐藤知子	事例検討④ 早期退院を希望する医療依存度の高い多職種連携が必要な1人暮らしの高齢者-討論・考察	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
11	渡邊美也子	事例検討⑤ 家族の介護放棄や虐待が疑われる、意思決定能力が低い療養者-討論・考察	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
12	渡邊美也子	事例検討⑥ 家族の介護放棄や虐待が疑われる、意思決定能力が低い療養者-討論・考察	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
13	菱田一恵	在宅看護における感染管理の特性	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
14	菱田一恵	在宅看護における事故予防などの安全管理・リスクマネジメントの特性	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
15	種市ひろみ	本科目のまとめ	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	在宅看護学特論Ⅳ(在宅医療ケア論)	必修・選択	選択
英語科目名	Home Nursing IV	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、石垣泰則、高須二郎、宇田川恵司、川越正平、佐野裕子、篠原真咲※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	呼吸管理や輸液管理、疼痛コントロールや高度の創傷ケアを要する療養者、あるいは経管栄養を要する療養者、在宅で終末期を迎える療養者とその家族に対して、医療的管理を要する原因疾患の診断のプロセス、検査方法、治療方法、薬物療法、処置等について学修する。また在宅医療を実践する在宅療養支援診療所医師との協働など、キュアとケアを統合した高度実践看護の技術を学修する。				
授業の位置づけ	在宅看護CNSコースの必修科目である。在宅看護において必要とされるキュアとケアを統合した高度実践看護の技術、特に在宅医療ケア、医療機器、在宅緩和ケア、ペインコントロールについて学修する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. 呼吸管理や輸液管理、疼痛コントロールや高度の創傷ケア、経管栄養など医療的ケアを要する原因疾患の診断のプロセス、検査方法、治療方法、薬物療法、処置等が説明できる。 2. 医療的ケアに関わる医療機器の操作と管理方法に習熟し、療養者・家族への指導ができる。 3. 医療的ケアを要する療養者に対し、在宅療養支援診療所医師との協働など、キュアとケアを統合した高度実践看護の技術を説明できる。				
先修要件	在宅看護CNS選択者のみ受講可				
関連科目	在宅看護学特論Ⅰ、在宅看護学特論Ⅱ、在宅看護学特論Ⅲ				
学修上の注意	地域・在宅・公衆衛生看護学に関連する書籍や論文等から基本知識や動向について学習し臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション(40%)、討議(30%)、レポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 呼吸管理や輸液管理、疼痛コントロールや高度の創傷ケア、経管栄養など医療的ケアを要する原因疾患の診断のプロセス、検査方法、治療方法、薬物療法、処置等が説明できるか。 2. 医療的ケアに関わる医療機器の操作と管理方法に習熟し、療養者・家族への指導ができるか。 3. 医療的ケアを要する療養者に対し、在宅療養支援診療所医師との協働など、キュアとケアを統合した高度実践看護の技術を説明できるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
提示された事例については、授業中にフィードバックならびに協議を行う。 提出されたレポートについては、授業後添削をして返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> 川越正平：在宅医療バイブル第2版-家庭医療学、老年医学、緩和医療学も3領域からアプローチする-、日本医事新報社、2018 永井康徳：たんぼ先生在宅報酬算定マニュアル第7版、日経NP社、2022 石原英樹、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター：在宅酸素療法ケアマニュアル、メディカ出版、2012 日本呼吸器学会：COPD<慢性閉塞性肺疾患>診断と治療のためのガイドライン 第6版、メディカルレビュー社、2020 川口有美子、小長谷百絵：在宅人工呼吸器ケア実践ガイドALS生活支援のための技術・制度・倫理、医歯薬出版株式会社、2016 門川 俊明：レジデントのための血液透析患者マネジメント 第2版、医学書院、2014 森田 達也：緩和ケアレジデントマニュアル 第2版、医学書院、2022 森田 達也：エビデンスからわかる 患者と家族に届く緩和ケア、医学書院、2016 森田 達也：緩和治療薬の考え方、使い方、中外医学社、2021 余宮 きのみ：がん疼痛緩和の薬がわかる本 第2版、医学書院、2016 日本緩和医療学会：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン2020年版、医歯薬出版株式会社、2020 一般社団法人全国訪問看護事業協会：訪問看護が支える在宅ターミナルケア、日本看護協会出版会、2021 日本褥瘡学会：在宅褥瘡テキストブック、照林社、2020 日本褥瘡学会編：褥瘡予防管理ガイドライン(第5版)、照林社、2022 田中マキ子：新 まるわかり褥瘡ケア：新ガイドライン、DESIGN-R2020に基づく、照林社、2022 岡部美保：在宅療養者のスキンケア、日本看護協会出版会、2022 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	連絡先：h.taneichi.uh@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	種市ひろみ	在宅医療の現状 1) 在宅医療を支える制度 2) 在宅医療に関わる診療報酬	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
2	佐野裕子	在宅酸素療法を要する疾患の理解① 1) 高度慢性呼吸不全などの診断のプロセス、検査方法、治療方法、薬物療法、処置等 2) 合併症対処方法	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
3	佐野裕子	在宅酸素療法を要する疾患の理解② 1) H O Tに用いられる機器と管理法 2) 包括的呼吸リハビリテーション	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
4	石垣泰則	在宅人工呼吸療法を要する疾患の理解① 1) 神経難病や神経筋疾患などの診断のプロセス、検査方法、治療方法、薬物療法、処置等 2) 合併症対処方法	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
5	石垣泰則	在宅人工呼吸療法を要する疾患の理解② 1) H M Vおよび在宅N P P Vの操作と管理法 2) 合併症対処方法	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
6	高須二郎	連続携帯式腹膜透析（CAPD）・在宅血液透析（HHD）を要する疾患の理解① 1) 慢性腎臓病（CKD）などの診断のプロセス、検査方法、治療方法、薬物療法、処置等 2) 合併症対処方法	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
7	高須二郎	連続携帯式腹膜透析（CAPD）・在宅血液透析（HHD）を要する疾患の理解② 1) CAPDの操作と管理法 2) 膀胱・腎カテーテルの操作と管理法（清潔間欠導尿、膀胱留置カテーテル、膀胱瘻など）	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
8	篠原真咲	創傷ケアを要する疾患の理解 1) 褥瘡の発生リスクと評価 2) 褥瘡の治療と予防の実際	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
9	宇田川恵司	歯科的治療を要する疾患の理解 1) 口腔の解剖と歯科疾患 2) 口腔ケアの実際	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
10	川越正平	在宅における緩和ケア① 1) がん性疼痛コントロール基本的な考え方 2) 疼痛のアセスメントと除痛の評価方法 3) 鎮痛剤投与の方法（内服、経皮吸収、座薬、持続皮下注射）	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
11	川越正平	在宅における緩和ケア② 1) 基本処方とレスキュードーズの考え方 2) オピオイドの副作用と観察ポイントと対応 3) 在宅ホスピスにおけるペインコントロール実践例	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
12	川越正平	終末期における医師・看護師の役割① 1) 終末期を迎える場に関する意思決定支援 2) 在宅における療養環境調整	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
13	川越正平	終末期における医師・看護師の役割② 1) マンパワーの確保と協力体制の確立 2) Q O Lの追求	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
14	川越正平	終末期における多職種役割③ 1) 緩和ケアの実際 2) グリーフケア	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
15	種市ひろみ	まとめ 在宅医療における高度実践看護師の役割について	演習、討議	各回予習・復習各90分を目安とする

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	在宅看護学特論Ⅴ(訪問看護管理論)	必修・選択	選択
英語科目名	Home Nursing Ⅴ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、菱田一恵※、奥朋子※、上野まり※、岩本大希※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	訪問看護事業所等の開設、効率的な管理・運営についての具体的方策および経営戦略について探求する。同時に訪問看護実践の質改善のための職場環境の整備やスタッフの教育に関する研究的取り組みについて検討する。さらに、地域包括システムにおける訪問看護の役割を広く探求する。 本授業は、ゼミナール方式で行う。地域で生活する多様な健康レベルの人々を支援する看護実践能力、研究能力を高めるため、社会情勢を反映した事例、文献等を使用しながら発表と討議を行う。				
授業の位置づけ	在宅看護CNSコースの必修科目である。在宅看護において必要とされる高度実践看護の技術、特に事業所管理、経営、質評価、人材育成について学修する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. 訪問看護事業所等の開設、効率的な管理・運営についての具体的方策および経営戦略について探求できる。 2. 訪問看護実践の質改善のための職場環境の整備やスタッフの教育に関する研究的取り組みについて検討し、提案できる。 3. 地域包括ケアシステムの現状と課題を踏まえ、在宅看護CNSとしての役割を考察することができる。				
先修要件	在宅看護CNS選択者のみ受講可				
関連科目	在宅看護学特論Ⅰ～Ⅳ				
学修上の注意	地域・在宅・公衆衛生看護学に関連する書籍や論文等から基本知識や動向について学習し臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション(40%)、討議(30%)、レポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	1. 訪問看護事業所等の開設、効率的な管理・運営についての具体的方策および経営戦略について説明することができる 2. 訪問看護実践の質改善のための職場環境の整備やスタッフの教育に関する研究的取り組みを分析することができる 3. 地域包括ケアシステムの現状と課題を踏まえ、在宅看護CNSとしての役割を説明することができる				
試験・課題に対するフィードバック方法					
提示された事例については、授業中にフィードバックならびに協議を行う。 提出されたレポートについては、授業後添削をして返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人日本訪問看護財団(監修)：新版 訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル 第4版、日本看護協会出版会、2021 ・一般社団法人全国訪問看護事業協会(編集)：訪問看護ステーションの開設・運営ガイドブック：ここから始める、メディカ出版、2021 ・一般社団法人 全国訪問看護事業協会(編集)：訪問看護ステーションの災害対策 第2版 追補版 マニュアルの作成と活用、日本看護協会出版会、2021 ・訪問看護BCP研究会編：リソース中心に考える! つくれる! 使える! 訪問看護事業所のBCP(事業継続計画)、日本看護協会出版会、2022 ・宮田 乃有：はじめてみよう訪問看護：カラービジュアルで見てわかる!、メディカ出版、2020 ・中村順子：スタッフを「活かし・育てる」訪問看護管理者の関わり(シリーズ[看護の知])、日本看護協会出版会、2022 ・島内節：現場で使える在宅ケアのアウトカム評価：ケアの質を高めるために、ミネルヴァ書房、2018 ・東京都福祉保健局高齢社会対策部介護保険課：訪問看護OJTマニュアル、2013 ・埼玉県立大学編：新しいIPWを学ぶ：利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携、中央法規出版、2022 ・田城孝雄ほか：地域包括ケアシステムの深化と医療を支えるまちづくり：ソーシャルインクルージョンとSDGs、東京大学出版会、2022 ・荒神 裕之ほか：看護の現場ですぐに役立つ 地域包括ケアのキホン[令和4年診療報酬改定対応第3版]、秀和システム、2022 ・二本立：地域包括ケアと医療・ソーシャルワーク、勁草書房、2019 ・秋山正子：つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア、医学書院、2016 ・全国訪問看護事業協会：訪問看護ステーションにおける 事業所自己評価の ガイドライン 第2版、メディカ出版、2020 ・長江弘子ほか：日本語版オマハシステム・ユーザーズガイドブック、一般社団法人オマハシステムジャパン、2021 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	連絡先：h.taneichi.uh@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				
備考	講義受講、事例検討の発表と討議への積極的な参加と意欲的自主的な学びを期待します。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	奥朋子	訪問看護事業所の管理・運営①：財務管理	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
2	奥朋子	訪問看護事業所の管理・運営②：人材管理	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
3	奥朋子	訪問看護事業所の管理・運営③：情報管理と安全管理	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
4	奥朋子	訪問看護事業所の開設と経営戦略① 訪問看護の市場動向、訪問看護に必要な資金・人材・設備と労務管理、開設までの準備、市町村・都道府県への開設相談、指定申請手続および運営規程等の作成、訪問看護ステーションのPR方法と介護サービス情報の公表方法について学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
5	奥朋子	訪問看護事業所の開設と経営戦略② 訪問看護ステーションの経営、収支予測、経理の基礎知識、税金の基礎知識、訪問看護に関連する介護報酬と診療報酬および公費負担医療制度、訪問看護ステーションの請求事務について理解し、安定した経営を行う方略を学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
6	菱田一恵	在宅看護の効果と研究方法① 在宅看護の効果をもとめるための方略を検討、研究的手法を活用し探求する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
7	菱田一恵	在宅看護の効果と研究方法② 在宅看護の効果測定するための方略を検討、研究的手法を活用し探求する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
8	岩本大希	在宅ケアの質管理①：評価方法 事業所管理者として訪問看護活動を評価する方略として、さまざまな評価方法（記述式、多段階評価方式、チェックリスト方式、数値指標方式）およびドナペディアンの質評価モデルについて学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
9	岩本大希	在宅ケアの質管理②：質管理と質改善 事業所管理者として訪問看護活動の質改善へ向けた質管理の方略として、日本訪問看護財団作成「訪問看護サービス質評価のためのガイドライン」や、利用者満足度調査について学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
10	上野まり	訪問看護事業所における人材育成① 訪問看護におけるOJT(On the job training)について、その目的と意義、指導者の役割、機会、同行訪問について学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
11	上野まり	訪問看護事業所における人材育成② 新任訪問看護師へのOJTとして、新任訪問看護師へ求められる能力、レベルアップの過程、進め方について学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
12	上野まり	訪問看護事業所における人材育成③ 職員の定着、成長を促すためのOJTの実践事例について討論する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
13	種市ひろみ	地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割① 療養通所介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能型居宅介護など多機能化する訪問看護ステーションが、地域包括ケアシステムにおいて担う役割について学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
14	種市ひろみ	地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割① 医療機関や関係施設との連携および他の介護サービス提供者あるいは地域コミュニティとの連携をとおして、地域の看護サービスの拠点として訪問看護事業所が担う役割を發揮するための方略について討論する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
15	種市ひろみ	本科目のまとめ	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	在宅看護学実習 I (在宅ケアマネジメント実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Home care Nursing Practice I	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	2単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、佐藤知子※、菱田一恵※、松浦志野※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	本実習では、在宅看護実践の開始前に関わる医療機関の退院支援部門にて実習し、入院前・入院後・退院時の在宅移行準備の実際を体験し、その後の在宅看護の実践までを体系的に学ぶ。これにより、在宅看護を必要とする療養者・家族への支援を系統的・包括的にとらえるための視点を養う。さらに医療的ケアを要する事例や終末期ケアを要する事例の入院前から入院直後、退院前、在宅看護までの支援に関わる在宅医療チームとの連携・協働を体系的に学び、実践能力を習得する。本実習では、CNSが備えるべき6つの能力のうち、多職種との「連携調整」を中心に「相談」・「倫理的問題の調整」等の分野について学習する。				
授業の位置づけ	在宅看護CNSコースの必修科目である。在宅看護専門看護師として活動している実習指導者をモデルとして、実際の訪問看護提供事例を受け持ち、実習指導者とともに行動し看護活動を展開することで、在宅看護専門看護師に必要な実践能力を理解し実践できる能力を獲得する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・家族を対象とする退院支援・在宅移行準備の実際を体験し、その後の在宅看護の実践までを系統的に理解し、説明できる。 2. 在宅療養支援と退院支援のための法制度を理解し、活用できる。 3. 在宅療養開始に至るまでの患者・家族の戸惑いや心理的葛藤を知り、対象への働きかけや心理的な支援について学び、実践できる。 4. 医療的ケアを要する事例や終末期ケアを要する事例の退院支援・在宅移行支援を体験し、地域の在宅医療チームとの連携・協働を実践できる。 				
先修要件	在宅看護CNSコース選択者のみ受講可				
関連科目	在宅看護学特論 I～V、演習（在宅看護CNS）				
学修上の注意	関連する書籍や論文等から基本知識や動向について学習し臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	実習の事前準備の段階から、実習計画の作成（10%）実習態度（10%）実習成果の発表（20%）実習目標の達成度（60%）を目安として実習終了までの全過程を通じて総合的に評価する				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・家族を対象とする退院支援・在宅移行準備、その後の在宅看護の実践までを系統的に説明できるか。 2. 在宅療養支援と退院支援のための法制度を理解し、活用できるか。 3. 在宅療養開始に至るまでの患者・家族の戸惑いや心理的葛藤に対する働きかけや心理的な支援について実践できるか。 4. 医療的ケアを要する事例や終末期ケアを要する事例の退院支援・在宅移行支援について説明し、地域の在宅医療チームとの連携・協働を実践できるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習中必要に応じ、実習指導者と共に実習の進捗状況についてカンファレンスを行う。 実習成果についてレポート作成指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
適宜紹介する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	連絡先：h.taneichi.uh@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				
備考	実習指導者と共に行動しながら、実習への取り組みは主体的に進め、学修を深めるための討論を積極的に活用することを期待する				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
2週間	種市ひろみ 佐藤知子 菱田一恵 松浦志野	<p>1. 実習期間：2週間</p> <p>2. 実習施設：医療機関の病棟及び退院支援部門</p> <p>3. 実習内容</p> <p>1) 事前調整</p> <p>実習計画を立案し、実習施設の指導者に相談して調整し、実習計画を完成させて実習に臨む</p> <p>(1) 事例：医療的ケアあるいは終末期ケアを要し、外部の訪問看護ステーションおよび在宅療養支援診療所と連携する事例の選定を依頼する。</p> <p>(2) 実習計画立案：事例に即した計画を立案し、指導者の助言を受け、修正する。</p> <p>2) 臨地実習</p> <p>実習施設の状況に応じた実習を行う。</p> <p>(1) 受け持ち事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者と共に調整依頼のあった事例の面接に参加する。 ・指導者と共に、退院調整会議等に参加し、医師、看護師、患者・家族と討議し退院の課題を明確にする。 ・退院支援計画を立案し、指導者より指導を受ける。 ・病室訪問にて退院前の患者・家族の不安や動揺への対応、退院までの日程と準備について話し合う。 ・関係機関への連絡や退院調整会議の招集及び実施する。 ・退院準備を実施する。 ・医療機関からの退院前訪問等に参加する。 ・医療機関からの退院後の訪問看護に参加する。 <p>(2) 病棟及び退院支援部門等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退院支援に関わるカンファレンス等に参加する。 ・他職種・他部門との連携の場に参加する。 ・地域の在宅療養支援チームなどと連携する在宅移行支援の場に参加する。 <p>3) ディスカッション</p> <p>学生は実習中、指導者とディスカッションする時間を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の体験を整理し、発表する。 ・専門看護師としての知識や技術がどのように活かされているのかをまとめる。 <p>4) カンファレンス</p> <p>学生は、主体的に中間及び最終カンファレンスを企画・調整する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習目標の達成度・課題、専門看護師としての能力の理解・修得状況、事例を通しての学び等を発表する。 	実習・発表・討議	<p>予習：実習施設の特徴、入退院支援に関わる制度、専門職等についてまとめる。</p> <p>実習計画書の作成 (2時間)</p> <p>復習：実習記録の作成 実習後レポートの作成 (2時間)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	在宅看護学実習Ⅱ(在宅高度実践看護実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Home care Nursing Practice II	対象学年	2年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	6単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、渡邊美也子※ 佐藤直子※、小泉未央※ 菱田一恵※ 松浦志野※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	本実習では、1. 医療的ケアの必要な療養者を受け持ち、退院準備から在宅療養導入期、安定期を通して看護実践を展開すること、2. 終末期ケアの必要な療養者を受け持ち、退院準備から在宅療養導入期、看取り期、グリーフケアまでの過程を通して、主体的に在宅看護を展開実践する。この実習を通じて、CNSが備えるべき6つの能力のうち、「卓越した実践能力」と「連携調整」・「倫理的課題の調整」を中心に「教育」や「相談」の機能、「研究」的視座をもって看護実践を評価するための方法について学修する。				
授業の位置づけ	在宅看護CNSコースの必修科目である。在宅看護専門看護師として活動している実習指導者をモデルとして、実際の訪問看護提供事例を受け持ち、実習指導者とともに行動し看護活動を展開することで、在宅看護専門看護師に必要な実践能力を理解し実践できる能力を獲得する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1. 医療的ケアの必要な療養者を受け持ち、退院準備から在宅療養導入期、安定期を通して看護実践を展開できる。 2. 終末期ケアの必要な療養者を受け持ち、退院準備から在宅療養導入期、看取り期、グリーフケアまでの過程を通して、主体的に在宅看護を展開できる。 3. 地域の在宅療養支援診療所が提供する訪問診療に同行あるいは同席し、在宅療養支援チームの活動とその連携を看護の視点から考察できる。				
先修要件	在宅看護CNSコース選択者のみ受講可				
関連科目	在宅看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(在宅看護CNS)				
学修上の注意	関連する書籍や論文等から基本知識や動向について学習し臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	実習の事前準備の段階から、実習計画の作成(10%)実習態度(10%)実習成果の発表(20%)実習目標の達成度(60%)を目安として実習終了までの全過程を通じて総合的に評価する				
評価基準	1. 医療的ケアの必要な療養者を受け持ち、退院準備から在宅療養導入期、安定期を通して看護実践を展開できるか 2. 終末期ケアの必要な療養者を受け持ち、退院準備から在宅療養導入期、看取り期、グリーフケアまでの過程を通して、主体的に在宅看護を展開できるか 3. 地域の在宅療養支援診療所が提供する訪問診療に同行あるいは同席し、在宅療養支援チームの活動とその連携を看護の視点から考察できるか				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習中必要に応じ、実習指導者と共に実習の進捗状況についてカンファレンスを行う。 実習成果についてレポート作成指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
適宜紹介する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	連絡先:h.taneichi.uh@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				
備考	実習指導者と共に行動しながら、実習への取り組みは主体的に進め、学修を深めるための討論を積極的に活用することを期待する				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
6週間	種市ひろみ※ 渡邊美也子※ 佐藤直子※ 小泉未央※ 菱田一恵※ 松浦志野※	<p>1. 実習期間：6週間</p> <p>2. 実習施設：訪問看護ステーション</p> <p>3. 実習内容</p> <p>1) 事前調整</p> <p>実習計画を立案し、実習施設の指導者に相談して調整し、実習計画を完成させて実習に臨む。</p> <p>(1) 事例：医療的ケアあるいは終末期ケアを要する事例の選定を依頼する。</p> <p>(2) 実習計画立案：事例に即した計画を立案し、指導者の助言を受け、修正する。</p> <p>2) 臨地実習</p> <p>実習施設の状態に応じた実習を行う。</p> <p>受け持ち事例について、看護過程を展開し、援助の実施・評価までの過程を、指導を受けながら主体的に展開・評価する。</p> <p>(1) 医療依存度の高い事例に関する実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養者・家族の在宅療養への適応を支援する。 ・レスパイト入院中の事例の病室を訪問し、入院生活への適応を支援する。 ・レスパイト入院からの帰宅準備を病棟スタッフとともに検討・支援する。 ・療養者の身体状況を、病態生理学をもとに医学的根拠を明確にして評価する。 ・地域の在宅療養支援診療所が提供する訪問診療に同行あるいは同席し、療養者の情報提供や職種間調整を行う。 <p>(2) 終末期ケアの必要な事例に関する実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養者と家族が望む形で臨終を迎えられるように訪問診療医と臨終準備のための詳細を検討する。 ・家族の不安を軽減するための働きかけを検討する。 ・フィジカルアセスメントの技術を活用して、病態生理学をもとに医学的根拠を明確にして評価する。 ・地域の在宅療養支援診療所が提供する訪問診療に同行あるいは同席し、療養者についての情報提供や職種間調整を行う。 <p>(3) その他の実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要時は服薬調整について在宅診療担当医と相談する。 ・家族の介護力が不足している事例を訪問し、必要な人的資源の導入について指導者とともに検討する。 ・療養者と家族介護者間の関係調整が必要な事例を訪問し、関係者との協議で行う対応に参加する。 ・医療ケアや終末期ケアを要する事例の訪問診療に同席し、訪問診療医とのカンファレンスに参加する。 ・ステーション内外で行われる困難事例検討会に参加する。スタッフナースが対応策を見いだせない場合は指導・教育的役割を果たす。 ・看護学部生の実習指導場面に参加する。 ・実習施設の看護研究グループの活動に参加し、管理者の教育・指導の実際を学ぶ。 ・地域の在宅ケアを考える会等に参加し、地域連携システム作りについての検討に参加する。 ・必要に応じて、ステーションスタッフを対象に勉強会等を企画し、指導的役割を受け持つ。 ・ステーションの若手スタッフとの同伴訪問で、看護実践の指導を受け持つ。 <p>(4) ディスカッション</p> <p>学生は実習中、指導者とディスカッションする時間を設け、当日学んだ6つの能力の具体的内容を提示し、指導者の助言を得る。</p> <p>(5) カンファレンス</p> <p>学生は、主体的に中間及び最終カンファレンスを企画・調整する。</p>	訪問看護ステーションでの臨地実習	<p>予習：終末期及び医療的ケアについて、病態・治療、関連制度等、今までの学修をまとめる。事前実習計画書の作成(2時間)</p> <p>復習：実習記録の作成 実習後レポートの作成(2時間)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	在宅看護学実習Ⅲ(訪問看護管理実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Home care Nursing Practice III	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	2単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、奥朋子※、菱田一恵※、松浦志野※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	本実習では、訪問看護事業所等の開設、効率的な管理・運営についての具体的方策および経営戦略について、訪問看護ステーションの管理者あるいは卓越した能力と経験を有する訪問看護師の指導のもと、専門看護師の役割（卓越した看護実践、相談、研究、連携調整、倫理的調整、ケアスタッフの教育研究）発揮の方略を修得する。また、訪問看護実践の質改善のための職場環境の整備、運営改善の方法を修得する。さらに、地域包括システムにおける専門看護師の役割発揮の方略を修得する。				
授業の位置づけ	在宅看護CNSコースの必修科目である。専門看護師として活動している実習指導者をモデルとして、実際の訪問看護提供事例を受け持ち、実習指導者とともに行動し看護活動を展開することで、専門看護師に必要な実践能力を理解し実践できる能力を獲得する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1. 訪問看護事業所等の開設、効率的な管理・運営についての具体的方策および経営戦略について具体的な実践方法を修得する。 2. 訪問看護実践の質改善のための職場環境の整備やスタッフの教育に関する研究的取り組みについて、具体的な実践方法を修得する。 3. 地域包括ケアシステムの現状と課題を踏まえ、在宅看護CNSとしての役割を考え、訪問看護管理に活用できる能力を身につける。				
先修要件	在宅看護CNS選択の学生のみ受講可				
関連科目	在宅看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習（在宅看護CNS）				
学修上の注意	関連する書籍や論文等から基本知識や動向について学習し臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	実習の事前準備の段階から、実習計画の作成（10%）実習態度（10%）実習成果の発表（20%）実習目標の達成度（60%）を目安として実習終了までの全過程を通じて総合的に評価する。				
評価基準	1. 訪問看護事業所等の開設、効率的な管理・運営についての具体的方策および経営戦略について具体的な実践方法を修得できたか。 2. 訪問看護実践の質改善のための職場環境の整備やスタッフの教育に関する研究的取り組みについて、具体的な実践方法を修得できたか。 3. 地域包括ケアシステムの現状と課題を踏まえ、在宅看護CNSとしての役割を考え、訪問看護管理に活用できる能力を身につけることができたか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
実習中必要に応じ、実習指導者と共に実習の進捗状況についてカンファレンスを行う。 実習成果についてレポート作成指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
適宜紹介する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	連絡先：h.taneichi.uh@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				
備考	実習指導者と共に行動しながら、実習への取り組みは主体的に進め、学修を深めるための討論を積極的に活用することを期待する				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
2週間	種市ひろみ※ 奥朋子※ 菱田一恵※ 松浦志野※	<p>1. 実習期間 2週間</p> <p>2. 実習施設 訪問看護ステーション</p> <p>3. 実習内容</p> <p>1) 訪問看護事業所の開設と経営戦略の戦略について、管理者の実践を知りその方法を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の市場動向、訪問看護に必要な資金・人材・設備と労務管理、開設までの準備、市町村・都道府県への開設相談、指定申請手続および運営規程等の作成、訪問看護ステーションのPR方法と介護サービス情報の公表方法について、学生の住所地で開設すると仮定して計画を立案する。 ・訪問看護ステーションの経営、収支予測、経理の基礎知識、税金の基礎知識、訪問看護に関連する介護報酬と診療報酬および公費負担医療制度、訪問看護ステーションの請求事務について、実習先事業所の具体的方法を知り、学生の住所地で安定した経営を行うための計画を立案する。 <p>2) 在宅ケアの質管理について、管理者の実践を知りその方法を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先事業所の管理者が訪問看護活動を評価する方略を知り、学生が主体的にさまざまな評価方法（記述式、多段階評価方式、チェックリスト方式、数値指標方式）およびドナベディアンの質評価モデルを使用し、質の評価に関わる。 ・実習先事業所の管理者が実践している訪問看護活動の質改善へ向けた質管理の方略を知り、学生が主体的に、日本訪問看護財団作成「訪問看護サービス質評価のためのガイドライン」や、利用者満足度調査を実施する。 <p>3) 訪問看護事業所における人材育成について、管理者の実践を知りその方法を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護におけるOJT(On the job training)について、その目的と意義、指導者の役割、機会、同行訪問について、実習先事業所の具体的方法を知りその方法を修得する。 ・新任訪問看護師へのOJTとして、新任訪問看護師へ求められる能力、レベルアップの過程、進め方について、実習先事業所の具体的方法を知りその方法を修得する。 <p>4) 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割発揮の方略について、管理者の実践を知りその方法を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養通所介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、看護小規模多機能型居宅介護など多機能化する訪問看護ステーションが、地域包括ケアシステムにおいて担う役割を發揮するための方略について、管理者の実践を知りその方法を修得する。 ・医療機関や関係施設との連携および他の介護サービス提供者あるいは地域コミュニティとの連携をとおして、地域の看護サービスの拠点として訪問看護事業所が担う役割を發揮するための方略について、管理者の実践を知りその方法を修得する。 <p>5) 学生は実習した内容をプレゼンテーションし、教員、実習指導者、施設のスタッフを含めて討議する。</p> <p>6) 1)～5)までの内容をまとめて、レポートする。</p> <p>7) ディスカッション 学生は実習中、指導者とディスカッションする時間を設け、当日学んだ6つの能力の具体的内容を提示し、指導者の助言を得る。</p> <p>8) カンファレンス 学生は、主体的に中間及び最終カンファレンスを企画・調整する。実習目標の達成度・課題、専門看護師としての能力の理解・修得状況、事例を通しての学び等を発表する。</p>	実習 発表 討議	<p>予習：既習の訪問看護事業所等の開設、効率的な管理・運営、訪問看護実践の質改善に関わる資料、地域包括ケアシステムに関わる資料を確認する。事前実習計画書の作成（2時間）</p> <p>復習：実習記録の作成 実習後レポートの作成（2時間）</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	精神看護学特論Ⅰ(精神医療福祉論)	必修・選択	選択
英語科目名	Psychiatric and Mental Health NursingⅠ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、阿部美香※、中野真樹子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	精神障害者の処遇の歴史、精神医療福祉の法制度の変遷について理解を深め、精神科における倫理的問題と人権擁護、法規と精神医療福祉施策を学修し、課題を検討する。また、地域精神看護専門看護師の活動を知り、医療と福祉の連携、精神看護専門看護師の役割と可能性について討議する。				
授業の位置づけ	日本と諸外国の精神医療福祉と施策の比較を通して、現状と課題を把握し、入院医療から地域ケアの移行、地域定着支援・精神疾患患者のリカバリーの促進に求められることと精神看護専門看護師の役割を学修する。精神看護学特論4(援助支援論)、演習(精神看護CNS)、精神看護学実習1(役割実習)の基礎となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の精神保健医療福祉の施策の歴史の変遷を説明できる。 2. 地域精神医療福祉の現状と課題を明確にできる。 3. 精神科臨床における倫理的問題と人権擁護について理解できる。 4. リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメントの概念を説明できる。 5. 精神看護専門看護師の活動の実際から、地域精神看護において求められる卓越した看護実践を明らかにできる。 				
先修要件	なし				
関連科目	精神看護学特論4(援助支援論)、演習(精神看護CNS)、精神看護学実習1(役割実習)				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療福祉の歴史と処遇の変遷、倫理的問題についてまとめ、人権擁護のあり方について自分の考えを明確にしておく。 2. 医学モデルとリカバリーモデルの相違について文献を通して整理しておく。 3. 地域精神保健医療福祉と看護実践の課題について整理しておく。 <p>※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーションと討議の内容80%、見学実習のレポート20%を総合評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の精神保健医療福祉の施策の歴史の変遷を説明できる。 2. 地域精神医療福祉の現状と課題を明確にできる。 3. 精神科臨床における倫理的問題と人権擁護について理解できる。 4. リカバリー、ストレングスモデル、エンパワメントの概念を説明できる。 5. 精神看護専門看護師の活動の実際から、地域精神看護において求められる卓越した看護実践を明らかにできる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションについては、講義終了時にコメントをする。 ・課題レポートについては1週間以内にフィードバックする。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
1.	みるよむわかる精神医学入門	ニール・パートン著、朝田隆監訳	医学書院	978-4-260-02029-9	
2.	こころの回復を支える精神障害リハビリテーション	池淵恵美	医学書院	978-4-260-03879-9	
3.	標準精神医学第8版	尾崎紀夫他編	医学書院	978-4-260-04291-8	
4.	100分de名著中井久夫スペシャル	斎藤環	NHK出版	978-4-14-223146-1	
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 池淵恵美：こころの回復を支える精神障害リハビリテーション、医学書院、2019。 2. W. アンソニーほか著、野中猛ほか監訳：精神科リハビリテーション第2版、三輪書店、2012。 3. 田中英樹、精神障害者支援の思想と戦略-QOLからHOLへ、金剛出版、2019。 4. 石原孝二編：当事者研究の研究、医学書院、2013。 5. 齋藤正彦：都立松沢病院の挑戦 人生100年時代の精神医療、岩波書店、2020。 6. 中根允文：精神疾患とQOL、メディカルサイエンスインターナショナル、2002。 7. 内閣府：障害者白書、最新版。 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問や相談については、随時メールで受けつける。 科目責任者 e.mizuno.iz@juntendo.ac.jp				
備考	<p>開講日：火曜5限、外部施設見学日は後日決める 講義場所：浦安キャンパス 第13-15回 地域精神医療福祉施設の参加観察と講義では以下を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療福祉施設における精神看護専門看護師の実践を知る。 2. 精神看護専門看護師の役割と課題を知り、今後期待される機能について考察する。 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 (4/9 ・5 限)	水野恵理子	精神医療福祉の概要と課題 ・昨今の精神疾患患者数、有病率の動向など 精神看護とは	講義、討議	予習：日本の精神医療福祉の概要を調べておく。(学習時間90分) 復習：精神医療福祉の現状と課題を整理する。(学習時間90分)
2 (4/16 ・5 限)	阿部美香	現代社会のメンタルヘルス ・社会情勢、経済状況、COVID-19がメンタルヘルスにもたらす影響 ・メンタルヘルス対策	講義、討議	予習：現代社会の様相がメンタルヘルスに及ぼす影響、コロナ禍の精神医療福祉の状況について調べておく。(学習時間90分) 復習：コロナ禍のメンタルヘルス対策について考察する。(学習時間90分)
3 (4/23 ・5 限)	水野恵理子	諸外国の精神医療福祉の歴史	講義、討議	予習：諸外国の精神医療の歴史の変遷について調べておく。(学習時間90分) 復習：諸外国の精神医療福祉の課題を挙げて対応策を考察する。(学習時間90分)
4 (4/30 ・5 限)	阿部美香	日本の精神医療福祉の歴史	講義、討議	予習：日本の精神医療福祉の歴史について調べておく。(学習時間90分) 復習：日本の精神医療福祉の課題を挙げて対応策を考察する。(学習時間90分)
5 (5/7 ・5 限)	水野恵理子	精神医療福祉の法制度の変遷と課題	講義、討議	予習：精神保健福祉法、障害者総合支援法、医療観察法について調べておく。(学習時間90分) 復習：各法律の対象と目的を倫理的問題と絡めて整理しておく。(学習時間90分)
6 (5/14 ・5 限)	水野恵理子	精神医療福祉の倫理、スティグマ	講義、討議	予習：精神医療福祉におけるスティグマ、セルフスティグマについて調べておく。(学習時間90分) 復習：精神医療福祉の現場における倫理的問題と人権擁護、看護師に求められる倫理的態度を考察する。(学習時間90分)
7 (5/21 ・5 限)	水野恵理子	精神疾患患者・障害者のQOLとリカバリー	講義、討議	予習：QOLの概念、精神疾患患者・障害者と家族のQOL、精神疾患のリカバリーについて調べておく。(学習時間90分) 復習：精神医療福祉におけるQOLとリカバリー支援について整理しておく。(学習時間90分)
8 (5/28 ・5 限)	水野恵理子	精神疾患と治療文化	講義、討議	予習：多様な文化圏における精神疾患の意味づけや治療文化について調べておく。(学習時間90分) 復習：社会における精神疾患と精神障害者を理解するために必要なことを整理しておく。(学習時間90分)
9 (6/4 ・5 限)	水野恵理子	地域精神医療福祉1: ストレngthモデル、エンパワメント、自助グループ、ピアサポート	プレゼンテーション、討議	予習：ストレngthモデル、エンパワメント、自助グループの歴史、ピアサポートの制度と役割について調べておく。(学習時間90分) 復習：ストレngthに注目した支援、自助グループの課題と期待、ピアサポートの発展に必要なことを考察する。(学習時間90分)
10 (6/11 ・5 限)	水野恵理子	地域精神医療福祉2: 精神科デイケア、精神科外来、ACT、就労支援	プレゼンテーション、討議	予習：ACTと精神障害者の就労状況について調べておく。(学習時間90分) 復習：精神科デイケア、精神科外来、ACTの課題、精神障害者の就労定着に必要な支援について考察する。(学習時間90分)
11 (6/18 ・5 限)	水野恵理子	地域精神医療福祉3: 学校精神保健、産業精神保健	講義、討議	予習：子どもの精神保健、職域の精神保健について調べておく。(学習時間90分) 復習：学校と職域の精神保健上の問題と課題を明らかにし、対応策を考察する。(学習時間90分)

12 (6/25 ・5 限)	水野恵理子	精神科リハビリテーションと看護	講義、討議	予習：精神科リハビリテーションの概念について調べておく。(学習時間90分) 復習：精神科リハビリテーションにおける看護実践について考察する。(学習時間90分)
13-15 (未 定)	中野眞樹子	地域精神医療福祉の実際：精神医療福祉施設における精神看護専門看護師の役割と活動を知る。	講義と見学実習	予習：精神科における予防の概念、地域精神看護、認知行動療法(CBT)、心理教育について調べておく。(学習時間120分) 復習：精神看護専門看護師の役割、地域精神医療福祉における実践の可能性について考察する。レポートを作成する。(学習時間120分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	精神看護学特論Ⅱ(精神評価方法論)	必修・選択	選択
英語科目名	Psychiatric and Mental Health Nursing II	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、大島泰子※、柴田展人※、鈴木利人※、黄田常嘉※、伊藤賢伸※、上野恭子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	精神機能ならびに人格水準の評価に必要な精神力動理論、人間発達論、レジリエンスモデルなどの基盤となる理論を習得する。さらに精神医学モデルに則り、精神科診断学や精神科臨床検査学の知識を学習し、様々な状態にある人間の精神や問題行動、家族の病理について諸理論を用いて総合的に評価をする知識を得る。			
授業の位置づけ	精神看護CNSが対象の精神状態の評価や診立てを行う際に必要な基礎的知識や最新の精神医学的知識、人間の精神に関する諸理論を学ぶものであり、臨地での活動における思考と判断の基盤となるものである。精神看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)と精神看護学実習Ⅲ(統合実習)において、この科目での学修内容を応用する方法を学び、理解を深めることになる。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力			
到達目標	1. 精神力動論と人間発達論の主要概念を説明できる。 2. 人格水準を評価するために諸理論やモデルをどのように用いるかを説明できる。 3. 組織を評価するための理論について説明できる。			
先修要件	なし			
関連科目	精神看護学特論Ⅳ、精神看護学特論Ⅴ、演習(精神看護CNS)、精神看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)、精神看護学実習Ⅲ(統合実習)			
学修上の注意	なし			
成績評価の方法				
評価方法	事前課題/予習の完成度 20%、プレゼンテーションの内容 60%、ディスカッションでの貢献度 20%を総合評価する			
評価基準	1. 精神力動論と人間発達論の主要概念を説明できる。 2. 人格水準を評価するために諸理論やモデルをどのように用いるかが説明できる。 3. 組織を評価するための理論について説明できる。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
各担当者より指示する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
1. 改訂精神分析的な人格理論の基礎	馬場禮子	岩崎学術出版社	978-4-7533-1104-0	
2. 新訂方法としての面接 臨床家になるために	土居健郎	医学書院	978-4-260-11769-2	
3. 精神科臨床とは何か 日々新たなる経験のために	内海健	星和書店	978-4-7911-0567-0	
4. アイデンティティとライフサイクル	EHエリクソン著、西平直ほか訳	誠信書房	978-4-414-41444-8	
5. リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために、2014	野末聖香編	医歯薬出版	978-4-263-23450-1	
参考文献				
1. 北村俊則: 精神・心理症状学ハンドブック第4版, 日本評論社, 2022. 2. 尾崎紀夫ほか編: 標準精神医学第8版, 医学書院, 2021. 3. 服部祥子: 生涯人間発達論第3版, 医学書院, 2020. 4. 神谷美恵子: こころの旅, 日本評論社, 2016. 5. APA編, 高橋三郎他監訳, DSM5-TR精神疾患の分類と診断の手引, 医学書院, 2023. 6. ヴォルフラム・シュツェル編, 橋爪誠訳: 健康生成論の理論と実際, 三輪書店, 2004. 7. 水野恵理子, 上野恭子編著, 看護学生のための精神看護技術, サイオ出版, 2023.				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については、随時メールで受けつける。 科目責任者 e.mizuno.iz@juntendo.ac.jp			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・開講曜日は火曜日6限、場所は浦安キャンパス。 ・非常勤講師の授業は日時と場所が異なる場合があるので注意する。 ・柴田先生の授業は江東高齢者医療センターで実施する。 ・鈴木先生の授業はウィメンズヘルス看護学分野と合同に行う。 ・黄田先生の授業はスポーツ健康科学部大学院と合同に行う。 			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 (4/9 ・6 限)	水野恵理子	精神の構造と機能	講義、討議	予習：テキスト1と参考文献7の該当箇所を熟読しておく。(学習時間120分) 復習：身近な人の言動を観察し、理論と照合しながら理解を深める。(学習時間90分)
2 (4/16 ・6 限)	水野恵理子	精神力動理論 自我機能、局所論、構造論	講義、討議	予習：テキスト1と参考文献7の該当箇所を熟読しておく。(学習時間60分) 復習：身近な人の言動を観察し、理論と照合しながら理解を深める。(学習時間90分)
3 (4/23 ・6 限)	水野恵理子	防衛機制、コーピング	プレゼンテーション、討議	予習：テキスト1を熟読しておく。臨床における対象の防衛機制とその対応についてまとめておく。(学習時間60分) 復習：身近な人や自身の言動を振り返り、防衛機制と照合しながら理解を深める。(学習時間90分)
4 (4/30 ・6 限)	水野恵理子	精神力動理論による事例分析	プレゼンテーション、討議	予習：今までの授業内容を確認する。事例を用意し、対象の言動を精神力動理論を用いて分析しプレゼンテーションの準備をする。(学習時間120分) 復習：人の言動を精神力動理論でどのように解釈できるか整理する。(学習時間90分)
5 (5/7 ・6 限)	水野恵理子	心理社会的成長発達 E.H.エリクソンの人間発達理論 1 誕生～青年期	講義、討議	予習：テキスト4を熟読しておく。(学習時間120分) 復習：乳児期から青年期の言動を観察し、理論と照合しながら理解を深める。(学習時間90分)
6 (5/14 ・6 限)	水野恵理子	心理社会的成長発達 E.H.エリクソンの人間発達理論 2 成人期～老年期	講義、討議	予習：テキスト4を熟読しておく。(学習時間120分) 復習：成人期から老年期の言動を観察し、理論と照合しながら理解を深める。(学習時間90分)
7 (5/21 ・4 限)	上野恭子	人格水準の査定法	プレゼンテーション、討議	予習：精神力動理論と人間発達理論を復習しておく。模擬患者の日常生活または療養中の言動を詳細にまとめ、2つの理論で分析し、プレゼンテーションの準備をしておく。(学習時間120分) 復習：精神力動理論と人間発達理論について実際に使いこなせるよう理解を深める。(学習時間120分)
8 (5/28 ・6 限)	水野恵理子	精神科における面接と看護面接	講義、討議	予習：テキスト2とテキスト5の該当箇所を熟読しておく。(学習時間90分) 復習：授業内容の理解を深める。(学習時間90分)
9 (6/4 ・6限 zoom)	伊藤賢伸	精神疾患の病態・精神状態の検査と診断1: 成人期の精神疾患	講義、討議	予習：成人期の精神疾患、症状と経過、診断基準、治療法について学習しておく。(学習時間90分) 復習：授業内容の理解を深める。(学習時間90分)
10 (6/11 ・18:20- 20:00 zoom)	黄田常嘉	精神疾患の病態・精神状態の検査と診断2: 児童・思春期の精神医学	講義、討議	予習：児童・思春期の精神疾患、症状や経過、診断基準、治療法について学習しておく。(学習時間2時間) 復習：授業内容の理解を深める。(学習時間90分)
11 (6/18 ・6限 zoom)	鈴木利人	精神疾患の病態・精神状態の検査と診断3: 妊娠・産後期女性の精神疾患、産後期メンタルヘルスにおける自殺予防	講義、討議	予習：産後期の精神疾患、症状や経過、診断基準、治療法について学習しておく。(学習時間90分) 復習：授業内容の理解を深める。(学習時間90分)
12 (6/25 ・6 限)	大島泰子	精神状態の査定 (MSE)	講義、討議	予習：精神状態の査定法について調べておく。(学習時間90分) 復習：各尺度や質問紙の使用の適用性と用法について理解を深める。(学習時間90分)

13 (7/2・6限)	水野恵理子	レジリエンスとストレス	講義、討議	予習：レジリエンス、ストレス対処について調べておく。(学習時間90分) 復習：精神科におけるレジリエンスとストレスの関係についての理解を深める。(学習時間90分)
14 (7/9・6限)	水野恵理子	精神科臨床における首尾一貫感覚(SOC)とストレス	講義、プレゼンテーション、討議	予習：参考文献6と首尾一貫感覚Sense of Cpharence について調べておく。(学習時間90分) 復習：精神科におけるSOC概念とストレスに関する理解を深める。(学習時間90分)
15 (9/5・木 13:30～) 順天堂江東高齢者医療センター	柴田展人	精神疾患の病態・精神状態の検査と診断 4: 老年期の精神疾患、検査、診断、治療	順天堂江東高齢者医療センターにおいてチャート回診とラウンドに参加する。	予習：老年期の代表的な精神疾患、症状や経過、診断基準、治療法について学習しておく。(学習時間90分) 復習：授業内容の理解を深める。(学習時間90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	精神看護学特論Ⅲ(治療方法論)	必修・選択	選択
英語科目名	Psychiatric and Mental Health NursingⅢ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、大島泰子※、阿部美香※、垣内千尋※、勝田成昌※、杉野里美※、上野恭子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	精神看護専門看護師が行う治療法として、以下の内容の基本理論と技法について理解する。 1) ストレス学説 2) 危機介入 3) 支持的精神療法 4) 精神科薬物療法の基本 5) 集団力動論 6) 心理教育 7) 認知行動療法 8) アンガーマネジメント、アサーション 9) 芸術療法 精神症状のコントロールやマネジメントに関する研究論文を検索し、その内容を基に討議する。				
授業の位置づけ	精神科臨床における症状コントロールやマネジメントを行う際の基礎的知識、専門的スキルを身につける。精神看護学特論Ⅳ、精神看護学特論Ⅴの基盤的知識となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. 各種精神療法の基盤となる理論の概要を説明できる。 2. 各種精神療法の特徴ならびに適用と技法の原則について説明できる。 3. 代表的な向精神薬の作用機序ならびに主作用と副作用について説明できる。 4. リラクセーションの作用機序と適応、方法について説明できる。				
先修要件	なし				
関連科目	精神看護学特論Ⅱ、精神看護学特論Ⅳ、精神看護学特論Ⅴ、演習(精神看護CNS)、精神看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)、精神看護学実習Ⅲ(統合実習)				
学修上の注意	必要時、各担当者より指示する。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーションの内容70%、討議への貢献度30%を総合評価する。				
評価基準	1. 各種精神療法の基盤となる理論の概要を説明できる。 2. 各種精神療法の特徴ならびに適用と技法の原則について説明できる。 3. 代表的な向精神薬の作用機序ならびに主作用と副作用について説明できる。 4. リラクセーションの作用機序と適応、方法について説明できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーションごとに不足した知識や説明を加える					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
1.	支持的精神療法入門	Aウィンストンほか著、山藤奈穂子ほか訳	星和書店	978-4-7911-0720-9	
2.	今日の治療薬(最新版)		南江堂		
3.	精神科治療技法の上手な使い方	中河原通夫ほか	金剛出版	4-7724-0865-7	
4.	症例でわかる精神病理学	松本卓也	誠信書房	978-4-414-41644-2	
参考文献					
1. 中井久夫: 新版精神科治療の覚書, 日本評論社, 2014. 2. 馬場禮子: 精神分析的な心理療法の実践, 岩崎学術出版社, 2020. 3. Stephen, M. S., 仙波純一ほか監訳: ストール精神薬学エッセンシャルズ 神経科学的基礎と応用 第4版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2015. 4. 平木典子: 三訂版アサーション・トレーニング さわやかな自己表現のために, 日本・精神技術研究所, 2021. 5. 日本精神神経薬理学会: 統合失調症薬物治療ガイドライン, 2022.					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については、随時メールで受けつける。 科目責任者 e.mizuno.iz@juntendo.ac.jp				
備考	・開講曜日は木曜4限、浦安キャンパスで行う。 ・外部講師の授業は日時と場所が異なる場合があるので注意。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1 (4/11 ・4 限)	水野恵理子	ストレス学説、ストレス-コーピング、ストレスマネジメント	講義、討議	予習：ストレス学説、コーピング、ストレスマネジメントについて整理しておく。(学習時間90分) 復習：ストレス学説とコーピングの理解を深める。(学習時間90分)
2 (4/18 ・4 限)	水野恵理子	ストレスとリラクゼーション	講義、プレゼンテーション、討議	予習：論文や臨床で行ったリラクゼーションの目的と技法について調べ、プレゼンテーションの準備をしておく。(学習時間120分) 復習：リラクゼーションの技法と適用を整理する。(学習時間90分)
3 (4/25 ・4 限)	阿部美香	危機理論と介入	講義、プレゼンテーション、討議	予習：論文等を読み、プレゼンテーションの準備をしておく。(学習時間120分) 復習：危機理論の理解を深め、介入技法を整理する。(学習時間90分)
4(5/2 ・4 限)	上野恭子	支持的精神療法の概要	プレゼンテーション、討議	予習：テキスト1を読み、プレゼンテーションの準備をしておく。(学習時間120分) 復習：精神療法について文献を基にまとめ、相違点や適用を整理する。(学習時間90分)
5 (5/9・ 4限)	上野恭子	支持的精神療法の適応と基本的技法	プレゼンテーション、討議	予習：テキスト1を読み、プレゼンテーションの準備をしておく。(学習時間120分) 復習：支持的精神療法の特徴や手法について理解を深める。(学習時間90分)
6 (5/16 ・6限 zoom)	垣内千尋	精神薬理の理論と作用機序1: 統合失調症、気分障害	講義、討議	予習：精神看護学特論Ⅱの精神科医による授業を復習しておく。授業内容に即した事例を準備し疑問を明らかにしておく。(学習時間90分) 復習：授業内容について、参考文献等を用いて薬理の理解を深める。(学習時間90分)
7 (5/22 水・6 限 zoom)	勝田成昌	精神薬理の理論と作用機序2: 不安症、睡眠障害ほか	講義、討議	予習：精神看護学特論Ⅱの精神科医の授業を復習しておく。授業内容に即した事例を準備し、疑問を明らかにしておく。(学習時間90分) 復習：授業内容について文献等を用いて薬理の理解を深める。(学習時間90分)
8(6/6 ・4限 zoom)	水野恵理子	認知理論の基礎、認知行動療法の概要	講義、討議	予習：厚生労働省HPの「うつ病の認知療法・認知行動療法 治療者用マニュアル」を読んでおく。(学習時間90分) 復習：認知行動療法の手技と適用の理解を深め、演習(精神看護CNS)で実施できるよう準備しておく。(学習時間90分)
10, 11(6/1 3・4-5 限)	杉野里美	薬物療法の管理:リエゾン精神領域における薬物療法と看護の役割	講義、討議	予習：精神薬理と向精神薬の作用機序について復習しておく。看護師が介入・携わる薬物療法(服薬援助)に関する事例を準備し、疑問を明らかにしておく。(学習時間90分) 復習：授業内容と文献等を用いて、精神科薬物療法の理解を深める。(学習時間90分)
11 (6/20 ・4 限)	水野恵理子	症例を読む-精神病理学的視点の理解1	講義、討議	予習：論文等を読んでおく。精神病理学の概念を学習しておく。(学習時間90分) 復習：症例の理解を深める。(学習時間90分)
12 (6/27 ・4 限)	水野恵理子	集団力動理論、グループアプローチ、心理教育	講義、討議	予習：論文等を熟読し、集団力動論と心理教育について整理しておく。(学習時間120分) 復習：「演習(精神看護CNS)」で実施できるよう準備しておく。(学習時間90分)
13 (7/4 ・4 限)	大島泰子	アンガーマネジメント、アサーション	講義、討議	予習：紹介された論文等を読んでおく。(学習時間90分) 復習：「演習(精神看護CNS)」で実施できるよう準備しておく。(学習時間90分)
14 (7/11 ・4 限)	大島泰子	芸術療法、補完代替療法	講義、討議	予習：紹介された論文等を読んでおく。(学習時間90分) 復習：「演習(精神看護CNS)」で実施できるよう準備しておく。(学習時間90分)
15 (7/18 ・4 限)	水野恵理子	症例を読む-精神病理学的視点の理解2	講義、討議	予習：論文等を読んでおく。精神病理学の概念を学習しておく。(学習時間90分) 復習：症例の理解を深める。(学習時間90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	精神看護学特論Ⅳ(援助支援論)	必修・選択	選択
英語科目名	Psychiatric and Mental Health Nursing IV	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、大島泰子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	精神看護専門看護師が、様々な場において精神的問題をもつ人々に対してケアとキュアを統合して行う高度な看護援助活動を実践するために必要な理論と方法を習得する。				
授業の位置づけ	精神看護専門看護師が行う対象に対する援助内容や支援方法に焦点をあてる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. Orem-Underwoodのセルフケア理論、Peplauの対人関係理論の主要概念や構成している理論を説明できる。 2. 医療の場での直接ケアと調整における精神看護専門看護師の活動について説明できる。 3. 多職種連携アプローチについて説明できる。 4. 対応困難事例に対する援助方法を説明できる。 5. 治療的看護介入について説明できる。 				
先修要件	精神看護学特論Ⅱ、精神看護学特論Ⅲ				
関連科目	精神看護学実習Ⅲ(統合実習)				
学修上の注意	必要時、担当者より指示する。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション70%、討議への貢献度30%を総合評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. Orem-Underwoodのセルフケア理論、Peplauの対人関係理論の主要概念や構成している理論を説明できる。 2. 医療の場での直接ケアと調整における精神看護専門看護師の活動について説明できる。 3. 多職種連携アプローチについて説明できる。 4. 対応困難事例に対する援助方法を説明できる。 5. 治療的看護介入について説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーションごとに不足した知識や説明を加える					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	1. 精神科看護の理論と実践 卓越した看護実践をめざして	南裕子監修, 宇佐美しおり編	ヌーヴェルヒロカワ	978-4-86174-034-3	
	2. こころの回復を支える精神障害リハビリテーション	池淵恵美	医学書院	978-4-260-03879-9	
	3. 看護学生のための精神看護技術	水野恵理子, 上野恭子他	サイオ出版	978-4-86749-014-3	
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 屋田源四郎: 統合失調症患者の行動特性 その支援とICF, 金剛出版, 2009. 2. 藤村尚宏他編著, 精神科急性期病棟, 金剛出版, 1998 3. Rワナー著, 西野直樹他, 統合失調症からの回復, 岩崎学術出版社, 2005. 4. クララ・E. ヒル 著, 藤生英行訳: ヘルピング・スキル 探求・洞察・行動のためのこころの援助法, 金子書房, 2014. 5. 遊佐安一郎: 家族療法入門システムズ・アプローチの理解と実際, 星和書店, 2021. 6. 渡邊敦子ほか: 対人関係とコミュニケーション 依存症・触法精神障害者への支援から考える, 北樹出版, 2015. 7. 木田孝太郎: 心を見まもる人のために 精神の看護学, 学研, 2001. 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については、随時メールで受けつける。 科目責任者 e.mizuno.iz@juntendo.ac.jp				
備考	開講曜日は火曜5限、浦安キャンパス。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法*	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1 (10/1・5限)	水野恵理子	オレム・アンダーウツのセルフケア理論	講義、討議	予習: オレムのセルフケア理論をまとめておく、精神力動理論を復習しておく。(学習時間120分) 復習: オレム・アンダーウツのセルフケア理論について使用できるようになるまで理解を深める。(学習時間120分)	

2 (10/8・5限)	大島泰子	ペロウ、オーランド、ウィーデンバック、トラベルビーの対人関係論	講義、プレゼンテーション、討議	予習：紹介された論文等を読み、対人関係論について整理しておく。(学習時間120分) 復習：対人関係論の理解を深める。(学習時間120分)
3 (10/15・5限)	大島泰子	対人関係論とプロセスレコード	講義、プレゼンテーション、討議	予習：前回授業の復習をしておく。(学習時間90分) 復習：プロセスレコードを使用できるようになるまで理解を深める。(学習時間90分)
4 (10/22・5限)	水野恵理子	精神科救急と急性期の看護	講義、討議	予習：精神科救急と急性期の患者像を調べておく。(学習時間90分) 復習：精神科救急と急性期看護の現実を理解し、課題について考察する。(学習時間90分)
5 (10/29・5限)	水野恵理子	急性期統合失調症のアセスメントと看護	講義、プレゼンテーション、討議	予習：事例を準備しておく。(学習時間120分) 復習：急性期統合失調症のマネジメントに関する理解を深める。(学習時間120分)
6 (11/5・5限)	水野恵理子	慢性期・回復期の統合失調症のアセスメントと看護	講義、プレゼンテーション、討議	予習：慢性期・回復期の統合失調症の事例を準備しておく。(学習時間120分) 復習：慢性期・回復期の統合失調症患者のケアと症状マネジメントのポイントを整理しておく。(学習時間90分)
7 (11/12・5限)	大島泰子	うつ病のアセスメントと看護	講義、プレゼンテーション、討議	予習：うつ病の病態生理を学習し、事例を準備しておく。(学習時間120分) 復習：うつ病患者のケアと症状マネジメントのポイントを整理しておく。(学習時間90分)
8 (11/19・5限)	水野恵理子	依存症のアセスメントと看護	講義、討議	予習：依存症の病理について調べておく。(学習時間90分) 復習：依存症患者のケアと症状マネジメント、社会復帰支援のポイントを整理しておく。(学習時間90分)
9 (11/26・5限)	水野恵理子	摂食障害、パーソナリティ障害のアセスメントと看護	講義、討議	予習：摂食障害とパーソナリティ障害の病理を調べておく。(学習時間120分) 復習：摂食障害患者とパーソナリティ障害患者のケアと症状マネジメント、社会復帰支援のポイントを整理しておく。(学習時間90分)
10 (12/3・5限)	水野恵理子	精神疾患患者の身体合併症と身体健康管理	講義、プレゼンテーション、討議	予習：精神疾患患者の身体合併症に関するデータを調べておく。(学習時間120分) 復習：精神科における身体合併症治療と看護、身体管理の現状を知り、課題についてまとめておく。(学習時間90分)
11 (12/10・5限)	水野恵理子	CVPPP（包括的暴力防止プログラム）の概念と実際	講義、プレゼンテーション、討議	予習：精神科における暴力の現状とその対応について調べておく。(学習時間90分) 復習：精神科における暴力と対応、CVPPPの理解を深める。(学習時間90分)
12 (12/17・5限)	水野恵理子	ヘルピングスキル、家族システムへのアプローチ	講義、討議	予習：精神看護学特論Ⅱの一般システム理論と家族アセスメントを復習しておく。(学習時間90分) 復習：システムズアプローチについてまとめる。(学習時間2時間)
13 (12/24・5限)	大島泰子	トラウマインフォームドケア、情動調節不全患者の治療的介入	講義、討議	予習：精神看護学特論Ⅱの一般システム理論と家族アセスメントを復習しておく。(学習時間90分) 復習：配布資料をわかりやすくまとめる。(学習時間90分)
14 (1/7・5限)	水野恵理子、大島泰子	対応困難な患者への援助1：混乱状態にある患者、希死念慮をもつ患者、自殺未遂患者	プレゼンテーション、討議	予習：混乱・希死念慮・自殺未遂患者のうち1事例のプレゼンテーションを準備しておく。事例の概要、アセスメント、治療法、援助方法を記述する。(学習時間120分) 復習：授業内容をまとめる。(学習時間90分)
15 (1/14・5限)	水野恵理子、大島泰子	対応困難な患者への援助2：攻撃の激しい患者、幻覚のある患者、拒否状態にある患者	プレゼンテーション、討議	予習：攻撃・幻覚・拒否状態にある患者のうち1事例のプレゼンテーションを準備しておく。事例の概要、アセスメント、治療法、援助方法を記載する。(学習時間120分) 復習：授業内容をまとめる。(学習時間90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	精神看護学特論Ⅴ(リエゾン精神看護論)	必修・選択	選択
英語科目名	Psychiatric and Mental Health NursingⅤ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、大島泰子※、阿部美香※、柴田展人※、金子真理子※、杉野里美※、菅野康二※、白井教子※、上野恭子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	リエゾン精神看護の目標と精神看護専門看護師の機能について学習し、活動に必要な諸理論や概念の理解を深める。その上で精神的諸問題を抱える患者のアセスメントと直接ケアの方法について習得する。さらに医療者へのメンタルヘルス支援のあり方についても学習する。				
授業の位置づけ	精神看護学特論Ⅱ・Ⅳで学修した諸理論と専門的知識を基に身体疾患患者の精神的問題にどのように対応できるかを学修する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護専門看護師(リエゾン)の目的、役割、機能について説明できる。 2. 身体疾患患者にみられる精神的問題のアセスメント・診断・直接ケアの基本的な考え方について説明できる。 3. 看護師のメンタルヘルスに関する問題の動向を調べ、支援方法を検討できる。 				
先修要件	精神看護学特論Ⅱ、精神看護学特論Ⅲ				
関連科目	精神看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)、精神看護学実習Ⅲ(統合実習)				
学修上の注意	なし				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション70%、討議への貢献度30%を総合評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護専門看護師(リエゾン)の目的、役割、機能について説明できる。 2. 身体疾患患者にみられる精神的問題のアセスメント・診断・直接ケアの基本的な考え方について説明できる。 3. 看護師のメンタルヘルスに関する問題の動向を調べ、支援方法を検討できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーションごとに不足した知識や説明を加える					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	1. リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために、2014	野末聖香	医歯薬出版	978-4-263-23450-1	
	2. リエゾン身体とところをつなぐかわり	平井元子	仲村書林	978-4-434-19552-5	
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. Theodore A.S, et al.: Massachusetts General Hospital. Handbook of General Hospital Psychiatry. 7ed. Elsevier, 2018. 2. Hamric AB, et al.: The Clinical Nurse Specialist in Theory and Practice. WB Saunders Company, 1989. 3. Chochinov HM, et al. 内富庸介監訳: 緩和医療における精神医学ハンドブック, 星和書店, 2001. 4. 平井元子: 身体疾患患者の精神看護-リエゾンナースへの相談事例に学ぶ-, へるす出版, 2013. 5. 井部俊子他: 専門看護師の思考と実践, 医学書院, 2020. 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については、随時メールで受けつける。 科目責任者 e.mizuno.iz@juntendo.ac.jp				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・開講は木曜4限、場所は浦安キャンパス。 ・外部講師の授業は日時と場所が異なる場合があるので注意する。 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1 (10/3 ・4 限)	水野恵理子	精神看護専門看護師の目的、役割、機能	講義、討議	予習：指定された文献を読む。(学習時間90分) 復習：精神看護CNS(狭義・リエゾン)の役割と独自性を整理しておく。(学習時間90分)
2, 3 (10/10, 10/17 ・4 限)	水野恵理子	保健医療福祉職のメンタルヘルス：個人と組織のアセスメントと支援	講義、プレゼンテーション、討議	予習：ストレスとコーピングについて復習しておく。保健医療福祉専門職のメンタルヘルスについてプレゼンテーションの準備をしておく。(学習時間120分) 復習：保健医療福祉職のメンタルヘルスについてまとめる。(学習時間90分)
4, 5 (10/24 ・4-5 限 zoom)	金子真理子	エンドオブライフケアにおける精神的問題のアセスメントと支援、リエゾン精神看護	講義、討議	予習：エンドオブライフケアの概念とリエゾン精神看護に役割について調べておく。(学習時間90分) 復習：緩和医療における精神看護CNSの対応についてまとめる。(学習時間90分)
6, 7 (10/26 または 10/19 土・3-4 限 浦安)	菅野康二	精神的問題を抱える身体疾患患者のアセスメント：緩和医療における精神的問題と診断(せん妄、抑うつ・うつ、不眠)、治療、効果のアセスメント	講義、討議	予習：緩和医療を受ける対象の精神的問題と看護について調べておく。(学習時間90分) 復習：緩和医療におけるリエゾン精神医学について深める。(学習時間90分)
8 (9/5 ・ 13:30- 江東高 齢者医 療セン ター)	柴田展人	認知機能障害の見立て、検査、診断と治療	講義	予習：認知機能、認知症について復習しておく。(学習時間90分) 復習：認知機能の診立とアセスメント方法について理解を深める。(学習時間90分)
9, 10 (11/21 ・3-4 限 zoom)	杉野里美	対応困難な患者の理解と援助：身体科で遭遇する希死念慮・自殺企図を有する患者のアセスメントと介入、身体科で精神疾患を併発する患者のアセスメントと介入	講義、討議	予習：精神看護特論II、III、IVを復習しておく。(学習時間90分) 復習：授業内容を整理し、精神看護CNS(リエゾン)の活動方法の理解を深める。(学習時間90分)
11 (12/5 ・4 限)	阿部美香	せん妄に陥った患者のアセスメントとケア、看護師への支援	講義、討議	予習：せん妄の医学的知識をまとめておく。(学習時間90分) 復習：クリティカル領域と緩和医療におけるせん妄患者への対応を整理し理解を深める。(学習時間120分)
12 (12/12 ・4限 zoom)	白井教子	精神看護専門看護師が行うコーディネーションと倫理調整	講義、討議	予習：CNSの機能と役割の中のコーディネーションと倫理調整について整理しておく。(学習時間90分) 復習：授業内容を整理し理解を深める(学習時間90分)
13 (12/19 ・4 限)	水野恵理子 (重田ちさと)	災害や危機状況にある患者、急性精神症状、PTSD患者のアセスメントと支援	講義、討議	予習：危機理論、危機状況、急性精神症状、PTSDに関する医学的知識を整理しておく。(学習時間90分) 復習：災害時のメンタルヘルス支援、災害派遣精神医療チーム(DPAT)に関する知識を整理し、理解を深める。(学習時間90分)
14, 15 (1/9, 1/16 ・4限)	水野恵理子, 大島泰子, 上 野恭子	困難事例の検討：各種理論と専門知識を応用したアセスメント・看護・治療的介入の計画考案	プレゼンテーション、討議	予習：今まで学修した内容すべてを活用して事例のアセスメントと介入方法を検討する。事例を用意し、CNSとしてどのような対応ができるかを主としたプレゼンテーションを準備する。(学習時間120分) 復習：自分の理解不足の理論や専門知識について明らかにし、学習を深める(学習時間90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	精神看護学実習 I (役割実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Mental Health Nursing Practice I	対象学年	2年
開講学期	前期	単位数	1単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、大島泰子※、篠木由美※、佐藤雅美※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	精神看護学分野の高度実践看護師(精神看護CNS)の活動、すなわち直接看護ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究活動の場に同行し、観察を行いながら、専門看護師の役割と機能、さらに専門看護師としての態度について理解を深める。				
授業の位置づけ	この科目は実習であり、精神看護学特論Vでの「精神看護専門看護師の目的、役割、機能」の授業内容について、実際のCNSの活動に同行しながら確認する。知識や技能だけでなく、CNSとしての態度とはどうあるべきかについて知ることができる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1. ケアとキュアを融合した高度看護実践として精神看護専門看護師の行う直接ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究場面に同行して観察し、今までの学習内容と統合して、それぞれの役割と機能について明確にできる。 2. 精神看護専門看護師と患者あるいはスタッフとの関係作りや介入時の対応から専門看護師としての態度について説明できる。 3. 精神看護専門看護師になるにあたって、自分自身の課題を確認することができる。				
先修要件	精神看護学特論Ⅳ、精神看護学特論Ⅴ				
関連科目	精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、コンサルテーション論				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に実習病院のCNSに連絡をとり、集合時刻と場所、準備するものを確認しておくこと。指導者のCNSの連絡先と連絡方法については教員に確認すること。 ・事前に「精神看護学演習・実習要項」の該当箇所をよく読み、準備すること。 ・記録形式および評価表は要項に掲載している。ファイルは教員から入手可能。 				
成績評価の方法					
評価方法	実習状況50%、カンファレンス・討議の内容20%、記録と最終レポート・精神看護学実習評価表(様式10)30%に基づき、実習指導者の評価を加味して総合評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に臨むために6つの役割について学習が十分に行われたか。 ・カンファレンスにおいて自分の意見を発表することができたか。 ・対象者や医療者等に対する態度はCNSとしてふさわしいか。 ・レポート等の記載はわかりやすく書かれているか。 ・CNSを目指すものとして、自分の課題を明確にし、専門職者としての成長へと繋がられているか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設と大学内での教員とのカンファレンスで、学生の疑問や課題について話し合いを通してフィードバックする。 ・精神看護学実習評価表を学生と一緒に振り返りながら、学生の課題と対応について話し合う。 					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	特になし				
参考文献					
今までの授業で使った書籍や資料。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時、メールや対面に対応する。 事前に科目責任者へメール連絡し、調整を行う。 科目責任者 e.mizuno.iz@juntendo.ac.jp				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
5日間 (2月頃)	指導CNS 篠木由美、佐藤雅美(精神医学研究所附属東京武蔵野病院)	<p>(1) 役割モデルであるCNSの以下6項目の看護実践から、精神看護専門看護師として期待される役割と機能、獲得すべき態度、さらに具体的な手法について理解を深める。</p> <p>① 【直接ケア】では、専門的で高度な看護実践における援助とはどのようなプロセスを辿り、どのように実践するのかを理解する。</p> <p>② 【相談】では、CNSのコンサルタントとしての役割、コンサルテーションのモデル、プロセスを理解する。実際のコンサルテーション技法についても学習する。</p> <p>③ 【調整】では、患者や家族が適切な支援を得るために、他専門職に働きかけて支援効果を上げる機能と方法について理解する。</p> <p>④ 【倫理調整】では、倫理的ジレンマの明確化、倫理的意思決定モデル、対応策についての考え方や方法を理解する。</p> <p>⑤ 【教育】では、患者や家族、看護師、医療者の成長や発達を促進するための支援方法を学ぶ。</p> <p>⑥ 【研究】において、精神看護学の専門知識・技術の向上、開発を図るために行う実践の場でのCNSの役割とCNS活動に必要な研究能力について理解する。</p> <p>(2) 精神看護CNSと患者あるいはスタッフとの関係づくりや介入時の対応を観察し、CNSとしての態度について理解を深める。</p> <p>(3) 精神看護CNSになるにあたって、自分自身の課題を明らかにし、自己成長のきっかけとする。</p>	<p>実習：CNSの活動に同行し(シャドウイング)観察する。カンファレンスを通してCNSの思考過程や判断内容、介入方法などを確認する。</p>	<p>予習：精神看護学特論IV, Vほか、関連科目を復習する。(学習時間数時間)</p> <p>復習：活動ごとに振り返り、レポートを作成する。(学習時間数時間)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	精神看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Mental Health Nursing Practice II	対象学年	2年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、大島泰子※、伊藤賢伸※、西典子※	授業形態	実習

※…実務担当教員

授業概要					
全体内容	精神科病院に入院・通院している精神疾患患者に対し、精神科医の臨床判断や精神医学診断に関する一連の考え方と手技を医師の指導の下で学び、診たてに必要な知識と技能、態度を培う。また、専門職のスーパービジョンを受けながら患者の症状や生活に適した薬物療法や各種治療技法の適用についての理解を深め、卓越した働きかけをするための能力を養うことを目的とする。				
授業の位置づけ	精神看護学討論Ⅱ・Ⅲで学修した内容を基盤にし、精神科医が実際どのように精神状態の評価と臨床判断を行い治療方法の適用を判断するのかを学ぶ。これらは常勤の精神科医が不在の施設において患者の精神状態を判断する際に必要となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護専門看護師に必要とされる臨床判断を行うための専門知識と診断手順について説明できる。 2. 薬物治療の臨床適応と効果、注意事項について説明できる。 3. 修正型電気痙攣療法や各種精神療法など治療的介入の概要と臨床適応について説明できる。 4. 患者の症状や言動の診たてを行い、直接ケアあるいは精神科ケースマネジメント案を専門職のスーパービジョンを受けながら作成できる。さらに、可能な範囲で実施、評価できる。 				
先修要件	精神看護学特論Ⅱ、精神看護学特論Ⅲ				
関連科目	精神看護学実習Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に「精神看護学演習・実習要項」の該当箇所をよく読み、準備する ・精神看護学特論Ⅱ・Ⅲの精神科医の授業資料を再確認する ・記録の種類は「精神看護学演習・実習要項」に記載している 				
成績評価の方法					
評価方法	実習状況（自己学習の程度、積極性など）40%、診断・治療に関するレポート40%、ケースマネジメントに関するレポート20%を統合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> (1) 精神看護専門看護師に必要とされる臨床判断を行うための専門知識と診断手順について説明できる。 (2) 薬物治療の臨床適応と効果、注意事項について説明できる。 (3) 修正型電気痙攣療法や各種精神療法など、治療介入の概要と臨床適応について説明できる。 (4) 患者の退院計画やケースマネジメントを立案し、レポートを作成できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
適宜、指導医より疑問点等の説明を受ける。 中間カンファレンスや最終カンファレンスにおいて、実習での課題の進捗状況ならびに課題について発表とフィードバックを行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
これまでの授業で用いた書籍や資料。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	実習中は、緊急時はいつでも指定された連絡方法で連絡可能。緊急でない場合はオフィスアワーにメールで連絡する。				
備考	事前に実習指導者である指導医に連絡をとり、2週間の実習期間のスケジュールを確認しておく。 初日に実習期間中の具体的なスケジュール案をCNSと確認し、精神科医やその他専門職の協力を仰ぐ。 CNSが不在の施設では、直接指導医に実習内容や項目の希望を伝え調整する。必要時、看護師長に相談し協力を仰ぐ。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
2週間 (3~4 月)	伊藤賢伸(順 天堂大学医学 部附属順天堂 医院メンタル クリニック)、 西典子(秦野 厚生病院)、 坂井嘉郎(秦 野厚生病院)	<p>【診断について】</p> <p>(1) 通院患者や入院患者、救急搬送患者について、精神科医の面接や診察場面に立会い、精神現症の把握、精神医学診断、治療の選択等の過程を見学する。</p> <p>(2) 診断後に医師との振り返りの機会を得て、臨床判断や診断手順について確認する。</p> <p>(3) 患者の病態水準について検討する。</p> <p>(4) 面接が困難な患者に対する臨床判断について、どのような注意事項があり、どのような工夫がなされるのか検討する。</p> <p>【薬物治療について】</p> <p>(1) 実際の薬物治療について、精神科医または薬剤師の説明を受けながら理解を深める。</p> <p>(2) 病態(状態像)に応じた薬物療法について、処方内容をもとに学習し、その内容で不明な点を精神科医や薬剤師に確認する。</p> <p>【その他の治療について】</p> <p>(1) 修正型電気痙攣療法や各種精神療法(心理教育、支持的精神療法、対人関係療法、認知行動療法、集団精神療法など)*、その他の精神療法(生活/社会技能訓練、自律訓練、バイオフィードバック法、芸術療法、家族療法など)*の実際を見学または参加する。</p> <p>(2) 見学後、担当の専門職を交えて介入を振り返り、患者の精神症状や問題のアセスメントと実施した精神療法の適応、期待される効果や具体的な方法について討議し理解を深める(実習病院で実際に行われているものでよい)</p> <p>【ケースマネジメントについて】</p> <p>(1) 専門職が行うケースマネジメントの実際を見学し、再発予防法や家族調整、社会資源の調達についてソーシャルワーカーやCNS、薬剤師等の臨床判断と具体的な計画の説明を受ける。チーム医療の実際について考え、その中でCNSの調整の役割を理解する。</p> <p>(2) 入院患者1~2名を受け持ち、包括的アセスメントを行う。各種専門職からのスーパービジョンを受けながら、包括的アセスメントを基に患者のマネジメントに関する問題点を明確にする。</p> <p>(3) 受け持ち患者の問題に必要な治療的介入、マネジメント方法を選択し、計画立案し、その妥当性や現実性、期待される効果について専門職やCNSのスーパービジョンを受ける。</p>	<p>実習：指導医の指示に従って行う。</p>	<p>予習：精神看護学特論Ⅱの復習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表的な精神疾患のDSM-5-TRの診断基準とICD-11の確認 薬物治療について抗精神病薬ほかの薬理生化学の知識、薬効、注意事項について 面接法と各種精神療法について(学習時間数時間) <p>復習：実習した内容を項目ごとに記録する。(学習時間数時間)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	精神看護学実習Ⅲ(統合実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Mental Health Nursing Practice III	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	7単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、大島泰子※、渡辺純一※、杉野里美※、宮澤久美子※、菅原亜有美※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	<p>今までに学習した諸理論や専門知識を統合させ、精神疾患患者とその家族、リエゾン精神看護領域のクライアントのQOLの向上を目指したケアとケアを融合した高度な精神看護実践を行う。</p> <p>本実習は2部で構成される。いずれもCNSのスーパービジョンを得ながら実施する。</p> <p>【実習1】精神科病院での直接ケア実習 4単位：精神科病院に入院している精神疾患患者を受け持ちとし、直接ケア、ケースマネジメントを中心に介入の立案、実践、評価を行う。</p> <p>【実習2】①リエゾン精神看護実習：一般診療科の病院においてリエゾン精神看護を必要とする患者について包括的アセスメントに基づいて直接ケアを行う。②間接ケア実習（主にコンサルテーション、コーディネーション）を実施する。</p> <p>リエゾン精神看護実習と間接ケア実習を統合し3単位とする。なお間接ケア実習は【実習1】で実施してもよい。</p>			
授業の位置づけ	今までで学修した専門知識と演習（精神看護CNS）・精神看護学実習Ⅰ・Ⅱで得た知識、技術、態度等をどのように統合させるか考えながら応用する実習である。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力			
到達目標	<p>【実習1：精神科病院での直接ケア実習】</p> <p>(1) 精神疾患患者の精神、身体、社会生活機能について諸理論や専門知識を基盤として適格に包括的なアセスメントを行い、介入の計画、実践、評価ができる。</p> <p>(2) 精神疾患患者と家族の人権保障の視点を持ち、医療チームへのアプローチができる。</p> <p>【実習2：リエゾン精神看護実習と間接ケア実習】</p> <p>(1) リエゾン精神看護を必要とする精神的問題をもつ患者に対し、患者の状態に適した直接ケアを計画し実施と評価ができる。</p> <p>(2) コンサルテーションをコンサルティの問題に合わせて組み立て実践することができる。</p> <p>(3) コーディネーションを組織の特徴を踏まえ、問題解決のための介入を計画し実践することができる。</p> <p>(4) 高度実践看護師である精神看護専門看護師としてふさわしい態度を示すことができる。</p>			
先修要件	なし			
関連科目	精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習（精神看護CNS）、精神看護学実習Ⅰ・Ⅱ			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の状況に合わせて、授業内のテキストや資料に留まらず、最新の研究から治療、援助に関するエビデンスを調べながら実施する 事前に「精神看護学演習・実習要項」の該当箇所を熟読し、準備する 			
成績評価の方法				
評価方法	<p>【実習1】実習評価は実習指導者のCNSと教員とで検討して決定する。・実習全体の内容50%、レポート内容30%、精神看護CNSとしての態度20%の以上を統合して評価する。</p> <p>【実習2】実習評価は実習指導者のCNSと教員とで検討して決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> リエゾン精神看護実習での直接ケア実施状況とレポート50% コンサルテーション（レポートを含む）20% コーディネーション（レポートを含む）20% 精神看護専門看護師を目指すものとしての態度10%以上を統合して評価する。 			
評価基準	<p>【実習1】</p> <p>(1) 精神疾患患者の精神、身体、社会生活機能について諸理論や専門知識を基盤として適格に包括的なアセスメントを行い、直接ケアの計画、実践、評価がどの程度できているか。</p> <p>(2) 精神疾患患者と家族の人権保障の視点を持ち、医療チームへのアプローチがどの程度できているか。</p> <p>【実習2】</p> <p>(1) リエゾン精神看護を必要とする精神的問題をもつ患者に対し、患者の状態に適した直接ケアを計画し、実施と評価ができていますか。</p> <p>(2) コンサルテーションをコンサルティの問題に合わせて組み立て、実践することができていますか。</p> <p>(3) コーディネーションとして、組織の特徴を踏まえた上で、問題解決のための計画を作成し、実践することができていますか。</p> <p>(4) 高度実践看護師である精神看護専門看護師としてふさわしい態度を示すことができたか。</p>			
試験・課題に対するフィードバック方法				
中間カンファレンスまたは必要時に大学内で教員と話し合い、フィードバックやサポートを行う。 最終カンファレンスでは指導CNSと教員を交えて直接ケアと間接ケアについて発表とフィードバックを行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				

参考文献				
今までの授業で用いたテキストと資料。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	実習中は、緊急時はいつでも指定された連絡方法で連絡可能。緊急でない場合はオフィスアワーにメールで連絡する。			
備考	なし			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
4週間 (5~6月)	渡辺純一(井之頭病院)	<p>【直接ケア実習】</p> <p>(1) CNSと話し合っ直接ケアを必要とする精神疾患患者を1~2名を受け持ちとする。</p> <p>(2) CNSまたは患者の入院病棟の看護師と話し合い、患者に直接ケアを実施する目的または依頼内容を明確にする。</p> <p>(3) 受け持ち患者との関係性を構築すると同時に必要な情報を得る。必要時、臨床診断の手順を用いながら患者の精神状態を判断する。</p> <p>(4) 種々の情報から患者の包括的なアセスメントを行い、CNSのスーパービジョンを受けながら介入の種類や内容についてプランを組み立てる。</p> <p>(5) 薬物療法を行っている場合は、そのマネジメント案を作成し、必要に応じて精神科医師や薬剤師のスーパービジョンを受ける。</p> <p>(6) 帰校日に教員に患者紹介と介入計画についてプレゼンテーションを行い、討議する。</p> <p>(7) 計画の実施にあたっては、CNSのスーパービジョンを受け、病棟の担当看護師とケアや介入をするための具体的な時間や場所などを調整し、可能な範囲で実践する。</p> <p>【間接ケアについて】</p> <p>(1) 本実習の目的は直接ケアの学習であるが、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育等の機会があるため、CNSの許可とスーパービジョンが得られる場合は実施してもよい。</p> <p>(2) 実施した間接ケアの評価を行い、記録する。</p> <p>詳細は「精神看護学演習・実習要項」を確認する。</p>	実習	<p>予習：今までの講義・演習・実習内容を復習し、自分の課題を認識しておく。(学習時間数時間)</p> <p>復習：実施した実習内容の記録、レポートを作成することで精神看護CNSとしての専門知識、技術、態度を振り返り理解を深める。(学習時間数時間)</p>
3週間 (6~7月)	杉野里美(東京歯科大学市川総合病院)、宮澤久美子(順天堂大学医学部附属静岡病院)、菅原亜有美(船橋市立医療センター)	<p>【リエゾン精神看護実習】</p> <p>(1) CNSと話し合い患者を1~2名を受け持ちとする。</p> <p>(2) 受け持ち患者の身体疾患と現在の状態、治療経過、予後等について情報を得る。必要時、担当看護師や主治医から情報を得る。</p> <p>(3) 受け持ち患者との関係を構築しながら必要な情報を得る。臨床診断の手順を用いながら患者の精神状態を判断し、身体疾患や治療との関係をアセスメントする。</p> <p>(4) 種々の情報から患者の包括的なアセスメントを行い、CNSのスーパービジョンを受けながら介入の種類や内容を検討し、介入を組み立てる。</p> <p>(5) 教員に患者紹介とアセスメント、介入計画についてプレゼンテーションを行い討議する。</p> <p>(6) 治療チームへのアプローチ(コーディネーション)が必要な場合は、分析内容と問題点、介入計画についてCNSに伝え、検討し、許可が得られた場合に実践する。</p> <p>(7) 受け持ち患者が地域生活に移行するための課題を持っている場合、地域医療との連携やサービス活用の視点をもってプランを考える。ケースワーカー、訪問看護師等と連絡をとり、医療チームの一員として具体的な退院支援計画を立案する。</p> <p>(8) 計画の実施にあたっては、CNSのスーパービジョンを受け、病棟の担当看護師とケアや介入をするための具体的な時間や場所を調整し、可能な範囲で実践する。</p> <p>【間接ケア実習：コンサルテーション】</p> <p>(1) 受け持ち患者の直接ケア時にコンサルテーションを行った場合、間接ケア実習とみなすことも可能。組織へのコンサルテーションも機会があれば実施する。</p> <p>(2) 依頼のあったコンサルテーションについて、依頼内容を確認する。</p> <p>(3) 相談者とのインタビューは、最初はCNS同伴で行う。</p> <p>(4) コンサルテーションのタイプやモデルを特定し、計画を立案して展開する。</p> <p>(5) 計画を実施した後、数日後に相談者からコンサルテーションの成果の報告を受ける。</p> <p>(6) 実習期間中に2、3事例のコンサルテーションを行い、徐々にCNSのサポート量を減らしていく(その判断はCNSに委ねる)。実施前後の準備や振り返りでCNSのスーパービジョンを適宜受けるものとする。事例は患者だけでなく看護スタッフでもよい。</p> <p>(7) ケース毎に記録する。</p> <p>【間接ケア実習：コーディネーション】</p> <p>(1) CNSが調整を行う必要があると判断した事例を取り扱う。リエゾン精神看護実習において受け持ち患者のケアに医療者間の連携が必要であり、コーディネーションを行った場合はその部分を間接ケア実習とみなす。1~2事例のコーディネーションの実践を目標とする。</p> <p>(2) 患者が置かれている状況や状態のアセスメントを行うために関係者個々との話し合いを行う。</p> <p>(3) 医療チーム間との話し合いをどのように運営するか、その介入案をCNSのスーパービジョンを得ながら立案する。</p>	実習	<p>予習：今までの講義・演習・実習内容を復習し、自分の課題/目標を明確にする。(学習時間数時間)</p> <p>復習：実施した実習内容の記録、レポートを作成することで精神看護CNSとしての専門知識、技術、態度を振り返り理解を深める。(学習時間数時間)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	がん看護学特論 I (がん病態看護論)	必修・選択	選択
英語科目名	Oncology Nursing I Oncology Nursing Pathology	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※、平井周※、佐々木信一※、加藤俊介※、石川敏昭※、高木辰哉※、魚森俊喬※、大江裕一郎※、青木美紀子※、	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	腫瘍の発生・進展、がんの診断に必要な種々の検査方法および代表的疾患の最新治療や症状管理など、高度な臨床判断とがん看護実践の基盤となる専門的知識の理解を深める。				
授業の位置づけ	様々な臨床経過にあるがん患者とその家族が抱える課題に対する高度な看護実践を行う上で必要ながんの病態や治療について学修する。5つのがん看護学特論の1つであり、演習（がん看護CNS）、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲの基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん罹患の動向やわが国のがん対策について説明できる。 2. がんの病態と診断、最新の治療法について説明できる。 3. 代表的ながんの疫学、病態、検査、診断、診療ガイドラインに基づいた標準的治療と最新の治療について説明できる。 4. 腫瘍に特徴的な症状の管理方法を説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	がん看護学特論Ⅱ～Ⅴ、演習（がん看護CNS）、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に対して文献および研究論文による学修を行って授業に臨む。 ・発表を行う回は、授業内容について資料を作成する。 不明な点は積極的に教員に相談すること。 ・授業終了後は、学修内容のがん看護実践への適用について検討する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション（20%）、討議内容（60%）、レポート（20%）を総合して評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・がん罹患の動向やわが国のがん対策について説明できるか ・がんの病態と診断、最新の治療法について説明できるか ・選択したがん腫の疫学、病態、検査、診断、診療ガイドラインに基づいた標準的治療と最新の治療について説明できるか ・選択したがん腫に特徴的な症状の管理方法を説明できるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表資料は講義内でフィードバックする。 レポートはコメントをつけて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本臨床腫瘍学会編集：入門腫瘍内科学、改訂第3版、南江堂、2020年 2. 佐藤隆美他編集：What's New in Oncology がん治療エッセンシャルガイド、改訂第4版、南山堂、2019. 3. 日本臨床腫瘍学会編集：新臨床腫瘍学、改訂第6版、南江堂、2021. 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@)				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高山 京子	がん看護におけるがんの病態に関する知識の重要性 がん対策	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読む（2時間）
2	平井 周	がんの発生と予防/化学予防 ・がん発生の機序、放射線、紫外線、化学物質等による発がん	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
3	平井 周	がんの疫学 ・疫学の基本概念、記述疫学、がん登録	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
4	佐々木 信一	がんと免疫 ・免疫応答、腫瘍マーカー	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
5	佐々木 信一	がん検査医学（主に肺がん） ・検査の目的、適応など	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
6	魚森 俊喬	がんの画像診断法 ・目的、適応、画像の読み方など	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
7	魚森 俊喬	がんの外科的治療 ・最新の手術療法（主に乳がん）	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
8	大江裕一郎	がんのゲノム医療	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、参考書で不明点を調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
9	高木 辰哉	がんの放射線治療（主に転移性骨腫瘍）	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
10	高木 辰哉	がんの運動器疾患、がんロコモとその対策	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
11	加藤 俊介	がんの薬物療法（主に食道がん、胃がん） ・がん増殖モデルと治療理論、抗がん剤の分類と作用機序	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
12	石川 敏昭	がんの薬物療法（主に大腸がん）	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
13	大江 裕一郎	Oncology Emergency/支持療法	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
14	青木 美紀子	がん領域における遺伝的課題を抱えた患者と家族への支援（1） ・遺伝性腫瘍の特徴、遺伝子検査、遺伝カウンセリング	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点は調べておく（2時間） 復習：参考書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（2時間）
15	青木 美紀子	がん領域における遺伝的課題を抱えた患者と家族への支援（2） ・適切な情報提供、意思決定支援、心理社会的支援	発表、討議	予習：事前に提示された課題に取り組む（2時間） 復習：課題の修正、まとめ（2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	がん看護学特論Ⅱ(がん看護理論)	必修・選択	選択
英語科目名	Oncology Nursing II Theories in Cancer Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※、片岡純※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論についての理解を深め、実践への活用について探究する。				
授業の位置づけ	様々な臨床経過にあるがん患者とその家族が抱える課題に対する高度な看護実践を行う上で必要となる概念・理論について学修する。 5つのがん看護学特論の1つであり、演習(がん看護CNS)、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲの基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. がん患者とその家族を理解するための概念・理論について説明できる。 2. がん患者とその家族を理解するための概念・理論、最新の看護研究結果を用いて、看護実践について検討できる。				
先修要件	なし				
関連科目	がん看護学特論Ⅰ、がん看護学特論Ⅲ～Ⅴ、演習(がん看護CNS)、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に対して文献および研究論文による学修を行って授業に臨む。 ・発表を行う回は、授業内容について資料を作成する。 不明な点は積極的に教員に相談すること。 ・授業終了後は、学修内容のがん看護実践への適用について検討する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション(40%)、討議内容(30%)、レポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者とその家族を理解するための概念・理論について説明できるか ・概念・理論を活用して、看護実践を分析できるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表資料は講義内でフィードバックする。 レポートはコメントをつけて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
1. 野川道子：看護実践に活かす中範囲理論 改訂第2版、メヂカルフレンド社、2016。 2. 小島操子：看護における危機理論・危機介入 フィンク／コーン／アディレラ／ムース／家族の危機モデルから学ぶ、改訂第4版、金芳堂、2018。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@)				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高山 京子	ストレス・コーピング理論の理解	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：関連図書を読み理解を深める（2時間）
2	高山 京子	ストレス・コーピング理論の活用 ・事例を用いて活用方法の検討	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：関連図書を読み理解を深める（2時間）
3	高山 京子	危機理論の理解と活用（1） ・フィンの危機モデル	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：関連図書を読み理解を深める（2時間）
4	高山 京子	危機理論の理解と活用（2） ・アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：関連図書を読み理解を深める（2時間）
5	高山 京子	セルフケア理論の理解	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
6	高山 京子	セルフケア理論の活用 ・事例を用いて活用方法の検討	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
7	高山 京子	自己概念の理解	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
8	高山 京子	自己概念の活用 ・事例を用いて活用方法の検討	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
9	高山 京子	悲嘆・喪失の概念の理解	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
10	高山 京子	悲嘆・喪失の概念の活用 ・事例を用いて活用方法の検討	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
11	高山 京子	不確かさ理論の理解と活用	講義、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
12	片岡 純	自己効力感の理解と活用	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：関連図書を読み理解を深める（2時間）
13	片岡 純	エンパワメントの理解と活用	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：関連図書を読み理解を深める（2時間）
14	高山 京子	ソーシャルサポートの理解と活用	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
15	高山 京子	がん患者とその家族の個別の問題解決を図るための概念・理論の実践への適用する上での課題	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	がん看護学特論Ⅲ(がん看護援助論)	必修・選択	選択
英語科目名	Oncology Nursing III Advanced Nursing Care for Cancer Patient	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※、佐藤まゆみ※、中野真理子※、濱道彩※、藤本美生※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	がん診断期、治療期、再発期、終末期における患者とその家族の体験を理解し、高度な倫理観及び包括的アセスメントに基づいた看護介入について探求する。				
授業の位置づけ	様々な臨床経過にあるがん患者とその家族が抱える課題に対する高度な看護実践を行う上で必要となる包括的アセスメントや援助方法について学修する。 5つのがん看護学特論の1つであり、演習（がん看護CNS）、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲの基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診断期・治療期・再発期・終末期においてがん患者が抱えるトータルペインについて説明できる。 2. がん治療を受ける患者とその家族の特徴と包括的アセスメント、看護実践について説明できる。 3. がんサバイバーの特徴とアセスメント、支援について説明できる。 4. がん看護における倫理的課題について理解し、がん患者への看護実践について検討できる。 5. がん看護専門看護師の役割および機能について理解し、自己の課題を明確にできる。 				
先修要件	なし				
関連科目	がん看護学特論Ⅰ～Ⅱ、がん看護学特論Ⅳ～Ⅴ、演習（がん看護CNS）、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に対して文献および研究論文による学修を行って授業に臨む。 ・発表を行う回は、別途提示される課題について資料を作成する。 ・不明な点は積極的に教員に相談すること。 ・授業終了後は、学修内容のがん看護実践への適用について検討する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション（30%）、討議内容（40%）、レポート（30%）を総合して評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・診断期・治療期・再発期・終末期においてがん患者が抱えるトータルペインについて説明できるか ・がん治療を受ける患者とその家族の特徴と包括的アセスメント、看護実践について説明できるか ・がんサバイバーの特徴とアセスメント、支援について説明できるか ・がん看護における倫理的課題について理解し、がん患者への看護実践について説明できるか ・がん看護専門看護師の役割および機能について理解し、自己の課題を説明できるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表資料は講義内でフィードバックする。 レポートはコメントをつけて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
大西和子他編集：がん看護学-臨床に活かすがん看護の基礎と実践- 改訂第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2018.					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@)				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高山 京子	診断期・治療期にあるがん患者が抱えるトータルペインと包括的アセスメント	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
2	高山 京子	再発期・終末期にあるがん患者が抱えるトータルペインと包括的アセスメント	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
3	高山 京子	がん患者の家族の特徴とアセスメント、看護介入	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
4	佐藤 まゆみ	がん手術治療を受ける患者の特徴とアセスメント、看護介入（1） ・術前のアセスメント、看護介入と評価	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
5	佐藤 まゆみ	がん手術治療を受ける患者の特徴とアセスメント、看護介入（2） ・術後のアセスメント、看護介入と評価	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
6	藤本 美生	がん放射線療法を受ける患者の特徴とアセスメント、看護介入（1） ・治療前・中・後のアセスメント、看護介入と評価	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
7	藤本 美生	がん放射線療法を受ける患者の特徴とアセスメント、看護介入（2） ・有害事象へのセルフケア支援および評価	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
8	高山 京子	がん化学治療を受ける患者の特徴とアセスメント、看護介入（1） ・治療前・中・後のアセスメント、看護介入と評価	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
9	高山 京子	がん化学治療を受ける患者の特徴とアセスメント、看護介入（2） ・有害事象へのセルフケア支援および評価	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
10	中野 真理子	がん看護実践における倫理的課題（1） ・がん患者と家族に対する意思決定支援	講義、発表、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
11	中野 真理子	がん看護実践における倫理的課題（2） ・医療者への教育的アプローチ	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
12	濱道 彩	がん患者に対する療養支援（1） ・療養の場の選択と退院支援	講義、発表、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
13	濱道 彩	がん患者に対する療養支援（2） ・退院調整と社会資源 ・地域医療連携	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
14	高山 京子	がんサバイバーの特徴とアセスメント、看護介入	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
15	高山 京子	がん看護専門看護師の役割および機能	発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	がん看護学特論Ⅳ(がん薬物療法看護論)	必修・選択	選択
英語科目名	Oncology Nursing IV Topics in Chemotherapy Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※、城戸秀倫※、吉岡多美子※、荻津佳奈江※、大江裕一郎※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	がん薬物療法のレジメンについて理解を深め、がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法について探求する。また、がん薬物療法を継続することを支える援助方法について探求する。				
授業の位置づけ	がん薬物療法を受ける患者に対する高度な看護実践を行う上で必要となる臨床判断や援助方法について学修する。5つのがん看護学特論の1つであり、演習（がん看護CNS）、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲの基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん薬物療法を確定するプロセス・治療プロセスについて説明できる。 2. がん薬物療法で使用する薬剤の特性と作用機序、有害事象について説明できる。 3. がん薬物療法を受ける患者の療養生活に必要な支援についてアセスメントできる。 4. がん薬物療法の有害事象による日常生活への影響、ガイドライン、支持療法を理解し、有害事象に対する臨床診断方法や治療中の生活の質を高めるためのセルフケア能力を高めるための援助方法について討議できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	がん看護学特論Ⅰ～Ⅲ、がん看護学特論Ⅴ、演習（がん看護CNS）、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に対して文献および研究論文による学修を行って授業に臨む。 ・発表を行う回は、授業内容あるいは別途提示される課題について資料を作成する。不明な点は積極的に教員に相談すること。 ・授業終了後は、学修内容のがん看護実践への適用について検討する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション（40%）、討議内容（30%）、レポート（30%）を総合して評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・がん薬物療法を確定するプロセス・治療プロセスについて説明できるか ・がん薬物療法で使用する薬剤の特性と作用機序、有害事象について説明できるか ・がん薬物療法を受ける患者の療養生活に必要な支援について説明できるか ・がん薬物療法の有害事象に対する臨床診断方法をガイドラインを用いて説明できるか ・がん薬物療法の有害事象に対するセルフケア能力を高めるための援助方法を説明できるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表資料は講義内でフィードバックする。レポートはコメントをつけて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@)				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	城戸 秀倫	がん薬物療法における診断・治療プロセス（１） ・抗がん薬の種類と作用機序、抗がん薬の治療選択、レジメン	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（２時間） 復習：関連図書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（２時間）
2	城戸 秀倫	がん薬物療法における診断・治療プロセス（２） ・有害事象の評価、治療効果判定	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（２時間） 復習：関連図書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（２時間）
3	大江 裕一郎	がん領域における臨床試験 ・新薬の開発過程、治験と制度	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（２時間） 復習：関連図書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（２時間）
4	高山 京子	がん薬物療法における臨床試験と看護 ・臨床試験の流れ、対象となる患者の特徴、看護	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（２時間） 復習：関連図書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（２時間）
5	高山 京子	がん薬物療法を受ける肺がん患者の看護 ・肺がんの特徴、主なレジメン、看護	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（２時間） 復習：関連図書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（２時間）
6	高山 京子	がん薬物療法を受ける大腸がん患者の看護 ・大腸がんの特徴、主なレジメン、看護	発表、討議	予習：発表資料の作成（２時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（２時間）
7	高山 京子	がん薬物療法を受ける乳がん患者の看護 ・乳がんの特徴、主なレジメン、看護	発表、討議	予習：発表資料の作成（２時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（２時間）
8	吉岡 多美子	外来でがん薬物療法を受ける患者の看護	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（２時間） 復習：事後課題に取り組み、レポートにまとめる（２時間）
9	吉岡 多美子	がん薬物療法を受ける高齢患者の看護	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（２時間） 復習：事後課題に取り組み、レポートにまとめる（２時間）
10	荻津 佳奈江	がん薬物療法を受ける造血器腫瘍患者の看護（１） ・造血幹細胞移植の流れ、治療の特徴	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（２時間） 復習：関連図書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（２時間）
11	荻津 佳奈江	がん薬物療法を受ける造血器腫瘍患者の看護（２） ・造血幹細胞移植を受ける患者の看護	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（２時間） 復習：関連図書やガイドラインを用いて討議内容の理解を深める（２時間）
12	高山 京子	がん薬物療法における有害事象とセルフケア支援：骨髄抑制	発表、討議	予習：事前課題の資料作成（２時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（２時間）
13	高山 京子	がん薬物療法における有害事象とセルフケア支援：消化器症状	発表、討議	予習：事前課題の資料作成（２時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（２時間）
14	高山 京子	がん薬物療法における有害事象とセルフケア支援：末梢神経障害、皮膚障害	発表、討議	予習：事前課題の資料作成（２時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（２時間）
15	高山 京子	がん薬物療法を受ける患者と家族に対する教育 ・事例を用いて教育内容の検討	発表、討議	予習：事前課題の資料作成（２時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（２時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	がん看護学特論Ⅴ(がん緩和ケア論)	必修・選択	選択
英語科目名	Oncology Nursing V Topics in Palliative Care	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※、佐野裕子※、吉岡多美子※、中野真理子※、荻津佳奈江※、濱道彩※、増島麻里子※、田中優子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	がん患者に生じやすい身体的苦痛の発生機序・病態を理解し、臨床判断に基づいた症状マネジメントについて探求する。また、緩和ケアを必要とするがん患者とその家族が抱える心理・社会的・霊的苦痛を理解し、それらを緩和するための包括的な看護介入について探求する。				
授業の位置づけ	緩和ケアを必要とするがん患者とその家族に対する高度な看護実践を行う上で必要となる臨床判断や症状マネジメント、苦痛を緩和する援助方法について学修する。 5つのがん看護学特論の1つであり、演習(がん看護CNS)、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲの基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者に見られる苦痛症状の発生機序、治療法について説明できる。 2. がん患者の抱える苦痛症状を緩和するための援助方法について説明できる。 3. 緩和ケアにおけるコミュニケーションの問題の具体例を取り上げ、その解決方法について説明できる。 4. 複雑な心理・社会・霊的問題を抱えるがん患者の具体例を取り上げ、その解決方法について説明できる。 5. がん患者の代替療法・補完療法について説明できる。 6. 緩和ケアの臨床で利用可能なリソースの活用方法について説明できる。 7. がん患者のエンドオブライフケアおよび家族のグリーフケアについて説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	がん看護学特論Ⅰ～Ⅳ、演習(がん看護CNS)、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に対して文献および研究論文による学修を行って授業に臨む。 ・発表を行う回は、別途提示される課題について資料を作成する。 不明な点は積極的に教員に相談すること。 ・授業終了後は、学修内容のがん看護実践への適用について検討する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション(40%)、討議内容(30%)、レポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに伴う苦痛症状の発生機序、治療法について説明できるか ・がん患者の抱える苦痛症状を緩和するための援助方法について説明できるか ・緩和ケアにおけるコミュニケーションの問題とその解決方法について説明できるか ・がん患者が抱える複雑な心理・社会・霊的問題とその解決方法について説明できるか ・がん患者の代替療法・補完療法について説明できるか ・緩和ケアに関連したリソースの活用方法を説明できるか ・がん患者のエンドオブライフケアについて説明できるか ・がん患者の家族のグリーフケアについて説明できるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
発表資料は講義内でフィードバックする。 レポートはコメントをつけて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@)				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高山 京子	緩和ケアにおける看護の役割・機能	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、理解を深める（2時間）
2	荻津 佳奈江	がんの症状マネジメント：がん性疼痛 ・症状の発現機序、アセスメント、看護	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：事後課題に取り組み、レポートにまとめる（2時間）
3	荻津 佳奈江	がんの症状マネジメント：呼吸困難 ・症状の発現機序、アセスメント、看護	講義、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
4	佐野 裕子	がんの症状マネジメント：リハビリテーション（1） ・リハビリテーションの目的・意義、内容、評価	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
5	佐野 裕子	がんの症状マネジメント：リハビリテーション（2） ・治療期・進行期・終末期にある患者へのリハビリテーションの実際	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
6	増島 麻里子	がんの症状マネジメント：リンパ浮腫 ・リンパ浮腫の発現機序、リンパ浮腫ケア	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
7	田中 優子	がんの症状マネジメント：症状緩和と鎮静	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
8	高山 京子	がんの補完代替療法と看護 ・補完代替療法の定義、内容、希望する患者への看護	講義、討議	予習：事前課題に取り組み（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、理解を深める（2時間）
9	吉岡 多美子	緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーション（1） ・基本的コミュニケーションスキル、悪い知らせの伝え方	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
10	吉岡 多美子	緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーション（2） ・対応困難時のコミュニケーション、NURSEを用いたコミュニケーションの実際	講義、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：事後課題に取り組み（2時間）
11	濱道 彩	緩和ケアにおける心理社会的支援（1） ・がん患者の臨床過程に沿った心理的反応、社会的課題	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
12	濱道 彩	緩和ケアにおける心理社会的支援（2） ・事例を用いて支援内容の検討	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
13	中野 真理子	緩和ケアにおけるリソース活用方法（1） ・リソースとは何か、リソースの活用方法	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）
14	中野 真理子	緩和ケアにおけるリソース活用方法（2） ・事例を用いてリソース活用方法の検討	講義、発表、討議	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：討議内容を基に資料を修正する（2時間）
15	田中 優子	がん患者のエンドオブライフケア・家族のグリーフケア	講義、討議	予習：事前配布された講義資料をよく読み、不明な点を調べておく（2時間） 復習：討議内容に関わる文献を読み、レポートにまとめる（2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	がん看護学実習Ⅰ (CNS役割実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Oncology Nursing Practice I Clinical Professional Role	対象学年	2年
開講学期	前期	単位数	2単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※、宮津珠恵※、中野真理子※、荻津佳奈江※、濱道彩※、奥出有香子※、吉岡多美子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	がん看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整）をがん看護専門看護師と共に実践することで、がん看護専門看護師の役割理解を深めるとともに、自身ががん看護専門看護師としての役割機能を発揮する能力を習得する上での課題と方法を検討する。				
授業の位置づけ	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴや演習（がん看護CNS）、CNSに関連する各科目を修得した上で、臨床現場でがん看護CNSの役割機能の理解を深める科目である。がん看護学実習Ⅲ（統合実習）の基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護専門看護師が患者・家族に提供する高度な実践の目的や内容について述べるができる。 2. がん看護専門看護師が行っている教育活動の目的や内容について述べるができる。 3. がん看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴や具体的方法を述べるができる。 4. がん看護専門看護師が行う他職種との調整を必要とする問題や調整上の留意点、具体的方法について述べるができる。 5. がん看護専門看護師が携わる倫理的問題とその対応について述べるができる。 6. がん看護専門看護師が実施・指導している研究活動の目的や内容について述べるができる。 7. がん看護専門看護師としての役割機能を発揮する能力を習得する上での自己の課題について述べるができる。 				
先修要件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習（がん看護CNS）				
関連科目	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習（がん看護CNS）、がん看護学実習Ⅱ～Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・実習開始前には、自己の課題に基づき、実習計画を立案する。 ・毎日の実習終了後には、その日の実習を振り返り実習記録をまとめる。 ・2週間の実習終了後には、レポートを作成する。 				
成績評価の方法					
評価方法	看護実践の内容（40%）、カンファレンスの内容（20%）、レポート（40%）に実習指導者による評価も加えて、総合的に評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護専門看護師が患者・家族に提供する高度な実践の目的や内容について説明することができるか 2. がん看護専門看護師が行っている教育活動の目的や内容について説明することができるか 3. がん看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴や具体的方法を説明することができるか 4. がん看護専門看護師が行う他職種との調整を必要とする問題や調整上の留意点、具体的方法について説明することができるか 5. がん看護専門看護師が携わる倫理的問題とその対応について説明することができるか 6. がん看護専門看護師が実施・指導している研究活動の目的や内容について説明することができるか 7. がん看護専門看護師としての役割機能を発揮する能力を習得する上での自己の課題について説明することができるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
・実習終了後に提出するレポートは、コメントをつけて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
特になし					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@）				
備考	がん看護CNSコースの学生のみ履修可。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
2週間	高山 京子 宮津 珠恵 中野 真理子 荻津 佳奈江 濱道 彩 奥出 有香子 吉岡 多美子	1. 実習期間：2週間 2. 実習施設：順天堂大学医学部附属順天堂医院・練馬病院など 3. 実習内容 ・がん看護専門看護師に必要とされる6つの能力（実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整）の実際 4. 実習方法 ・臨床の状況に合わせて、2週間の実習を行う。 ・がん看護専門看護師に必要とされる6つの能力を効果的に理解できるように、実習指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。 ・看護師を含むケア提供者に行う実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整の場にごん看護専門看護師と共に参加する。 ・中間カンファレンスと終了カンファレンスを学生が計画し、実施する。	実習、発表、討議	予習：実習計画書の作成、同行するCNSの活動内容について調べ理解を深める（2時間） 復習：同行で学んだCNSの役割機能の振り返りと記録の作成、レポートの作成（2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	がん看護学実習Ⅱ(診断・治療実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Oncology Nursing Practice II Advanced Diagnostics and Therapeutics	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	2単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※、宮津珠恵※、加藤俊介※、高木辰哉※、中野真理子※、荻津佳奈江※、濱道彩※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	がん診療の場で、がんの専門医・がん看護専門看護師と共に、高度な医学アセスメントと看護アセスメントを行い、患者に必要な医療を判断し提供する能力を養う。また、地域の医療・保健・福祉サービス機関で働く様々な職種の役割・機能を理解した上で、地域で暮らすがん患者と家族の療養生活を支援するための看護援助について理解を深める。				
授業の位置づけ	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴや演習(がん看護CNS)、CNSに関連する各科目を修得した上で、臨床現場で診断・治療における医学アセスメントや臨床判断、地域医療連携について理解を深める科目である。がん看護学実習Ⅲ(統合実習)の基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん診療の場で医師と共にがん患者の診察を行い、診断・治療方針の決定に至る思考プロセスを説明できる。 2. 様々な診療技術やがんの病態生理学的知識及び臨床薬理学的知識を活用して、がん患者の徴候や症候をアセスメントできる。 3. 医学アセスメントをもとに、がんやがん治療ががん患者の生活に及ぼす影響を看護の立場からアセスメントし、他職種と協働しながら問題解決への方略を検討できる。 4. 地域医療連携にかかわる部署における保健・医療・福祉サービス提供者の活動について理解し、がん患者が医療施設から地域へ円滑に移行するための課題について明確にできる。 5. 地域で暮らすがん患者と家族の療養生活の実際を理解し、がん看護専門看護師の視点から、地域医療連携の在り方を考察できる。 				
先修要件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(がん看護CNS)				
関連科目	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(がん看護CNS)、がん看護学実習Ⅰ、がん看護学実習Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・実習開始前には、自己の課題に基づき、実習計画を立案する。 ・毎日の実習終了後には、その日の実習を振り返り実習記録をまとめる。 ・2週間の実習終了後には、レポートを作成する。 				
成績評価の方法					
評価方法	看護実践の内容(40%)、カンファレンスの内容(20%)、レポート(40%)に実習指導者による評価も加えて、総合的に評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの診断・治療方針の決定に至る医師の思考プロセスを説明できるか 2. 様々な診療技術やがんの病態生理学的知識及び臨床薬理学的知識を活用して、がん患者の徴候や症候のアセスメントを説明できるか 3. 医学アセスメントをもとに、がんやがん治療ががん患者の生活に及ぼす影響を看護の立場からアセスメントし、他職種と協働しながら問題解決への方略を説明できるか 4. 地域医療連携にかかわる部署における保健・医療・福祉サービス提供者の活動について理解し、がん患者が医療施設から地域へ円滑に移行するための課題について説明できるか 5. 地域で暮らすがん患者と家族の療養生活の実際を理解し、がん看護専門看護師の視点から地域医療連携の在り方を説明できるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
・実習終了後に提出するレポートは、コメントをつけて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
特になし					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@)				
備考	がん看護CNSコースの学生のみ履修可。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
2週間	高山 京子 宮津 珠恵 加藤 俊介 高木 辰哉 中野 真理子 荻津 佳奈江 濱道 彩	<p>1. 実習期間：2週間</p> <p>2. 実習施設：順天堂大学医学部附属順天堂医院がん治療センター、看護相談室</p> <p>3. 実習内容</p> <p>1) 以下の領域から1つを選択し、実習を行う。</p> <p>(1) がん薬物療法に関わる診断・治療支援と身体管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん薬物療法の判断と実施に関する臨床判断 ・有害事象のアセスメント ・有害事象に対する薬剤の選択・処置 など <p>(2) がん患者の緩和医療に関する診断・治療支援と身体管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん性疼痛への治療 ・症状緩和に向けた薬剤の選択・実施 ・検査の必要性の判断 など <p>2) 地域で暮らすがん患者と家族の療養生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養上の問題を抱えて在宅療養に移行するがん患者の地域医療連携支援の実際 ・地域医療連携における多職種カンファレンスでの専門看護師の役割など <p>4. 実習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床の状況に合わせて、2週間の実習を行う。 ・実習指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。 ・医師が行う診断・治療遂行のための検査や医療処置に同行し、緩和ケア、がん薬物療法を受ける患者の診断・治療過程と臨床判断を学ぶ。特に、がん患者が体験する有害事象や治療に伴う身体管理方法について、既習内容をもとに包括的にアセスメントする。包括的アセスメントに基づき、ケアとキュアを融合させた身体管理・症状緩和のためのケアを立案し、実習指導者と共に実践する。 ・身体診察所見、検査指示、薬剤指示、必要な医療処置について判断した内容は、担当医師からスーパーバイズを受ける。 ・2週間のうち、2日間は地域連携に関する実習を行う。まず、臨床指導者から療養上の問題を抱えて在宅療養に移行するがん患者の地域医療連携に関する実際について、臨床講義を受ける。また、退院調整カンファレンスなど地域医療連携に関する多職種カンファレンスに参加し、地域連携の実際を学ぶ。 ・中間カンファレンスと終了カンファレンスを学生が計画し、実施する。 	実習、発表、討議	<p>予習：実習計画書の作成、診療科の診断・治療法をガイドライン等を用いて調べておく(2時間)</p> <p>復習：実習記録の作成、レポート作成(2時間)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	がん看護学実習Ⅲ(統合実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Oncology Nursing Practice III Advanced Nursing Practice	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	6単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※、宮津珠恵※、中野真理子※、奥出有香子※、荻津佳奈江※、濱道彩※、吉岡多美子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	複雑で対応困難な問題を持つがん患者とその家族を受け持ち、患者と家族が体験する苦痛を緩和しQOLの向上を目指した看護援助を展開する。また、ともにケアを提供する看護専門職者に対する教育、相談、調整、倫理調整、他の専門職者との連携や調整、臨床看護研究の指導を行い、がん看護専門看護師としての能力を修得する。				
授業の位置づけ	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴや演習(がん看護CNS)、CNSに関連する各科目を修得し、がん看護CNSの役割や医学アセスメント・臨床判断について臨地実習で深めた上で、最終的にがん看護CNSとしての実践能力を養う統合実習である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑で対応困難な問題を持つがん患者とその家族を包括的にアセスメントすることができる。 2. 問題を解決するための具体的な援助計画を立案することができる。 3. 立案した援助計画を実施し、専門看護師の役割・機能に照らし合わせながら科学的に評価することができる。 4. 患者・家族が直面する倫理的課題を調整することができる。 5. 病棟の臨床看護師に対するコンサルテーションができる。 6. がん患者とその家族が抱える問題を解決するために、医療専門職者とケア調整を行うことができる。 7. 臨床看護師の看護の質向上に寄与する教育を企画実践することができる。 				
先修要件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(がん看護CNS)、がん看護学実習Ⅰ～Ⅱ				
関連科目	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(がん看護CNS)、がん看護学実習Ⅰ～Ⅱ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・実習開始前には、自己の課題に基づき、実習計画を立案する。 ・毎日の実習終了後には、その日の実習を振り返り実習記録をまとめる。 ・6週間の実習終了後には、レポートおよびケースレポートを作成する。 				
成績評価の方法					
評価方法	看護実践の内容(40%)、カンファレンスの内容(20%)、レポート(40%)に実習指導者による評価も加えて、総合的に評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑で対応困難な問題を持つがん患者とその家族の包括的アセスメントを説明できるか 2. 問題を解決するための具体的な援助計画を説明できるか 3. 立案した援助計画を実施し、専門看護師の役割・機能に照らして科学的な評価を説明できるか 4. 患者・家族が直面する倫理的課題の調整内容を説明できるか 5. 病棟の臨床看護師に対するコンサルテーション内容を説明できるか 6. がん患者とその家族が抱える問題を解決するために、医療専門職者とのケア調整内容を説明できるか 7. 臨床看護師の看護の質向上に寄与する教育の企画実践した内容を説明できるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
・提出されたレポートにコメントをつけて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
特になし					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@)				
備考	がん看護CNSコースの学生のみ履修可。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
6 週間	高山 京子 宮津 珠恵 中野 真理子 奥出 有香子 萩津 佳奈江 濱道 彩 吉岡 多美子	<p>1. 実習期間：6 週間</p> <p>2. 実習施設：順天堂大学医学部附属順天堂医院・練馬病院</p> <p>3. 実習内容</p> <p>1) 複雑で対応困難な問題を持つがん患者とその家族への直接的支援 (4 週間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括的アセスメント ・援助計画立案・実施・評価 <p>2) がん看護専門看護師としての役割実践 (2 週間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟の臨床看護師に対するコンサルテーション ・患者・家族が抱える倫理的課題の調整 ・臨床看護師への研究指導 ・多職種との連携や調整 ・臨床看護師の看護の質向上を目指した学習会の企画・実施 <p>4. 実習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床の状況に合わせて、6 週間の実習を行う。 ・実習指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。 ・複雑で対応困難な問題を持つがん患者を複数名受け持ち、ケアを提供する。 ・患者への直接的ケアを実施した病棟で働く臨床看護師に対して、専門看護師としての役割を実践する。 <p>実践計画は臨床指導者の指導を受けながら計画し、臨床指導者と共に実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間カンファレンスと終了カンファレンスを学生が計画し、実施する。 	実習、発表、討議	<p>予習：実習計画書の作成、受け持ち患者の看護計画立案、GNSの役割を果たすための計画立案 (2時間)</p> <p>復習：実践の振り返りと記録の作成、レポートの作成 (2時間)</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	感染看護学特論Ⅰ(感染症制御論)	必修・選択	選択
英語科目名	Infection Control Nursing I	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	中山 仁志	ナンバリング	
担当教員	中山 仁志※、岩淵 和久※、川上 和美※、篠原 厚子※、王 迪※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>感染制御、感染看護に必要な微生物学、感染免疫学を基盤に、病原微生物の特徴、感染成立の仕組み、感染免疫の仕組みを学ぶ。さらに、エビデンスに基づく感染制御、感染看護、医療関連感染サーベイランスを実践するために必要な、公衆衛生学、疫学の基礎的知識を学ぶ。</p> <p>授業形態は講義のほか、討議、発表を取り入れ、一部、演習形式で進める。</p>				
授業の位置づけ	市中感染症、医療関連感染の予防・制御と感染看護において基盤となる微生物学、免疫学、公衆衛生学、疫学の基礎的知識と理論を修得し、エビデンスに基づく高度実践看護を展開するための能力開発に向け、感染看護学特論Ⅱ・Ⅲと関連させながら学修を進め、感染看護学特論Ⅳ・Ⅴ、感染看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎と位置付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染制御において問題となる病原微生物の特徴と感染が成立する仕組み、感染に対する免疫の仕組みについて説明できる。 2. 公衆衛生における感染症対策の取り組みと関係法規について説明できる。 3. 感染制御、感染看護における疫学的手法の適用について説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	感染看護学特論Ⅱ、感染看護学特論Ⅲ、感染看護学特論Ⅳ、感染看護学特論Ⅴ、演習(感染看護CNS)、感染看護学実習Ⅰ、感染看護学実習Ⅱ、感染看護学実習Ⅲ、応用統計学				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定するテキストの関連ページおよび事前に配布される資料を読んだうえで授業に臨む。 2. 各授業で提示される予習課題に取り組み、授業に参加する。 3. 授業内で提示された資料および文献を読み、学習内容を高度実践看護で展開するうえでの課題の明確化と計画立案に活用する。 				
成績評価の方法					
評価方法	到達目標の修得状況について、発表(30%)、討議など授業への主体的参加(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染を引き起こす病原微生物とその特徴について説明することができるか。 2. ヒトの生体防御機構について説明することができるか。 3. 感染制御における公衆衛生上の課題と取り組みの現状について説明することができるか。 4. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の理念と概要について説明することができるか。 5. エビデンスに基づく感染制御、感染看護の実践に必要な疫学研究デザインと結果の解釈、臨床への適用方法について説明することができるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業前に提示した予習課題は、当該授業内において討議あるいは発表を行い、担当教員が解説を行う。科目のまとめとして提示する課題レポートは、科目責任者がコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<p>毎回配布される講義資料</p> <p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市川 厚, 田中 智之(2008). わかりやすい免疫学. 廣川書店 2. 小林芳郎, 笠原忠 編著(2018). スタンダード免疫学 第5版. 丸善出版 3. 大木秀一(2017). 基本からわかる 看護学入門 第3版. 医歯薬出版 4. Fletcher R, Fletcher SW, Fletcher GS 著, 福井次矢訳(2016). 臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版. メディカル・サイエンス・インターナショナル <p>その他、授業内で紹介する。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>質問・相談等は随時メールで受け付ける。</p> <p>科目責任者: 中山 nhitoshi@</p> <p>科目担当者: 岩淵 iwabuchi@、川上 kzakawa@、王 t-ou@</p>				
備考	原則として、遠隔授業で実施する。対面授業の場合は、本郷・御茶ノ水キャンパスで実施する。				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中山 仁志	I. 病原微生物の基礎知識 II. 感染のしくみ	講義	予習：微生物学のテキストの関連ページを読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
2	中山 仁志	III. 感染に対する生体防御機構 1. 自然免疫のしくみ	講義	予習：免疫学のテキストの関連ページを読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
3	中山 仁志	2. 獲得免疫のしくみ	講義	予習：免疫学のテキストの関連ページを読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
4	中山 仁志	3. 粘膜免疫・液性免疫の賦活化	講義	予習：免疫学のテキストの関連ページを読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
5	岩淵 和久	IV. 病原微生物による感染症 1. 病原細菌と感染症 2. 病原真菌と感染症 3. ウイルスと感染症	講義	予習：微生物学のテキストの関連ページを読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
6	篠原 厚子	V. 感染制御のための公衆衛生学 1. 地域における公衆衛生(水道・下水道・河川・公共施設)	講義	予習：事前に配布する講義資料を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。(学習時間：90分)
7	篠原 厚子	2. 世界における公衆衛生と感染症	講義	予習：事前に配布する講義資料を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。(学習時間：90分)
8	王 迪	3. 病院・施設における公衆衛生と感染症	講義	予習：事前に配布する講義資料を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。(学習時間：90分)
9	中山 仁志	4. 感染症対策における関係法規	講義	予習：感染症法、予防接種法、検疫法の概要を調べる。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。(学習時間：90分)
10	中山 仁志	5. 一～五類感染症患者への対応	講義	予習：感染症法の概要と一～五類感染症について調べる。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。(学習時間90分)
11	川上 和美	VI. 感染制御・感染看護における疫学の適用 1. 感染制御・感染看護に必要な疫学の基礎知識	講義 討議	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。授業内で提示する課題に取り組む。(学習時間：90分)
12	川上 和美	2. 疫学研究デザイン：記述疫学	講義 討議	予習：事前に配布する講義資料、疫学研究論文を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。授業内で提示する課題に取り組む。(学習時間：90分)
13	川上 和美	3. 疫学研究デザイン：分析疫学 1) 分析疫学の概要と特徴	講義 討議	予習：事前に配布する講義資料、疫学研究論文を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。授業内で提示する課題に取り組む。(学習時間：90分)
14	川上 和美	2) 代表的な分析疫学研究デザイン：コホート研究、症例対照研究	講義 討議	予習：事前に配布する講義資料、疫学研究論文を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。授業内で提示する課題に取り組む。(学習時間：90分)
15	川上 和美	4. 感染制御・感染看護におけるEBP (Evidence-based practice) の展開	講義 討議	予習：事前に配布する講義資料、疫学研究論文を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。(学習時間：90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	感染看護学特論Ⅱ(感染予防・マネジメント論)	必修・選択	選択
英語科目名	Infection Control Nursing II Prevention and Management	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	川上 和美	ナンバリング	
担当教員	川上 和美※、中山 仁志、横山 久美※、王 迪※、工藤 綾子※、伊藤 昭※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	医療・福祉施設と地域における感染制御システムの構築および組織的な感染制御マネジメントについて学ぶ。 感染症患者や易感染者など感染症のリスクを抱える人々の課題を明確にし、エビデンスに基づく感染予防策の理論と方法を学ぶ。 授業形態は講義のほか、討議、発表、見学を取り入れる。			
授業の位置づけ	医療機関（病院）、外来、福祉施設、在宅などのあらゆる場で発生する医療関連感染の予防に向け、エビデンスに基づく感染予防策を実践するための理論と方法を学修し、組織的に推進できる実践能力を高めるために、感染看護学特論Ⅰ・Ⅲと関連させながら学修を進め、感染看護学特論Ⅳ・Ⅴ、感染看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎と位置付ける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消毒・滅菌・無菌操作方法および臨床における応用について説明できる。 2. 医療・福祉施設におけるファシリティマネジメントの具体的な方法を説明できる。 3. 感染制御に関わる課題に対する看護の方法について説明できる。 4. 感染予防策の根拠と方法を説明できる。 5. 感染性医療廃棄物の適正処理について説明できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	感染看護学特論Ⅰ、感染看護学特論Ⅲ、感染看護学特論Ⅳ、感染看護学特論Ⅴ、演習（感染看護CNS）、感染看護学実習Ⅰ、感染看護学実習Ⅱ、感染看護学実習Ⅲ			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定するテキストの関連ページおよび事前に配布される資料を読んだうえで授業に臨む。 2. 各授業で提示される予習課題に取り組み、授業に参加する。 3. 授業内で提示された資料および文献を読み、学習内容を感染看護高度実践で展開するうえでの課題の明確化と計画立案に活用する。 			
成績評価の方法				
評価方法	到達目標の修得状況について、発表（30%）、討議など授業への主体的参加（30%）、課題レポート（40%）を総合して評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関（病院）、外来、福祉施設、在宅などのあらゆる場における医療関連感染のリスクを説明できるか。 2. 消毒・滅菌・無菌操作方法、ファシリティマネジメントの具体的方法、感染予防策の根拠と方法、感染性医療廃棄物の適正処理について具体的に説明できるか。 3. エビデンスに基づく感染予防策を組織的に推進し、保健・医療・看護実践へ適用していくうえでの課題と具体策を記述できるか。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
授業前に提示した予習課題は、当該授業内において討議あるいは発表を行い、担当教員が解説を行う。 科目のまとめとして提示する課題レポートは、科目責任者がコメントする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
看護学テキストNiCE 感染看護学	操華子、川上和美編	南江堂	978-4-524-22978-9	
参考文献				
毎回配布される授業資料 参考文献 <ol style="list-style-type: none"> 1. 坂本史衣(2019). 基礎から学ぶ医療関連感染対策 改訂第3版. 南江堂. 2. CDC (2007). 隔離予防策のためのガイドライン, 医療現場における感染性微生物の伝播の予防 3. CDC (2006). 医療環境における多剤耐性菌の管理のためのガイドライン 4. CDC (2011). 血管内留置カテーテル由来感染の予防のためのガイドライン 5. CDC (2009). カテーテル関連尿路感染の予防のためのガイドライン 6. WHO (2009). 医療における手指衛生ガイドライン 7. WHO (2016). 手術部位感染予防のための世界的ガイドライン 8. 大久保憲ほか編 (2020). 消毒と滅菌のガイドライン2020年版. へるす出版 その他、授業の中で紹介する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問・相談等は随時メールで受け付ける。 科目責任者: kzkawaka@			
備考	原則として遠隔授業で実施する。対面授業の場合は、本郷・御茶ノ水キャンパスで実施する。			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1-2	横山 久美	I. 洗浄・消毒・滅菌とその効果 1. 洗浄・消毒・滅菌の目的とその効果 2. 洗浄・消毒・滅菌の実際	講義 討議	予習：洗浄・消毒・滅菌の概念について調べる。(学習時間：90分) 復習：洗浄・消毒・滅菌の看護実践の場での活用について考察し整理する。(学習時間：90分)
3	伊藤 昭	II. ファシリティマネジメント(環境衛生と感染予防) 1. 空調・水・リネン	講義	予習：医療機関のゾーニングについて調べる。(学習時間：90分) 復習：空調・水・リネンの管理における看護師の役割について考察する。(学習時間：90分)
4	川上 和美	2. 環境清掃	講義 討議	予習：医療関連感染予防における環境清掃の目的について調べる。(学習時間：90分) 復習：医療機関等における環境清掃を適切に行うための課題と具体策について考察し整理する。(学習時間：90分)
5	中山 仁志	3. 医薬品・医療用具等の管理	講義 討議	予習：所属施設における医薬品・医療用具管理の現状について調べる。(学習時間：90分) 復習：医薬品・医療用具等の管理における看護師の役割について考察する。(学習時間：90分)
6	中山 仁志	4. 食品衛生	講義 討議	予習：医療機関、福祉施設等で発生した食中毒事例と原因微生物について調べる。(学習時間：90分) 復習：医療機関、福祉施設等における食中毒を予防するための課題と具体策を考察し整理する。(学習時間：90分)
7	川上 和美 王 迪	III. 感染防止技術 1. 手指衛生と標準予防策 1) 感染予防ガイドラインの活用方法 2) 標準予防策の概念と具体的方法	講義 討議	予習：CDC隔離予防策のためのガイドラインを読み、標準予防策の概念と10項目の対策について調べる。(学習時間：90分) 復習：さまざまな医療提供の場における標準予防策の遵守を推進するうえでの課題と解決策を考察する。(学習時間：90分)
8	王 迪 川上 和美	2. 感染経路別予防策 1) 接触予防策 2) 飛沫予防策 3) 空気予防策	講義 発表 討議	予習：感染経路別予防策の定義と考え方、接触予防策、飛沫予防策、空気予防策について調べ、発表準備を行う。(学習時間：2時間) 復習：さまざまな医療提供の場における感染経路別予防策を実践するうえでの課題と解決策を考察する。(学習時間：90分)
9	王 迪	3. 職業感染対策	講義 討議	予習：職業感染の定義と職業感染で問題となる感染症、所属施設で実施している職業感染予防策について調べ、発表準備を行う。(学習時間：2時間) 復習：様々な医療提供の場における職業感染予防上の課題と解決策を考察する。(学習時間：90分)
10	川上 和美	4. 医療器具・処置別感染防止技術 1) 血管内留置カテーテル関連感染対策 2) 尿道留置カテーテル関連感染対策	講義 討議	予習：提示された参考文献(CDCガイドライン)を読む。(学習時間：90分) 復習：血管内留置カテーテル関連感染および尿道留置カテーテル関連感染を予防するための看護師の役割と多職種連携の方法について考察する。(学習時間：90分)
11	川上 和美	3) 人工呼吸器関連感染対策	講義	予習：提示された参考文献(CDCガイドライン)を読む。(学習時間：90分) 復習：人工呼吸器関連感染を予防するための看護師の役割と多職種連携の方法について考察する。(学習時間：90分)
12	川上 和美	4) 手術部位感染対策	講義	予習：提示された参考文献(CDCガイドライン)を読む。(学習時間：90分) 復習：手術部位感染を予防するための看護師の役割と多職種連携の方法について考察する。(学習時間：90分)

13	川上 和美	5. 易感染者への感染防御対策技術	講義 討議	予習：感染看護学特論 I で学習した感染に対する生体防御機構について確認する。 (学習時間：90分) 復習：易感染者の感染リスクと感染防御対策技術の根拠について授業資料をもとに振り返り整理する。(学習時間：90分)
14	工藤 綾子	IV. 感染性医療廃棄物の安全処理技術	講義 討議	予習：廃棄物処理法における廃棄物の区分について調べる。(学習時間：90分) 復習：感染性医療廃棄物の安全な処理を徹底する上での課題と解決策を考察する。 (学習時間：90分)
15	工藤 綾子	V. 廃棄物処理施設の現状	講義 討議	予習：廃棄物処理の流れについて調べる。 (学習時間：90分) 復習：安全な廃棄物処理における看護師の役割について考察する。(学習時間：90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	感染看護学特論Ⅲ(感染症診断・病態論)	必修・選択	選択
英語科目名	Infection Control Nursing III Infectious Disease Diagnosis and Patholo	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	川上 和美	ナンバリング	
担当教員	内藤 俊夫※、乾 啓洋※、福井 由希子※、鈴木 麻衣※、森 博威※、上原 由紀※、後藤 研人※、金澤 晶雄※、三澤 成毅※、笹野 央※、村井 謙治※、長南 正佳※、横山 友美※	授業形態	講義

※…実務担当教員

授業概要					
全体内容	感染症の診断、検査、治療、医療処置の適切な方法、抗菌薬使用方法、予防接種等について修得し、感染症による異常の早期発見と迅速に対応するためのアセスメント能力を養う。				
授業の位置づけ	感染看護高度実践で求められる感染症患者、易感染者に対するアセスメント能力の修得を目指し、感染症診断・病態、検査、治療、感染症予防を学修する。さらに、臨床推論の基礎を学び、問診、症状、バイタルサイン、身体所見、検査・画像所見などから診断に至るまでの基本的アプローチや感染症治療の考え方を修得することで、感染看護学特論Ⅰ・Ⅱと関連させながら学修を進め、感染看護学特論Ⅳ・Ⅴ、感染看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎と位置付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症診断の種類・方法について説明できる。 2. 感染症診断の検査法と結果の解釈について説明できる。 3. 感染症の治療方法について説明できる。 4. 感染症予防並びに感染部位の医療処置方法について説明できる。 5. 感染症予防のためのワクチンの必要性について説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	感染看護学特論Ⅰ、感染看護学特論Ⅱ、感染看護学特論Ⅳ、感染看護学特論Ⅴ、演習(感染看護CNS)、感染看護学実習Ⅰ、感染看護学実習Ⅱ、感染看護学実習Ⅲ、機能病態学特論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント特論				
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関連するテキスト、参考文献の該当ページを熟読して授業に臨む。 2. 微生物学、感染免疫の復習を行ったうえで毎回の授業に臨む。 				
成績評価の方法					
評価方法	到達目標の修得状況について、発表(30%)、討議など授業への主体的参加(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症診断の基本的考え方と診断プロセスを説明できるか。 2. 感染症診断の検査法と結果の解釈、感染症治療の方法と考え方、留意点について説明できるか。 3. 感染症予防および感染症を発生した患者に対する処置方法について説明できるか。 4. 感染症検査や治療・処置を受ける患者への支援方法と看護のかかわり方について説明できるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
授業前に提示した予習課題は、当該授業内において討議あるいは発表を行い、担当教員が解説を行う。科目のまとめとして提示する課題レポートは、科目責任者がコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
毎回配布される講義資料					
参考文献					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 青木真(2020). レジデントのための感染症診療マニュアル 第4版. 医学書院 2. 岡秀昭(2023). 感染症プラチナマニュアル Ver.7 2023-2024. メディカルサイエンスインターナショナル 3. 館田一博ほか編(2021). 新微生物学(Qシリーズ). 日本医事新報社 4. IDATENセミナーテキスト 編集委員会(2019). 病院内/免疫不全関連感染症診療の考え方と進め方 第2集 IDATEN感染症セミナー実況中継. 医学書院 5. 洪江寧編著・岡秀昭監修(2023). こういうときはこうする! 感染症クリスタルエビデンス 診断編. 金芳堂 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談等は随時、科目責任者のメールで受け付け、科目責任者より各授業担当者へ連絡する。 科目責任者: kzkawaka@				
備考	原則として遠隔授業で実施する。対面授業の場合は、本郷・御茶ノ水キャンパスで実施する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1	内藤 俊夫	I. 感染症診断の基本的考え方 1. 感染症診断の流れと根拠 2. 画像検査による診断	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、授業で学んだことを復習する。(学習時間：90分)
2	鈴木 麻衣	3. 感染症による生体の変化 神経反応、内分泌反応、サイトカイン反応、免疫反応	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
3	上原 由紀	4. 感染源・感染経路から見た感染症	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
4	森 博威	II. 感染症の現状 1. 新興・再興感染症	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
5	鈴木 麻衣	2. 市中感染と医療関連感染 3. 日和見感染症 4. 薬剤耐性菌	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
6	長南 正佳	III. 感染症に関連した検査法 1. 病原体を検出する検査方法 1) 検査材料の採取・保存	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
7	三澤 成毅 村井 謙治	2) 検査法 ①細菌学的検査法 ②血清学的検査法 ③遺伝学的検査法 ④真菌学的検査法 ⑤原虫学的検査法	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
8	鈴木 麻衣	⑥ウイルス学的検査法	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
9	乾 啓洋	2. 生体の反応から診断する方法 1) 抗体検査 2) 細胞免疫による診断	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
10	笹野 央	IV. 感染症の治療 1. 化学療法の基礎 2. 各種化学療法薬	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
11	福井 由希子	3. 抗菌薬適正使用と効果判定	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
12	金澤 晶雄	4. 感染症治療におけるコンサルテーション	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
13	横山 友美	V. 感染部位における医療処置	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
14	後藤 研人	VI. カテーテル挿入に関連した医療処置	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)
15	内藤 俊夫	VII. 感染症の予防 1. ワクチンと接種方法	講義	予習：事前に配布する講義資料、参考文献の授業に関連する内容を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し、学んだことを復習する。(学習時間：90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	感染看護学特論Ⅳ(感染症看護支援論)	必修・選択	選択
英語科目名	Infection Control Nursing IV Nursing Support	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	横山 久美	ナンバリング	
担当教員	横山 久美※、川上 和美※、王 迪※、平松 玉江※、久保田 早苗※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	地域と医療・福祉施設等における易感染者への感染症予防看護が適切に行われるための看護師の役割を理解し、具体的な感染制御、感染症看護を実践するための能力を修得する。そこで、医療・介護施設や在宅療養の場において医療・看護・介護を受ける易感染者および感染症患者と家族に対する感染症看護の特徴と感染症看護を実践するための方法と患者支援について学修する。また、日本のみならず世界規模で対策が必要となる感染症を有する患者に対する感染症看護について学修する。				
授業の位置づけ	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学修内容を活用し、本科目で地域や医療・福祉施設等において易感染者および感染症を有する患者と家族に対する感染症看護に必要なアセスメントと支援方法を学修することにより、感染看護学特論Ⅴの学修および感染看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて感染症看護を実践するための基礎と位置付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域と医療・福祉施設等の場や対象にあわせた具体的な感染制御、感染症看護の意義と課題について説明できる。 2. 易感染者の特徴と対象に合わせた看護について説明できる。 3. 母性、小児の感染症患者の看護の特徴と方法について説明できる。 4. 成人・高齢者の感染症患者の看護の特徴と方法について説明できる。 5. 病原微生物に特有な感染症看護の特徴について説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
学修上の注意	<p>[予習]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前や授業内に提示した文献を用いて、各授業のテーマに関する課題を明らかにする。 2. 指定したテキスト、参考書等の授業に関連する内容を熟読しておく。 <p>[復習]</p> <p>授業前や授業内に提示した文献等を読み、各授業のテーマに関する感染症看護の課題を明確にし、感染症看護高度実践に必要な看護について検討する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	到達目標の修得状況について、プレゼンテーション(40%)、ディスカッションなど授業への主体的参画(30%)、レポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域と医療・福祉施設等の場で求められる感染制御、感染症看護を実践する上での課題について説明できる。 2. 各ライフステージの特徴を踏まえた感染症看護の具体的な実践方法について説明できる。 3. 易感染者および病原微生物に特有な感染症を有する患者に対する感染症看護の具体的な実践方法について説明できる。 4. 感染症看護の対象となる患者および家族に必要な感染症看護上の支援について説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
予習課題は授業内で確認し、発表や討議、解説を行う。 最終課題はコメントを付して返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	看護学テキストNiCE 感染看護学	操華子, 川上和美編	南江堂	978-4-524-22978-9	
参考文献					
参考文献 大曲貴夫、操華子編(2015). 感染管理・感染症看護テキスト, 照林社. IDATENセミナーテキスト 編集委員会(2019). 病院内/免疫不全関連感染症診療の考え方と進め方 第2集 IDATEN感染症セミナー実況中継, 医学書院. 他、授業の中で紹介する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡のこと) kmyokoya@				
備考	原則として遠隔授業で実施する。対面授業の場合は、本郷・御茶ノ水キャンパスで実施する。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	

1-2	川上 和美 横山 久美 王 迪	1. 易感染者の看護 1) 易感染者とは 2) 易感染者の特徴 3) 易感染者のアセスメント 4) 易感染者・感染症患者に対する看護過程の展開	講義 発表 討議	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：120分) 復習：感染症患者・易感染者のアセスメント、看護過程の特徴について整理する。 (学習時間：90分)
3	横山 久美	2. 病院・地域における易感染者の看護 1) 対象の特性別感染症看護 (1) 母性および小児・NICUにおける感染症看護 ①母子間でおこる感染症	講義 発表 討議	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：90分) 復習：母子間で生じる感染症の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
4	久保田 早苗	②小児感染症看護（保育園・幼稚園含む） ③低出生体重児に対する感染症看護	講義	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：90分) 復習：小児への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
5	横山 久美	(2) 成人の感染症患者の看護 ①救急患者への感染症看護	講義	予習：救急治療の場の特徴を調べる。 (学習時間：90分) 復習：救急患者への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
6	横山 久美	②移植患者への感染症看護	講義	予習：移植患者の特徴を調べる。 (学習時間：90分) 復習：移植患者への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
7	平松 玉江	③化学療法患者への感染症看護	講義	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：90分) 復習：化学療法を受ける患者への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
8	横山 久美	④人工透析患者の感染症看護	講義 発表 討議	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：90分) 復習：人工透析患者への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
9	横山 久美	⑤周術期の感染症看護	講義	予習：周手術期にある患者の特徴を調べる。 (学習時間：90分) 復習：周手術期にある患者への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
10	横山 久美	(3) 高齢者の感染症患者の看護 ①活動量が低下している高齢者の感染症看護 ②失禁高齢者の感染症看護 ③複数の合併症を抱える高齢者の感染予防	講義 発表 討議	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：120分) 復習：高齢者に対する感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
11	横山 久美	3. 地域・福祉施設における感染症看護 1) 在宅療養の場における感染症看護	講義	予習：在宅療養の特徴を調べる。 (学習時間：90分) 復習：在宅療養者への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
12	王 迪	2) 福祉施設における感染症看護 3) 認知症高齢者の感染症予防	講義 討議	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：90分) 復習：認知症者の感染症を予防するための看護方法について復習する。 (学習時間：90分)
13	横山 久美	4. 病原微生物に特な感染症看護 1) 結核患者への感染症看護	講義 発表 討議	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：90分) 復習：結核患者への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
14	久保田 早苗	2) HIV患者への感染症看護	講義	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：90分) 復習：HIV陽性者およびAIDS患者への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)
15	川上 和美	3) 薬剤耐性菌感染症患者の看護	講義 発表 討議	予習：事前課題に取り組む。 (学習時間：90分) 復習：薬剤耐性菌を保有する患者への感染症看護の特徴と看護について復習する。 (学習時間：90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	感染看護学特論Ⅴ(感染症制御システム論)	必修・選択	選択
英語科目名	Infection Control Nursing V Infection Control System	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	川上 和美	ナンバリング	
担当教員	川上 和美※、工藤 綾子※、高野 八百子※、中根 香織※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	市中及び特殊な環境下(災害)、医療関連感染の防止方法に関する感染制御システム、看護活動、職員教育、医療従事者の健康管理の重要性とそこに関わる人びとの役割と活動内容から、多職種および地域との連携についての理解を深め、感染症看護を展開するための能力を養う。			
授業の位置づけ	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学修内容を活用し、本科目では組織的な感染制御活動、多職種連携および地域連携の具体的な展開方法を学ぶ。さらに、感染症看護専門看護師の役割を發揮するために、看護倫理特論、コンサルテーション論での学修内容と関連させながら、感染症看護に特化したコンサルテーション、調整、倫理的課題と解決方法について学修する。災害やパンデミックといった健康危機状況における感染看護の機能と活動を学び、感染症看護専門看護師としての役割拡大を目指し、感染看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎と位置付ける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を發揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染制御の実効を上げるための感染制御システムおよび職員教育について説明できる。 2. 医療従事者の健康管理の意義と目的を理解し、方法について説明できる。 3. 感染症に特化したコンサルテーションの概要や方法について説明できる。 4. 医療施設や地域活動における多職種間の連携とその課題および調整について説明できる。 5. 感染制御・感染症看護の実践上で生じる倫理的課題と解決方法について説明できる。 6. 災害時における感染症の特徴とその予防方法について説明できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	感染看護学特論Ⅰ、感染看護学特論Ⅱ、感染看護学特論Ⅲ、感染看護学特論Ⅳ、演習(感染看護CNS)、感染看護学実習Ⅰ、感染看護学実習Ⅱ、感染看護学実習Ⅲ、看護倫理特論、コンサルテーション論、看護教育学特論Ⅰ			
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定するテキストの関連ページおよび事前に配布される資料を読んだうえで授業に臨む。 2. 各授業で提示される予習課題に取り組み、授業に参加する。 3. 授業内で提示された資料および文献を読み、学修内容を感染看護高度実践で展開するうえでの課題の明確化と計画立案に活用する。 			
成績評価の方法				
評価方法	到達目標の修得状況について、発表(30%)、討議など授業への主体的参加(30%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染制御に関する法制度、組織的な感染制御システムおよび感染予防・管理プログラムの構成要素について説明できるか。 2. 感染症看護における多職種連携と地域連携の方法および看護師の役割について説明できるか。 3. 感染症看護における職員教育の課題と展開方法を説明できるか。 4. 感染症看護専門看護師が実施するコンサルテーション、調整、倫理調整について説明できるか。 5. 災害やパンデミックといった健康危機状況における感染看護上の課題と具体的な看護活動について説明できるか。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
授業前に提示した予習課題は、当該授業内において討議あるいは発表を行い、担当教員が解説を行う。科目のまとめとして提示する課題レポートは、科目責任者がコメントする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
看護学テキストNiCE 感染看護学	操華子, 川上和美 編集	南江堂	978-4-524-22978-9	
参考文献				
毎回配布される講義資料 参考文献 <ol style="list-style-type: none"> 1. 堀賢(2015). 感染対策実践マニュアル 考え方と運営のポイント 第3版. じほう. 2. 大曲貴夫, 操華子(2015). 感染管理・感染症看護テキスト. 照林社. 3. 坂本史衣(2019). 基礎からわかる医療関連感染対策-標準予防策からサーベイランスまで 改訂第3版. 南江堂. 4. 坂本史衣(2023). 泣く子も黙る感染対策. 中外医学社. 5. E.H. シャイン著, 稲葉元吉・尾川丈一訳(2016). プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと-. 白桃書房. 6. サラI.フライほか(2010). 看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド 第3版. 日本看護協会出版会. 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問・相談等は随時メールで受け付ける。 科目責任者: kzkawaka@			
備考	原則として遠隔授業で実施する。対面授業の場合は、本郷・御茶ノ水キャンパスを使用する。			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	川上 和美	I. 感染症看護の変遷からみる病院管理 1. 欧米における感染制御の変遷 2. 日本における感染症看護の変遷と課題	講義 討議	予習：テキスト序章、第I章、第III章を読む。(学習時間：90分) 復習：講義資料を活用し授業で学んだことを復習する。(学習時間：90分)
2	川上 和美	II. 組織的な感染制御システムとリスクマネジメント 1. 感染制御のための病院管理 2. 感染制御の実効を上げるための職員教育	講義 発表	予習：所属施設の感染制御システムおよび組織体制を調べ、発表準備を行う。テキスト第IV章を読む。(学習時間：2時間) 復習：所属施設の感染制御システム上の課題と解決策を考察する。(学習時間：90分)
3	川上 和美	III. 感染防御として必要な医療従事者の健康管理	講義 討議	予習：所属施設における医療従事者の健康管理システム・規定・方法について調べる。(学習時間：90分) 復習：感染予防における医療従事者の健康管理の方法について、講義資料を活用し整理する。(学習時間：90分)
4-5	高野 八百子	IV. 感染症看護に関わる看護職者の役割と医療連携 1. 感染症看護専門看護師の機能と役割について 2. リンクナースの役割について 3. 病院感染制御を支える感染制御医師(ICD)、感染制御薬剤師、感染制御検査技師などの役割について	講義 討議	予習：感染症看護専門看護師の役割について調べる。(学習時間：90分) 復習：感染症看護専門看護師の役割と活動・評価方法について、講義資料を活用し整理する。(学習時間：90分)
6-7	中根 香織	V. 感染症に特化したコンサルテーション 1. 感染症看護におけるコンサルテーションの概要 2. 臨地におけるコンサルテーションの実際	講義 討議	予習：プロセス・コンサルテーションの定義とプロセス・コンサルテーションモデルについて調べる。(学習時間：90分) 復習：感染症看護専門看護師が展開するコンサルテーションについて、講義資料を活用し整理する。(学習時間：90分)
8	川上 和美	VI. リスクコミュニケーション	講義 討議	予習：リスクコミュニケーションとは何かを調べる。(学習時間：90分) 復習：感染看護におけるリスクコミュニケーションのあり方と自身の役割について、講義資料を活用し考察する。(学習時間：90分)
9	川上 和美	VII. 地域活動における感染予防対策の連携 1. 訪問看護師による感染予防対策技術と連携	講義 討議	予習：訪問看護制度について調べる。(学習時間：90分) 復習：訪問看護における感染リスクと感染予防の方法について、講義資料を活用し整理する。(学習時間：90分)
10	川上 和美	2. 在宅・地域における感染制御と連携	講義 討議	予習：テキスト第V章を読む。(学習時間：90分) 復習：在宅・地域における感染制御と連携を推進するうえでの看護職の役割を考察する。(学習時間：90分)
11	川上 和美	3. 保健師による感染予防対策技術と連携	講義 討議	予習：テキスト第III章を読む。(学習時間：90分) 復習：感染看護における保健師との連携について、講義資料を活用し整理する。(学習時間：90分)
12-13	川上 和美	VIII. 医療・福祉施設・在宅における感染症と倫理 1. 感染症患者に関わる医療職者・介護職者に求められる倫理 2. 隔離などの感染予防場面に求められる倫理	講義 発表 討議	予習：テキスト第VII章を読む。提示される事例を読み、Jonsenの4分割表へ情報を整理したうえで倫理的課題と解決策についてレポートをまとめる。(学習時間：2時間) 復習：授業内で検討した事例を振り返り、事例の倫理的課題および解決策、看護師の役割について課題レポートをまとめる。(学習時間：2時間)
14	工藤 綾子	IX. 災害時・パンデミックにおける感染予防対策 1. 災害の実態 2. 災害時における感染制御の重要性 3. 災害直後の感染予防対策技術 4. 集団避難所における感染予防対策技術	講義 討議	予習：事前に配布された講義資料を読む。(学習時間：90分) 復習：災害時の感染リスクと感染予防の方法について、講義資料を活用し整理する。(学習時間：90分)
15	川上 和美	IX. 災害時・パンデミックにおける感染予防対策 1. パンデミックにおける感染予防対策	講義 討議	予習：新型コロナウイルス等の新興感染症の発生状況と国内の医療体制について調べる。(学習時間：90分) 復習：パンデミック発生時の対応方法と看護師の役割について、講義資料を活用し整理する。(学習時間：90分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	感染看護学実習Ⅰ(感染看護高度実践/感染対策実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Infection Control Nursing Practice I	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	6単位
代表教員	川上 和美	ナンバリング	
担当教員	川上 和美※、横山 久美※、王 迪※、堀 賢※、高野 八百子※、長富 美恵子※、安田 雅一※、西西 麻美※、白幡 峰子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	感染症看護専門看護師に求められる能力を培うために、感染に関わる問題解決のためのサーベイランスならびにデータ収集・分析方法を修得するとともに、感染症患者ならびに易感染者に対し、医療関連感染症の拡大防止と感染予防の視点から専門的知識・技術を統合した、包括的なケアとマネジメントによる看護実践力を身につける。また、感染症患者・その家族、医療従事者等の間におこる課題を明確にし、倫理調整・コンサルテーション・教育支援の開発と研究を遂行できる能力を修得する。				
授業の位置づけ	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、機能病態学特論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント特論、演習(感染看護CNS)および感染看護学実習Ⅱで学修した知識・技術を活用し、感染症看護専門看護師に求められる集団を対象とした感染管理実践と患者個人・家族を対象とした感染看護高度実践を展開する能力を修得するための科目と位置付ける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	医療施設での感染症看護に関する高度看護実践を行うとともに、感染対策室等の感染対策を行う部署における感染制御・管理の実践を通して以下を修得する。 1. 感染にかかわる問題解決のための医療関連感染サーベイランスならびにデータ収集・分析・フィードバックについて、一連のプロセスを実践できる。 2. 職業感染防止や医療安全における組織の取り組み、感染症看護の役割を説明できる。 3. 感染症患者ならびに易感染者とその家族等に対する感染症看護に関する直接的ケア、教育的支援についての看護を実践・評価できる。 4. 感染症患者等を看護する看護職者が患者の問題解決に向けた看護を展開できるための教育支援、調整(コーディネーション)、コンサルテーションを実践・評価できる。 5. 感染症患者やその家族及び医療従事者等の間に生じる倫理的課題を明確にし、解決に向けた倫理調整を実践・評価できる。				
先修要件	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ履修者 感染看護CNS選択者のみ履修可				
関連科目	感染看護学特論Ⅰ、感染看護学特論Ⅱ、感染看護学特論Ⅲ、感染看護学特論Ⅳ、感染看護学特論Ⅴ、演習(感染看護CNS)、機能病態学特論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント特論、看護理論特論、看護倫理特論、コンサルテーション論、看護教育学特論Ⅱ、感染看護学実習Ⅱ、感染看護学実習Ⅲ				
学修上の注意	【実習開始前】 1. 感染症看護専門看護師の役割と活動内容を復習し、実習課題を明確にする。 2. 感染症看護専門看護師の役割をふまえ、詳細な実習計画書を作成する。 【実習期間中】 1. 実習中の事例検討を行い、以降の実習内容に反映する。 2. カンファレンス等を通じ、学生間の学びの共有と実習目標達成に向けた方法等の検討を行う。 3. 実習最終週の実習報告会において、実習の学びと目標達成状況を総括する。 【実習終了後】 1. 実習終了後に、実習の達成状況と学びについて合同実習報告会を開催する。 2. 感染看護学実習における事例の分析を通して、感染症看護専門看護師としての看護活動およびその役割について発表する。 3. 実習での学びをふまえ、課題レポートを作成する。				
成績評価の方法					
評価方法	看護実践内容(60%)、カンファレンスでの発表(10%)、以下の実践内容についての課題レポート(30%)に基づき、実習指導者の評価を加味して総合評価を行う。 ・感染症看護専門看護師として実践する教育とコンサルテーション ・場に応じた感染看護専門看護師の役割と機能 ・感染症患者のケアの調整(コーディネーション) ・感染症患者、易感染者、ケア提供者への倫理調整				
評価基準	1. 医療関連感染サーベイランスを計画し、実施に向けた調整とデータ収集、分析、フィードバックを実践することができるか。 2. 感染対策室における組織的な感染予防活動への参加を通じて、感染症看護専門看護師の役割を説明することができるか。 3. 看護チームや多職種と連携しながら、受け持ち患者および家族に対する看護を実践し評価することができるか。 4. 受け持ち患者や家族が抱える問題解決に向けた調整(コーディネーション)、教育を実践し評価することができるか。 5. 受け持ち患者や医療従事者等の間に生じる倫理的課題を検討し解決に向けて実践し、評価することができるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
提出された実習記録および課題レポートは、担当教員または実習指導者がコメントしフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					

参考文献				
<p>感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（感染看護CNS）の配布資料を活用する。 また、以下の参考文献を活用する。 1. 中村美鈴, 江川幸二 監訳 (2020). 高度実践看護 統合的アプローチ 改訂第2版 (Hamric and Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach). へるす出版 2. 操華子, 川上和美 編集 (2022). 看護学テキストNiCE 感染看護学. 南江堂. 3. 大曲貴夫, 操華子 編集 (2015). 感染管理・感染症看護テキスト. 照林社. 4. 堀賢 (2015). 感染対策実践マニュアル 考え方と運営のポイント 第3版. じほう. 5. E.H. シャイン著, 稲葉元吉・尾川丈一訳 (2016). プロセス・コンサルテーションー援助関係を築くこと一. 白桃書房.</p>				
その他				
連絡先・オフィスアワー		随時、電子メール (kzkawaka@) で質問を受け付ける。		
備考		<p>【実習の基本的な進め方】 1. 実習は実習目的・目標ならびに各実習の到達目標に照らして設定した自らの実習テーマに基づき実習計画を立案し、主体的に課題解決を行う。 2. 実習は、感染症看護専門看護師および感染看護・感染症診療に熟達した臨地実習指導者、科目責任者等から指導を受けて展開する。臨地実習指導者の指導・助言のもとに感染看護ならびに感染症診療活動、感染対策活動を実践する。 3. 実習初日は、臨地実習指導者によるオリエンテーションを受けるとともに、実習の日程および実習内容の調整を図る。 4. 実習2日目以降は実習目標、計画、実習内容等を日々、臨地実習指導者ならびに科目責任者等へ報告し、実習目標および実習計画を修正・調整しながら進める。 5. 実習中は自ら必要に応じてテーマカンファレンスを企画し、参加者の調整や運営を行う。カンファレンスにおいて自ら実践した感染看護、感染対策活動、参加した感染症診療活動について発表し、助言を受けながら学修内容の統合を図る。 6. 実習最終日は実習報告会を企画・運営し、実習の学びを総括する。 7. 原則として実習期間を規定しているが、目標達成および施設の状況に応じて調整する。感染看護学実習Ⅰは感染看護高度実践実習4単位と感染対策実習2単位の計6単位としているが、履修生の課題によって感染看護高度実践実習のみで6単位取得も可能とする。</p>		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1~4週	川上 和美 実習指導者	<p>1. 実習時期：4月~10月（6週間） 2. 実習場所：順天堂大学医学部附属6病院およびテーマに合致した学外病院等の医療施設等 3. 実習内容と方法：感染看護高度実践実習（4単位） 1) HIV/AIDS患者および透析療法や化学療法、手術療法、移植等を受ける易感染患者を受け持ち、感染看護を実践する。 2) 看護過程の思考に基づき、患者等への直接的ケア、教育、倫理調整についての高度な看護実践を行う。 3) 感染症患者等にかかわる医療従事者を対象とした感染予防教育計画を立案し、実施・評価する。 4) 感染症看護専門看護師の指導のもとコンサルテーション活動を実践し、評価する。 5) 感染症にかかわる患者あるいは医療従事者の倫理的課題を明確にし、課題解決に向けた倫理調整を実践する。 6) 再アセスメントに基づいた継続看護の必要性に応じて、他職種との調整・連携を図り実践する。</p>	実習	<p>【予習】 ・実習計画書を作成する。 ・受け持ち患者の看護に必要な知識を予習する。 ・看護過程について再学習しておく。 ・実習中は翌日以降の実習計画に沿って、必要な知識の予習、看護ケアの準備を行う。（学習時間：2時間） 【復習】 ・実習中は受け持ち患者に対する看護過程展開の記録を記載する。日々の実習記録を記載し、受け持ち患者へ実践した看護を評価する。（学習時間：2時間） ・実習後は、受け持ち患者のケースレポートをまとめる。 ・感染症看護専門看護師の役割に関する課題レポート（コンサルテーション、コーディネート、倫理調整、教育）をまとめる。</p>
5~6週	川上 和美 実習指導者	<p>3. 実習内容と方法：感染対策実習（2単位） 1) 感染症看護専門看護師・感染制御医師（ICD）の指導のもとに、医療関連感染の予防と拡大防止の視点から、調整、コンサルテーションを経験する。 2) 実施されているサーベイランスに参加するとともに、医療関連感染サーベイランスを計画し、実施、評価、フィードバックを行う。 3) 医療機関の感染管理上の課題を明確にし、職員に対する感染予防教育を企画・実施する。 4) 感染対策室における院内ラウンド、ICTミーティング、感染防止対策地域連携カンファレンス等に参加する。</p>	実習	<p>【予習】 ・実習計画書を作成する。 ・医療関連感染サーベイランス計画書を作成し、事前に実習指導者と調整を図る。 ・医療従事者に対する教育課題を検討し、指導案を作成する。 ・実習中は翌日以降の実習計画に沿って、必要な知識の予習、感染予防活動の準備を行う。（学習時間：2時間） 【復習】 ・実習中は日々の実習記録を記載し、実践した感染予防活動の振り返り、評価を行う。（学習時間：2時間） ・実習後は、医療関連感染サーベイランスの一連のプロセスをレポートにまとめる。 ・感染症看護専門看護師の役割に関する課題レポート（コンサルテーション、コーディネート、倫理調整、教育）をまとめる。</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	感染看護学実習Ⅱ(感染症診断実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Infection Control Nursing Practice II	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	2単位
代表教員	川上 和美	ナンバリング	
担当教員	川上 和美※、内藤 俊夫※、鈴木 麻衣※、福井 由希子※、横山 久美※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	感染症診断および治療の感染症診療の一連の過程への参加を通して、感染症診療におけるアセスメント力、感染症予防および拡大防止に必要な医療処置に関わる技術を修得する。また、感染症診療に携わる関連職種との連携の専門性を理解するとともに、感染症専門看護師として関連職種と連携するための調整力、コミュニケーション力を修得する。			
授業の位置づけ	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、機能病態学特論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント特論、演習(感染看護CNS)で学修した知識・技術を活用しながら、感染症診療および看護に必要なアセスメント力を修得し、感染看護学実習Ⅰの感染看護高度実践実習において受け持ち患者への看護展開に活用する。さらに、多職種連携による感染症の早期診断と効果的な治療を支援するための実践力、調整力、コミュニケーション力を修得するための科目と位置付ける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の診断・治療にかかわる臨床徴候・アセスメント、感染症検査、治療(抗菌薬の適正使用を含む薬物療法)、二次感染防止の一連の過程を理解し、感染症の早期発見・治療におけるアセスメント内容と関連職種との連携および看護師の役割を理解する。 2. 感染予防及び拡大防止に基づく適切かつ迅速な医療処置の実施に必要なアセスメント力および技術を修得する。 3. HIV/AIDS等、慢性感染症患者への診断・治療過程への関わりを通して、感染症患者に対する安全・安楽な医療提供方法について修得する。 			
先修要件	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ履修者 感染看護CNS選択者のみ履修可			
関連科目	感染看護学特論Ⅰ、感染看護学特論Ⅱ、感染看護学特論Ⅲ、感染看護学特論Ⅳ、感染看護学特論Ⅴ、演習(感染看護CNS)、機能病態学特論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント特論、看護倫理特論、コンサルテーション論、看護教育学特論Ⅱ、感染看護学実習Ⅰ、感染看護学実習Ⅲ			
学修上の注意	<p>【予習：実習開始前】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症診断・治療を復習し、実習課題を明確にする。 2. 感染症診断・治療過程をふまえ、詳細な実習計画書を作成する。 <p>【実習期間中】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中の事例検討を行い、以降の実習内容に反映する。 2. カンファレンス等を通じ、学生間の学びの共有と実習目標達成に向けた方法等の検討を行う。 3. 実習2週目の実習報告会において、実習の学びと目標達成状況を総括する。 <p>【実習終了後】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各実習終了後に、実習の達成状況と学びについて合同実習報告会を開催する。 2. 感染看護学実習における事例の分析を通して、感染症看護専門看護師としての看護活動及びその役割について発表する。 3. 実習での学びをふまえ、課題レポートを作成する。 			
成績評価の方法				
評価方法	看護実践内容(60%)、カンファレンスでの発表(10%)、以下の内容についての課題レポート(30%)に基づき、実習指導者の評価を加味して総合評価を行う。 ・感染症診療において感染症看護専門看護師等が実践する教育とコンサルテーション ・感染症診療における感染症専門看護師の役割と課題			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症診断のプロセスを理解し、患者のアセスメントの視点と根拠を説明することができるか。 2. 主な感染症の病態と診断、治療について説明することができるか。 3. 感染症診断、検査、治療における患者への支援方法を説明することができるか。 4. 感染症診療における多職種連携のあり方と感染症看護専門看護師の役割を説明することができるか。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
提出された実習記録および課題レポートは、担当教員または実習指導者がコメントしフィードバックする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
感染症プラチナマニュアルVer.8 2023-2024 Ver.7 2021-2022	岡 秀昭	メディカルサイエンス インターナショナル	978-4-8157-3073-4	

参考文献				
感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの配布資料を活用する。				
参考文献 1. 青木真 (2020). レジデントのための感染症診療マニュアル 第4版. 医学書院 2. 岡秀昭 (2023). 感染症プラチナマニュアル Ver. 7 2023-2024. メディカルサイエンスインターナショナル 3. 館田一博ほか 編 (2021). 新微生物学 (Qシリーズ). 日本医事新報社 4. IDATENセミナーテキスト 編集委員会 (2019). 病院内/免疫不全関連感染症診療の考え方と進め方 第2集 IDATEN感染症セミナー実況中継. 医学書院 5. 洪江寧編著・岡秀昭監修 (2023). こういうときはこうする! 感染症クリスタルエビデンス 診断編. 金芳堂 6. 中野隆史 編 (2020). 看護学テキストNiCE 微生物学・感染症学. 南江堂				
その他				
連絡先・オフィスアワー		随時、電子メール (kzkawaka@) で質問を受け付ける。		
備考		【実習の基本的な進め方】 1. 実習は、実習目的・目標ならびに各実習の到達目標に照らして設定した自らの実習テーマに基づき実習計画を立案し、主体的に課題解決を行う。 2. 実習は、感染症診断・治療に熟達した、医師、臨床検査技師、薬剤師等の指導助言を受けて展開する。臨地実習指導者の指導・助言のもとに感染症診療活動（外来・入院診療、感染症検査、治療、コンサルテーション活動等）に参加する。実習目標、実習状況等を日々、臨地実習指導者ならびに科目責任者等へ報告し指導を受け、実習計画を修正・調整しながら進める。 3. 実習初日は、臨地実習指導者によるオリエンテーションを受けるとともに、実習の日程および実習内容の調整を図る。 4. 実習2日目以降は実習目標、計画、実習内容等を日々、臨地実習指導者ならびに科目責任者等へ報告し、実習目標および実習計画を修正・調整しながら進める。 5. 実習中は自ら必要に応じてテーマカンファレンスを企画し、参加者の調整や運営を行う。カンファレンスにおいて自ら実践した感染看護、感染対策活動、参加した感染症診療活動について発表し、助言を受けながら学修内容の統合を図る。 6. 実習最終日は実習報告会を企画・運営し、実習の学びを総括する。 7. 原則として実習期間を規定しているが、目標達成および施設の状況に応じて調整する。		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2週	川上 和美 実習指導者	1. 実習時期：4月～10月（2週間） 2. 実習場所：順天堂大学医学部附属順天堂医院 総合診療科、外来、微生物検査室、医薬品情報室、他 3. 実習内容と方法 1) 感染症診療の一連の過程に基づき、外来・病棟における感染症医の診療への参加および微生物検査室、薬剤部等の感染症診療の関連部門での実習を通じ、感染症診断に求められるアセスメントを学修する。 2) 診断・治療過程の理解に向けて、感染症医による症例検討等への参加や抗菌薬の適正使用に関するコンサルテーション活動に参加し、感染症患者への適正な治療内容を学修する。 3) 感染創の処置対応と感染拡大防止のための対策についてチーム連携のもとに検討し、治療・処置の方法を学修する。 4) 職業曝露発生時および曝露後フォローアップに関する診療の一連の過程から、対応策を学修する。	実習	【予習】 ・実習計画書を作成する。 ・感染看護学特論Ⅲの学修内容を振り返る。 ・実習中は翌日以降の実習計画に沿って、必要な知識を予習する。（学習時間：2時間） 【復習】 ・実習中は日々の実習記録を記載し、実習の学びのまとめ、事例検討を行った症例の振り返りを行う。（学習時間：2時間） ・実習後は、感染症診断や治療、抗菌薬の適正使用等に関わる中で、感染症看護専門看護師として実施したアセスメントや看護実践結果、さらに感染症診療の関連部門・多職種連携のあり方等について考察するレポートをまとめる。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	感染看護学実習Ⅲ(地域感染予防実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Infection Control Nursing Practice III	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	2単位
代表教員	川上 和美	ナンバリング	
担当教員	川上 和美※、横山 久美※、王 迪※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	感染症看護専門看護師に求められるアセスメント力、感染予防・拡大防止に係る専門知識・技術、コンサルテーション、調整（コーディネーション）、倫理調整、教育に関する実践能力を活用し、在宅療養者への看護実践ならびに地域の感染予防対策の現状、医療・福祉施設における感染予防に関する課題を明確する。これらの課題をふまえ、感染予防・拡大防止の視点から対象者の健康と生活の支援に向けて看護介入できる調整力と地域における感染症予防対策のマネジメント能力を修得する。			
授業の位置づけ	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、機能病態学特論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント特論、演習（感染看護CNS）で学修した知識・技術を活用し、感染看護学実習Ⅰ、感染看護学実習Ⅱでの実践経験をふまえながら、地域、在宅あるいは福祉施設等で生活する感染症患者・易感染者、その家族および地域住民、ケア提供者を対象とした高度実践看護を展開する能力を修得するための科目と位置付ける。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域、在宅等の保健・医療・福祉にかかわる感染予防・拡大防止に関する課題を明確にし、課題の解決策・改善策を説明できる。 2. ケア対象者の感染にかかわる問題・課題のアセスメントに基づき、ケア対象者またはケア提供者に対して課題解決に向けた教育活動・コンサルテーションを実践できる。 3. 地域、在宅、福祉施設等で生活する感染症患者、易感染者、その家族及び地域住民、ケア提供者等の間に生じる倫理的課題を明確にし、解決に向けた倫理調整を実践できる。 			
先修要件	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ履修者 感染看護CNS選択者のみ履修可			
関連科目	感染看護学特論Ⅰ、感染看護学特論Ⅱ、感染看護学特論Ⅲ、感染看護学特論Ⅳ、感染看護学特論Ⅴ、演習（感染看護CNS）、機能病態学特論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント特論、看護理論特論、看護倫理特論、コンサルテーション論、看護教育学特論Ⅱ、感染看護学実習Ⅰ、感染看護学実習Ⅱ			
学修上の注意	<p>【実習開始前】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症看護専門看護師の役割と活動内容をふまえ、地域、在宅、福祉施設等における看護活動の特徴を復習し、実習課題を明確にする。 2. 感染症看護専門看護師の役割をふまえ、詳細な実習計画書を作成する。 <p>【実習期間中】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中の事例検討を行い、以降の実習内容に反映する。 2. カンファレンス等を通じ、学生間の学びの共有と実習目標達成に向けた方法等の検討を行う。 3. 実習2週目の実習報告会において、実習の学びと目標達成状況を総括する。 <p>【実習終了後】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習終了後に、実習の達成状況と学びについて合同実習報告会を開催する。 2. 感染看護学実習における事例の分析を通して、感染症看護専門看護師としての看護活動およびその役割について発表する。 3. 実習での学びをふまえ、課題レポートを作成する。 			
成績評価の方法				
評価方法	看護実践内容（60%）、カンファレンスでの発表（10%）、以下の実践内容についての課題レポート（30%）に基づき、実習指導者の評価を加味して総合評価を行う。 ・感染症看護専門看護師として実践する教育とコンサルテーション ・場に応じた感染症看護専門看護師の役割と機能 ・感染症患者のケアの調整（コーディネーション） ・感染症患者、易感染者、ケア提供者への倫理調整			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域、在宅、福祉施設等における感染リスクアセスメントを行い、課題を明確にすることができるか。 2. 地域、在宅、福祉施設等で生活する人々の感染予防・拡大防止に向けた課題に対する解決策を立案することができるか。 3. 地域、在宅、福祉施設等におけるケア提供者に対し、感染看護の知識・技術を活用し教育、コンサルテーションを計画し、実施、評価することができるか。 4. 地域、在宅、福祉施設等における感染予防上の倫理的課題を明確にし、解決策を立案、実施、評価することができるか。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
提出された実習記録および課題レポートは、担当教員または実習指導者がコメントしフィードバックする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし				

参考文献				
<p>感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（感染看護CNS）の配布資料を活用する。 また、以下の参考文献を活用する。 1. 中村美鈴, 江川幸二 監訳 (2020). 高度実践看護 統合的アプローチ 改訂第2版 (Hamric and Hanson' s Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach). へるす出版 2. 操華子, 川上和美 編集 (2022). 看護学テキストNiCE 感染看護学. 南江堂. 3. 大曲貴夫, 操華子 編集 (2015). 感染管理・感染症看護テキスト. 照林社. 4. E.H. シャイン著, 稲葉元吉・尾川丈一訳 (2016). プロセス・コンサルテーションー援助関係を築くことー. 白桃書房.</p>				
その他				
連絡先・オフィスアワー		随時、電子メール (kzkawaka@) で質問を受け付ける。		
備考		<p>【実習の基本的な進め方】 1. 学生が設定した実習目標に沿って、介護保険施設（介護老人福祉施設・介護老人保健施設等）、福祉施設、訪問看護ステーションより実習施設を選定する。 2. 実習は、実習目的・目標ならびに各実習の到達目標に照らして設定した自らの実習テーマに基づき実習計画を立案し、主体的に課題解決を行う。 3. 臨地実習指導者ならびに科目責任者等から指導を受けて展開する。臨地実習指導者の指導・助言のもとで選択した実習の場における感染看護、感染対策活動を実践する。 4. 実習初日は、臨地実習指導者によるオリエンテーションを受けるとともに、実習の日程および実習内容の調整を図る。 5. 実習2日目以降は実習目標、計画、実習内容等を日々、臨地実習指導者ならびに科目責任者等へ報告し、実習目標および実習計画を修正・調整しながら進める。 6. 実習中は自ら必要に応じてテーマカンファレンスを企画し、参加者の調整や運営を行う。カンファレンスにおいて自ら実践した感染看護、感染対策活動、参加した感染症診療活動について発表し、助言を受けながら学修内容の統合を図る。 7. 実習最終日は実習報告会を企画・運営し、実習の学びを総括する。 8. 原則として実習期間を規定しているが、目標達成および施設の状況に応じて調整する。</p>		
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2週目	川上 和美 実習指導者	<p>1. 実習時期：4月～10月（2週間） 2. 実習場所：学生の実習目標に沿って選定した介護保険施設（介護老人福祉施設、介護老人保健施設）、福祉施設、訪問看護ステーション 3. 実習内容と方法 1) 看護実践の対象を地域、在宅あるいは介護保険施設、福祉施設等で生活する個人および集団とし、ケア提供者（高齢者介護施設職員や訪問看護ステーション職員など）に対する教育、コンサルテーション、調整（コーディネーション）を実践する。 2) それぞれの施設・場における感染のリスクアセスメントに基づき課題を明確化するとともに、課題の解決策を計画し、実践、評価する。 3) 対象が抱える課題によっては保健所、訪問看護ステーション等との調整またはコンサルテーションを計画・実践する。</p>	実習	<p>【予習】 ・実習計画書を作成する。 ・受け持ち患者の看護に必要な知識を予習する。 ・看護過程について再学習しておく。 ・実習中は翌日以降の実習計画に沿って、必要な知識の予習、看護活動の準備を行う。（学習時間：2時間） 【復習】 ・実習中は日々の実習記録を記載し、実践した看護活動を評価する。（学習時間：2時間） ・感染症看護専門看護師の役割に関する課題レポート（コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育）をまとめる。</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	高齢者看護学特論Ⅰ(高齢者看護学原論)	必修・選択	選択
英語科目名	Gerontological Nursing I	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	
担当教員	湯浅美千代※ 丸山優※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>高齢者と家族への看護に適用できる看護理論と研究成果、ならびに看護を展開する上で必要となる心理社会学の知識を学ぶ。特に、高齢者看護実践における倫理的諸問題に対応するための倫理、死生観に関わる知識およびその活用について学び、専門看護師の役割について探求する。</p> <p><授業形態と進め方> 講義で示した課題について調べて発表し、ディスカッションにより内容を深める。 看護理論については、高齢者看護実践に活用できる理論（セルフケア理論・学習理論・ニード論・コンフォート理論・ケアリング・システム理論等）を選択する。</p>				
授業の位置づけ	高齢者看護学特論Ⅰ～Ⅴの基盤となる科目であり、専門看護師「老年看護専攻教育課程」審査基準における専攻分野共通科目の「老年看護の基盤となる科目」2単位に相当する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習した看護理論および心理社会学の知識、研究成果を高齢者と家族への看護にどのように適用するかを説明できる。 2. 自己の倫理観・死生観を述べることができる。 3. 学習した倫理・死生観に関する知識を活用して、自己の看護実践の中で経験した事例の倫理的な課題を抽出・評価できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	高齢者看護学特論Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・配付資料に基づき講義を行う。 ・提示されたテーマについてプレゼンテーション資料を作成する。作成にあたり、不明な点はあらかじめ相談してから準備すること。 ・授業内で提示した課題についてレポートを作成する。 ・主体的に参加することを期待する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料（40%）、ディスカッションへの参加状況（30%）、授業後レポート（30%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習した看護理論および心理社会学の知識、研究成果を高齢者と家族への看護にどのように適用するかを説明できる。 2. 自己の倫理観・死生観を述べるができる。 3. 学習した倫理・死生観に関する知識を活用して、自己の看護実践の中で経験した事例の倫理的な課題を抽出・評価できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーション資料および提出されたレポートについて授業内または授業後にコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは用いない					
参考文献					
<p>以下は主なもの。ほかは授業内で紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリクソン EH, エリクソン JM (村瀬孝雄、近藤邦夫訳)：ライフサイクル、その完結、増補版、みすず書房、2001 ・大内尉義、秋山弘子ほか：新老年学、第3版、東京大学出版会、2010 ・島菌進ほか：死生学（全5巻）、東京大学出版会、2008 ・日本老年医学会：高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン 2012年版-人工的水分・栄養補給の導入を中心として、医学と看護社、2012 ・野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論、第2版、メヂカルフレンド社、2016 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時対応するのでメールで連絡してください。 myuasa@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	湯浅 美千代	老年期を生きる人とは 老化、健康、ストレングスの視点および社会・家族との関わり	講義	予習・復習各90分
2	湯浅 美千代	生涯発達・社会適応の視点からの老年期	講義	予習・復習各90分
3	湯浅 美千代	日本における死生観の変遷	講義	予習・復習各90分
4	湯浅 美千代	日本における死生観-諸外国との比較を通して	発表、討議、解説	予習：120分 発表資料準備 復習：60分 コメントをもとに発表資料を 追加・修正する
5	湯浅 美千代	老年期を生きる人を支える文化的視点① 日本文化と地域性	講義	予習・復習各90分
6	湯浅 美千代	老年期を生きる人を支える文化的視点② 看護への適用	講義	予習・復習各90分
7	湯浅 美千代	決定理論と意思決定プロセス 治療選択における高齢者と家族の意思決定に関する課題	講義	予習・復習各90分
8	湯浅 美千代	高齢者と家族の意思決定プロセスにおける看護の役割	講義	予習・復習各90分
9	湯浅 美千代	看護理論の高齢者看護への適用①	発表、討議、解説	予習：120分 発表資料準備 復習：60分 コメントをもとに発表資料を 追加・修正する
10	湯浅 美千代	看護理論の高齢者看護への適用②	発表、討議、解説	予習：120分 発表資料準備 復習：60分 コメントをもとに発表資料を 追加・修正する
11	湯浅 美千代	看護理論の高齢者看護への適用③	発表、討議、解説	予習：120分 発表資料準備 復習：60分 コメントをもとに発表資料を 追加・修正する
12	湯浅 美千代	高齢者とその家族に関する理論的枠組み① 家族関係論より	講義	予習・復習各90分
13	湯浅 美千代	高齢者とその家族に関する理論的枠組み② 研究成果より	発表、討議、解説	予習：120分 発表資料準備 復習：60分 コメントをもとに発表資料を 追加・修正する
14	丸山 優	高齢者とその家族への看護における倫理的課題と看護職の倫理的感受性	講義	予習・復習各90分
15	湯浅 美千代	老年期を生きる人を支える看護の広がりとは老人看護専門看護師の役割	講義	復習180分：課題レポート作成

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	高齢者看護学特論Ⅱ(アセスメント論)	必修・選択	選択
英語科目名	Gerontological Nursing II	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	島田 広美	ナンバリング	
担当教員	島田広美※、湯浅美千代※、丸山優※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	<p>高齢者がもつ複雑な健康問題について判断する基盤となる身体的・心理的・社会的機能の変化と生活への影響について、最新の知識と評価方法を学ぶ。これらを統合して評価する包括的アセスメント方法を習得する。</p> <p><授業形態と進め方> 講義、プレゼンテーション、ディスカッションによって進める。 高齢者の健康生活のアセスメントに関するテーマを提示する。履修者で分担し、テーマごとに文献レビューを含めた資料を作成する。作成した資料をもとにディスカッションを展開する。 モデル事例に対して包括的評価方法を適用し、高齢者のアセスメントの特徴を捉え、より実践的な評価方法とアプローチ、課題について、ディスカッションを展開する。 統合課題として、看護実践の場で自身がよく出会う高齢者の事例について、包括的にアセスメントした結果を検討する。</p>			
授業の位置づけ	<p>専門看護師「老年看護専攻教育課程」審査基準における専攻分野共通科目の「高齢者の健康生活評価に関する科目」2単位に相当する。演習（高齢者看護CNS）、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目である。</p>			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の加齢変化や健康生活に関連する基本的な概念に基づき、高齢者のアセスメントにおける課題を記述できる。 2. 高齢者の健康生活を把握するさまざまな評価方法を活用して高齢者の複雑な状況をアセスメントし、記述できる。 3. 高齢者の健康生活を包括的にとらえる評価方法を活用し、アセスメント結果を記述できる。 			
先修要件	なし			
関連科目	高齢者看護学特論Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・提示されたテーマについて文献レビューを含めた資料を作成し、プレゼンテーションの準備を行う。 ・モデル事例について、包括的評価方法を適用してアセスメントを行い、プレゼンテーションを行うための資料を準備する。プレゼンテーション資料作成にあたり、不明な点は予め相談すること。 ・看護実践の場で自身がよく出会う高齢者の事例について、包括的にアセスメントした結果を記述し、アセスメント結果に基づく考察をまとめる。 ・主体的に参加することを期待する。 			
成績評価の方法				
評価方法	<p>プレゼンテーション資料（40%）、ディスカッションへの参加状況（30%）、授業後レポート（30%）を総合して評価する。</p>			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の加齢変化や健康生活に関連する基本的な概念に基づき、高齢者のアセスメントにおける課題を記述できる。 2. 高齢者の健康生活を把握するさまざまな評価方法を活用して高齢者の複雑な状況をアセスメントし、記述できる。 3. 高齢者の健康生活を包括的にとらえる評価方法を活用し、アセスメント結果を記述できる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
<p>プレゼンテーション資料および提出されたレポートについて授業内または授業後にコメントする。</p>				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは使用しない				
参考文献				
<p>以下は主なもの。ほかは授業内で紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯浅美千代編：看護判断のための気づきとアセスメント 老年看護、中央法規出版、2022 ・工藤綾子・湯浅美千代編：エビデンスに基づく老年看護ケア関連図、中央法規出版、2019 ・大内尉義ほか編：新老年学、第3版、東京大学出版会、2010 ・鳥羽研二編：高齢者の生活機能の総合的評価、新興医学出版社、2010 ・上田敏：ICFの理解と活用、ぎょうざれん、2005 ・障害者福祉協会編：ICF国際生活機能分類、中央法規出版、2002 ・近藤直司：医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技術を高めるハンドブック、明石書店、2015 				
その他				
連絡先・オフィスアワー	<p>随時、メールや対面で対応する。 事前に担当教員へメールで連絡し、調整する。 湯浅 myuasa@ 島田 hishima@</p>			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	湯浅 美千代	高齢者の健康と健康生活を捉える視点	講義・ディスカッション	復習：高齢者のアセスメントについて自己の経験を整理する。高齢者の健康と健康生活を捉える視点について整理する。(学習時間：90分)
2	島田 広美	高齢者の健康生活の評価方法 ①ADL評価	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
3	島田 広美	②感覚機能評価	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
4	島田 広美	③生理機能評価	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
5	島田 広美	④精神・認知機能評価、主観的健康観・幸福感の評価	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
6	島田 広美	⑤環境の評価	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
7	島田 広美	⑥社会関係の評価(家族機能・家族関係、介護負担を含む)	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
8	島田 広美	高齢者に関する包括的評価方法	講義・ディスカッション	予習：高齢者を包括的にとらえる方法について、自己の経験を整理する(学習時間：90分) 復習：高齢者の包括的評価について整理する(学習時間：90分)
9	島田 広美	高齢者に関する包括的評価方法のモデル事例への適用と課題 ①情報の整理と解釈・分析	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
10	島田 広美	②情報の関連の把握、問題の明確化	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
11	島田 広美	③看護実践との関連の検討	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
12	島田 広美	④モデル事例の包括的評価に関する発表・まとめ	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
13	島田 広美	⑤包括的評価の活用(看護実践の場で自身がよく出会う事例の分析)	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：発表資料作成(学習時間：90分) 復習：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する(学習時間：90分)
14	島田 広美	実践の場における高齢者のアセスメントの実際と留意事項 * CNSによるプレゼンテーションを含む	プレゼンテーション・ディスカッション	予習：提示された事例を読み、事例の概要をつかむ。(学習時間：90分) 復習：高齢者のアセスメントと留意事項を整理する。(学習時間：90分)
15	湯浅 美千代 丸山 優	高齢者のアセスメント方法の活用と開発の課題	講義・ディスカッション	復習：課題レポート課題(学習時間：180分)

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	高齢者看護学特論Ⅲ(支援システム論)	必修・選択	選択
英語科目名	Gerontological Nursing III	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	
担当教員	湯浅美千代※、島田広美※、杉山智子※、河西恵美※、桑田美代子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>高齢者に関わる国内外の保健、医療、福祉の制度・政策ならびに看護政策、看護管理についての理論的な見地から現状を把握する。高齢者の治療、療養、健康維持・増進に関わる支援システムとその構築、活用の実際について学ぶ。</p> <p><授業形態と進め方> 講義で提示したテーマについて事例、知見を収集し、クリティークにより内容を深める。また、現状報告についてディスカッションし、今後の発展の可能性、検討課題を明確にする。諸外国における高齢者の健康生活に関わる制度と法律的基盤および現在の課題については、急性期ケア、認知症ケア、終末期ケアをテーマとし、日本の状況と比較検討する。</p>				
授業の位置づけ	専門看護師「老年看護専攻教育課程」審査基準における専攻分野共通科目の「高齢者保健医療福祉政策とサポートシステムに関する科目」2単位に相当する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関わる国内外の保健、医療、福祉の制度・政策ならびに看護政策、看護管理についての理論的な見地から現状を論述できる。 2. 高齢者の治療、療養、健康維持・増進に関わる支援システムとその構築、活用に関する専門的な看護の理論と実際を知り、現状における課題を論述できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	高齢者看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・一部集中講義とする。 ・主体的に参加することを期待する。 ・配付資料に基づき講義を行う。 ・提示されたテーマについてプレゼンテーション資料を作成する。作成にあたり、不明な点はあらかじめ相談して資料準備を行うこと。 ・授業内で提示した課題についてレポートを作成する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料(40%)、ディスカッションへの参加状況(30%)、授業後レポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関わる国内外の保健、医療、福祉の制度・政策ならびに看護政策、看護管理についての理論的な見地から現状を論述できる。 2. 高齢者の治療、療養、健康維持・増進に関わる支援システムとその構築、活用に関する専門的な看護の理論と実際を知り、現状における課題を論述できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーション資料および提出されたレポートについて授業内または授業後にコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは用いない					
参考文献					
<p>以下は主なもの。ほかは授業内で紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会ホームページ：看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイド看護補助者活用のための看護管理者研修テキスト、2021年 ・ひもときネット 認知症ケア高度化推進事業ホームページ：海外認知症ケア情報 ・武藤正樹：2040年-医療&介護のデッドライン、医学通信社、2019年 ・国民衛生の動向 ・国民の福祉と介護の動向 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は随時対応するので、メールで連絡してください。 科目責任者 myuasa@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	湯浅 美千代	日本における高齢者保健医療福祉制度と政策の動向	講義	予習・復習各90分
2	湯浅 美千代	日本における高齢者看護政策の動向	講義	予習・復習各90分
3	杉山 智子	諸外国における高齢者の健康生活に関わる制度と法律的基盤および現在の課題1（急性期ケア）	発表、討議、解説	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
4	杉山 智子	諸外国における高齢者の健康生活に関わる制度と法律的基盤および現在の課題2（認知症ケア）	発表、討議、解説	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
5	杉山 智子	諸外国における高齢者の健康生活に関わる制度と法律的基盤および現在の課題3（終末期ケア）	発表、討議、解説	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
6	杉山 智子	諸外国における高齢者の健康生活に関わる制度と法律的基盤および現在の課題4（日本と諸外国との比較より）	発表、討議、解説	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
7	桑田美代子 (GNS)	老人看護専門看護師として政策に関わるとは	講義、討議	予習・復習各90分
8	湯浅 美千代	高齢者と家族のための支援システムとその活用1 地域包括ケアシステムと看護職の役割	発表、討議、解説	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
9	湯浅 美千代	高齢者と家族のための支援システムとその活用2 多職種連携の実例	発表、討議、解説	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
10	湯浅 美千代	高齢者の健康保持・増進のための支援システムづくり—ソーシャルキャピタルの醸成へ	講義	予習・復習各90分
11	湯浅 美千代	治療の場における高齢者のケアの質の管理とシステムの現状	講義	予習・復習各90分
12	島田 広美 河西 恵美	高齢者が治療・療養を継続し、QOLを維持・向上するための支援システムの構築1（専門看護師の活動による支援システム構築）	発表、討議、解説	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
13	島田 広美 河西 恵美	高齢者が治療・療養を継続し、QOLを維持・向上するための支援システムの構築2（認定看護師の活動による支援システム構築）	発表、討議、解説	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
14	桑田美代子 (GNS)	高齢者ケアシステムにおける専門看護師の活動の実例	講義、討議	予習・復習各90分
15	湯浅 美千代	治療・療養の場における高齢者のための支援システム発展の方向性 高齢者の看護の質保証に向けての研究課題	講義、討議	復習180分：課題レポート作成

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	高齢者看護学特論Ⅳ(急性期ケア論)	必修・選択	選択
英語科目名	Gerontological Nursing III	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	
担当教員	湯浅美千代※、島田広美※、杉山智子※、横山悦子※、佐野裕子※、榎本佳子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>急性期治療の場において高齢者と家族に生じる危機的状況・複雑な問題をとりあげ、その解決に向けた援助方法を学ぶ。特に、治療中から行うQOL維持・向上に向けた援助、生命の危機やその治療に伴い安寧を損なう状況に対する予期的・予防的援助、終末期を予測した援助について学ぶ。援助は1対1での関わりだけでなくチームアプローチを含む。また、治療に関わり生じる倫理的な問題の解決に向けた援助方法、多職種連携について学ぶ。</p> <p><授業形態と進め方> 講義により基本的な考え方を紹介した後、テーマにそって学生が最新の知識・研究知見を収集し、発表、意見交換を行う。</p>				
授業の位置づけ	専門看護師「老年看護専攻教育課程」審査基準における専攻分野専門科目の「急性期における老年看護に関する科目」2単位に相当する。高齢者看護学実習Ⅱ（急性期看護）の基盤をつくる科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院治療を受ける高齢者とその家族の心身の変化とQOLへの影響について説明できる。 2. 治療中から高齢患者のQOLの維持・向上に向けて行う看護について説明できる。 3. 治療に関わり高齢患者にもたらされる危機を予測し、予防策を述べるができる。 4. 高齢患者の治療継続のためのアプローチについて説明できる。 5. 急性期治療の場における高齢者の倫理的課題を明らかにし、改善に向けたアプローチについて述べるができる。 6. 治療を必要とし、危機的状況にある高齢患者とその家族への看護アプローチについて述べるができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	高齢者看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、高齢者看護学実習Ⅱ（急性期看護実習）				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に参加することを期待する。 ・配付資料に基づき講義を行う。 ・提示されたテーマについてプレゼンテーション資料を作成する。作成にあたり、不明な点はあらかじめ相談して資料準備を行うこと。 ・授業内で提示した課題についてレポートを作成する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料（40%）、ディスカッションへの参加状況（30%）、授業後レポート（30%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院治療を受ける高齢者とその家族の心身の変化とQOLへの影響について説明できる。 2. 治療中から高齢患者のQOLの維持・向上に向けて行う看護について説明できる。 3. 治療に関わり高齢患者にもたらされる危機を予測し、予防策を述べるができる。 4. 高齢患者の治療継続のためのアプローチについて説明できる。 5. 急性期治療の場における高齢者の倫理的課題を明らかにし、改善に向けたアプローチについて述べるができる。 6. 治療を必要とし、危機的状況にある高齢患者とその家族への看護アプローチについて述べるができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーション資料および提出されたレポートについて授業内または授業後にコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは用いない					
参考文献					
授業内で参考文献を紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時対応するのでメールで連絡してください。 科目責任者 myuasa@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	湯浅 美千代	さまざまな場における高齢患者への治療・治療継続と専門職の関わり方 入院治療を受ける高齢患者がたどる心身の変化（治療前～治療～治療後）とQOLへの影響	講義	予習・復習各90分
2	湯浅 美千代	入院治療を受ける高齢患者の家族がたどる心身の変化と高齢患者への影響	講義	予習・復習各90分
3	杉山 智子	治療中から行う高齢患者のQOL維持・向上のための看護① 入院・治療に伴う精神・認知機能への影響と機能維持へのチームアプローチ	講義、発表、討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
4	佐野 裕子	治療中から行う高齢患者のQOL維持・向上のための看護② 廃用性障害予防・ADL維持のためのチームアプローチ	講義	予習・復習各90分
5	島田 広美	治療中から行う高齢患者のQOL維持・向上のための看護③ ケアを通して発見する痛みとその緩和の方法	講義、発表、討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
6	佐野 裕子	高齢患者に対する予期的・予防的アプローチ① 侵襲性の高い治療・検査に向かう高齢患者への看護 侵襲性の高い治療・検査時の呼吸・循環管理	講義	予習・復習各90分
7	湯浅 美千代	高齢患者に対する予期的・予防的アプローチ② 病名告知を受ける高齢患者と家族への看護	講義（CNSによるプレゼンテーションを含む）、討議	予習・復習各90分
8	横山 悦子	高齢患者の治療継続に向けたアプローチ① 入院・外来でのセルフケア支援	講義	予習・復習各90分
9	榎本 佳子	高齢患者の治療継続に向けたアプローチ② 退院支援・施設間連携	講義、発表、討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
10	杉山 智子	治療の場において高齢患者にもたらされる倫理的な課題への対応① リスクマネジメントと身体拘束回避の両立に向けたアプローチ	講義、発表、討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
11	湯浅 美千代	治療の場において高齢患者にもたらされる倫理的な課題への対応② 高齢者の意向・要望をとりあげ達成するためのチームアプローチ	講義（CNSによるプレゼンテーションを含む）、討議	予習・復習各90分
12	湯浅 美千代	危機的状況にある高齢者と家族への看護① 救急治療を受ける高齢患者への看護とその課題	講義、発表、討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
13	湯浅 美千代	危機的状況にある高齢者と家族への看護② 救急治療を受ける高齢患者の家族への看護とその課題	講義、発表、討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
14	湯浅 美千代	危機的状況にある高齢者と家族への看護③ 治療の場における終末期を予測した看護とその課題	講義、発表、討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
15	湯浅 美千代	急性期治療の場における高齢患者と家族への看護の発展に向けた研究課題	講義、討議	復習180分：課題レポート作成

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	高齢者看護学特論Ⅴ(認知症看護論)	必修・選択	選択
英語科目名	Gerontological Nursing Ⅴ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	杉山 智子	ナンバリング	
担当教員	杉山智子※、湯浅美千代※、八木範子※、佐藤典子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>認知症と認知症ケアに関する最新の知識を学び、認知症患者が抱える複合する問題・影響要因を的確に分析、評価するための方法を修得する。また、複雑な状況にある認知症をもつ高齢者と家族への援助の実際を学び、治療・療養生活の質を高めることに向けた援助方法について検討する。</p> <p><授業形態と進め方> 講義により基本的な考え方を紹介した後、テーマにそって学生が事例や研究知見を収集し、発表、意見交換を行う。また、老人看護専門看護師の実践事例を紹介し、ディスカッションを通して、認知症看護を実践するための自己の課題をとらえる。</p>				
授業の位置づけ	専門看護師「老年看護専攻教育課程」審査基準における専攻分野専門科目の「認知症老年看護に関する科目」2単位に相当する。高齢者看護学実習Ⅰ（認知症看護）の基盤をつくる科目である。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症をもち様々な環境で生活する高齢者とその家族を取り巻く身体的、精神的、社会的な状況や問題を的確に分析、評価できる。 2. 認知症をもつ高齢者と家族の生活の質を高める援助方法を探索し、認知症をもつ高齢者と家族への看護の課題について記述できる。 				
先修要件	高齢者看護学特論Ⅰ・Ⅱ				
関連科目	高齢者看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、高齢者看護学実習Ⅰ（認知症看護実習）				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・受講にあたっては、学部レベルで学ぶ認知症および認知症ケアの知識が必要である。 ・提示されたテーマについて文献レビューを含めた資料を作成し、プレゼンテーションの準備を行う。プレゼンテーション資料作成にあたり、不明な点は予め相談すること。 ・授業内で提示した課題についてレポートを作成する。 ・主体的に参加することを期待する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料（40%）、ディスカッションへの参加状況（30%）、授業後レポート（30%）を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症をもち様々な環境で生活する高齢者とその家族を取り巻く身体的、精神的、社会的な状況や問題を的確に分析、評価できる。 2. 認知症をもつ高齢者と家族の生活の質を高める援助方法を探索し、認知症をもつ高齢者と家族への看護の課題について記述できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーション資料および提出されたレポートについて授業内または授業後にコメントする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
<p>以下は主なもの。ほかは授業内で配布・随時指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本神経学会：認知症疾患診療ガイドライン2017、医学書院、2017。 ・日本老年精神医学会訳：第二版 認知症の行動と心理症状 BPSD、アルタ出版、2013 ・Pace, Victor et al, 武田雅俊監修：認知症の緩和ケア 診断時から始まる患者と家族の支援、新興医学出版社、2015 ・三村将, 飯干紀代子：認知症のコミュニケーション障害 その評価と支援、医歯薬出版、2013 ・日本精神神経学会監修：DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル、医学書院、2014 ・平原佐斗司, 桑田美代子：認知症の緩和ケア、南山堂、2019 ・中島健二ほか編：認知症ハンドブック第2版、医学書院、2020 					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・随時対応します。 ・事前にメールで連絡のこと tsugiya@ 				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	杉山 智子	認知症に関する最新の診断・治療（薬物／非薬物）	講義	予習・復習各90分
2	杉山 智子	認知症をもつ高齢者の看護におけるアセスメントの特徴（加齢の影響と身体疾患合併に関するアセスメント、コミュニケーションを通じた情報収集、観察方法を含む）	講義	予習・復習各90分
3	湯浅 美千代	認知症をもつ高齢者への環境の影響とアセスメント方法	講義、討議	予習・復習各90分
4	杉山 智子	認知症をもつ高齢者へのアセスメントと援助方法 ①コミュニケーション方法の基本と応用 （関わりにくいと感じる場面での対応方法）	講義、発表、討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
5	杉山 智子	②生活環境への不適応と援助方法 （生活障害に対する援助、環境調整・改善を含む）	講義	予習・復習各90分
6	杉山 智子	③生活環境への不適応と援助方法の実際 （生活障害に対する援助、環境調整・改善を含む）	発表・討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
7	杉山 智子	④生活環境への不適応と援助方法の実際 （生活障害に対する援助、環境調整・改善を含む）	発表・討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
8	八木 範子	⑤生活リズム調整の実践適用方法（非薬物療法の適用を含む）	講義・発表・討議	予習・復習各90分
9	杉山 智子	⑥疾病治療・管理に伴う生活活動の制限に対する調整	講義・発表・討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
10	杉山 智子	⑦ADLの維持・拡大にむけた援助	発表・討議	予習120分：発表資料作成 復習60分：発表時のコメントをもとに、資料を追加・修正する。
11	杉山 智子	認知症をもつ高齢者の家族への援助方法（倫理的課題、他部署・職種との連携・調整・教育を含む） ①高齢者と家族の関係、背景、強み（可能性）を踏まえた援助計画	講義	予習・復習各90分
12	佐藤 典子 （CNS）	②家族とのコミュニケーション方法（スタッフ指導の実際）	講義・討議	予習90分 復習90分：討議の内容について振り返り整理する。
13	佐藤 典子 （CNS）	③介護負担軽減、養護者による虐待防止のための介入方法（実践事例を通して）	講義・討議	予習90分 復習90分：討議の内容について振り返り整理する。
14	杉山 智子	④終末期におけるかかわり	講義	予習・復習各90分
15	杉山 智子	認知症をもつ高齢者の看護における現状と課題（倫理的問題への対処・調整を含む）	講義	予習・復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	高齢者看護学実習Ⅰ(認知症看護実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Gerontological Nursing Practice Ⅰ	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	6単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	
担当教員	湯浅美千代※、杉山智子※、八木範子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要	
全体内容	<p>認知症に加え何らかの疾患を合併し長期的な治療・療養を必要とする高齢者を受け持ち、包括的にアセスメントし、必要と判断した看護を実践することを通して、複雑な問題をもつ認知症高齢者と家族に対する看護実践能力を養う(実践)。また、治療方法の決定や入退院(入退所)に関わる倫理的問題、療養生活上の権利侵害などの日常生活上の倫理に対する判断と調整のための能力を養う(倫理調整)。</p> <p><学習方法> 複雑な問題を持つ認知症高齢者とその家族に長期的な展望をもってアプローチする老人看護専門看護師として持つべき高度な実践能力を養うために以下を行う。 ①認知症と何らかの疾患のため治療・療養を継続する高齢者への看護実践(現状分析、包括的アセスメント、ケア計画、多職種連携、看護援助技術)とその記録の分析により、自己の看護実践を評価する。評価に基づき、より適切な看護およびその継続に向けたアプローチ方法について、チームアプローチを含めて立案、実践する。その際、生活機能の維持・回復、適切な時期での退院(退所)に向けた支援を含める。 ②認知症と何らかの疾患のため治療・療養を継続する高齢者の家族への看護実践を計画、実践、評価する。 ③認知症をもつ高齢者とその家族に関する倫理的な問題解決にむけ、多職種連携、スタッフ教育、コンサルテーションを含めたアプローチを立案し、指導者からの助言を受ける。実習生として実施可能な部分を判断し、指導を受け実践する。</p>
授業の位置づけ	各特論および演習(高齢者看護CNS)を履修した上で、実習を行う。特に高齢者看護学特論Ⅴを基盤に実習を展開する。専門看護師「老年看護専攻教育課程」審査基準における実習科目6単位数に相当する。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な問題を持つ認知症高齢者とその家族に対して看護を計画的に実践、評価し、より適切な看護の継続に向けて看護チーム・多職種ケアチームへのアプローチができる。 2. 受け持った認知症高齢者と家族に関する倫理的な問題を抽出し、解決に向けたアプローチを計画的に実践し、その評価ができる。
先修要件	高齢者看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習(高齢者看護CNS)履修者 高齢者看護CNS選択者のみ受講可
関連科目	高齢者看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、演習(高齢者看護CNS)
学修上の注意	<p>・実習施設は以下とする。①②の期間や内容は臨床経験および自己の課題により調整する。 ①順天堂東京江東高齢者医療センター 精神科病棟(認知症治療病棟または身体合併症病棟)および精神科外来 ②愛育メディカルセンター 介護老人保健施設 清らかな里</p> <p>・実習期間は実習計画によるが、2名以上の認知症高齢者と家族への看護実践を展開・評価できる期間(概ね6週間)とする。 ・実習に際し、専門看護師を目指す大学院生としての自覚をもち、実習施設の現状を理解する。 ・受け持ち患者・家族だけでなく、施設職員に対する倫理的配慮も行う。 ・実習にあたり、教員とともに実習計画書を作成し、実習施設の指導者と調整する。計画にあたっては自己の課題・テーマを明確にし、受け持ち患者選択を依頼する。 また、実習計画書は、授業計画を標準モデルとして参考にし、作成する。</p> <p>受持患者は、 ・少なくとも1名は認知症により対応が難しいととらえられる高齢患者、または入院(入所)初期の認知症高齢患者とする。 ・少なくとも1名は家族への看護を必要とする高齢の認知症患者とする。(認知症の診断を受ける段階の患者や退院支援が必要な患者、家族への対応が困難な患者等) 二人目の患者選択時に一人目で行えなかった課題について考慮する。</p> <p>・受け持ち患者に倫理調整が必要である場合は、実習指導者(老人看護専門看護師)、看護管理者、スタッフ等と協働して介入を計画し、その調整過程に参画する。受け持ち患者2名とも倫理調整が必要でなかった場合は、老人看護専門看護師が調整を図るカンファレンス等に参加する。また、日常の療養生活・治療上で生じやすい倫理的な問題(患者の権利侵害等)が見出された場合は、解決に向けた介入を計画する。 ・期間中、精神科外来での実習を2日設け、外来看護師と共に行動し、外来患者・家族の支援を行う。この期間以外で、外来で老人看護専門看護師が認知症患者の家族を支援しているグループ活動、一般病棟での認知症患者のコンサルテーション活動等にも参加する。 ・医師カンファレンス・回診に参加し、診断、治療について学習を深めるとともに、受け持ち患者・家族に関する情報提供を行い、患者の権利擁護、QOL維持向上に向けた調整を行う。また、多職種によるカンファレンスに参加し、受け持ち患者の医療・看護について調整を行う。 ・1日の実習時間は原則として日動帯とするが、受け持ち患者・家族および治療・ケアの状況と学習目標によって調整する。 ・1週間単位で自己の学習目標を定め、毎週目標の達成状況を評価する。</p> <p>※感染症流行の状況によっては、実習場所、方法等を変更する可能性がある。</p>

成績評価の方法					
評価方法	<p>実習状況（看護実践内容、実習場での職員との協働状況）（40%）、カンファレンスでの発表（10%）レポート（50%）に基づき、実習指導者の評価を加味して総合評価を行う。</p> <p><レポート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者A、Bについてケースポートを作成する。 ・精神科外来実習、老人看護専門看護師への同行実習についてのレポートを作成する。 ・計画・実施した倫理的な問題に対するアプローチについてレポートを作成する（倫理調整を行う老人看護専門看護師の役割に関する考察を含める）。 				
評価基準	<p>1. 複雑な問題を持つ認知症高齢者とその家族に対して看護を計画的に実践、評価し、より適切な看護の継続に向けて看護チーム・多職種ケアチームへのアプローチができる。</p> <p>2. 受け持った認知症高齢者と家族に関する倫理的な問題を抽出し、解決に向けたアプローチを計画的に実践し、その評価ができる。</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
作成されたレポートについては、コメント返却や面談を通して、直接指導を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
高齢者看護学特論Ⅰ～Ⅴ配付資料、参考資料を活用する。また、必要時に参考文献を紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>随時、メールや対面に対応する。 事前に担当教員へメールで連絡し、調整をする。 湯浅 myuasa@ 杉山 tsugiya@ 八木 n-yagi@</p>				
備考					
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
	湯浅美千代 杉山智子 八木範子	オリエンテーション・事前学習	個別指導	<p>予習：（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習計画書を作成する。 ・認知症高齢者への看護ならびに実習施設での看護に必要な知識を整理する。 ・実習の際に使用する看護計画立案、実施、評価の枠組みを作成する。 ・実習施設の職員との協働に必要な資料をまとめる。 <p>復習（学習時間 下記に必要な時間）</p> <p>オリエンテーション内容を再考し、指導を受けた内容で実習計画書の見直しをする。</p>	
1週目	湯浅美千代 杉山智子 八木範子	精神科病棟のスタッフ（看護職・介護職）につき、看護を提供しながら病棟内のケア提供状況、患者全体を把握する。受け持ち患者Aについてケアをしながら情報を集める。 精神科外来実習	臨地実習 個別指導	<p>予習：（学習時間 下記に必要な時間）</p> <p>受け持ち患者の看護に必要な知識を整理し、情報収集に必要な項目をあげる。</p> <p>復習：（学習時間 下記に必要な時間）</p> <p>患者全体が把握できるよう収集した情報を整理する。</p>	
1～2週目	湯浅美千代 杉山智子 八木範子	受け持ち患者Aの看護計画を立案する。医療面について担当医からの情報を得る。適時、アセスメントに関して担当医に確認する。立案した計画は指導者による指導・チームカンファレンスにより修正し、ケアチームに周知を図る。 適宜指導者と教員による指導を受ける（看護計画立案時と評価時は必須）。	臨地実習 個別指導	<p>予習（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当医に確認する情報を整理する。 ・計画立案のためのフォーマットに記載する ・アセスメント内容を整理する。 <p>復習（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当医に確認したアセスメント内容について見直す 	
2～3週目	湯浅美千代 杉山智子 八木範子	看護計画の修正、実施、評価（計画実施にあたってはケアチームとの協働、多職種へのアプローチを含めて行う。） まとめ①： 受け持ち患者Aについて、指導者、教員と共に看護過程を振り返る。また、外来実習や老人看護専門看護師と共に行ったグループ活動やコンサルテーション、チームアプローチについてまとめ、指導者、教員を含めてディスカッションする。	臨地実習 個別指導	<p>予習（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護計画をもとに日々の実施計画を立案する。 ・ケアチームとの協働、多職種へのアプローチ方法について具体的に考える。 ・まとめの資料を作成する <p>復習（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価をもとに看護計画の修正を行う。 ・助言を受けた内容から計画の見直しを行う。 	

4 週目	湯浅美千代 杉山智子 八木範子	施設のスタッフ（看護職・介護職）につき、看護を提供しながらフロア内のケア提供状況、入居者全体を把握する。受け持ち患者Bについてケアをしながら情報を集める。	臨地実習 個別指導	<p>予習（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロア内のケア提供状況や、入居者全体を把握する方法を整理しておく。 ・受持患者Bの疾患の理解や情報収集項目を考えておく。 <p>復習（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持患者Bの情報収集内容を整理する。
5～7 週目	湯浅美千代 杉山智子 八木範子	受け持ち患者Bについてアセスメントを行い、看護過程を展開する。倫理的な問題に対しアプローチプランを立案し、指導者、教員の指導を受けて実施する。 まとめ②：受け持ち患者Bについて、指導者、教員と共に看護過程を振り返る。また、老人看護専門看護師が行う倫理調整について考察し、指導者、教員を含めてディスカッションする。	臨地実習 個別指導	<p>予習（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持患者Bについての看護計画を立案し、その看護計画をもとに日々の計画を立案する。 ・まとめて用いる資料を作成する。 <p>復習（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者や教員の指導をもとにプランの修正を行う。 ・実践したケアの評価を行う。 ・レポートを作成する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	高齢者看護学実習Ⅱ(急性期看護実習)	必修・選択	選択
英語科目名	Gerontological Nursing Practice II	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	
担当教員	湯浅美千代※、島田広美※、河西恵美※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要	
全体内容	<p>急性期治療を受ける高齢患者の看護を医療チームの一員として実践、評価することを通して、危機的状況にある高齢者と家族への看護実践能力およびチームアプローチのための調整能力を養う。また、短期的・集中的治療を受ける高齢者への看護提供システムについてアセスメントを行い、看護の質向上に向けたアプローチを統合的に実践し、自己の教育能力、コンサルテーション能力の向上を図る。</p> <p><学習方法> 身体疾患・治療により危機的状況にある高齢者とその家族に対して短期間のうちに集中して提供される医療現場で活動する老人看護専門看護師として持つべき能力を養うために以下を行う。 ①内部疾患または外傷により急性期治療を受ける高齢患者および家族への看護を医療チームと共に実践し、チームアプローチを含めた評価に基づき、看護を展開する。看護には、看護による円滑な治療の推進と安全性向上の視点、患者の権利擁護の内容を含める。この経過を追って振り返り、自身の看護及びチームアプローチについて評価する。(実践、連携) ②急性期治療の場における看護の提供状況を観察、記録し、看護の質向上に向けたアプローチについて、自らの看護実践方法の修正のほか、スタッフ教育、コンサルテーション、多職種連携を含めて立案し、指導者からの助言ならびにチームメンバーとの協働により、実践、評価する。(教育、相談、調整、連携)</p>
授業の位置づけ	各特論および演習(高齢者看護CNS)を履修した上で、実習を行う。特に高齢者看護学特論Ⅳを基盤に実習を展開する。専門看護師「老年看護専攻教育課程」審査基準における実習科目4単位に相当する。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体疾患・治療により危機的状況にある高齢者と家族に対する看護ならびにチームアプローチを実践、評価できる。 2. 急性期治療の場における看護の質向上のために必要となる課題を見出すことができる。 3. 急性期治療の場における看護の質向上のためのアプローチ方法を実習施設の職員と共に検討し、実践することができる。
先修要件	高齢者看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習(高齢者看護CNS)履修者 高齢者看護CNS選択者のみ受講可
関連科目	高齢者看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、演習(高齢者看護CNS)
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設は以下とする。 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター 集中治療室(ハイケア室)、救急外来、一般病棟 ・実習期間は実習計画によるが、実習施設におけるチームアプローチを実践・評価できる期間(概ね4週間)とする。 ・実習に際し、専門看護師を目指す大学院生としての自覚をもち、実習施設の現状を理解する。 ・受け持ち患者・家族だけでなく、施設職員に対する倫理的配慮も行う。 ・実習に先立ち、教員とともに実習計画書を作成し、実習施設の指導者と調整する。 ・受け持ち患者は身体疾患・治療により危機的状況にある高齢者(治療に伴う身体面での急激な変化が予測される高齢者を含む)とし、ハイケア室に予定入室する高齢者(一般病棟との看護の連携も行う。1名以上)、予定外入室または長期入室の高齢者(1名以上)を受け持つ。 ・実習スケジュール(標準モデル) 受け持ち患者の看護に必要な知識を予習する。 1日の実習時間は原則として日勤帯とするが、受け持ち患者・家族および治療・ケアの状況やチームカンファレンスの状況、学習目標によって調整し、必要に応じて夜勤帯の実習も行う。 1週間単位で自己の学習目標を定め、毎週目標の達成状況を評価する。 看護計画立案、実施、評価についてまとめる。 実習場の職員との協働に必要な資料をまとめる。 提示されたレポートをまとめる。 <p>※感染症流行の状況によっては、実習場所、方法を変更する可能性がある。</p>
成績評価の方法	
評価方法	<p>実習状況(看護実践内容、実習場での職員との協働状況)(40%)、カンファレンスでの発表(10%)、レポート(50%)に基づき、実習指導者の評価を加味して総合評価を行う。</p> <p><レポート> ・受け持ち患者C、Dについてケースレポートを作成する。 ・身体疾患・治療により危機的状況にある高齢者とその家族に対して短期間のうちに集中して提供される医療現場で活動する老人看護専門看護師の役割と自己の課題に関するレポートを作成する。</p>
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体疾患・治療により危機的状況にある高齢者と家族に対する看護ならびにチームアプローチを実践、評価できる。 2. 急性期治療の場における看護の質向上のために必要となる課題を見出すことができる。 3. 急性期治療の場における看護の質向上のためのアプローチ方法を実習施設の職員と共に検討し、実践することができる。

試験・課題に対するフィードバック方法				
作成されたレポートについては、コメント返却や面談を通して、直接指導を行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし				
参考文献				
高齢者看護学特論Ⅰ～Ⅴおよび演習（高齢者看護CNS）の配付資料、参考資料を活用する。また、必要時に参考文献を紹介する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時、メールや対面に対応する。 事前に担当教員へメールで連絡し、調整する。 湯浅 myuasa@ 島田 hishima@ 河西 mhutaka@			
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
	湯浅美千代、 島田広美、河 西恵美	オリエンテーション・事前学習	個別指導	予習：（学習時間 下記に必要な時間） ・実習計画書を作成する。 ・急性期治療を受ける高齢患者の看護なら びに実習施設での看護に必要な知識を予習 する。 ・実習の際に使用する看護計画立案、実 施、評価の枠組みを作成する。 ・実習施設の職員との協働に必要な資料を まとめる。 復習：（学習時間 下記に必要な時間） ・オリエンテーション内容を再考し、指導 を受けた内容で実習計画書の見直しをす る。
1週目	湯浅美千代、 島田広美、河 西恵美	オリエンテーション、状況把握（ハイケア室、救急外来）。 日勤および夜勤の担当看護師および看護師長と共に行動し看護を提供 しながら、高齢者看護の課題を念頭においてハイケア室および救急外 来の状況を把握する。	臨地実習、個別指 導	予習：（学習時間 下記に必要な時間） ・具体的な情報収集の項目や方法を整理す る。 復習：（学習時間 下記に必要な時間） ・ハイケア室、救急外来の状況を整理す る。
2週目	湯浅美千代、 島田広美、河 西恵美	入室予定の高齢者のうち、受け持ち患者をハイケア室師長、一般病棟 師長、実習指導者と共に検討し、患者・家族の了承を得た上で、受け 持ち患者Cを決定する。 決定前に、受け持ち可能性のある患者と類似の疾患・治療の患者を担 当する看護師と共に看護を実施する。 振り返りとシミュレーションにより、仮の看護計画を立案する。特に 治療後の夜間の看護について検討し、指導者と教員による指導を受け る。	臨地実習、個別指 導	予習：（学習時間 下記に必要な時間） ・受け持ち可能性のある患者の看護に必要 な知識を予習する。 復習：（学習時間 下記に必要な時間） ・看護師と共にかかわった患者の情報を整 理する。 ・立案した仮の看護計画を見直す。
2～3 週目	湯浅美千代、 島田広美、河 西恵美	予定外入室または長期入室の患者より、受け持ち患者Dを選択し、患 者・家族の了承を得た上で、受け持ち患者Dを決定する。 患者決定まで、受け持ち看護師と共に看護を実施する。	臨地実習、個別指 導	予習：（学習時間 下記に必要な時間） ・受け持ち可能性のある患者の看護に必要 な知識を予習する。 復習：（学習時間 下記に必要な時間） ・看護師と共にかかわった患者の情報を整 理する。

3週目	湯浅美千代、 島田広美、河 西恵美	一般病棟看護師長・受け持ち看護師、担当医との協働により受け持ち患者Cの情報を集め、看護計画を立案する。計画立案に際し、本人・家族の意思やニーズを確認し、治療・ケア方針との調整を行う。 ハイケア室においてカンファレンスをもち、看護計画を説明し、チームメンバーへの周知を図る。チームメンバーとの協働により看護を実施する。 ハイケア室退室時にサマリーを作成し、一般病棟の看護師に情報提供する。一般病棟で起こりうるリスクをふまえ、回復促進のための看護について計画を立案する。 医師チームのカンファレンスに参加し、受け持ち患者Cの診断・治療について理解を深めるとともに、受け持ち患者のハイケア室での状況を報告し、治療法決定と治療効果判定に関与する。 一般病棟の看護チーム・多職種チームによるカンファレンスに参加し、看護計画の立案・修正に参画する。	臨地実習、個別指導	<p>予習：（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者Cの情報収集の項目や方法を整理する。 ・ハイケア退室時のサマリーの項目を整理する。 ・カンファレンスに必要な資料を準備する。 <p>復習：（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスの結果を踏まえ、看護計画を修正する。
3～4週目	湯浅美千代、 島田広美、河 西恵美	受け持ち患者Dの看護を担当看護師と共に実施しながら観察を行い、現状を分析する。 医師チームのカンファレンスに参加し、高齢患者の診断・治療について理解を深め、受け持ち患者・家族について現状を報告し、治療・ケア方針との調整を行う。 受け持ち患者Dの現状の看護計画に看護の質向上に向けたアプローチ*のプランを加えた形で、看護計画を立案する。指導者と教員による指導を受けて修正した上で、病棟でのカンファレンスで調整した上で、計画を実施、評価する。 *看護の質向上に向けたアプローチは、看護実践方法の提案のほか、スタッフ教育、コンサルテーション、チームアプローチ等を含む。	臨地実習、個別指導	<p>予習：（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者Dの看護に必要な知識を整理する。 ・カンファレンスに必要な資料を準備する。 <p>復習：（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスの結果を踏まえ、看護計画を修正する。 ・自身の看護及び看護の質向上に向けたアプローチについて整理する。
4週目	湯浅美千代、 島田広美、河 西恵美	一般病棟における受け持ち患者Cの状況について、患者・家族・受け持ち看護師・看護チームのメンバー・担当医から情報を得て、ハイケア室での看護、一般病棟での看護について評価する。多職種カンファレンスで評価結果を報告し、看護計画の修正を提案する。 まとめでは、①受け持ち患者C、Dについて、指導者、教員と共に看護過程を振り返る。②実習Ⅱ全体から、急性期病院における老人看護専門看護師の役割について、病棟や救急ユニットでの医療の現状分析と老人看護専門看護師が行う病棟等での支援状況を含めて考察し、指導者、教員を含めてディスカッションする。	臨地実習、個別指導	<p>予習：（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価に必要な情報について整理する。 ・カンファレンスに必要な資料を準備する。 <p>復習：（学習時間 下記に必要な時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者や教員の指導をもとに看護計画の評価・修正を行う。 ・実線したケアの評価を行う。 ・レポートを作成する。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅰ（対象論）	必修・選択	選択
英語科目名	Critical Care Nursing I	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	佐藤 まゆみ	ナンバリング	
担当教員	佐藤まゆみ※ 池田恵※ 田中朋子※ 長戸和子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	クリティカルな状況にある患者とその家族の理解のために有用な理論・概念について学び、それらを活用した看護援助のあり方について探究する。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられ、専門分野「クリティカルケア看護学」における5つの特論のうちの1つである。急性・重症患者看護CNSコースにおいては、「クリティカルケア看護学実習」の基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルな状況にある患者の理解に有用な主要理論・概念について説明できる。 2. 家族及びストレス状況下にある家族を理解するために有用な理論・概念について説明できる。 3. 上記1及び上記2の理論・概念を用いてクリティカルな状況にある患者やその家族の反応や立ち直りの過程及び回復を促す看護援助のあり方を説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	クリティカルケア看護学特論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習、演習（急性・重症患者看護CNS）、クリティカルケア看護学実習Ⅰ・Ⅱ、特別研究、課題研究（急性・重症患者看護CNS）				
学修上の注意	<p>[予習（事前準備）]</p> <p>担当教員の指示により①～③のいずれかに取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定文献を事前に読み、授業に臨む。 ②指定文献と関連文献を用いてプレゼンテーション資料を作成する。授業前週の指定された日までに担当教員に提出する。必要に応じて個別指導を受け準備をすすめる。 ③自身が体験した事例を前週の理論・概念で分析し、それをプレゼンテーション資料としてまとめる。授業前週の指定された日までに担当教員に提出する。 <p>[復習]</p> <p>各授業内容について理解を深める。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料・プレゼンテーション30%、授業への参加状況40%、レポート30%を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルな状況にある患者の理解に有用な主要理論・概念について説明できる。 2. 家族及びストレス状況下にある家族を理解するために有用な理論・概念について説明できる。 3. 上記1及び上記2の理論・概念を用いてクリティカルな状況にある患者やその家族の反応や立ち直りの過程及び回復を促す看護援助のあり方を説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題は、最終回の講義時までにコメントとともに返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連文献・参考文献はその都度提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者：佐藤まゆみ m.sato.qh@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	佐藤まゆみ	クリティカルケア看護の概観：対象及び看護実践の特徴	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
2	佐藤まゆみ	ストレス・コーピング理論：理解	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
3	佐藤まゆみ	ストレス・コーピング理論：事例分析	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
4	佐藤まゆみ	危機理論：理解	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
5	佐藤まゆみ	危機理論：事例分析1	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
6	佐藤まゆみ	危機理論：事例分析2	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
7	池田恵	危機に関する理論・概念1：理解 ボディイメージ、ソーシャルサポート、コントロールなど	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
8	池田恵	危機に関する理論・概念1：事例分析 ボディイメージ、ソーシャルサポート、コントロールなど	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
9	田中朋子	危機に関する理論・概念2：理解 ボディイメージ、ソーシャルサポート、コントロールなど	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
10	田中朋子	危機に関する理論・概念2：事例分析 ボディイメージ、ソーシャルサポート、コントロールなど	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
11	佐藤まゆみ	危機に関する理論・概念3：理解 ボディイメージ、ソーシャルサポート、コントロールなど	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
12	佐藤まゆみ	危機に関する理論・概念3：事例分析 ボディイメージ、ソーシャルサポート、コントロールなど	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
13	長戸和子	家族理論：家族とは	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
14	長戸和子	家族理論：家族ストレス対処理論：理解	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
15	長戸和子	家族理論：家族ストレス対処理論：事例分析	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅱ（アセスメント論）	必修・選択	選択
英語科目名	Critical Care Nursing Ⅱ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	池田 恵	ナンバリング	
担当教員	佐藤まゆみ※ 湯浅美千代※ 上野恭子※ 杉田学※ 池田恵※ 野村智久※ 大島泰子※ 森口ふさ江※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	クリティカルな状況にある患者の心身の状態ならびに生活行動・機能回復の状況を把握するための方法について理解する。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられ、専門分野「クリティカルケア看護学」における5つの特論のうちの1つである。急性・重症患者看護CNSコースにおいては、「クリティカルケア看護学実習」の基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 過大侵襲に伴う生体反応を説明できる。 2. 画像検査の原理を理解し、フィジカルアセスメントの情報源として活用できる。 3. クリティカルな状況にある患者に対するフィジカルアセスメントの方法を説明できる。 4. 老年期にある患者及び小児期にある患者の特徴を説明できる。 5. クリティカルな状況にある患者に見られる主要な精神症状及び救急搬送患者の精神面の特徴を説明できる。 6. クリティカルな状況にある患者に対するヘルスアセスメントの方法を説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（急性・重症患者看護CNS）、クリティカルケア看護学実習Ⅰ・Ⅱ、課題研究（急性・重症患者看護CNS）				
学修上の注意	<p>[予習（事前準備）] 担当教員の指示により①②のいずれかに取り組む。 ①指定文献・関連文献を事前に読み、授業に臨む。これまでの自身の実践を振り返り、理解を深めたい内容を明確にして授業に臨む。 ②自身が体験した事例を分析し、それをプレゼンテーション資料としてまとめる。授業前週の指定された日までにまでに担当教員に提出する。</p> <p>[復習] 各授業内容について理解を深める。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料・プレゼンテーション30%、授業への参加状況40%、レポート30%を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 過大侵襲に伴う生体反応を説明できる。 2. 画像検査の原理を理解し、フィジカルアセスメントの情報源として活用できる。 3. クリティカルな状況にある患者に対するフィジカルアセスメントの方法を説明できる。 4. 老年期にある患者及び小児期にある患者の特徴を説明できる。 5. クリティカルな状況にある患者に見られる主要な精神症状及び救急搬送患者の精神面の特徴を説明できる。 6. クリティカルな状況にある患者に対するヘルスアセスメントの方法を説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題は、最終回の講義時までにコメントとともに返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連文献・参考文献はその都度提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者：池田恵 meg-i@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	野村智久	過大侵襲に伴う生体反応1 : 古典的反応, サイトカイン, SIRS, CARSなど	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
2	杉田学	過大侵襲に伴う生体反応2 : MOF/MODS, ショックなど	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
3	杉田学	フィジカルアセスメントを行ううえでの情報源1 : 画像検査 (頭部CT, 頭部MRI)	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
4	野村智久	フィジカルアセスメントを行ううえでの情報源2 : 画像検査 (胸部・腹部X線, 胸部・腹部CT, 心・腹部エコー)	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
5	佐藤まゆみ	クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメント1	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
6	田中朋子	クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメント2	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
7	田中朋子	クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメント3	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
8	池田恵	クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメント4	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
9	池田恵	クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメント5	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
10	湯浅美千代	クリティカルな状況にある患者のヘルスアセスメント1 : 老年期にある患者の特徴 (認知症を有する患者の特徴を含む)	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
11	森口ふさ江	クリティカルな状況にある患者のヘルスアセスメント2 : 小児期にある患者の特徴	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
12	上野恭子	クリティカルな状況にある患者のヘルスアセスメント3 : クリティカルな状況にある患者に見られる主要な精神症状	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
13	大島泰子	クリティカルな状況にある患者のヘルスアセスメント4 : 救急搬送患者の精神面の理解	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
14	池田恵	クリティカルな状況にある患者のヘルスアセスメント5 : 自身が体験した事例の分析1	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
15	池田恵	クリティカルな状況にある患者のヘルスアセスメント6 : 自身が体験した事例の分析2	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記 (PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅲ（治療管理論）	必修・選択	選択
英語科目名	Critical Care Nursing Ⅲ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	田中 朋子	ナンバリング	
担当教員	佐藤まゆみ※ 植木純※ 杉田学※ 岡本健※ 池田恵※ 野村智久※ 田中朋子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	クリティカルな状況にある患者に行われる主要な治療・処置について理解する。また、集中治療下での患者・家族中心の医療・看護のあり方について考究する。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられ、専門分野「クリティカルケア看護学」における5つの特論のうちの1つである。急性・重症患者看護CNSコースにおいては、「クリティカルケア看護学実習」の基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	1. クリティカルな状況にある患者に行われる主要な医学的治療管理方法について説明できる。 2. 治療環境が患者や家族に及ぼす影響を理解し、集中治療下での患者・家族中心の医療・看護のあり方について説明できる。				
先修要件	なし				
関連科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ、演習（急性・重症患者看護CNS）、クリティカルケア看護学実習Ⅰ・Ⅱ、課題研究（急性・重症患者看護CNS）				
学修上の注意	<p>[予習（事前準備）]</p> <p>担当教員の指示により①②のいずれかに取り組む。 ①指定文献・関連文献を事前に読み、授業に臨む。これまでの自身の実践を振り返り、理解を深めたい内容を明確にして授業に臨む。 ②指定文献・関連文献を用いてプレゼンテーション資料を作成する。授業前週の指定された日までに担当教員に提出する。必要に応じて個別指導を受け準備をすすめる。</p> <p>[復習]</p> <p>各授業内容について理解を深める。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	授業への参加状況60%、レポート40%を総合して評価する。				
評価基準	1. クリティカルな状況にある患者に行われる主要な医学的治療管理方法について説明できる。 2. 治療環境が患者や家族に及ぼす影響を理解し、集中治療下での患者・家族中心の医療・看護のあり方について説明できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題は、最終回の講義時までにコメントとともに返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連文献・参考文献はその都度提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者：田中朋子 tmtanaka@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	野村智久	クリティカルな状況にある患者の治療管理 1 ：周手術期管理	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
2	杉田学	クリティカルな状況にある患者の治療管理 2 ：開頭術（開頭クリッピング術、開頭血栓除去術など）	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
3	杉田学	クリティカルな状況にある患者の治療管理 3 ：心臓・大血管手術	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
4	野村智久	クリティカルな状況にある患者の治療管理 4 ：循環管理（補助循環管理を含む）	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
5	植木純	クリティカルな状況にある患者の治療管理 5 ：呼吸管理（酸素療法・人工呼吸管理など）	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
6	岡本健	クリティカルな状況にある患者の治療管理 6 ：血液浄化法	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
7	岡本健	クリティカルな状況にある患者の治療管理 7 ：血液凝固・線溶系の管理（DIC管理など）	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
8	岡本健	クリティカルな状況にある患者の治療管理 8 ：体液管理（電解質・酸塩基平衡の管理など）	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
9	岡本健	クリティカルな状況にある患者の治療管理 9 ：栄養管理	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
10	岡本健	クリティカルな状況にある患者の治療管理 10 ：脳神経・脳循環管理	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
11	岡本健	クリティカルな状況にある患者の治療管理 11 ：外傷の治療管理	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
12	岡本健	クリティカルな状況にある患者の治療管理 12 ：熱傷及び急性中毒の治療管理	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
13	佐藤まゆみ	治療環境が患者や家族に及ぼす影響	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
14	池田恵	集中治療下での患者・家族中心の医療・看護のあり方	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
15	田中朋子	まとめ	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅳ（看護援助論A）	必修・選択	選択
英語科目名	Critical Care Nursing IV	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位
代表教員	佐藤 まゆみ	ナンバリング	
担当教員	佐藤まゆみ※ 池田恵※ 田中朋子※ 小泉雅子※ 瀧本雅昭※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	クリティカルな状況にある患者や家族の回復に向けて、ケアとキュアが融合した看護介入を行うために必要となるアセスメント方法及び看護介入方法について理解する。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられ、専門分野「クリティカルケア看護学」における5つの特論のうちの1つである。急性・重症患者看護CNSコースにおいては、「クリティカルケア看護学実習」の基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケア領域における高度実践看護の役割およびクリティカルケア領域において有用な理論・看護実践モデルについて説明できる。 2. 患者や家族と援助関係を構築し、エンパワメントするための看護介入方法について説明できる。 3. 病態生理及び治療管理の知識及び危機理論や家族理論等を活用し、クリティカルな状況にある患者及び家族へのアセスメント方法・看護介入方法について説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ、演習、演習（急性・重症患者看護CNS）、クリティカルケア看護学実習Ⅰ・Ⅱ、特別研究、課題研究（急性・重症患者看護CNS）				
学修上の注意	<p>[予習（事前準備）]</p> <p>担当教員の指示により①～③のいずれかに取り組む。</p> <p>①指定文献を事前に読み、授業に臨む。</p> <p>②指定文献と関連文献を用いてプレゼンテーション資料を作成する。授業前週の指定された日までに担当教員に提出する。必要に応じて個別指導を受け準備をすすめる。</p> <p>③自身が体験した事例を分析し、それをプレゼンテーション資料としてまとめる。授業前週の指定された日までに担当教員に提出する。</p> <p>[復習]</p> <p>各授業内容について理解を深める。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料・プレゼンテーション30%、授業への参加状況40%、レポート30%を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケア領域における高度実践看護の役割およびクリティカルケア領域において有用な理論・看護実践モデルについて説明できる。 2. 患者や家族と援助関係を構築し、エンパワメントするための看護介入方法について説明できる。 3. 病態生理及び治療管理の知識及び危機理論や家族理論等を活用し、クリティカルな状況にある患者及び家族へのアセスメント方法・看護介入方法について説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題は、最終回の講義時までにコメントとともに返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連文献・参考文献はその都度提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者：佐藤まゆみ m.sato.qh@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における高度看護実践・看護実践モデル：理解	講義・討議	授業内容について予習90分、復習90分
2	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における高度看護実践・看護実践モデル：事例分析	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
3	佐藤まゆみ	援助関係の構築とエンパワメント	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
4	小泉雅子	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入1 ：急性循環不全の患者の看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
5	小泉雅子	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入2 ：補助循環管理下にある患者の看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
6	瀧本雅昭	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入3 ：脳血管疾患の患者の看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
7	田中朋子	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入4 ：急性呼吸不全の患者の看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
8	田中朋子	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入5 ：人工呼吸器離脱に向けた看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
9	池田恵	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入6 ：敗血症の患者の看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
10	瀧本雅昭	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入7 ：救急初療室及びプレホスピタルケアにおける看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
11	池田恵	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入8 ：災害医療における看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
12	池田恵	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入9 ：CPAOA患者の看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
13	佐藤まゆみ	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入10 ：中毒・自殺企図の患者の看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
14	佐藤まゆみ	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護介入11 ：外傷の患者の看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
15	佐藤まゆみ	クリティカルな状況にある患者と家族のアセスメントと看護援助12 ：熱傷の患者の看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅴ（看護援助論B）	必修・選択	選択
英語科目名	Critical Care Nursing Ⅴ	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	佐藤 まゆみ	ナンバリング	
担当教員	佐藤まゆみ※ 池田恵※ 佐野裕子※ 田中朋子※ 田口智恵美※ 渡邊輝子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	周術期看護・集中治療看護における専門性を深め、これらの看護領域における看護実践能力の向上をはかるとともに、組織のクリティカルケア看護の充実に向けた高度実践看護師の役割について理解する。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられ、専門分野「クリティカルケア看護学」における5つの特論のうちの1つである。急性・重症患者看護CNSコースにおいては「クリティカルケア看護学実習」の基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 術後回復を促進するための高度看護実践方法について説明できる。 2. 集中治療下における高度看護実践方法について説明できる。 3. 看護管理の考え方を理解し、組織のクリティカルケア看護の充実に向けた看護管理者とCCNSとの連携のあり方について説明できる。 4. クリティカルケアにおける多職種連携のあり方と円滑な連携に向けたCCNSのコーディネーションの方法について説明できる。 5. クリティカルな状況にある患者に対する急性期リハビリテーションのあり方を理解し、クリティカル期からポスト・クリティカル期へのケア継続のあり方について説明できる。 6. 組織のクリティカルケア看護の充実に向けてクリティカルケアに携わる看護師の臨床判断能力を育成するための教育支援方法について説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、演習（急性・重症患者看護CNS）、クリティカルケア看護学実習Ⅰ・Ⅱ、課題研究（急性・重症患者看護CNS）				
学修上の注意	<p>[予習（事前準備）]</p> <p>担当教員の指示により①～③のいずれかに取り組む。</p> <p>①指定文献を事前に読み、授業に臨む。</p> <p>②指定文献と関連文献を用いてプレゼンテーション資料を作成する。授業前週の指定された日までに担当教員に提出する。必要に応じて個別指導を受け準備をすすめる。</p> <p>③自身が体験した事例を分析し、それをプレゼンテーション資料としてまとめる。授業前週の指定された日までに担当教員に提出する。</p> <p>[復習]</p> <p>各授業内容について理解を深める。</p>				
成績評価の方法					
評価方法	授業への参加状況30%、プレゼンテーション資料・プレゼンテーション30%、レポート40%を総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 術後回復を促進するための高度看護実践方法について説明できる。 2. 集中治療下における高度看護実践方法について説明できる。 3. 看護管理の考え方を理解し、組織のクリティカルケア看護の充実に向けた看護管理者とCCNSとの連携のあり方について説明できる。 4. クリティカルケアにおける多職種連携のあり方と円滑な連携に向けたCCNSのコーディネーションの方法について説明できる。 5. クリティカルな状況にある患者に対する急性期リハビリテーションのあり方を理解し、クリティカル期からポスト・クリティカル期へのケア継続のあり方について説明できる。 6. 組織のクリティカルケア看護の充実に向けてクリティカルケアに携わる看護師の臨床判断能力を育成するための教育支援方法について説明できる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題は、最終回の講義時までにコメントとともに返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連文献・参考文献はその都度提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者：佐藤まゆみ m.sato.qh@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	渡邊輝子	看護管理者とCCNSとの連携のあり方	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
2	佐藤まゆみ	クリティカルケアにおける多職種連携/チーム医療 ：連携方法とコーディネーション	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
3	佐野裕子	急性期リハビリテーション1 ：理学療法士との連携	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
4	佐藤まゆみ	急性期リハビリテーション2 ：クリティカル期からポストクリティカル期へのケアの継続	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
5	池田恵	集中治療下における高度看護実践1 ：感染対策1（人工呼吸器関連の感染対策）	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
6	池田恵	集中治療下における高度看護実践2 ：感染対策2（カテーテル関連の感染対策）	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
7	池田恵	集中治療下における高度看護実践3 ：急変時対応	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
8	池田恵	集中治療下における高度看護実践4 ：PIGSと看護ケア（早期離床への支援を含む）	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
9	田中朋子	術後回復を促進するための高度看護実践1 ：周術期看護における課題	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
10	田中朋子	術後回復を促進するための高度実践看護2 ：開頭術をうける患者と家族への看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
11	佐藤まゆみ	術後回復を促進するための高度看護実践3 ：心臓手術・大血管手術をうける患者と家族への看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
12	佐藤まゆみ	術後回復を促進するための高度看護実践4 ：食道がんの手術をうける患者と家族への看護	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
13	佐藤まゆみ	術後回復を促進するための高度看護実践5 ：変化したボディイメージへの適応支援	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
14	田口智恵美	クリティカルケアに携わる看護師の臨床判断能力の育成1 ：臨床判断能力とシミュレーション教育	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
15	佐藤まゆみ	クリティカルケアに携わる看護師の臨床判断能力の育成2 ：教育計画の立案と教育指導の実際	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	クリティカルケア看護学実習Ⅰ（実践実習）	必修・選択	選択
英語科目名	Critical Care Nursing Practice Ⅰ	対象学年	1年
開講学期	後期	単位数	2単位
代表教員	佐藤 まゆみ	ナンバリング	
担当教員	佐藤まゆみ※ 池田恵※ 田中朋子※ 西本佳代※ 高梨奈保子※ 近藤直子※ 吉田紀子※ 新山和也※ 瀧洋子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	複雑で対応困難な問題をもつ集中治療室入院中の患者とその家族を受け持ち、看護ケアをとおして、急性・重症患者看護専門看護師（CCNS）に必要な高度な看護実践力を養う。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられる。「クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅴ」および「演習（急性・重症患者看護CCNS）」で学修した高度な専門的知識と技術を基盤に、1年次末に学ぶ。この科目は、CCNSが果たす6つの役割のうちの「実践」に焦点をあてている。この科目を通して、CCNSとしての「実践」役割を遂行するための能力を養うとともに、CCNSとしての自己の課題を明確にし、「クリティカルケア看護学実習Ⅱ」において更なる能力向上・課題克服に取り組む。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1. 複雑で対応困難な問題をもつ集中治療室入院中の患者とその家族の身体的・心理社会的状態及び治療環境を包括的にアセスメントすることができる。 2. 集中治療室入院中の患者とその家族に対して高度な看護実践を行い、問題解決に導くことができる。 3. 患者や家族に対して行った看護ケアをふまえ、CCNSとしての自己の課題を明確にすることができる。				
先修要件	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（急性・重症患者看護CCNS）				
関連科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（急性・重症患者看護CCNS）、クリティカルケア看護学実習Ⅱ				
学修上の注意	[予習（事前準備）] ・実習計画書を作成する。 ・受け持つ可能性のある患者の看護に必要な知識・技術について学修する。 [復習] ・学生は実習記録を作成し、指導教員及び臨地実習指導者に毎日提出する。				
成績評価の方法					
評価方法	到達目標への到達度30%、カンファレンスの内容20%、実習記録30%、課題レポート20%の評価に、臨地実習指導者の評価も加味して評価する。				
評価基準	1. 複雑で対応困難な問題をもつ集中治療室入院中の患者とその家族の身体的・心理社会的状態及び治療環境を包括的にアセスメントすることができる。 2. 集中治療室入院中の患者とその家族に対して高度な看護実践を行い、問題解決に導くことができる。 3. 患者や家族に対して行った看護ケアをふまえ、CCNSとしての自己の課題を明確にすることができる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
臨地における実習の内容については臨地実習指導者から随時指導をうける。 実習記録は臨地実習指導者及び指導教員に毎日提出し、随時指導をうける。 課題レポートは実習終了後1週間以内に指導教員に提出し、提出後1週間をめどにコメントとともに返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連文献・参考文献はその都度提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者：佐藤まゆみ m.sato.qh@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	佐藤まゆみ 池田恵 田中朋子 西本佳代 高梨奈保子 近藤直子 吉田紀子 新山和也 瀧洋子	<p>1. 実習時期 1年次2月～3月のうち、臨床の状況にあわせて2週間</p> <p>2. 実習施設 船橋市立医療センター 他 各病院の集中治療室</p> <p>3. 実習方法 ① 臨地実習指導者、看護師長、指導教員の指導を受けながら実習計画を立案する。 ② 集中治療室入院中の患者のうち、複雑な病態の患者やスタッフ看護師が対応に困難を感じる患者及びその家族を受け持つ。 ③ 医師の診療場面を見学し、医師の診療プロセス、治療計画の立案方法、身体・治療管理方法等について学ぶ。 ④ 患者及びその家族の身体的・心理社会的状態及び患者や家族が置かれている治療環境についてアセスメントを行う。 ⑤ 研究成果や諸理論を活用して、上記③④に基づき看護ケアを計画立案し、実践し評価する。 ⑥ 学生は臨地実習指導者から随時指導をうける。また、臨時実習指導者及び指導教員に対し実習記録を提出し指導をうける。 ⑦ 学生は、中間カンファレンスと最終カンファレンスを計画する。中間カンファレンスでは、受け持ち事例の検討を行い、最終カンファレンスでは、CCNSとしての自己の課題を含め実習目標への到達度について評価し、臨地実習指導者及び指導教員から助言を受ける。 ⑧ 実習終了後、実習の到達度について自己評価を行い、自己評価結果をもとに教員と相互評価を行う。また、実習終了後1週間以内に課題レポートを提出する。</p> <p>4. 臨地実習指導者 実習施設のCCNS 実習施設の関連部署の医師及び看護師長 他</p>	実習	各回ともに実習内容について予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	クリティカルケア看護学実習Ⅱ（統合実習）	必修・選択	選択
英語科目名	Critical Care Nursing Practice Ⅱ	対象学年	2年
開講学期	通年	単位数	8単位
代表教員	佐藤 まゆみ	ナンバリング	
担当教員	佐藤まゆみ※ 池田恵※ 田中朋子※ 西本佳代※ 近藤直子※ 新山和也※ 瀧洋子※	授業形態	実習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	複雑で対応困難な問題をもつクリティカルな状況にある患者とその家族を受け持ち、看護ケアを通して急性・重症患者看護専門看護師（CCNS）に必要な高度な看護実践力及び調整・倫理調整能力を養う。また、クリティカルケアに携わる看護師等への相談及び教育の機会をととして、CCNSに必要な相談能力・教育能力を養う。さらにCCNSの活動への同行を通して、CCNSの果たす6つの役割について理解を深めるとともに、CCNSとしての自己の課題を明確にする。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられる。「クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅴ」および「演習（急性・重症患者看護CNS）」で学修した高度な専門的知識と技術、さらに1年次末に学修した「クリティカルケア看護学実習Ⅰ」を基盤に、2年次に学ぶ。この科目は、CCNSが果たす6つの役割すべてに焦点をあてている。この科目を通して、CCNSとして6つの役割を遂行するための能力を養う。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑で対応困難な問題をもつクリティカルな状況にある患者とその家族の身体的・心理社会的状態及び治療環境を包括的にアセスメントすることができる。 2. クリティカルな状況にある患者や家族に対して高度な看護実践を行い、問題解決に導くことができる。 3. クリティカルな状況にある患者や家族に必要なケアが円滑に提供されるよう他職種と調整を図り、ケアをコーディネートできる。 4. クリティカルな状況にある患者や家族が抱える倫理的問題が解決されるよう、関係する人々との間で倫理的調整ができる。 5. クリティカルケアに携わる看護師を含む医療者に対してコンサルテーションを行うことができる。 6. クリティカルケアに携わる看護師に対して教育を行うことができる。 7. 実習施設におけるCCNSの果たす役割と実際の活動について説明できる。 8. 実習全体をととして、CCNSとしての自己の課題を明確にすることができる。 				
先修要件	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（急性・重症患者看護CNS）、クリティカルケア看護学実習Ⅰ				
関連科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（急性・重症患者看護CNS）、クリティカルケア看護学実習Ⅰ				
学修上の注意	<p>[予習（事前準備）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習計画書を作成する。 ・受け持つ可能性のある患者の看護に必要な知識・技術について学修する。 ・CCNSに必要な6つの役割を遂行するための知識・技術について学修する。 <p>[復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は実習記録を作成し、指導教員及び臨地実習指導者に毎日提出する。 				
成績評価の方法					
評価方法	到達目標への到達度30%、カンファレンスの内容20%、実習記録30%、課題レポート20%の評価に、臨地実習指導者の評価も加味して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑で対応困難な問題をもつクリティカルな状況にある患者とその家族の身体的・心理社会的状態及び治療環境を包括的にアセスメントすることができる。 2. クリティカルな状況にある患者や家族に対して高度な看護実践を行い、問題解決に導くことができる。 3. クリティカルな状況にある患者や家族に必要なケアが円滑に提供されるよう他職種と調整を図り、ケアをコーディネートできる。 4. クリティカルな状況にある患者や家族が抱える倫理的問題が解決されるよう、関係する人々との間で倫理的調整ができる。 5. クリティカルケアに携わる看護師を含む医療者に対してコンサルテーションを行うことができる。 6. クリティカルケアに携わる看護師に対して教育を行うことができる。 7. 実習施設におけるCCNSの果たす役割と実際の活動について説明できる。 8. 実習全体をととして、CCNSとしての自己の課題を明確にすることができる。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>臨地における実習の内容については臨地実習指導者から随時指導をうける。 実習記録は臨地実習指導者及び指導教員に毎日提出し、随時指導をうける。 課題レポートは実習終了後1週間以内に指導教員に提出し、提出後1週間をめぐりにコメントとともに返却する。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
関連文献・参考文献はその都度提示する。					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	佐藤まゆみ 池田恵 田中朋子 西本佳代 近藤直子 新山和也 瀧洋子	<p>1. 実習時期 2年次5月～10月のうち、臨床の状況にあわせて8週間</p> <p>2. 実習施設 虎の門病院、東京女子医科大学八千代医療センター、埼玉医科大学国際医療センター、東京医科大学八王子医療センター 各病院の集中治療室、集中治療室退室後の関連病棟 他</p> <p>3. 実習方法 ① 臨地実習指導者、看護師長、指導教員の指導を受けながら実習計画を立案する。 ② CCNSの活動に同行し、CCNSが果たす6つの役割と実際の活動について理解する。 ③ 集中治療室入院中の患者のうち、複雑で対応困難な問題をもつ患者及びその家族を受け持つ。 ④ 医師の診療場面を見学し、医師の診療プロセス、治療計画の立案方法、身体・治療管理方法等について学ぶ。 ⑤ 患者及びその家族の身体的・心理社会的状態及び患者や家族が置かれている治療環境についてアセスメントを行う。 ⑥ 研究成果や諸理論を活用し、上記④⑤に基づき看護ケアを計画立案し、実践・評価する。 ⑦ 問題解決には調整／倫理調整が必要な患者及びその家族を受け持ち、調整に向けた介入計画を立案し、実施・評価する。 ⑧ 集中治療室退室後の患者を受け持ち、看護ケアを実施するとともに、ケアの継続性について考察する。 ⑨ クリティカルケアに携わる看護師等を対象にコンサルテーションを実施する。 ⑩ クリティカルケアに携わる看護師等を対象に教育活動を実施する。 ⑪ 学生は臨地実習指導者から随時指導を受ける。また、臨地実習指導者及び指導教員に対し実習記録を提出し指導を受ける。 ⑫ 学生はカンファレンスを計画する。中間カンファレンスでは、実習内容および受け持ち事例の検討を行い、最終カンファレンスでは、CCNSとしての自己の課題を含め実習目標への到達度について評価し、臨地実習指導者及び指導教員から助言を受ける。 ⑬ 実習終了後、実習の到達度について自己評価および教員との相互評価を行う。また、実習終了後1週間以内に課題レポートを提出する。</p> <p>4. 臨地実習指導者 実習施設のCCNS 実習施設の関連部署の医師及び看護師長 他</p>	実習	各回ともに実習内容について予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	シミュレーション看護学特論	必修・選択	選択
英語科目名	Simulation Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位
代表教員	寺岡 三左子	ナンバリング	
担当教員	寺岡三左子※	授業形態	講義

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	医療者教育は「どれだけ学んだか」「何を学んだか」から「どのような能力が身についたか」を重視するアウトカム基盤型教育へとシフトしている。コンピテンシーに基づく教育方法の1つであるシミュレーション教育について探求し、基盤となる理論およびシミュレーションデザインの基礎を習得する。シミュレーションに関連し、AI、ICTを活用した教育・看護実践についても探求する。				
授業の位置づけ	本科目はINACSL (International Nursing Association for Clinical Simulation and Learning) のベストプラクティススタンダードをもとに、シミュレーションの基盤となる理論およびシミュレーションシナリオデザインの基礎を学ぶ。さらにこれらスタンダードを支える研究に触れ、自己の研究課題と関連させて考察する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. シミュレーション教育を支える学習理論を説明できる 2. シミュレーションデザインができる (レベル: Fundamentals of Simulation) 3. シミュレーション教育の体験を通し、コンピテンシー重視の教育方法について考察・説明できる 4. シミュレーションの特徴をふまえ、自己の研究上の課題と関連させて考察・説明できる 5. 看護におけるICTの活用について考察・説明できる 				
先修要件	なし				
関連科目	看護教育学特論Ⅰ、看護技術開発学特論、医療情報論				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する学問領域にも関心を持ち、ディスカッションできるように準備してください ・シミュレーション教育研究センターを活用します ・自らICTを活用して学びの生産性を上げるとともに、本科目における効果的な学修の方法は積極的に提案してください 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション 40% 学習の成果物 30% ディスカッションへの参画度 (積極性・貢献度) 30%				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. シミュレーション教育を支える学習理論を説明できる 2. シミュレーションデザインができる (レベル: Fundamentals of Simulation) 3. シミュレーション教育の体験を通し、コンピテンシー重視の教育方法について考察・説明できる 4. シミュレーションの特徴をふまえ、自己の研究上の課題と関連させて考察・説明できる 5. 看護におけるICTの活用について考察・説明できる 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーション、ディスカッションについてはその場でコメントする。成果物については授業の中でフィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<ul style="list-style-type: none"> ・ International Nursing Association for Clinical Simulation and Learning, HEALTHCARE SIMULATION STANDARDS OF BEST PRACTICE https://www.inacsl.org/healthcare-simulation-standards (無料でダウンロード可能) 					
その他随時提示する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時メールを受け付ける (mteraoka@)				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	寺岡	学習ガイダンス アウトカム基盤型教育、シミュレーション教育とは 医療・看護におけるテクノロジー シミュレーション教育を支える学習理論	講義・ディスカッション	予習・復習各90分 Outcome-Based Education, Competency-Based Education, Simulation-Based Education、医療・看護におけるICT活用（次世代医療機器、AI、DX等）について調べ概要を理解する
2	寺岡	Healthcare Simulation Standards of Best Practiceの理解① ・Simulation Glossary（用語の理解） ・Professional Development	プレゼンテーション・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容について調べ概要を理解する
3	寺岡	Healthcare Simulation Standards of Best Practiceの理解② ・Prebriefing ・Simulation Design	プレゼンテーション・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
4	寺岡	Healthcare Simulation Standards of Best Practiceの理解③ ・Facilitation ・The Debriefing Process	プレゼンテーション・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
5	寺岡	Healthcare Simulation Standards of Best Practiceの理解④ ・Operations ・Outcomes & Objectives	プレゼンテーション・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
6	寺岡	Healthcare Simulation Standards of Best Practiceの理解⑤ ・Professional Integrity ・Simulation-Enhanced-IPE (Interprofessional Education) ・Evaluation of Learning and Performance	プレゼンテーション・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
7	寺岡	シミュレーションデザインの基本 ・構成要素 ・デザインの概要	講義・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
8	寺岡	シミュレーションデザインの実際①	グループワーク・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
9	寺岡	シミュレーションデザインの実際②	グループワーク・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
10	寺岡	シミュレーションデザインの実際③	グループワーク・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
11	寺岡	シミュレーションデザインの実際/実施④	プレゼンテーション・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
12	寺岡	シミュレーション教育に関する国内外の研究①	講義・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
13	寺岡	シミュレーション教育に関する国内外の研究②	講義・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
14	寺岡	医療・看護におけるAI、ICTの活用①	講義・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる
15	寺岡	医療・看護におけるAI、ICTの活用②	講義・ディスカッション	予習・復習各90分 授業で扱う内容・ディスカッション内容についてまとめる

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習	必修・選択	必修
英語科目名	Seminar	対象学年	1年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	平井 周	ナンバリング	
担当教員	【浦安キャンパス】 飯島佐知子、岩淵和久、植木純、大月恵理子、櫻井しのぶ、佐藤まゆみ、高谷真由美、種市ひろみ、寺岡三左子、野崎真奈美、平井周、平田美佳、水野恵理子、湯浅美千代、青柳優子、飯田真理子、大西麻未、加茂敦子、川上和美、佐野裕子、島田広美、杉山智子、鈴木小百合、高山京子、長瀬雅子、永野光子、中山仁志、原田静香、森田亜希子 【三島キャンパス】 石塚淳子、大熊泰之、小川典子、小池道明、西田みゆき、濱田千江子、東めぐみ、藤尾祐子、横山悦子、栗原明美	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	国内外の文献を討議材料とし、研究課題および研究方法について分析的に考察する。事例や研究論文を分析し、現状の問題点を把握するとともにその解決法について検討する。 それを踏まえ、自己の研究課題に応じた研究方法や分析方法を明確にし、実践への適用を検討する。 各担当教員と相談して選んだテーマに関して、以下の形式で定期的にテーマ別に演習を行う（30回）。 1. 実践報告等のレビュー、検討会 2. 文献紹介とゼミ形式での討議 3. 各フィールドでのデータの集積と、分析およびその解釈についての検討会 * CNSについては、別途に掲載する。				
授業の位置づけ	各専門分野の特論と並行しながら、自身の研究を計画する基礎となる取り組みを行い、特別研究につなげる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1. 各自が関心領域から研究課題を絞り込み、研究目的達成に必要な研究デザインを選択できる。 2. 各自の研究目的達成に必要な研究手法についての基礎および実際について学ぶ 3. 文献をクリティークする中で必要な研究手法を身につける。				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	各担当者より指示する。				
成績評価の方法					
評価方法	原則としてレポート（25%）、プレゼンテーション（25%）、討議（50%）とする。				
評価基準	・国内外の文献をもとに、研究課題・研究方法を分析的に考察できる。 ・事例や研究論文を分析し、現状の問題点を把握でき、解決法を検討できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
各担当者より指示する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
各担当者より指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				
備考	自ら進んで学ぶ姿勢を望む。				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1~30	飯島佐知子	人的資源管理、医療・看護の質の管理、財務管理やバランスドスコアカードの理論と方法を踏まえて、実際の施設における適用事例について分析し、改善案を検討する。	演習	各回予習90分、復習90分	
1~30	岩淵和久	院内感染制御のための実践力を身につけるための基礎として、病原微生物と宿主側の免疫応答能力の関係を明らかにするために必要となる研究手法の修得を指導する。	演習	各回予習90分、復習90分	

1~30	植木純	身体を科学的、系統的にアセスメントする技術を身につける。さらに、生活習慣や生活行動、家族状況、職業などの健康に関連する背景を的確に把握する手法を修得し、QOL、精神心理的側面のアセスメント方法やアセスメントに用いる評価票を理解することにより、健康状態や病態を包括的に判断、評価することの出来る能力を養う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	大月恵理子	女性の生涯にわたる健康課題を支援する母性看護学領域における現状と課題について、研究論文を基に検討し、研究課題の明確化を図る。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	櫻井しのぶ	地域看護分野における健康課題を地域診断を基に特定し、その集団もしくはは地域の対象者に有効な看護活動の援助の在り方を探求する。また、包括的な健康支援の方法を検討するにあたって、施策化から評価まで出来る能力を養う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	佐藤まゆみ	クリティカルケア看護領域から関心のある看護現象を選択し、その現象に関する実践事例や研究論文の分析を通して現状と問題点を理解し、研究課題を明確にするプロセスを指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	高谷真由美	慢性病を持つ人の症状マネジメントに活用する看護援助としての補充代替療法について、現状や問題点、具体的な活用方法について考える。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	種市ひろみ	在宅療養者とその家族に対して提供される看護実践の現状と課題、在宅療養者のQOLを高め自立を促進するための看護実践のあり方、課題解決のための方策について検討する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	寺岡三左子	シミュレーション教育およびICTを活用した教育・看護実践方法に関する研究を中心に、関心のある研究トピックについて研究の動向、先行研究の検討を通して現状を分析し、課題を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	野崎真奈美	看護基礎教育及び継続教育における看護実践能力の育成についての現状と課題を明らかにし、効果的な教育方法と評価のあり方について検討する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	平井周	実際の症例を用いて、腫瘍や炎症、加齢などによる臓器や組織の様々な変化を形態学的に観察し、病態を病理学的に理解・評価する手法を修得する。これを自己の関心領域の解析に適用すべく検討を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	平田美佳	病気や障がいをもつ子どもとその家族の体験やおかれている状況を文献レビューや討議を通して理解し、自らの研究課題を明確にして記述する力を養う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	水野恵理子	精神保健看護領域における関心のあるテーマを挙げ、先行研究の検討を通してテーマの理解を深めるとともに考えられる課題を見出し、解決するためのアプローチ法について検討する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	湯浅美千代	高齢者の理解とその支援についての現状と問題を把握し、高齢者看護に関する課題を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	青柳優子	女性の生涯にわたる健康課題を支援する母性看護学領域における現状と課題について、研究論文を基に検討し、研究課題の明確化を図る。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	飯田真理子	女性の生涯にわたる健康課題を支援する母性看護学領域における現状と課題について、研究論文を基に検討し、研究課題の明確化を図る。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	大西麻未	組織管理、人的資源管理、質管理に関する研究について、看護及び関連領域の既存の知識を整理し、実践上の課題及び研究課題を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	加茂敦子	様々な生体反応や病態への理解を深めるとともに、自己の研究課題に関連する研究手法を検討し修得する。また、看護の臨床や広く健康増進につながるエビデンス活用について課題を見だし、エビデンスを創出する力を培う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	川上和美	医療・福祉施設、地域等のあらゆる場や対象における科学的根拠に基づいた感染予防管理・感染症看護を探求し、実践方法を検討する。さらに関心領域の既存のガイドライン、文献をクリティークし、研究課題を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	佐野裕子	身体機能に障害が生じる病態を理解し、科学的にアセスメントできる能力を養う。リハビリテーション医療・看護において、予防的観点を含めた包括的な介入手法について学習し、研究課題を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	島田広美	回復期にある高齢者の理解とその支援についての現状と問題を把握し、援助に関する課題を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	杉山智子	認知症をもつ高齢者を取り巻く現状や課題を明らかにし、看護方法について検討する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	鈴木小百合	看護基礎教育、看護継続教育に関する課題について、研究論文の分析を通して検討し、研究課題を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	高山京子	がん罹患した患者とその家族に対する文献および看護実践から、関心領域における現状と問題点を理解し、自らの研究課題や研究方法を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分

1~30	中山仁志	感染制御の理解と実践力をつけるための基礎として、病原微生物ならびにサイトカインを含む炎症性物質に対する生体反応に焦点を絞った実験演習を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	長瀬雅子	慢性的な病／状態を抱えて生きる人々とその家族に対する看護および保健医療システムの現状と課題を把握し、これらの改善策を検討する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	永野光子	看護実践・教育に関わる文献の検討を通し、看護学教育の現状と課題を理解し、解決策について検討する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	原田静香	母子/成人高齢者の発達課題・健康問題に関する文献レビューや看護介入の経験に関するプレゼンテーションを通して、自らの研究課題・研究方法の明確化を目指す。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	森田亜希子	母性看護学領域の対象者である母子やその家族が遭遇する健康課題／問題について、研究論文を検討、探求することで、自らの研究課題や研究方法を明確化する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	石塚淳子 (三島)	看護教育についての現状と課題を明らかにし、文献検討やプレゼンテーション・ディスカッションを通して研究課題・研究方法を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	大熊泰之 (三島)	脳・神経疾患における病態生理の理解を深め、実際の症例から問題点を分析する能力を身に着ける。エビデンスを理解し、エビデンスに基づく問題解決法を習得する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	小川典子 (三島)	在宅看護の場の拡大に伴い、保健福祉などあらゆる面からその人のQOLニーズ・セルフケアニーズに対応するため様々な形態の看護提供が期待される地域包括ケアシステムの今日的課題を明確にし、未来の展望を図るための基礎的能力を養う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	小池道明 (三島)	高齢者の多発性骨髄腫患者における、ADL、フレイルスコア、全身状態の評価方法について現在のエビデンスを理解する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	西田みゆき (三島)	小児の健康問題を幅広くとらえ子どもと家族に必要な看護を探求する能力を培う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	濱田千江子 (三島)	健康寿命延伸に関連したセルフヘルスケアマネジメントや、医療・介護の現場で生じているフレイル（運動器機能の低下）の進展予防への看護介入の重要性を理解するため、セルフヘルスケアマネジメントやフレイルの文献レビューし、今日的課題を明確にし、未来の展望を図るための基礎的能力を養う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	東めぐみ (三島)	複雑な状態にある慢性病者の現状と健康課題を国内外の文献をもとに検討し、健康レベルに応じた患者教育、セルフマネジメント支援など支援技術について学修し、各自の研究課題を明らかにする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	藤尾祐子 (三島)	退院支援、在宅療養支援における多職種連携と看護援助について、現状と課題を明らかにし、未来の展望を図るための基礎的能力を養う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	横山悦子 (三島)	高齢者の健康問題とその支援について課題を把握し、研究課題を明確にする。	演習	各回予習90分、復習90分
1~30	栗原明美 (三島)	慢性疾患を抱える患者の意思決定支援と緩和ケアについて文献レビューを通じて、現状と課題について学修し、考察を深める。	演習	各回予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習(慢性看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Seminar-CNS in Chronic Illness and Conditions Nursing	対象学年	1年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング	
担当教員	高谷真由美*、長瀬雅子*、樋野恵子*、坂本亜弓*、北村幸恵*、瀬尾昌枝*、鶴澤久美子*、小崎綾子* *実務家担当教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	慢性病を持つ人および家族の変化する状態をとらえるため身体心理社会面、治療や生活への影響を含めた包括的アセスメントに必要な理論や実践的技術をするとともに、アセスメント上の課題を探索する。さらに、慢性病を持つ人への支援技術と評価方法の理論と実際を検討し、革新的方策を探索する。			
授業の位置づけ	慢性看護専門看護師になるために必要な科目である。前期はアセスメントを中心に、後期は介入方略を中心に論文購読、フィールドワークなどを通じて学び、サブスペシャリティに必要な能力や実践上の課題を明確にする。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力			
到達目標	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病を持つ人々に対するヘルスアセスメントの必要性を説明できる。 2. 慢性病を持つ人々に対するヘルスアセスメントが実施できる。 3. 関心領域に必要とされるアセスメントツールを活用することの説明ができる。 4. 慢性病を持つ人々のアセスメントにおける今後の課題を考えることができる。 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病を持つ人の行動変容を促す教育の理論と方法について説明できる。 2. 慢性病を持つ人の症状マネジメントに必要な支援が説明できる。 3. 慢性病を持つ人のケアに必要なコンサルテーション、コーディネーション技法について討議できる。 4. 慢性病を持つ人の支援技術を事例に応用することができる。 5. 慢性病を持つ人々への支援技術提供における今後の課題を検討できる。 			
先修要件				
関連科目	慢性看護学特論 I～V CNS共通科目			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・関心領域におけるヘルスアセスメント論文をクリティークしておく。 ・ヘルスアセスメントについてシミュレーターを活用して予習・復習を行い、疑問点・技術習得上の自己の問題点を確認しておく。 ・関心分野のアセスメントツールの活用について文献検討を行い、プレゼンテーションの準備をする。 ・慢性病を持つ人の複雑さを捉えるアセスメントにおける今後の課題について検討し、レポートする。 ・慢性病を持つ人の支援技術に関する文献をクリティークしておく。 ・慢性病を持つ人とのコミュニケーションにおける自己の課題を明らかにしておく。 ・患者教育のロールプレイをするための準備をする。 ・症状マネジメント・モデルの活用、心理的、行動療法的アプローチ、補完・代替療法について討議のための準備をする。 ・ナラティブアプローチの習得とCNSの支援技術の見学計画を立案し、研修先に受け入れを交渉する。 ・CNSの支援技術の見学とナラティブアプローチを用いた慢性疾患患者と面接結果を記述し、プレゼンテーションするための準備をする。 ・看護の高度実践における卓越した支援技術について、演習・文献等を用いて検討する準備をし、検討事項をレポートする。 			
成績評価の方法				
評価方法	事前準備 (20%)、プレゼンテーション (30%)、討議 (30%)、レポート (20%)			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病を持つ人々に対するヘルスアセスメントの必要性を説明できる。 2. 慢性病を持つ人々に対するヘルスアセスメントが実施できる。 3. 関心領域に必要とされるアセスメントツールを活用することの説明ができる。 4. 慢性病を持つ人々のアセスメントにおける今後の課題を考えることができる。 5. 慢性病を持つ人の行動変容を促す教育の理論と方法について説明できる。 6. 慢性病を持つ人の症状マネジメントに必要な支援が説明できる。 7. 慢性病を持つ人のケアに必要なコンサルテーション、コーディネーション技法について討議できる。 8. 慢性病を持つ人の支援技術を事例に応用することができる。 9. 慢性病を持つ人々への支援技術提供における今後の課題を検討できる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
各回の担当教員がその都度フィードバックする。 また、レポート内容について個別にコメントする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				

参考文献				
その都度、紹介する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー		高谷真由美 mtayaka@ 長瀬雅子 mnagase@		
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1~8	高谷・長瀬	慢性病をもつ人々のヘルスアセスメント及びその人々を取り巻く環境のアセスメント	文献検討、研究会、プレゼンテーション	各回予習90分、復習90分を目安とし、討議やプレゼンテーションのための準備をする。
9~18	鶴澤・小崎・北村・坂本・瀬尾	慢性病の症状アセスメント	文献検討、プレゼンテーション、講義	各回予習90分、復習90分を目安とし、討議やプレゼンテーションのための準備をする。
19~20	小崎・鶴澤・高谷・長瀬	慢性病者の症状と心身への影響に着目したフィールドワーク	講義、フィールドワーク、プレゼンテーション	各回予習90分、復習90分を目安とし、討議やプレゼンテーションのための準備をする。
25~28	高谷・長瀬・樋野	慢性病者の心理社会的側面と、支援ネットワーク	文献検討、プレゼンテーション	各回予習90分、復習90分を目安とし、討議やプレゼンテーションのための準備をする。
29~30	高谷・長瀬	小括：慢性病の複雑さを捉えるアセスメントと今後の課題	プレゼンテーション	各回予習90分、復習90分を目安とし、討議やプレゼンテーションのための準備をする。
31~36	高谷・長瀬	慢性病者への看護ケアに関する研究レビュー	研究会、プレゼンテーション	各回予習90分、復習90分を目安とし、討議やプレゼンテーションのための準備をする。
37~48	高谷・樋野	慢性病をもつ人の支援技術と評価方法	講義、プレゼンテーション、文献検討	各回予習90分、復習90分を目安とし、討議やプレゼンテーションのための準備をする。
49~58	高谷・長瀬・樋野	慢性病をもつ人への看護実践—研究成果及びフィールドワークから考えること—	フィールドワーク、プレゼンテーション、文献検討	各回予習90分、復習90分を目安とし、討議やプレゼンテーションのための準備をする。
59~60	高谷・長瀬	まとめ：慢性看護専門看護師としての実践とは	プレゼンテーション、レポート	まとめ：慢性看護専門看護師としての実践とは

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習(ウィメンズヘルス看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Seminar-CNS in Women's Health Nursing	対象学年	1年
開講学期	後期	単位数	4単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	
担当教員	大月恵理子※、青柳優子※、森田亜希子※、飯田真理子※、菅原淳※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の健康問題を診断するためのフィジカルアセスメント・メンタルヘルスアセスメントの技法を学ぶとともに、健康問題の特殊性、必要な検査、治療、薬物療法についての理解を深める。複雑で解決困難な健康問題を持つ女性に対するエビデンスに基づく高度看護実践を学ぶ。女性の健康問題における倫理的問題への対応および関連する職種間の調整、ケア提供者からの相談や教育の役割を学び、リーダーシップを発揮できる能力を養う。 ・多様なヘルスケアニーズをもつライフサイクル各期の集団に対する理論に基づいた健康教育の実際を学ぶとともに、健康教育活動の立案・評価ができる。 ・女性の健康問題の予防・快復や健康教育の推進にむけ、社会政策への参画の方法が考察できる。また、女性の特定の健康問題の予防・快復や、健康教育の開発・促進等に対する母性看護専門看護師に求められる実践・倫理調整・調整・相談・研究活動の役割を総括として考察できる。 				
授業の位置づけ	ウィメンズヘルス看護学特論他各分野の特論と並行し、健康問題を有する女性に対する援助の実際を学び、ウィメンズヘルス看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにつなげる				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の健康問題を診断するためのフィジカルアセスメント、メンタルヘルスアセスメントの技法を事例によるシミュレーション学習等により修得できる。 2. 女性の健康問題の特殊性、検査、医学的診断、治療、薬物療法の実際が理解できる。 3. 女性の健康問題を診断し、エビデンスに基づく看護プランが立案できる。 4. 複雑で解決困難な健康問題を持つ女性への高度看護実践にむけて、エビデンスに基づいた看護ケアを立案、実践、評価できる。 5. 女性医療や看護実践における倫理的問題の判断と倫理的調整力が習得できる。 6. 女性の健康問題の解決にむけ、母性看護専門看護師として多職種間連携の役割を調整する力を学ぶ。 7. 看護実践場面におけるケア提供者からの相談やケア向上のための教育的役割が考察できる。 8. 多様なヘルスケアニーズをもつライフサイクル各期の集団に対して、理論に基づく健康教育を立案し、評価できる。 9. 文献検討と討論により、女性の健康問題を予防・解決するための社会政策への参画の方法を提案・考察できる。 10. 討議により、女性の各ライフサイクルにおける健康問題の予防・快復や、健康教育の開発・促進等に求められる母性看護専門看護師としての実践・倫理調整・相談・調整・教育・研究活動について、総括・考察できる。 				
先修要件	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ～Ⅴを履修していること				
関連科目	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、ウィメンズヘルス看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、課題研究				
学修上の注意	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの学習内容を活用する。 演習する施設の概要および診療内容を事前に調べて、演習計画に反映させる。 講義前に指定する課題を学習して講義に参加する。				
成績評価の方法					
評価方法	レポート(25%)、プレゼンテーション(25%)、演習態度(25%)、討議(25%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の健康問題を診断するためのフィジカルアセスメント、メンタルヘルスアセスメントの技法をフィールドワークおよび事例によるシミュレーション学習等により修得できたか。 2. 女性の健康問題の特殊性、検査、医学的診断、治療、薬物療法の実際が説明できるか。 3. 女性の健康問題を診断し、エビデンスに基づく看護プランが立案できるか。 4. 複雑で解決困難な健康問題を持つ女性への高度看護実践にむけて、エビデンスに基づいた看護ケアを立案、実践、評価できるか。 5. 女性医療や看護実践における倫理的問題の判断と倫理的調整力が習得できているか。 6. 女性の健康問題の解決にむけ、母性看護専門看護師として多職種間連携の役割を調整する力を学べているか。 7. 看護実践場面におけるケア提供者からの相談やケア向上のための教育的役割が考察できるか。 8. 多様なヘルスケアニーズをもつライフサイクル各期の集団に対して、理論に基づく健康教育を立案し、評価できるか。 9. 文献検討と討論により、女性の健康問題を予防・解決するための社会政策への参画の方法を提案・考察できるか。 10. 討議により、女性の各ライフサイクルにおける健康問題の予防・快復や、健康教育の開発・促進等に求められる母性看護専門看護師としての実践・倫理調整・相談・調整・教育・研究活動について、総括・考察できるか。 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
提出された課題・レポートをもとに科目責任者と面接する					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に指定しない					
参考文献					
随時指示する					

その他				
連絡先・オフィスアワー		質問・相談は科目責任者にメールにて行う。面接が必要な場合は、メールにてアポイントをとり、行う。 科目責任者：e.otsuki.up@		
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～2	大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	アセスメント技法と健康評価（シミュレーション学習） 女性のフィジカルアセスメント 女性のメンタルヘルスアセスメント	事例に基づくシミュレーション学習とリフレクション	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
3～7	菅原淳 大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	女性の健康問題の特殊性、検査、医学的診断、治療、薬物療法の実際（臨床講義、フィールドワーク） ・産後の排尿障害、更年期障害 ・月経関連のメンタル障害、育児不安、産後うつ、更年期うつ	フィールドワークの成果をプレゼンテーションし、ディスカッションする ・事例におけるフィジカルアセスメント ・事例におけるメンタルアセスメント ・事例における看護プランの立案・実施	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
8	大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	女性の各ライフステージの健康問題に対する介入方法と効果に関するエビデンス	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
9	大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	女性の健康問題に対する看護ケアを実践するための技術 相談・カウンセリング技法	シミュレーション学習、発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
10～15	大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	女性の健康問題に対する看護プランの実施と評価 ・高度実践 ・倫理的課題判断と倫理調整 ・コーディネーション	フィールドワークでの実践とその成果の発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
16	大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	女性の各ライフサイクルにおける健康教育と母性看護専門看護師の役割	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
17～21	大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	女性の各ライフサイクルにおける健康教育のプログラムの実際	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
22～28	大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	集団を対象とした女性の健康教育	女性の健康課題をテーマとした健康教育を立案し、実施、評価する	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
29	大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	女性の健康問題を予防・解決するための社会政策の起案	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
30	大月恵理子 青柳優子 森田亜希子 飯田真理子	母性看護専門看護師に求められる役割（実践、調整、倫理調整、相談・教育・研究）の総括	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習(小児看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Seminar-CNS in Child Health Nursing	対象学年	1年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	西田 みゆき	ナンバリング	
担当教員	西田みゆき※、東海林広道※、白幡峰子※、込山洋美※、菅原淳※、田中恭子※、川口千鶴※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な小児看護実践において子どもと家族を対象としたヘルスアセスメントの能力を修得する。 2. 小児看護専門看護師による高度看護実践の見学実習を通して、小児看護における課題および高度実践活動について探求する。 3. 小児医療における高度看護実践を担う小児看護専門看護師の役割を探求し、自己の課題とその洗練の方法について明確にする。 4. 小児看護領域における高度看護実践、介入方法の開発に向けて、乳幼児期および学童思春期の子どもの疾病や外傷の病態生理、診断、検査とその解釈法、診断、治療法について修得し、症状マネージメントの実践方法について学習する。 			
授業の位置づけ	高度な小児看護実践のために必要な技術を修得する。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作成したアセスメントガイドに基づいて、フィールド実習を展開し、乳幼児期、学童思春期各期の子どもと家族のヘルスアセスメントを実践できる。 2. 乳幼児期、学童思春期各期の子どもの観察とインタビューの方法を実践できる。 3. 乳幼児期、学童思春期各期の子どもの発達評価を実践できる。 4. 臨床講義および見学実習を通して小児看護専門看護師の課題を明確にできる。 5. 小児看護専門看護師の役割および自己の課題を明確にできる。 6. 系統的な小児疾病病態論の概要について説明できる。 7. 小児特有の疾病病態の検査とその解釈法、診断について説明できる。 8. 小児特有の疾病病態の治療、経過、管理について説明できる。 9. 小児領域で代表的な疾病病態の症状マネージメントの実践方法を説明できる。 10. 在宅療養に移行した子どもと家族に対する訪問看護の実践について説明できる。 			
先修要件	小児看護学特論Ⅰ～Ⅲ			
関連科目	小児看護学特論Ⅰ～Ⅴ 臨床薬理学 機能病態学特論 フィールドアセスメント特論 コンサルテーション論			
学修上の注意	別途配布する演習要項に即して、具体的な演習内容について指定された文献および検索した文献を基に事前学習し、必要な資料を作成し担当教員に提出する。実施した実習内容については指定された課題レポートを提出する。			
成績評価の方法				
評価方法	臨床講義や見学実習への参加状況30%、プレゼンテーション30%、レポート40%の配分により総合して評価する。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作成したアセスメントガイドに基づいて、フィールド実習を展開し、乳幼児期、学童思春期各期の子どもと家族のヘルスアセスメントを実践できる。 2. 乳幼児期、学童思春期各期の子どもの観察とインタビューの方法を実践できる。 3. 乳幼児期、学童思春期各期の子どもの発達評価を実践できる。 4. 臨床講義および見学実習を通して小児看護専門看護師の課題を明確にできる。 5. 小児看護専門看護師の役割および自己の課題を明確にできる。 6. 系統的な小児疾病病態論の概要について説明できる。 7. 小児特有の疾病病態の検査とその解釈法、診断について説明できる。 8. 小児特有の疾病病態の治療、経過、管理について説明できる。 9. 小児領域で代表的な疾病病態の症状マネージメントの実践方法を説明できる。 10. 在宅療養に移行した子どもと家族に対する訪問看護の実践について説明できる。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
演習レポート、カンファレンス、実技試験等でフィードバックを行なう。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
<ul style="list-style-type: none"> ・Hamric AB, Hanson CM, & Tracy MF. et al. 著, 中村美鈴, 江川幸二監訳. 高度実践看護-統合的アプローチ. 第2版. へるす出版. 2020. ・佐藤直子. 専門看護制度-理論と実践-. 医学書院. 1999. ・宇佐美しおり, 野末聖香. 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会. 2009. ・野末聖香編. リエゾン精神看護ケアとナース支援のために. 医歯薬出版. 2004. ・Tracy MF, & O'Grady ET, Hamric AB, Hanson CM, & Tracy MF. et al. Hamric and Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach. 6e. Saunders. 2018. 				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
その他				
連絡先・オフィスアワー		・ 随時（事前にメールで連絡のこと mnishida@）		
備考				
1～4	西田・込山	演習Ⅰ:高度看護実践活動 1. セミナーロム、フィールドにおける臨床講義と見学実習を通して、子どもと口家族のヘルスアセスメントの方法を修得する。 1) 子どもと口家族の観察とインタビュー (1) 観察とインタビュー方法論 (2) 乳幼児期の子どもと口家族 (3) 学童思春期の子どもと口家族 (4) 複雑な健康問題を抱える子どもと口家族	演習	予習：文献学習（120分） 復習：演習レポート、カンファレンスでの疑問、課題の確認（180分）
5～7	東海林	2) 子どもの発達評価と問題の見極め (1) 発達評価の種類と技法 (2) 乳幼児期:発達評価 (3) 学童思春期:発達評価 ※DENVERII, ABMS-C, ABMS-C Type T, 遠城寺など	演習	予習：文献学習（120分） 復習：演習レポート、カンファレンスでの疑問、課題の確認（180分）
8～12	西田・込山・白幡・菅原	2. 臨床講義および見学実習により小児看護における現状と課題、高度実践活動について検討する。 1) 高度医療における小児看護専門看護師の活動の実際 (1) 入院生活を送る子どもと口家族 (2) 入院生活を送り、複雑な問題を抱える子どもと口家族 (3) 在宅療養に移行する子どもと口家族 (4) 在宅療養に移行した子どもと口家族	見学演習	予習：文献学習（120分） 復習：演習レポート、カンファレンスでの疑問、課題の確認（180分）
13～15	西田・込山	2) 地域における小児看護専門看護師等の活動の実際 (1) 訪問看護ステーション (2) 療育施設（乳児院、児童養護施設など）	見学演習	予習：文献学習（120分） 復習：演習レポート、カンファレンスでの疑問、課題の確認（180分）
16～30	東海林	演習Ⅱ：小児疾病病態論 1. 小児各期の子どものフィジカルアセスメントについて学習する。 1) フィジカルアセスメントの見学実習 2) 臨床講義 3) シミュレーションと実技試験 2. 系統的な小児疾病病態論の概要について学習する。 1) 循環器疾患 2) 呼吸器疾患 3) 消化器・肛門疾患 4) 脳神経系疾患 5) 腎泌尿器疾患 6) 血液・腫瘍系疾患 7) 皮膚粘膜・感覚器疾患 8) 神経・筋疾患 9) 骨格系疾患・外傷 10) 感染症 3. 小児特有の疾病病態の検査とその解釈法、診断について学習する。 1) 感染症 2) 外科系疾患と外傷 4. 小児特有の疾病病態の治療、経過、管理について学習する。 1) 感染症 2) 外科系疾患と外傷 5. 小児領域で代表的な疾病病態の症状マネージメントの実践方法について学習する。 1) 入院生活を送り、複雑な疾病病態を抱える子ども 2) 在宅療養に移行し、複雑な疾病病態を抱える子ども	演習	予習：文献学習（120分） 復習：演習レポート、カンファレンスでの疑問、課題の確認（180分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習(在宅看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Seminar-CNS in Home Care Nursing	対象学年	1年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※、菱田一恵※、松浦志野※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>1. 医療依存度の高い事例を用いた演習をする。呼吸、栄養、排泄、コミュニケーション等の身体機能の低下によって、医療機器を使用しながら生活する事例を通して、疾病の受容と療養における意思決定の支援、医療機関から在宅への移行期の支援、在宅療養開始時の支援、継続期の支援等、療養者とその家族への支援方法について。</p> <p>2. 悪性新生物や難病、老衰、認知症あるいは様々な障害により在宅での終末期ケアを希望する事例を用いた演習をする。終末期を自宅で迎えるための本人と家族の意思決定、在宅での療養環境の準備、療養者と家族をサポートするマンパワーの確保と協働体制の確立、対象のQOLの追求、緩和ケアの実際、臨終期のケア、グリーフケアまでの各期的確かなニーズの把握と支援方法について。以上を文献検討やフィールドワークを通じて学ぶ。</p>				
授業の位置づけ	在宅看護専門分野の特論と並行しながら、自身の研究を計画する基礎となる取り組みを行い、課題研究につなげる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<p>1. 呼吸、栄養、排泄、コミュニケーション等の身体機能の低下によって、医療機器を使用しながら生活する事例を通して、</p> <p>1) 疾病の受容と療養における意思決定の支援方法</p> <p>2) 医療機関から在宅への移行期および在宅療養開始時の支援方法</p> <p>3) 継続期の支援方法</p> <p>4) 療養者とその家族への支援方法を理解する。</p> <p>2. 医療機器を使用しながら生活する事例を通して、在宅看護の現状と課題について協議し今後のあり方を考えることができる。</p> <p>3. 悪性新生物や難病、老衰、認知症あるいは様々な障害により在宅での終末期ケアを希望する事例を通して、</p> <p>1) 終末期前期における療養者・家族のニーズと看護実践</p> <p>2) 終末期中期における療養者・家族のニーズと看護実践</p> <p>3) 臨死期における療養者・家族のニーズと看護実践</p> <p>4) グリーフケアの実際を理解する</p> <p>4. 在宅での終末期ケアを希望する事例を通して、専門看護師に求められる在宅終末期看護とは何かを協議し今後のあり方を考えることができる。</p>				
先修要件	在宅看護CNS選択者のみ受講可				
関連科目	在宅看護学特論Ⅰ～Ⅴ				
学修上の注意	関連する書籍や論文等から基本知識や動向について学習し臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション(40%)、討議(30%)、レポート(30%)を総合して評価する。				
評価基準	<p>1. 呼吸、栄養、排泄、コミュニケーション等の身体機能の低下によって、医療機器を使用しながら生活する事例に対する在宅看護支援方法を説明できるか</p> <p>2. 医療機器を使用しながら生活する事例を通して、在宅看護の現状と課題について協議し今後のあり方を考察することができるか</p> <p>3. 悪性新生物や難病、老衰、認知症あるいは様々な障害により在宅での終末期ケアを希望する事例に対する在宅看護支援方法を説明できるか</p> <p>4. 在宅での終末期ケアを希望する事例を通して、専門看護師に求められる在宅終末期看護とは何かを協議し今後のあり方を考察することができるか</p>				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>提示された事例については、授業中にフィードバックならびに協議を行う。</p> <p>提出されたレポートについては、授業後添削をして返却する。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
適宜紹介する					
その他					
連絡先・オフィスアワー	連絡先：h.taneichi.uh@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1~3	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	1. 呼吸管理の必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ① 1) 疾病の受容と療養における意思決定支援 2) 療養者とその家族への支援方法 2. 呼吸管理の必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ② 3) 医療機関から在宅へ移行する療養者への支援方法 4) 継続期の支援方法 3. 呼吸管理の必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ③ 5) 現状と課題について協議し今後のあり方を考える	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
4	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	4. 在宅医療機器の仕組み、操作方法、管理方法を学ぶ 在宅中心静脈栄養法、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、PEG、褥瘡ケア、ストーマケアに使用する物品を用いて、操作方法、管理方法を学ぶ(帝人ファーマ㈱へ依頼)	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
5~7	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	5. 輸液管理の必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ① 1) 疾病の受容と療養における意思決定支援 2) 療養者とその家族への支援方法 2. 輸液管理の必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ② 3) 医療機関から在宅へ移行する療養者への支援方法 4) 継続期の支援方法 7. 輸液管理の必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ③ 5) 現状と課題について協議し今後のあり方を考える	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
8	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	8. 在宅医療における薬剤師の役割 地域における医薬品などの供給、医薬品の安全かつ確実な使用を確保するための適切な服薬支援、患者宅への医薬品・衛生材料等の供給、緩和ケアへの対応など薬局が担う役割について学修する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
9~11	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	9. 疼痛コントロールの必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ① 1) 疾病の受容と療養における意思決定支援 2) 療養者とその家族への支援方法 10. 疼痛コントロールの必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ② 3) 医療機関から在宅へ移行する療養者への支援方法 4) 継続期の支援方法 11. 疼痛コントロールの必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ③ 5) 現状と課題について協議し今後のあり方を考える	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
12~14	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	12. 高度の創傷ケアの必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ① 1) 疾病の受容と療養における意思決定支援 2) 療養者とその家族への支援方法 13. 高度の創傷ケアの必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ② 3) 医療機関から在宅へ移行する療養者への支援方法 4) 継続期の支援方法 14. 高度の創傷ケアの必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ③ 5) 現状と課題について協議し今後のあり方を考える	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
15	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	15. 医療機器を使用しながら生活する療養者・家族への在宅看護まとめ	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
16~18	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	16. 緩和ケアの必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ① 1) 終末期前期における療養者・家族のニーズと看護実践 2) 終末期中期における療養者・家族のニーズと看護実践 17. 緩和ケアの必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ② 3) 臨死期における療養者・家族のニーズと看護実践 4) 緩和ケア病棟におけるグリーフケアの実際を学ぶ 18. 緩和ケアの必要な事例を検討し看護過程の実際を学ぶ③ 5) 緩和ケア病棟にて学んだことを振り返り討論する	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
19~20	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	19. 在宅終末期看護における多職種との連携・協働、倫理的調整① 1) 医師等医療者との連携・協働 20. 在宅終末期看護における多職種との連携・協働、倫理的調整② 2) 医療職以外の者との連携・協働	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
21~23	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	21. 在宅終末期にある事例を検討し看護過程の実際を学ぶ① 1) 終末期前期における療養者・家族のニーズと看護実践 2) 終末期中期における療養者・家族のニーズと看護実践 22. 在宅終末期にある事例を検討し看護過程の実際を学ぶ② 3) 臨死期における療養者・家族のニーズと看護実践 23. 訪問看護ステーションにおけるグリーフケアの実際を学ぶ 23. 在宅終末期にある事例を検討し看護過程の実際を学ぶ③ 5) 訪問看護ステーションにて学んだことを振り返り討論する	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする

24~26	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	24. 看護小規模多機能型居宅介護施設の実際を学ぶ① 1) 終末期前期における療養者・家族のニーズと看護実践 2) 終末期中期における療養者・家族のニーズと看護実践 25. 看護小規模多機能型居宅介護施設の実際を学ぶ② 3) 臨死期における療養者・家族のニーズと看護実践 4) 施設におけるグリーフケアの実際を学ぶ 26. 看護小規模多機能型居宅介護施設の実際を学ぶ③ 5) 施設にて学んだことを振り返り討論する	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする
27~30	種市ひろみ、 菱田一恵、松 浦志野	27. 終末期難病患者・家族の在宅看護事例検討 28. 老衰により終末期にある高齢者・家族の在宅看護事例検討 29. 慢性疾患の終末期にある療養者・家族の在宅看護事例検討 30. 専門看護師に求められる在宅看護とは何か討論する	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とする

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習(精神看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Seminar-CNS in Psychiatric Mental Health Nursing	対象学年	1年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※、大島泰子※、阿部美香※、白井教子※、上野恭子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要				
全体内容	<p>【演習1：治療方法演習】 1年前期 2単位分 精神看護学特論Ⅲで学習した下記9種類の治療法を学生同士で実施し、基本的な技法を確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 面接技法 2) 支持的精神療法 3) 心理教育 4) アサーション 5) ストレスマネジメント 6) ポリヴェーガル理論 7) 認知行動療法 8) ヘルピングスキル 9) システムズアプローチ <p>【演習2：援助支援演習】 1年後期 2単位分 精神科入院患者を受け持ち、適切な援助関係を構築し、諸理論や知識に基づいた包括的なアセスメントする方法を学習する。そして、アセスメントに基づいた援助あるいはケースマネジメントについて立案する。</p>			
授業の位置づけ	<p>【演習1】精神看護学特論Ⅱ・Ⅲの関連内容を学習した後に実施する。精神看護CNSの治療的技法の基礎となる。 【演習2】演習1の後に実施する。精神看護学特論Ⅱ・Ⅳが理論的背景となる。 いずれも精神看護学実習Ⅰ～Ⅲでの学習に直結する。</p>			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>DP2-高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力</p>			
到達目標	<p>【演習1】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門看護師として卓越した看護実践ができるように必要な治療的技法の指導を受けながら学生間で実施できる。 2. 実施したことを内省し自分の課題を明らかにできる。 <p>【演習2】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者と援助関係を構築できる。 2. 患者の精神状態やセルフケアの状態を専門知識や理論を基盤として分析し理解できる。 3. 包括的アセスメントを基に患者のセルフケア能力の維持や向上、改善のための援助計画を立案できる。ケアの方向性、援助目標の設定、具体的な方法を明らかにできる。 			
先修要件	なし			
関連科目	精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学実習Ⅰ～Ⅲ			
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と協力者（修了生など）に連絡をとり、日時調整と計画を立案する。 ・演習内容の順番は問わない。 			
成績評価の方法				
評価方法	9種類の治療技法(演習項目)の実施60%、討議への貢献度20%、レポート20%。			
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各演習項目の実施内容と自己評価についてA4・2枚程度にまとめる。科学的かつ論理的記述であり、エビデンスについて言及されていることが望ましい。 2. 「精神看護学演習・実習要項」内の演習1評価シートの内容を参考にする。 			
試験・課題に対するフィードバック方法				
学生間や教員との討議でフィードバックする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
看護学生のための精神看護技術	水野恵理子, 上野恭子編著	サイオ出版	978-4-86749-014-3	
参考文献				
今まで紹介したテキスト				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問や相談等は随時メールで連絡する。 科目責任者 e.mizuno.iz@			
備考	なし			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1-5	水野恵理子、 大島泰子	【演習1 治療方法演習】 面接法Ⅰ	演習 対人関係プロセス想起法： IPR (Inter-Personal Relationship) の実施、録画と振り返り	予習：面接法の一般的技法を確認しておく。 復習：レポートに実施内容と気づき、課題を記載する。 (各学習時間90分)
6-9	上野恭子	支持的精神療法	演習	予習：支持的精神療法の基本技法を確認しておく。 復習：レポートに実施内容と気づき、課題を記載する。 (各学習時間90分)
10-12	大島泰子	アサーショントレーニング	演習	予習：アサーションの基本技法を確認しておく。 復習：レポートに実施内容と気づき、課題を記載する。 (各学習時間90分)
13-15	水野恵理子	心理教育：服薬心理教育グループ、精神科外来サポートグループほか	演習	予習：心理教育について復習しておく。 復習：レポートに実施内容と気づき、課題を記載する。 (各学習時間90分)
16-18	水野恵理子	コミュニケーション技法	演習	予習：コミュニケーションについて確認しておく。 復習：レポートに実施内容と気づき、課題を記載する。 (各学習時間90分)
19-20	白井教子	看護師のストレスマネジメント、リラクゼーション法（呼吸法、漸進的筋弛緩法等）、CNSが用いる介入技法	演習	予習：各種リラクゼーション法について復習しておく。 復習：レポートに実施内容と気づき、課題を記載する。 (各学習時間90分)
21-23	阿部美香	ポリヴェーガル理論	演習	予習：ポリヴェーガル理論について確認しておく。 復習：レポートに実施内容と気づき、課題を記載する。 (各学習時間90分)
24-26	水野恵理子 (重田ちさと)	認知行動療法	演習	予習：認知行動療法について確認しておく。 復習：レポートに実施内容と気づき、課題を記載する。 (各学習時間90分)
27-30	大島泰子、水野恵理子	面接法Ⅱ ヘルピングスキル：個人システム、システムズアプローチ、家族・集団	演習 対人関係プロセス想起法： IPR (Inter-Personal Relationship) の実施、録画と振り返り	予習：ヘルピングスキルの3段階の理論と技術について確認しておく。 復習：レポートに実施内容と気づき、課題を記載する。 (各学習時間90分)
4～5週間（1～2月）	水野恵理子、 大島泰子	【演習2：援助支援演習】 (1) 受け持ち患者との関係性を構築しながら、患者の全体像を把握するために情報収集し、疾患の特徴、自我機能、精神状態について包括的アセスメントを行う。 (2) 受け持ち患者の状態に適したケアの方向性を定め、Orem-Underwoodのセルフケア理論を用いて援助計画を立案する。 (3) 可能な範囲でCNSの指示のもとで実践する。 詳細は「精神看護学演習・実習要項」を確認すること。	1年次後期、1～2日/週の4～5週間。順天堂越谷病院で実施予定。 【演習1】の9項目の演習の終了後に行う。	予習：精神看護学特論Ⅱ・Ⅳを復習しておく。 復習：日々の記録とカンファレンスでの討議と振り返り、演習内容・気づき・課題をレポートにまとめる。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習(がん看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Seminar-CNS in Cancer Nursing	対象学年	1年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※、宮津珠恵※、田中優子※、祖父江由紀子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>演習Ⅰでは、がん薬物療法看護における様々な臨床上の問題について、エビデンスに基づいた看護が実践できるよう、文献を活用し看護実践を探究する力を養う。また、がん薬物療法を受ける患者に対する効果的な看護介入方法および高度な看護技術を修得する。</p> <p>演習Ⅱでは、緩和ケアを受けるがん患者に対する様々な臨床上の問題について、エビデンスに基づいた看護が実践できるよう、文献を活用し看護実践を探究する力を養う。また、緩和ケアを受ける終末期がん患者に対する効果的な看護介入方法および高度な看護技術を修得する。</p>				
授業の位置づけ	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴと並行しながら、高度な看護実践を行う上での看護介入方法や看護技術を修得する。がん看護学実習Ⅰ～Ⅲの基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<p>演習Ⅰ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がん薬物療法看護における最新の知見や課題について説明できる。 2. がん薬物療法を受けるがん患者の抱える問題について、文献をクリティークできる。 3. 文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について検討できる。 4. がん薬物療法を受ける患者に対する患者教育を計画・実施・評価できる。 <p>演習Ⅱ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアにおける最新の知見や課題について説明できる。 2. 緩和ケアを受けるがん患者の抱える問題について、文献をクリティークできる。 3. 文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について検討できる。 4. がん患者の抱える症状を緩和するための看護技術を実践できる。 5. がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する相談技術について、分析・評価できる。 6. がんサバイバーに対する支援に関する看護の役割と展望について検討できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴ、がん看護学実習Ⅰ～Ⅲ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に対して文献および研究論文による学修を行って授業に臨む。 ・発表を行う回は、授業内容あるいは別途提示される課題について資料を作成する。 ・不明な点は積極的に教員に相談すること。 ・授業終了後は、学修内容のがん看護実践への適用について検討する。 				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション(30%)、討議内容(30%)、レポート(40%)を総合して評価する。				
評価基準	<p>演習Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん薬物療法看護における最新の知見や課題について説明できるか ・がん薬物療法を受けるがん患者の抱える問題について文献をクリティークし、その結果を説明できるか ・文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について説明できるか ・がん薬物療法を受ける患者に対する患者教育を計画・実施・評価した内容を説明できるか <p>演習Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアにおける最新の知見や課題について説明できるか ・緩和ケアを受けるがん患者の抱える問題について文献をクリティークし、その結果を説明できるか ・文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について説明できるか ・がん患者の抱える症状を緩和するための看護技術の実践を説明できるか ・がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する相談技術について分析・評価した内容を説明できるか ・がんサバイバーに対する支援に関する看護の役割と展望について説明できるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーション内容は発表時間内でフィードバックする。 レポートは、コメントをつけて返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
適宜紹介する。					

その他				
連絡先・オフィスアワー		随時（事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@）		
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高山 京子	演習Ⅰ がん薬物療法看護における最新の知見や課題	講義、討議	予習：がん薬物療法の最新の動向を調べておく（2時間） 復習：討議内容を振り返り理解を深める（2時間）
2～3	高山 京子	がん薬物療法を受けるがん患者に対するEBPとクリティークの方法 ・文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか討議する。	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：資料の修正、まとめ（2時間）
4～6	高山 京子 宮津 珠恵	がん薬物療法を受ける患者に対する看護介入（症状管理・援助技術）の探究 ・がん薬物療法のうち、内分泌療法または分子標的薬による治療を受けている患者が抱えている問題を解決するための看護介入について、文献を整理し、発表・討議を行う。	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：資料の修正、まとめ（2時間）
7～9	高山 京子 宮津 珠恵	がん薬物療法を受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 ・各自の体験事例を用いて検討する	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：資料の修正、まとめ（2時間）
10	祖父江 由紀子	がん看護専門看護師の役割（1） ・がん薬物療法をサブスペシャリティにしているがん看護CNSの活動の実際	講義、討議	予習：がん薬物療法に関わるCNSの活動を調べておく（2時間） 復習：討議内容を振り返り理解を深める（2時間）
11～15	高山 京子 宮津 珠恵	がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力向上のための患者教育 ・がん医療施設において、がん薬物療法を受ける患者を受け持ち、学習ニーズをアセスメントし、学習計画を立案、患者教育を行い、評価する。	臨地実習、発表、討議	予習：実習計画の立案、発表資料の作成（2時間） 復習：実践した内容についてレポートを作成する（2時間）
16	高山 京子	演習Ⅱ 緩和ケアにおける最新の知見や課題	講義、討議	予習：緩和ケアの最新の動向を調べておく（2時間） 復習：討議内容を振り返り理解を深める（2時間）
17～18	高山 京子	緩和ケアを受けるがん患者に対するEBPとクリティークの方法 ・文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか討議する。	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：資料の修正、まとめ（2時間）
19～21	宮津 珠恵 高山 京子	緩和ケアを受けている終末期がん患者に対する看護介入（症状管理・援助技術）の探究 ・がん性疼痛など終末期がん患者が抱える苦痛を軽減するための看護介入について、文献を整理し、発表・討議を行う。	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：資料の修正、まとめ（2時間）
22～24	田中 優子 宮津 珠恵 高山 京子	緩和ケアを受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 ・各自の体験事例を用いて検討する	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：資料の修正、まとめ（2時間）
25	田中 優子	がん看護専門看護師の役割（2） 緩和ケアをサブスペシャリティにしているがん看護CNSの活動の実際	講義、討議	予習：緩和ケアに関わるCNSの活動を調べておく（2時間） 復習：討議内容を振り返り理解を深める（2時間）
26～28	宮津 珠恵	症状緩和のための看護介入：リラクゼーション、ポジショニング、複合的理学療法	学内演習	予習：事前課題の資料作成（2時間） 復習：資料の修正、まとめ（2時間）
29	祖父江 由紀子	がん医療施設において、がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する看護相談の実際の場面を見学し、相談技術について、分析・評価する。	見学実習	予習：相談技術の基本事項を確認しておく（2時間） 復習：見学した相談技術を分析・評価してレポートを作成する（2時間）
30	宮津 珠恵	乳がんサバイバーのサポートグループに参加し、がんサバイバーに対する支援に関する看護の役割と今後の展望について検討する。	臨地実習	予習：サポートグループの基本事項を確認しておく（2時間） 復習：がんサバイバー支援における看護の役割についてレポートを作成する（2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習(感染看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Seminar-CNS in Infection Control Nursing	対象学年	1年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	川上 和美	ナンバリング	
担当教員	川上 和美※、堀 賢※、岩淵 和久※、中山 仁志※、横山 久美※、王 迪※、多田 達哉※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要	
全体内容	<p>本科目は、感染看護学演習Ⅰと感染看護学演習Ⅱで構成される。それぞれの概要は以下のとおりである。</p> <p>【感染看護学演習Ⅰ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染制御のための基礎的知識として必要となる病原微生物の特徴を演習・実験を通し学び、感染看護と公衆衛生に必要な知識・技術を修得する。 2. 医療関連感染サーベイランスの計画立案、データ収集、感染症例の判定、データ分析、感染制御への結果の活用方法について、一連のプロセスを修得する。 <p>【感染看護学演習Ⅱ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 座学で学んだ感染制御についての知識を生かし、アウトブレイクが発生した場合の適切な初期対応と効果的な対策の立案、および再発予防策の作成と運用の管理方法などを学び、実践的なシミュレーショントレーニングを通して、感染症看護専門看護師としての問題解決能力を修得する。 4. 事例、文献を用いた検討により、臨地実習に対応できるための基礎的知識の充実と感染看護の高度実践力、マネジメント能力を修得する。 5. 洗浄・消毒・滅菌の工程と検証方法を学修する。
授業の位置づけ	感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの学修内容を活用しながら、医療機関、地域、在宅、福祉施設等のあらゆる場における感染症の課題と解決のためのエビデンスを探求し、課題研究(感染看護CNS)における研究課題の明確化、感染看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける感染看護の実践力を向上させるための科目と位置付ける。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染制御のための基礎的知識として必要となる病原微生物の特徴が説明できる。 2. 普通寒天培地の作成ができる。 3. 嫌気性病原細菌の培養検査について説明できる。 4. 医療関連感染サーベイランスを計画立案し、感染症例の判定と感染率・医療器具使用比の算出、統計学的分析と結果の解釈、結果の活用方法について説明できる。 5. アウトブレイクが発生した場合の適切な初期対応と効果的な対策の立案ができる。 6. 感染看護学分野における国内外の論文をレビューし、科学的根拠に基づく感染看護の実践、課題研究に活用できる。 7. 研究計画、研究成果の効果的なプレゼンテーション方法を説明できる。 8. 感染症看護専門看護師に求められる6つの役割(実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究)に基づき、高度看護実践に向けた事例のアセスメント、実践・介入計画、評価について検討できる。 9. 臨地実習に向けて、感染看護学実習プログラムを立案することができる。 10. 洗浄・消毒・滅菌の工程と検証方法について検討することができる。
先修要件	なし
関連科目	感染看護学特論Ⅰ、感染看護学特論Ⅱ、感染看護学特論Ⅲ、感染看護学特論Ⅳ、感染看護学特論Ⅴ、感染看護学実習Ⅰ、感染看護学実習Ⅱ、感染看護学実習Ⅲ、課題研究(感染看護CNS)、看護学研究方法論、応用統計学
学修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習テーマについて、感染制御看護学分野における国内外の論文を検索・抽出し、内容を理解して授業に臨む。 2. 演習で検討した事項について、科学的根拠に基づいた国内外の論文を活用して分析・考察を深め研究計画書および論文作成に活用する。 3. 臨地実習に向けて、医療関連感染サーベイランス計画書を作成する。
成績評価の方法	
評価方法	到達目標の修得状況について、発表(30%)、討議など授業への主体的参加(30%)、課題レポート(40%)などによって総合的に評価する。
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染制御・感染看護において必要な病原微生物の特徴、感染免疫の仕組み、検査法、結果の解釈を説明することができるか。 2. 医療関連感染サーベイランスの目的と方法、結果の解釈と臨床現場での実践プロセスを説明することができるか。 3. アウトブレイク発生時の対応について説明することができるか。 4. 感染対策の課題の明確化により改善策を立案し、発表することができるか。 5. 感染看護学分野における国内外の論文を検索し、論文の概要を読み取り、発表することができるか。 6. 感染症看護専門看護師に求められる6つの役割(実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究)について説明することができるか。 7. 洗浄・消毒・滅菌の一連の工程と臨床現場における留意点を説明することができるか。
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業前に提示した予習課題は、当該授業内において討議あるいは発表を行い、教員がコメントする。	

テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし				
参考文献				
適宜、授業内で資料として配布、紹介する。 参考文献 1. 堀 賢 (2015) . 感染対策実践マニュアル 考え方や運営のポイント 第3版. じほう 2. 操 華子, 川上和美 編集 (2022) . 看護学テキストNiCE 感染看護学. 南江堂 3. 大曲貴夫, 操 華子 編集 (2015) . 感染管理・感染症看護テキスト. 照林社 4. 藤田烈 編 (2015) . リスクアセスメント・データ分析・フィードバックもバッチリ! 感染対策のためのサーベイランスまるごとサポートブック、INFECTION CONTROL 2015年春季増刊. メディカ出版				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問・相談等は随時、科目責任者または演習担当者のメールで受け付ける。 科目責任者：川上 kzkawaka@ 演習担当者：中山 nhitoshi@、横山 kmyokoya@			
備考	なし			
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～10	横山 久美 多田 達哉 中山 仁志	【感染看護学演習Ⅰ】(2単位) ・感染予防・制御を検証するための方法や微生物の取扱いについての 実験および、医療関連感染サーベイランス・プログラムの立案と実践 の手法について演習を行う。 1. 病原微生物学演習 1) 病原微生物取り扱いの基本手技 (1) 器具の滅菌と培地作成、無菌操作法 2) 常在菌の検出 (1) 鼻腔・口腔常在菌の培養検査 (2) 鼻腔・口腔常在菌の分離・同定 3) 環境調査 (1) 環境中(土壌)から採取した検体の培養検査 (2) 環境中(土壌)に存在する微生物の分離・同定 4) 手指衛生の検証 5) 洗浄・消毒・滅菌(病院施設内における実際)	演習	予習：感染看護学特論Ⅰの講義資料を読み、学修内容を振り返る。微生物学のテキストを読む。(学習時間：90分) 復習：授業内で提示された課題レポートをまとめ、提出する。(学習時間：2時間)
11～14	中山 仁志 岩淵 和久	2. 感染免疫学演習 1) 細胞培養法 2) 免疫応答実験法	演習	予習：感染看護学特論Ⅰの講義資料を読み、学修内容を振り返る。免疫学のテキストを読む。(学習時間：90分) 復習：授業内で提示された課題レポートをまとめ、提出する。(学習時間：2時間)
15	川上 和美 横山 久美	3. 医療廃棄施設見学 見学施設：J&T環境株式会社 東京臨海エコクリーン(東京都江東区)	見学	予習：感染看護学特論Ⅱの講義資料を読み、学修内容を振り返る。(学習時間：90分) 復習：施設見学後の課題レポートをまとめ、提出する。(学習時間：90分)
16～30	川上 和美 王 迪	4. 医療関連感染サーベイランス演習 1) 医療関連感染サーベイランス・プログラムの立案 (1) サーベイランス実施に向けた施設のアセスメント、サーベイランス計画書作成 (2) 医療関連感染サーベイランスデータの分析方法(感染率算出、統計学的分析) (3) データのベンチマーキング、フィードバックの方法 2) 医療関連感染サーベイランスの方法 (1) 医療関連感染サーベイランスの概要 (2) 医療器具関連感染サーベイランス ① 血管内留置カテーテル関連血流感染(CRBSI)サーベイランス ② 尿道留置カテーテル関連感染(CAUTI)サーベイランス ③ 人工呼吸器関連肺炎(VAP)サーベイランス (3) 手術部位感染(SSI)サーベイランス (4) 薬剤耐性菌サーベイランス (5) プロセスサーベイランス (6) 血液媒介病原体サーベイランス	講義 演習	予習：事前に配布する資料、参考文献の関連ページを読む。(学習時間：90分) 復習：毎回の授業内で提示する課題に取り組む。(学習時間：90分) 課題：感染看護学実習Ⅰ(感染対策室実習)に向けて、実習で実践する医療関連感染サーベイランス計画書を作成する。(学習時間：計画書作成に必要な時間)

31~40	堀 賢	<p>【感染看護学演習Ⅱ】（2単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトブレイク事例を題材に、感染制御のシミュレーション演習を行う。 ・感染看護学分野における国内外の論文をレビューし、科学的根拠に基づく感染看護の実践、課題研究に活用するための演習を行う。 <p>1. アウトブレイク事例演習</p> <p>実際に発生したアウトブレイク事例を題材に、インфекションコントロールチームの一員としてどのように対処するか、シミュレーションを行う。</p> <p>1回目：細菌の薬剤耐性獲得機序と耐性メカニズム 2回目：感染対策のランドデザイン 3回目：病院施設（調理場、廃棄処理）の感染上の課題 4回目：アウトブレイク対応の実際① Part1もしものときにやるべきこと 5回目：アウトブレイク対応の実際② Part2普段からやっておくこと 6回目：CREを減らしたAntimicrobialStewardship① 7回目：CREを減らしたAntimicrobialStewardship② 8回目：所属組織の感染対策の現状分析と問題抽出 9回目：所属組織の感染対策の改善策立案 10回目：課題提出と課題の評価</p>	演習 発表 討議	<p>予習：参考文献を活用し、各回のテーマに関連する内容を予習する。（学習時間：90分）</p> <p>復習：毎回の授業内で提示する課題に取り組む。（学習時間：90分）</p> <p>課題：所属組織の感染対策の現状分析と問題抽出・改善策立案に関する発表準備を行う。（学習時間：2時間）</p>
41~55	中山 仁志 川上 和美 横山 久美 王 迪	<p>2. 科学的根拠に基づく感染看護の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場からの問題点を抽出し、感染看護学分野における国内外の論文を活用して、分析・考察を深め、科学的根拠に基づく感染防止活動計画・感染看護学実習プログラムを立案する。 ・自身の課題研究のテーマに関連する既存の知識体系を整理し、研究疑問、研究方法を明確にする。 <p>1) 国内外の論文紹介・クリティーク</p> <p>2) 事例検討（感染症罹患者と家族に対する支援と評価、感染症罹患者の治療継続のためのシステム検討と評価、感染防止活動計画の立案、感染看護学実習プログラムの検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門看護師の6つの役割（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）のうち、実践、相談、調整、倫理調整について事例検討を行い、発表する。 ・事例をまとめるにあたり、授業内容や日本看護協会専門看護師（CNS）認定審査「認定の手引き」に提示されている参考図書を活用する。 ・発表後、参加者でディスカッションを行い、情報整理・アセスメント、実践・介入方法、評価の視点を洗練する。 <p>3) 感染看護における教育プログラムの立案と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染看護学実習Ⅰ・Ⅲで計画する医療従事者等を対象とする教育について、指導案を作成しロールプレイを行う。 ・効果的な教育実践と評価について、討議を通して振り返る。 	演習 発表 討議	<p>予習：発表者は、論文紹介、事例検討などの発表準備を行う。参加者は、発表者より事前に配布された資料・文献を読む。（学習時間：2時間）</p> <p>復習：配布された資料を活用し、各回の演習での学修内容を整理する。（学習時間：90分）</p>
56~60	横山 久美	<p>3. 洗浄・消毒・滅菌の工程演習</p> <p>1) 洗浄・滅菌Ⅰ（基礎）コース受講（サクラ精機株式会社2泊3日研修参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗浄装置や滅菌装置を稼動して行う実習を組み合わせる。 ・洗浄では、超音波とウォッシャーディスインフェクターの洗浄方法の違いや洗浄インジケータを用いた洗浄装置の機能確認方法など、洗浄の原理・目的、特性、装置構造などについて学ぶ。 ・滅菌では、研修用の窓付蒸気滅菌装置内に収容された滅菌物の動態変化、ケミカルインジケータの変色状態変化、滅菌工程で発生した凝縮水の乾燥の様子など、蒸気滅菌の原理、特性、装置構造について学ぶ。 <p>2) 洗浄・消毒・滅菌の工程と検証方法について検討を加え、臨床における応用無菌法について検討する。</p>	実習 見学	<p>予習：感染看護学特論Ⅱの講義資料を読み、学修内容を振り返る。（学習時間：90分）</p> <p>復習：研修参加後の課題レポートをまとめ、提出する。（学習時間：90分）</p>

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習(高齢者看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Seminar-CNS in Gerontological Nursing	対象学年	1年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	
担当教員	湯浅美千代※、島田広美※、杉山智子※、河西恵美※、八木範子※、佐野裕子※、横山悦子※、榎本佳子※、佐藤典子※、梁 広石※、桑田美代子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要	
全体内容	<p>平均寿命を超え、長期療養する虚弱な高齢者に対し、急性期治療を行う病院から長期に療養する福祉施設、在宅までを見据えて、キュアとケアに関わる支援技術を修得する。</p> <p>パートⅠ(疾病・治療支援技術：第1～30回)とパートⅡ(看護支援技術：第31～60回)で構成する。</p> <p>パートⅠ：老年期に発生頻度の高い疾患・症候群について、病態および検査を含む診断および治療法について理解を深め、症状を呈する高齢者や検査・治療の場における高齢者看護について探求する。</p> <p>パートⅡ：エキスパートが高齢者(特に虚弱な高齢者)に提供する高度な援助技術を学ぶ。また、援助技術を実際の高齢者に適用する上での目標設定、観察・配慮点、倫理的判断を検討する。さらに、技術が実践の場に普及、定着するための企画・運営・管理方法、スタッフへの教育、コンサルテーション方法を学ぶ。</p> <p><学習方法> 講義とディスカッション、DVD視聴、文献検討、病院、診療所等での診療・看護技術についてヒヤリングや見学を行う。一部集中講義を行う。</p>
授業の位置づけ	高齢者に対するキュアとケアに関する支援技術を修得し、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱの基礎とする。パートⅠは専門看護師「老年看護専攻教育課程」審査基準における専攻分野共通科目の「老年期の疾患と検査、治療に関する科目」2単位、パートⅡは「高齢者と家族への看護実践に関する科目」2単位に相当する。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力
到達目標	<p>パートⅠ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の主要な疾患・治療に対し、必要な看護および急変時の判断について説明できる。 2. 高齢者の症状に対し、個別性に応じた看護を提供するためのアセスメントが説明できる。 3. 治療環境にいる高齢者に対し、それまでの生活と今後を見据えて提供すべき看護を判断できる。 4. 治療環境にいる高齢者について、リスク管理と権利擁護を両立するための方策を提案できる。 5. 高齢者の診断・治療時の看護について自己の実践能力を評価し、課題を述べることができる。 <p>パートⅡ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活援助技術を習得し、高齢者と家族の個別的な状況に応じて必要な援助を提供できる。 2. 終末期ケア・施設ケア・在宅ケアで適用される看護を理解し、高齢者と家族の個別的な状況に応じて必要な援助を判断できる。 3. 技術が実践の場に普及、定着するためのさまざまな方法を説明でき、施設の状況に合った方法を提案できる。 4. 高齢者に提供する自己の看護技術を評価し、課題を述べることができる。
先修要件	高齢者看護CNS選択者のみ受講可
関連科目	高齢者看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、高齢者看護学実習Ⅰ(認知症看護)、高齢者看護学実習Ⅱ(急性期看護)
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・CNSとしての実践力をつける科目であるため、主体的・積極的な参加を期待する。 ・一部、集中講義、臨床での学習、エキスパートによる講義・見学を行う。 ・臨床で学習するテーマについては予習・事前課題を行い、知識と疑問点を整理して臨む。 ・臨地での講義・見学後は、学習した内容を整理し、プレゼンテーション資料、またはレポートを作成する。 ・指示された課題についてプレゼンテーション資料を作成する。 ・授業内で提示されたテーマについてレポートを作成する。 ・プレゼンテーション資料やレポートを作成する際、不明な点は予め相談すること。
成績評価の方法	
評価方法	文献または臨地での経験に基づくプレゼンテーション・討議(50%)、レポート作成(50%)
評価基準	<p>パートⅠ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の主要な疾患・治療に対し、必要な看護および急変時の判断について説明できる。 2. 高齢者の症状に対し、個別性に応じた看護を提供するためのアセスメントが説明できる。 3. 治療環境にいる高齢者に対し、それまでの生活と今後を見据えて提供すべき看護を判断できる。 4. 治療環境にいる高齢者について、リスク管理と権利擁護を両立するための方策を提案できる。 5. 高齢者の診断・治療時の看護について自己の実践能力を評価し、課題を述べることができる。 <p>パートⅡ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活援助技術を習得し、高齢者と家族の個別的な状況に応じて必要な援助を提供できる。 2. 終末期ケア・施設ケア・在宅ケアで適用される看護を理解し、高齢者と家族の個別的な状況に応じて必要な援助を判断できる。 3. 技術が実践の場に普及、定着するためのさまざまな方法を説明でき、施設の状況に合った方法を提案できる。 4. 高齢者に提供する自己の看護技術を評価し、課題を述べることができる。

試験・課題に対するフィードバック方法				
プレゼンテーション資料およびレポートについて授業内または授業後にコメントする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは用いない				
参考文献				
以下は主なもの。その他、授業の際に適宜紹介する。 ・古賀雄二、深谷智恵子編：日常性の再構築をはかるクリティカルケア看護-基礎から臨床応用まで、中央法規出版、2019 ・桑田美代子、湯浅美千代編：高齢者のエンドオブライフ・ケア実践ガイドブック第1巻 死を見据えた日常生活のケア、中央法規出版、2016 ・桑田美代子、湯浅美千代編：高齢者のエンドオブライフ・ケア実践ガイドブック第2巻 死を見据えたケア管理技術、中央法規出版、2016				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問・相談等は随時メールで連絡してください。 科目責任者 myuasa@			
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	湯浅美千代	高齢者の循環動態の特徴・恒常性の特徴をふまえた臨床判断	講義	予習・復習各60分
2	湯浅美千代	高齢者に行われる侵襲のある検査時の援助	講義	予習・復習各60分
3	島田広美	高齢者の外傷時の身体兆候：骨折、急性硬膜下血腫	講義	予習・復習各60分
4	島田広美	周手術期における高齢者の呼吸・循環動態の変動と管理	講義	予習・復習各60分
5	島田広美	高齢者に多くみられ、緊急処置を必要とする全身疾患の病態と身体兆候：脱水、下血・吐血、意識障害	講義	予習・復習各60分
6	湯浅美千代	高齢者に多くみられる慢性的な呼吸器・循環器疾患の病態と身体兆候：COPD、心不全	講義	予習・復習各60分
7	杉山智子	高齢者の薬物への反応の特徴、高齢者に用いられる頻度の高い薬物の使用と留意点	講義	予習・復習各60分
8	杉山智子	高齢者への薬物療法に関する留意点（薬物の選択、投与方法の工夫、セルフケア支援）	講義	予習・復習各60分
9	湯浅美千代	高齢者の治療・療養時の栄養管理	講義	予習・復習各60分
10	島田広美	リハビリテーションを行う高齢者への看護（リスクマネジメントを含む）	講義	予習・復習各60分
11~12	河西恵美	高齢者に多くみられる慢性疾患の病態とセルフケア支援（食事療法における留意点を含む） ①糖尿病 ②事例検討	講義、発表、討議	各回予習90分：発表資料の作成 各回復習60分：発表時のコメントをもとに、発表資料を追加・修正する。
13	榎本佳子	高齢者の感染症の治療と感染管理（インフルエンザ、疥癬、ノロウイルス感染等）	講義	予習・復習各60分
14	榎本佳子	医療・介護関連肺炎の治療と管理、尿路感染症の治療と管理	講義	予習・復習各60分
15~16	杉山智子	腹膜透析（自己管理方法を含む）・血液透析（シャント造設を含む）を行う高齢患者への看護、導入期の教育の実際	事例検討、臨地での認定看護師による説明・ケアの見学	各回予習・復習90分
17~19	梁 広石	高齢患者に対する臨床判断の実際 ①問診、②検査、③画像診断	臨床講義（外来診療の臨地見学を含む）	各回予習・復習90分
20	佐藤典子	外来での高齢患者に対する看護の実際	臨床講義（臨地見学を含む）	予習・復習各90分
21~22	湯浅美千代	高齢患者に対する摂食・嚥下訓練の実際	事例検討、臨床講義（臨地での認定看護師による説明、見学を含む）	各回予習・復習各90分
23~24	八木範子	認知機能障害をもつ高齢患者の治療時の援助の実際	事例検討、臨床講義（臨地での認定看護師による説明・見学を含む）	予習・復習各90分
25	梁 広石	臨死期の兆候、心臓死の判断	臨床講義	予習・復習各90分

26	佐藤典子	終末期にある高齢患者の緩和ケアと看取りの実際	臨床講義	予習・復習各90分
27~29	湯浅美千代	自宅で療養する高齢者への訪問診療の実際	事例検討、臨地見学・ヒヤリングの発表・討議	各回予習・復習各90分
30	湯浅美千代	高齢者の診断・治療に関わる看護の課題	講義	予習・復習各60分
31	湯浅美千代	看護師が高齢者に提供する日常生活援助の意義と留意点①自立・自律の視点	講義	予習・復習各60分
32	湯浅美千代	看護師が高齢者に提供する日常生活の意義と留意点②エンド・オブ・ライフケアの視点	講義	予習・復習各60分
33~34		虚弱な高齢者へのヘルスプロモーション ①介護予防の実際、②疾病管理の実際	講義	各回予習・復習各60分
35~36	湯浅美千代	摂食・嚥下障害のある高齢者への食事介助技術と個性をふまえた適用・開発方法①②	講義、ケア技術演習	各回予習・復習各60分
37~38	湯浅美千代	虚弱な高齢者への清潔ケア、更衣・整容ケアと個性をふまえた適用・開発方法①②	講義、ケア技術演習	各回予習・復習各60分
39~40	佐野裕子	虚弱な高齢者の移動・移乗に関わる介助技術と個性をふまえた適用・開発方法①②	講義、ケア技術演習	各回予習・復習各60分
41~42	湯浅美千代	虚弱な高齢者への排泄ケア技術と個性をふまえた適用・開発方法①②	講義、ケア技術演習、臨床講義（認定看護師による説明、ケア見学を含む）	各回予習・復習各90分
43~44	湯浅美千代	虚弱な高齢者への褥瘡の予防ケアと治療に向けた局所・全身へのアプローチの実際①②	講義、ケア技術演習、臨床講義（認定看護師による説明、ケアの見学を含む）	各回予習・復習各90分
45~46	島田広美	特別養護老人ホームでの高齢者ケアの現状と看護の専門性の発揮①②	講義、事例検討、臨地見学	予習・復習各90分
47~48	島田広美	介護老人保健施設での高齢者ケアの現状と看護の専門性の発揮①②	講義、事例検討、臨地見学	各回予習・復習各90分
49~50	杉山智子	特定施設（有料老人ホーム等）での高齢者ケアの現状と看護の専門性の発揮①②	講義、事例検討、臨地見学	各回予習・復習各90分
51	湯浅美千代	訪問看護での疾病管理、アセスメント方法、多職種連携の実際	講義、事例検討	予習・復習各60分
52	湯浅美千代	さまざまな限界の中で取り組む訪問看護における高齢者と家族への支援の実際	講義、事例検討	予習・復習各60分
53~54	湯浅美千代	在宅での看取りケアの実際 ①事例検討 ②チームアプローチ、スタッフ教育	講義、発表、討議	各回予習・復習各90分
55~56	佐藤典子	高齢者ケア技術の開発と技術を現場に普及・定着させる方法 ①企画・運営・管理の実際 ②スタッフ教育、コンサルテーションの実際（看護スタッフ）	講義、討議	各回予習・復習各60分
57~58	桑田美代子	高齢者ケア技術の開発と技術を現場に普及・定着させる方法 ③スタッフ教育、コンサルテーションの実際（介護スタッフを含む） ④多職種連携の実際	講義、討議	各回予習・復習各60分
59	湯浅美千代	高齢者看護技術の開発課題	講義、討議	復習180分：課題レポート作成
60	湯浅美千代	高齢者の家族に関する看護の開発課題	講義、討議	復習180分：課題レポート作成

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	演習（急性・重症患者看護CNS）	必修・選択	選択
英語科目名	Seminar-CNS in Critical Care Nursing	対象学年	1年
開講学期	通年	単位数	4単位
代表教員	佐藤 まゆみ	ナンバリング	
担当教員	佐藤まゆみ※ 池田恵※ 田中朋子※ 新山和也※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	1. クリティカルな状況にある患者や家族が体験する全人的な苦痛を緩和・軽減し、生命力を引き出すための看護実践方法について理解する。 2. クリティカルケアの臨床で生じやすい倫理的課題を解決するための看護実践方法について理解する。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられる。急性・重症患者看護CNSコースにおいては、「クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅴ」とともに「クリティカルケア看護学実習」の基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1-1. クリティカルな状況にある患者と家族の全人的苦痛及び苦痛緩和・症状マネジメントの方法を説明できる。 1-2. クリティカルな状況にある患者と家族の安楽のためのケア方法を説明できる。 1-3. クリティカルな状況にある患者と家族の苦痛を緩和し生命力を引き出すための日常生活援助方法を説明できる。 1-4. クリティカルな状況にある患者と家族の苦痛を緩和しその人らしく最期の時を生きぬくことを支援するための方法を説明できる。 2-1. クリティカルケア領域において生じやすい倫理的課題と看護の役割を説明できる。 2-2. 倫理的課題の理解と解決のために有用な理論・概念を理解し、看護援助のあり方を説明できる。 2-3. 倫理的課題の解決に向けた倫理調整の方法について説明できる。 2-4. 倫理的課題に関するコンサルテーションの方法について説明できる。				
先修要件	なし				
関連科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、クリティカルケア看護学実習Ⅰ・Ⅱ、課題研究（急性・重症患者看護CNS）				
学修上の注意	[予習（事前準備）] 担当教員の指示により①～③のいずれかに取り組む。 ①指定文献を事前に読み、授業に臨む。 ②指定文献と関連文献を用いてプレゼンテーション資料を作成する。授業前週の指定された日までに担当教員に提出する。必要に応じて個別指導を受け準備をすすめる。 ③自身が体験した事例を分析し、それをプレゼンテーション資料としてまとめる。授業前週の指定された日までに担当教員に提出する。 [復習] 各授業内容について理解を深める。				
成績評価の方法					
評価方法	授業への参加状況60%、レポート40%を総合して評価する。				
評価基準	1-1. クリティカルな状況にある患者と家族の全人的苦痛及び苦痛緩和・症状マネジメントの方法を説明できる。 1-2. クリティカルな状況にある患者と家族の安楽のためのケア方法を説明できる。 1-3. クリティカルな状況にある患者と家族の苦痛を緩和し生命力を引き出すための日常生活援助方法を説明できる。 1-4. クリティカルな状況にある患者と家族の苦痛を緩和しその人らしく最期の時を生きぬくことを支援するための方法を説明できる。 2-1. クリティカルケア領域において生じやすい倫理的課題と看護の役割を説明できる。 2-2. 倫理的課題の理解と解決のために有用な理論・概念を理解し、看護援助のあり方を説明できる。 2-3. 倫理的課題の解決に向けた倫理調整の方法について説明できる。 2-4. 倫理的課題に関するコンサルテーションの方法について説明できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
レポート課題は、最終回の講義時までにコメントとともに返却する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
関連文献・参考文献はその都度提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者：佐藤まゆみ m.sato.qh@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	佐藤まゆみ	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア1 : クリティカルケア領域における緩和ケア 苦痛緩和・症状マネジメントに関わる理論	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
2	佐藤まゆみ	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア2 : 鎮痛管理・鎮静管理1	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
3	佐藤まゆみ	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア3 : 鎮痛管理・鎮静管理2	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
4	新山和也	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア4 : せん妄1	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
5	新山和也	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア5 : せん妄2	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
6	池田恵	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア6 : 心理的苦痛(不安、抑うつなど)	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
7	池田恵	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア7 : 安楽のためのケア/コンフォートケア	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
8	池田恵	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア8 : 日常生活援助	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
9	佐藤まゆみ	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア9 : 家族への緩和ケア	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
10	田中朋子	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア10 : 患者及び家族への緩和ケアの実際: 事例分析1	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
11	田中朋子	クリティカルな状況にある患者や家族への緩和ケア11 : 患者及び家族への緩和ケアの実際: 事例分析2	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
12	佐藤まゆみ	クリティカルケアにおけるエンドオブライフケア1 : クリティカルケアにおけるエンドオブライフケアの課題1	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
13	佐藤まゆみ	クリティカルケアにおけるエンドオブライフケア2 : クリティカルケアにおけるエンドオブライフケアの課題2	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
14	佐藤まゆみ	クリティカルケアにおけるエンドオブライフケア3 : 患者及び家族へのエンドオブライフケアの実際: 事例分析1	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
15	佐藤まゆみ	クリティカルケアにおけるエンドオブライフケア4 : 患者及び家族へのエンドオブライフケアの実際: 事例分析2	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
16	池田恵	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践1 : クリティカルケア領域において生じやすい倫理的課題	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
17	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践2 : 倫理的課題の理解とその解決に関わる理論・概念1	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
18	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践3 : 倫理的課題の理解とその解決に関わる理論・概念2	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
19	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践4 倫理的課題の分析と倫理調整	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
20	田中朋子	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践5 : 患者への意思決定支援	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
21	田中朋子	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践6 : 家族への代理意思決定支援	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
22	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践7 : クリティカル領域における倫理調整1	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
23	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践8 : クリティカル領域における倫理調整2	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
24	池田恵	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践9 : 日常ケア場面に生じやすい倫理的課題と看護実践	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
25	池田恵	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践10 : 治療選択場面に生じやすい倫理的課題と看護実践	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
26	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践11 : 脳死・臓器移植検討場面に生じやすい倫理的課題と看護実践	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
27	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における倫理的課題と看護実践12 : エンドオブライフ場面に生じやすい倫理的課題と看護実践	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
28	佐藤まゆみ	クリティカルケア領域における倫理コンサルテーション1 : クリティカルケア領域における倫理コンサルテーション	講義・発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
29	池田恵	クリティカルケア領域における倫理コンサルテーション2 : 倫理コンサルテーションの実際: 事例分析1	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分
30	池田恵	クリティカルケア領域における倫理コンサルテーション3 : 倫理コンサルテーションの実際: 事例分析2	発表・討議	授業内容について予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記(PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等)

科目名	特別研究	必修・選択	必修
英語科目名	Nursing Special Research	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	6単位
代表教員	平井 周	ナンバリング	
担当教員	【浦安キャンパス】 飯島佐知子、岩淵和久、植木純、大月恵理子、櫻井しのぶ、佐藤まゆみ、高谷真由美、種市ひろみ、寺岡三左子、野崎真奈美、平井周、平田美佳、水野恵理子、湯浅美千代、青柳優子、飯田真理子、大西麻未、加茂敦子、川上和美、佐野裕子、島田広美、杉山智子、鈴木小百合、高山京子、長瀬雅子、永野光子、中山仁志、原田静香、森田亜希子 【三島キャンパス】 石塚淳子、大熊泰之、小川典子、小池道明、西田みゆき、濱田千江子、東めぐみ、藤尾祐子、横山悦子、栗原明美	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	特別研究は、専門領域の講義・演習による知識の活用および文献検討をふまえて、各分野に関する研究課題を科学的に探求する。研究テーマの明確化、研究計画書の作成、データ収集と結果、論文作成までの過程において指導する。(45回)				
授業の位置づけ	各分野の特論および演習を基盤とし研究計画書を作成、発表した上で研究を遂行し、論文を完成させる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 専門看護領域の発展や専門知識・技術の向上・開発を図るために、科学的思考・論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。 3. 研究を推進するに当たり、倫理観に裏付けられた研究的態度を身につけることができる。				
先修要件	なし				
関連科目	演習				
学修上の注意	各担当者より指示する。				
成績評価の方法					
評価方法	修士論文作成(50%)、口頭試問(50%)				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究に関するレビューの適切さ ・明確な問題意識に基づく研究テーマ設定 ・テーマに見合った方法論の選択 ・結論の導き方の適切さ ・論旨の明解性・一貫性・論理性 ・論文における文章力・読解力・自己表現力、探究心、批判的思考力 ・研究発表の明解さ 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
修士論文提出後に主査・副査より指導する。 修士論文発表会にて成果発表・質疑応答を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
各担当者より指示する。					
参考文献					
各担当者より指示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。				
備考	なし				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法*	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1~45	飯島佐知子	人的資源管理、医療・看護の質の管理や経済評価に関する課題について探求し、研究指導を行う。	演習	各回予習90分、復習90分	
1~45	岩淵和久	感染看護特論の講義をベースに感染と免疫応答に代表される宿主の生体反応に関する研究手法を習得し、研究論文として完成させる研究能力を培う指導を行う。	演習	各回予習90分、復習90分	

1~45	植木純	生活習慣や生活行動、社会活動などのアセスメント、QOL、心理社会的なアセスメントに加え、身体の科学的かつ系統的なアセスメントを含む包括的なヘルスアセスメントを探索する。包括的に健康問題を判断し生活行動を支援できる能力を養うとともに、多彩な研究を展開できるように指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	大月恵理子	母性看護学・助産学領域において関心を寄せている課題について、研究課題として明確化し、研究計画を立案、実施、分析、論文作成の過程を通して、研究能力を培うよう支援を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	櫻井しのぶ	地域もしくは公衆衛生領域でのあらゆる年代・全ての健康レベルにおける顕在・潜在する健康課題に関連する研究課題を選択し、その課題を解決するための看護研究のプロセスを通して修士論文を完成するための指導を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	佐藤まゆみ	クリティカルケア看護領域における各自の研究課題について、研究計画に基づき研究を実施し、修士論文としてまとめる一連のプロセスを指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	高谷真由美	慢性疾患を持つ人とその家族のセルフケア行動やその関連要因、療養行動の継続や症状コントロール、ストレスマネジメントに関する研究課題を明確化し、適切な方法でデータを収集・分析し、看護ケアへの示唆につながる看護研究の遂行能力を養えるように指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	種市ひろみ	在宅療養者とその家族に対して提供される看護実践の研究の動向を学修し、在宅療養者のQOLを高め自立を促進するための看護実践のあり方、課題解決のための方策を探索するための研究能力を培う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	寺岡三左子	シミュレーション教育およびICTを活用した教育・看護実践方法に関する研究課題を明確にし、課題探究のための研究の遂行、論文作成までの一連の研究プロセスを通して研究の基礎を修得できるよう指導を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	野崎真奈美	看護学教育における学習者の特性、学生指導、教材化、教育技法、授業設計、教育評価、教師教育、キャリアデザイン支援等に関する課題についてテーマを絞り、研究指導を行う。修士論文作成までの過程を通して、研究者としての基礎的能力を高める。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	平井周	自らの関心領域について病理学的知見を先行研究から文献的に考察し、自己の研究課題を明確にした上で、種々の病理学的評価方法から適切な検索手法を選択し、研究を立案・遂行する能力を修得できるよう指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	平田美佳	病気や障がいを持つこどもとその家族の健康やQOLの向上に関する看護の課題について、自身の看護実践・教育経験、国内外の知見と照らして研究の問いとして言語化する。そして、その問いを探索するための研究方法論の検討、研究計画書の作成、データ収集、分析、論文作成の一連のプロセスを踏むことによって、研究実践に必要な基礎的能力	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	水野恵理子	精神保健看護領域とリエゾン精神看護領域のいずれを選択して研究課題を明確にし、修士論文を作成する一連の研究過程を指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	湯浅美千代	高齢者とその家族への看護における課題を取り上げ、その課題を探索するための研究方法をさまざまな研究手法から検討し、フィールドでのデータ収集と分析、考察により、論文としてまとめる。この過程を通して看護実践に関わる研究能力を高める。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	青柳優子	母性看護学・助産学領域において関心を寄せている課題について、研究課題として明確化し、研究計画を立案、実施、分析、論文作成の過程を通して、研究能力を培うよう支援を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	飯田真理子	母性看護学・助産学領域において関心を寄せている課題について、研究課題として明確化し、研究計画を立案、実施、分析、論文作成の過程を通して、研究能力を培うよう支援を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	大西麻未	医療・看護の質を高めるための管理方法について、組織化の方法、人材育成、管理者の行動、職務環境等を中心とした研究課題について、修士論文作成のための指導を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	加茂敦子	様々な生体反応や慢性皮膚疾患等の病態に関連する自己の研究課題について、研究遂行から論文作成の過程を通して、基礎的な研究能力を修得できるように指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	川上和美	感染予防管理・感染症看護分野における研究課題を明確にし、研究計画書作成から修士論文作成までの一連のプロセスを通して研究能力を高められるよう指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	佐野裕子	リハビリテーション医療・看護に関する研究課題について、評価および具体的な介入手法を探索すると共に、研究計画の作成から研究を遂行できる能力を高めるよう指導を行う。	演習	各回予習90分、復習90分

1~45	島田広美	回復期にある高齢者とその家族に関する課題を取り上げ、研究課題の明確化、研究課題に即した研究方法の検討、研究計画書の作成、データ収集・分析、論文作成の過程を通し、研究者として必要な能力を修得できるように指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	杉山智子	高齢者看護領域における課題をあげ、その課題に沿った研究方法の検討や援助方法を探究する中で研究プロセスを修得し、研究能力を高められるよう指導を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	鈴木小百合	看護基礎教育および看護継続教育に関する自己の研究課題について、研究計画書の作成から修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを通して、基礎的な研究能力を修得できるように指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	高山京子	がん罹患した患者とその家族の看護に関わる領域から自己の研究課題を明確にし、研究計画書の作成から修士論文としてまとめる過程の中で必要な研究能力を獲得できるように指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	長瀬雅子	慢性的な疾患あるいは障害を抱えた人々とその家族のQOL維持、向上に関する課題を選択し、その課題を探究するための研究方法をさまざまな研究手法から検討する。また、フィールドでのデータ収集、その分析と考察、論文作成の過程を通して研究能力を身につけられるよう指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	永野光子	看護基礎教育、看護継続教育に関わる研究課題について、研究課題の明確化から修士論文作成の過程を通し、研究者としての基礎的な能力を修得できるよう指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	中山仁志	感染制御の基礎となる病原微生物ならびにサイトカインを含む炎症性物質に対する生体反応についての研究手法を習得し、それらを土台として、自己の研究課題の明確化、研究計画の立案、論文の完成までのプロセスを指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	原田静香	地域看護学及び公衆衛生看護学の領域である母子保健・成人保健・高齢者保健に関する国内外の文献レビューをもとに、自らの研究課題を明確化し、基礎的な研究能力の修得を目指す。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	森田亜希子	母性看護学・助産学領域における研究課題を明確にする。文献検討に基づいて学術的意義を記述し、研究計画を作成、実施し、修士論文を完成するための過程を通して、研究能力を高める指導を行う。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	石塚淳子 (三島)	看護学教育における現状と課題について明らかにし、研究テーマを明確にする。研究テーマに即した研究方法を検討し、研究計画書の作成からデータ収集・分析、修士論文作成までの過程を通して、研究者としての基礎的な能力を修得できるように指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	大熊泰之 (三島)	さまざまな脳・神経疾患患者が療養するにあたり、未だ解決されていない問題を調査しそれを解決できるような課題を探究する。論文渉猟、データ収集、論文作成のプロセスを習得できるよう指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	小川典子 (三島)	保健福祉のあらゆる面から自立支援およびQOLニーズに関する研究課題・研究方法について分析的に考察し、実践への適用を検討する。自己の研究課題に応じた研究方法や分析方法を明確化し、研究計画書・論文作成に必要なプロセスや技術を習得する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	小池道明 (三島)	高齢者の多発性骨髄腫患者のADL、フレイルスコア、全身状態の評価について現在のエビデンスを熟知し、現在の医療状況に合致しているか分析する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	西田みゆき (三島)	子どもと家族への看護における課題を明確にし、その課題を探究するための研究方法を選択する。その上で、研究のプロセスを実施し修士論文として完成させる能力を身につけられるよう指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	濱田千江子 (三島)	慢性疾患をもつ患者におけるフレイル（運動器機能の低下）やセルフヘルスマネジメント等に関連した文献レビューを行い、研究課題の仮説を自ら設定し、仮説を明らかにするために必要な研究計画書が作成できることを目標とする。習得に対して必要な文献レビュー・情報の理解分析・データ収集を含めたプロセスを通して基礎的な研究能力が身につけられるよう指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	東めぐみ (三島)	複雑な状態にある慢性病患者とその家族に対する関心のある課題を探究するために、先行研究論文のクリティックを行い、研究課題を明確にし、研究を行う意義を検討する。また、研究課題を達成するための方法の検討と研究のプロセスをとおして、研究活動に必要な基礎的な能力を習得する。	演習	各回予習90分、復習90分

1~45	藤尾祐子 (三島)	退院支援または在宅療養支援に関する課題を取り上げ、研究課題の明確化、研究課題に即した研究方法の検討、研究計画書の作成、データ収集・分析、論文作成の過程を通し、研究者として必要な能力を修得できるように指導する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	横山悦子 (三島)	高齢者に対する看護実践の課題を明確にし、その課題を探求するための研究のプロセスを通して、基礎的な研究能力を修得する。	演習	各回予習90分、復習90分
1~45	栗原明美 (三島)	高齢者に対する看護実践の課題を明確にし、その課題を探求するための研究のプロセスを通して、基礎的な研究能力を修得する。	演習	各回予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	課題研究(慢性看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Assignment Research-CNS in Chronic Illness and Conditions Nursing	対象学年	1-2年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	4単位
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング	
担当教員	高谷真由美*、長瀬雅子* *実務家担当教員	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>慢性病をもつ人々の複雑で解決困難な課題に対する看護実践を通して、家族の身体的・心理的・家族的・社会的な問題、治療環境整備に関する問題の解決に向けた研究課題を明確にする。研究課題の解明にむけて臨床実践の場で看護介入を行い、得られたデータを分析し、その成果をまとめるという過程を通して、実践に活用できる研究能力を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の明確化 2. 研究計画書の作成 3. 研究計画に基づくデータ収集あるいは技術開発 4. データの分析・技術開発経過のまとめと考察 5. 臨床適用の検討 6. 論文の提出 7. 論文内容の審査 8. 論文内容の発表 				
授業の位置づけ	慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴ、CNS演習等で活用した既存の文献や内容についての討議から、実践の改善や問題解決の手がかりとなる研究とはどのようなものかを考え、自己の研究課題や研究方法の探求につなげていく。研究活動と実践のつながりを考えながら研究プロセスを学び、研究を通して得られた新たな知見や経験をCNS実習に活用する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	文献検討のあり方について説明できる。 各自の課題について倫理的配慮を踏まえた研究計画を作成することができる。 研究計画に基づいたデータ収集、技術開発を実践できる。 結果を論文化するとともに、効果的にプレゼンテーションすることができる。 研究を実践に活用するための研究への取り組み姿勢を示すことができる。				
先修要件	なし				
関連科目	看護学研究方法論 慢性看護学特論Ⅰ～Ⅴ 演習				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協力施設・協力者への交渉を行う。 ・成果を関連学会への発表するための準備を行う。 				
成績評価の方法					
評価方法	修士論文(50%)、口頭試問(50%)				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な問題意識と適切なテーマ設定 ・テーマに見合った方法論の選択 ・適切なプロセスによる結論の導出 ・論旨の明解性・一貫性・論理性 ・論文における文章力・読解力・自己表現力 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
修士論文提出時に主査・副査から指導する。 修士論文発表会で成果発表、質疑応答を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
なし					
その他					
連絡先・オフィスアワー	高谷真由美 mtakaya@ 長瀬雅子 mnagase@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1-7	高谷・長瀬	研究課題の明確化	個別指導	各回予習・復習各90分を目安とし、指導を受けるための準備を行う。
8-15	高谷・長瀬	研究計画書の作成	個別指導、研究会での発表	各回予習・復習各90分を目安とし、指導を受けるための準備を行う。
16-17	高谷・長瀬	研究計画書の発表・倫理審査	研究科委員会での指導、倫理審査の受審	各回予習・復習各90分を目安とし、指導を受けるための準備を行う。
18-23	高谷・長瀬	研究計画に基づくデータ収集	個別指導	研究遂行に必要な時間
24-30	高谷・長瀬	データ分析、論文作成、論文内容の審査	個別指導、口頭試問、成果報告会	研究遂行に必要な時間

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	課題研究(ウイメンズヘルス看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Assignment Research-CNS in Women's Health Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	4単位
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング	
担当教員	大月恵理子※、森田亜希子※、青柳優子※、飯田真理子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	ウイメンズヘルス看護学の看護実践における研究課題の研究を行い、研究論文としてまとめることを通して、看護実践のエビデンスを向上させることができるような研究能力を養う。				
授業の位置づけ	自身の実務経験ならびに、看護学研究方法論、ウイメンズヘルス看護学特論（Ⅰ～Ⅴ）および演習（ウイメンズヘルス看護CNS）を基盤とし、ウイメンズヘルス看護学において課題解決が必要なテーマを取り上げ、研究計画書を作成、発表したうえで研究を遂行し、論文を完成させる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	ウイメンズヘルス看護の臨床実践における 1. 研究の問いが明確にできる。 2. 研究課題の明確化ができる。 3. 研究計画を作成できる。 4. 研究計画に基づき、データが収集できる。 5. 収集したデータの分析ができる。 6. データ分析に基づき、結果の提示ができる。 7. 結果に基づき、考察ができる。 8. 論文をまとめることができる。 9. 論文審査における指摘事項に基づき、加筆修正を行い、発表できる。				
先修要件	ウイメンズヘルス看護CNS選択者のみ受講可				
関連科目	看護学研究方法論、ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（ウイメンズヘルス看護CNS）				
学修上の注意	研究テーマと関連がある、文献購読、実践力強化、学会参加などを積極的に行い、自己学習能力を磨く。 1年次前期より文献検討をすすめ、1年次後期には研究計画書を作成し、研究計画審査および倫理審査を受審する。 2年次に実習と並行して研究を遂行できるよう計画的に行う。 月に2回程度、ゼミ形式で行う				
成績評価の方法					
評価方法	修士論文（50%）、口頭試問（50%）				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な問題意識と適切なテーマ設定 ・テーマに見合った方法論の選択 ・適切なプロセスによる結論の導出 ・論旨の明解性・一貫性・論理性 ・論文における文章力・読解力・自己表現力 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
修士論文提出後に主査・副査より指導する。 修士論文発表会にて成果発表・質疑応答を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に指定しない					
参考文献					
適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は随時メールで行う。面接が必要な時は、メールでアポイントをとり行う。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～7	大月 恵理子 青柳 優子 森田 亜希子 飯田 真理子	1. 研究課題の明確化 課題の明確化に向けて、文献検討、ヒヤリングなどの小規模調査、 教員および学生間や臨地スタッフ等とのディスカッションを行う。 テーマに関する、ディスカッション、文献収集、クリティークを通して、 研究課題を明確化し、文章化する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
8～15	大月 恵理子 青柳 優子 森田 亜希子 飯田 真理子	2. 研究計画書の作成 研究方法の検討を行い、計画書としてまとめる。 研究方法は、対象者への調査だけでなく、看護実践の評価、技術開発の 取り組み、看護実践の改善プロセスなど、看護実践向上に寄与する 新しい取り組みを表現し、評価する方法の開発を含む。 作成した研究計画書を発表し、内容の妥当性、実行可能性を検討し、 修正する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う
16～23	大月 恵理子 青柳 優子 森田 亜希子 飯田 真理子	3. 研究計画に基づくデータ収集 倫理委員会で研究計画について承認を受けたのち、計画に基づき、 研究を遂行する。	個別指導	研究遂行に必要な時間
24～30	大月 恵理子 青柳 優子 森田 亜希子 飯田 真理子	4. データ分析、結果のまとめ、考察 5. 論文作成 6. 論文内容の審査、発表	個別指導 発表、討議	研究遂行に必要な時間

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	課題研究(小児看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Assignment Research-CNS in Child Health Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	4単位
代表教員	西田 みゆき	ナンバリング	
担当教員	西田みゆき※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>小児看護学の学修並びに看護実践を通して、子どもおよび／あるいは家族について見出された研究課題に沿って研究を行い、論文を作成することにより、看護実践に活用できる研究能力を養う。</p> <p>以下の手順で進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の明確化 2. 研究計画書の作成 3. 研究計画書に基づくデータ収集 4. データの分析 5. 結果と考察 6. 論文の提出 7. 論文内容の審査 8. 論文内容の発表 				
授業の位置づけ	小児看護専門看護師の役割の1つとして、研究を遂行する能力の習得する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力</p> <p>DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力</p>				
到達目標	<p>文献検討およびフィールド実習を通して研究課題を明確化し、研究計画書を作成できる。</p> <p>研究計画書に基づいて、データ収集し、そのデータを分析できる。</p> <p>データ分析の結果を基に考察を行い、論文を作成できる。</p> <p>論文審査による指摘事項の加筆修正を行い、修士論文発表会で発表できる。</p>				
先修要件	なし				
関連科目	看護学研究方法論、看護理論特論 看護倫理特論 応用統計学				
学修上の注意	研究計画、データ収集、データ分析、結果と考察、図表、結論、要旨、文章表記などについて検討および評価し、論文を完成する。				
成績評価の方法					
評価方法	課題研究の取り組み状況30%、成果物（課題研究論文）70%の配分により総合して評価する。				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の明確化 2. 研究計画書の作成 3. 研究計画書に基づくデータ収集 4. データの分析 5. 結果と考察 6. 論文の提出 7. 論文内容の審査 8. 論文内容の発表 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>修士論文提出後に主査・副査より指導する。</p> <p>修士論文発表会にて成果発表・質疑応答を行う。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
<p>・Polit, D. F. & Beck C. T.: Nursing Research-Principle and methods 7th ed. 2004, 近藤潤子訳, 看護研究-原理と方法 第2版, 医学書院, 2010.</p> <p>・Grove, S. k., Burns, N., Gray, J. R. : The Practice of Nursing Research 7th ed, 2013, 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功監訳, パーンズ&グローブ 看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成 原著第7版, エルゼビア・ジャパン, 2015</p> <p>・前田 樹海, 江藤 裕之 : APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール, 医学書院, 2012.</p> <p>・牧本清子編 : エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー, 日本看護協会出版会, 2013</p> <p>・Walker, L. O. & Avant, K. C. : Strategies for Theory Construction in Nursing 4th ed., 2005,</p> <p>・中木高夫, 川崎修一訳, 看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008</p> <p>上記以外、専門領域に関する文献、特論および演習で配布した購読文献を活用し、さらに自ら検索した関連書籍と論文を参考とする。</p>					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時（事前にメールで連絡のことmnishida@）				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～4	西田	関心領域における研究の動向の探索	ディカッション	予習：関心領域における文献について調べ資料を用いて説明する準備（2時間） 復習：関心領域における研究の動向について再考（2時間）
5～10	西田	研究テーマの絞り込み	ディスカッション	予習：リサーチエッセイの明確化し、研究テーマを説明するための資料の作成（2時間） 復習：ディスカッションを通して、研究テーマを確定（2時間）
11～15	西田	研究方法の確定	ディスカッション	予習：研究を実施するための方法の適切性について説明できるための資料作成（2時間） 復習：研究方法の明文化（2時間）
16～20	西田	倫理申請とフィールド確保	ディスカッション	予習：倫理申請書の作成、フィールドの候補についての資料を作成（2時間） 復習：倫理申請書の完成、フィールドの確定
21～35	西田	データ収集と分析	ディスカッション	予習：データ収集、分析についての資料作成（2時間） 復習：データ収集、分析の継続（2時間）
36～46	西田	論文作成	ディスカッション	予習：論文作成（2時間） 復習：論文修正（2時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	課題研究(在宅看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Assignment Research-CNS in Home Care Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	4単位
代表教員	種市 ひろみ	ナンバリング	
担当教員	種市ひろみ※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	在宅療養者とその家族に対して提供される看護実践の研究の動向を学修し、在宅療養者のQOLを高め自立を促進するための看護実践のあり方、課題解決のための方策を探求するための研究能力を養う。 1. 課題の明確化 2. 研究計画書の作成 3. 研究計画書に基づくデータ収集 4. 調査結果の分析 5. 調査結果の論理的考察 6. 論文の提出 7. 論文内容の審査 8. 論文内容の発表				
授業の位置づけ	自身の実務経験ならびに在宅看護学分野の特論および演習(在宅看護CNS)を基盤とし、在宅看護を提供する場で課題解決が必要なテーマを取り上げ、研究計画書を作成、発表した上で研究を遂行し、論文を完成させる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1. 文献検討をもとに自身の研究課題を明確にすることができる 2. 研究計画書を作成することができる 3. 研究計画書に基づくデータ収集をすることができる 4. 調査結果を科学的に分析することができる 5. 調査結果を論理的に考察することができる 6. 論文を提出し、発表をすることができる				
先修要件	在宅看護CNS選択者のみ受講可				
関連科目	在宅看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(在宅看護CNS)				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のテーマにより、複数の教員での指導体制をとる。 ・1年次前期は研究計画書作成に向け、関連文献のレビュー等を行い、月1～2回程度ゼミ形式で発表し、内容を検討する。 ・1年次後期は研究計画書の提出にむけ、月1～2回程度のゼミでの発表に加え、個別指導を行う。 ・2年次は、在宅看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと並行して研究を遂行するため、計画的に行うこと。 研究の進捗に合わせ、個別指導を行う。 月1～2回程度ゼミ形式で進捗状況を報告し、内容を検討する。				
成績評価の方法					
評価方法	修士論文(50%)、口頭試問(50%)				
評価基準	1. 文献検討をもとに自身の研究課題を明確にすることができるか 2. 研究計画書を作成することができるか 3. 研究計画書に基づくデータ収集をすることができるか 4. 調査結果を科学的に分析することができるか 5. 調査結果を論理的に考察することができるか 6. 論文を提出し、発表をすることができるか				
試験・課題に対するフィードバック方法					
修士論文提出後に主査・副査より指導する。 修士論文発表会にて成果発表・質疑応答を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
なし					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談等は随時メールでお願いします。 連絡先:h.taneichi.uh@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～7	種市ひろみ	1. 研究課題の明確化 課題の明確化に向けて、文献検討、ヒヤリングなどの小規模調査、 教員および学生間や臨地スタッフ等とのディスカッションを行う。 テーマに関する、ディスカッション、文献収集、クリティークを通して、 研究課題を明確化し、文章化する。	発表・討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
8～15	種市ひろみ	2. 研究計画書の作成 研究方法の検討を行い、計画書としてまとめる。 研究方法は、対象者への調査だけでなく、看護実践の評価、技術開発の 取り組み、看護実践の改善プロセスなど、看護実践向上に寄与する 新しい取り組みを表現し、評価する方法の開発を含む。 作成した研究計画書を発表し、内容の妥当性、実行可能性を検討し、 修正する。	発表・討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
16～23	種市ひろみ	3. 研究計画に基づくデータ収集 倫理委員会で研究計画について承認を受けたのち、計画に基づき、 研究を遂行する。	個別指導	研究遂行に必要な時間
24～30	種市ひろみ	4. データ分析、結果のまとめ、考察 5. 論文作成 6. 論文内容の審査、発表	個別指導、発表、 討議	研究遂行に必要な時間

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	課題研究(精神看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Assignment Research-CNS in Psychiatric Mental Health Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	4単位
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング	
担当教員	水野恵理子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>各自の専門領域における実践や臨床に関する事象から研究課題を設定し、科学的視点と理論的根拠をもって実証的に研究を行う能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践や臨床に即したテーマが望ましい。 ・研究論文20編程度を目安にクリティークを行い、課題と方法を検討する。 ・データ収集時期や方法の詳細は相談しながら決定する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の設定（1年次後期） 2. 研究計画書の作成 3. データ収集（精神看護学実習終了後より開始） 4. 分析と考察 5. 論文作成 6. 論文内容の審査 7. 研究成果の発表 				
授業の位置づけ	精神看護学分野の特論と演習を基盤として研究計画書を作成し、研究を遂行し、論文を完成させる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の一連の過程を理解し実施できる。 2. 自分自身の現象の認識傾向を知り、妥当性または厳密性を図る手段を考えることができる。 3. 研究課題に適した研究デザインを選択することができる。 4. 得られた研究成果を決められた時間と方法で明確に説明できる。 				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	なし				
成績評価の方法					
評価方法	修士論文の作成（50%）、口頭試問（50%）				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究に関するレビューの適切さ ・明確な問題意識に基づく研究テーマ設定 ・テーマに見合った方法論の選択 ・結論の導き方の適切さ ・論旨の明解性・一貫性・論理性 ・論文における文章力・読解力・自己表現力、探究心、批判的思考力 ・研究発表の明解さ 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
修士論文提出後に主査・副査より指導する。 修士論文発表会にて成果発表と質疑応答を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
後日連絡					
参考文献					
指導者の指示による。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	指導者から直接確認すること。				
備考	なし				
授業計画					
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間	
1~45	水野恵理子	文献検討を通して研究課題を明確にし、研究計画書を作成し、研究を遂行し、論文を作成するための指導を行う。 基本的な研究能力を修得する。	演習	各回予習90分、復習90分	

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	課題研究(がん看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Assignment Research-CNS in Cancer Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	4単位
代表教員	高山 京子	ナンバリング	
担当教員	高山京子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	自身の専門領域に関わるがん患者とその家族の抱えている看護上の問題を取り上げ、現実の看護現象を通して実証的に研究を行う能力を養う。 1. 課題の明確化 ・がん薬物療法、放射線療法、緩和ケア、終末期、の看護についての課題 2. 研究計画書の作成 3. 研究計画書に基づくデータ収集 4. 調査結果の科学的分析 5. 調査結果の論理的考察 6. 論文の提出 7. 論文内容の審査 8. 論文内容の発表				
授業の位置づけ	これまでのがん看護実践やがん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよび演習(がん看護CNS)を基盤として、がん看護領域の課題に関してテーマを設定し、研究計画書を作成、発表した上で研究を遂行し、論文を完成させる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	1. 専門領域に関わるがん患者とその家族の抱えている看護上の問題に即して、研究計画書を作成できる。 2. 研究計画書に基づいて、データを収集し、結果の分析・考察を行って、論文として記述できる。				
先修要件	なし				
関連科目	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴ、演習(がん看護CNS)				
学修上の注意	ゼミ形式で授業を行うため、毎回ゼミ資料を作成する。				
成績評価の方法					
評価方法	修士論文(50%)、口頭試問(50%)で評価する。				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識が明確でテーマ設定は適切か ・テーマに見合った方法論が選択されているか ・与えられた情報や仮定から、結論を導き出す過程に問題点は見られないか ・明解性・一貫性・論理性のある論旨が展開されているか ・文章力・読解力・自己表現力があるか 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
修士論文提出後に主査・副査より指導する。 修士論文発表会にて成果発表・質疑応答を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
特になし					
その他					
連絡先・オフィスアワー	随時(事前にメールで連絡のこと k.takayama.sv@)				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～7	高山 京子	研究課題の明確化 ・がん医療を取り巻く現状分析、文献のクリティークを行い研究課題を見出す。 ・ゼミでのディスカッションを通して研究課題を洗練する。	発表、討議	予習：発表資料の作成（2時間） 復習：討議内容を踏まえて資料の修正、まとめ（2時間）
8～15	高山 京子	研究計画書の作成 ・研究課題を明らかにするために適した研究方法を検討する。 ・一貫性や整合性の点から内容を吟味し、倫理的配慮のなされた研究計画書を作成する。	発表、討議	予習：研究計画書の作成（2時間） 復習：討議内容を踏まえて計画書の修正（2時間）
16～23	高山 京子	研究計画書に基づくデータ収集 ・倫理審査委員会で審査を受けて、研究を開始する。	個別指導	研究遂行に必要な時間
24～30	高山 京子	調査結果の科学的分析、論理的考察 論文の作成 論文内容の審査、発表	個別指導、発表、討議	研究遂行に必要な時間

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	課題研究(感染看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Assignment Research-CNS in Infection Control Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	4単位
代表教員	川上 和美	ナンバリング	
担当教員	川上 和美※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	<p>感染症に罹患しやすい易感染患者や感染症を抱える人々の複雑で解決困難な課題に対する看護実践を通して、感染予防・感染症の伝播予防の視点から、身体的・心理的・社会的な問題、療養環境に関する問題の解決に向けた研究課題を明確にする。研究課題の解明にむけた臨床実践の場での看護支援や、研究対象者から得られたデータを分析し、評価の過程を通して、実践に活用できる研究能力を修得し、修士論文として提出する。</p> <p>研究プロセスを通じ、医療機関、地域、在宅、福祉施設等のあらゆる場と状況のリスクアセスメントに基づいて、感染症の発症予防・制御等の適切な方略を立案し、実践指導と評価に必要な研究能力を身につけることを目指す。</p> <p>授業は段階的に以下の1～8を達成しながら進めていく。具体的な研究課題・内容については、指導教員とよく相談して決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の明確化 2. 研究計画書の作成および倫理審査の申請 3. 研究計画に基づくデータ収集 4. データの科学的分析 5. 結果に対する論理的考察 6. 論文作成・提出 7. 論文審査 8. 論文発表 				
授業の位置づけ	<p>自身の実務経験ならびに感染看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴおよび演習(感染看護CNS)を基盤とし、感染症患者・易感染者の看護や、集団を対象とした感染制御における課題解決が必要なテーマを取り上げ、研究計画書を作成、発表した上で研究を遂行し、修士論文を完成させる。</p>				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	<p>DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を明確化し、研究計画書を作成することができる。 2. 研究計画書の発表ができる。 3. 研究計画書に基づきデータ収集ができる。 4. データを分析し、結果に対する論理的考察をすることができる。 5. 修士論文をまとめ、提出することができる。 				
先修要件	なし				
関連科目	<p>感染看護学特論Ⅰ、感染看護学特論Ⅱ、感染看護学特論Ⅲ、感染看護学特論Ⅳ、感染看護学特論Ⅴ、演習(感染看護CNS)、看護学研究方法論、応用統計学</p>				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次前期は研究計画書作成に向け、関連文献のレビュー等を行い、月1～2回程度、演習またはゼミにおいて発表し、内容を検討する。 ・1年次後期は研究計画書の提出と倫理審査の申請にむけ、個別指導を行う。 ・2年次は、感染看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと並行して研究を遂行するため、計画的に行うこと。研究の進捗に合わせ、月1～3回程度、個別指導を行う。 ・学生のテーマにより、分野内外の教員、研究者、臨床の実践者へ助言を求める。 				
成績評価の方法					
評価方法	修士論文(50%)、口頭試問(50%)				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 明確な問題意識と適切なテーマ設定 2. テーマに見合った方法論の選択 3. 適切なプロセスによる結論の導出 4. 論旨の明解性・一貫性・論理性 5. 論文における文章力・読解力・自己表現力 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
<p>修士論文提出後に主査・副査より指導する。 修士論文発表会にて成果発表・質疑応答を行う。</p>					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
参考文献は適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	<p>質問・相談等は随時メールで受け付ける。 科目責任者：kzkawaka@</p>				
備考	なし				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～7	川上 和美	1. 研究課題の明確化 ・研究課題の明確化に向けて、文献検討、ヒヤリングなどの小規模調査、教員および学生間や臨地スタッフ等とのディスカッションを行う。 ・テーマに関する、ディスカッション、文献収集、クリティークを通して、研究課題を明確化し、文章化する。	発表 討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
8～15	川上 和美	2. 研究計画書の作成 ・研究方法の検討を行い、研究計画書としてまとめる。 ・研究方法は、対象者への調査だけでなく、看護実践の評価、技術開発の取り組み、看護実践の改善プロセスなど、看護実践向上に寄与する新しい取り組みを表現し、評価する方法の開発を含む。 ・作成した研究計画書を発表し、研究計画審査を受け、内容の妥当性、実行可能性を検討のうえ修正する。	発表 討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
16～23	川上 和美	3. 研究計画に基づくデータ収集 ・倫理委員会で研究計画について承認を受けたのち、計画に基づきデータ収集を行い、研究を遂行する。	個別指導	研究遂行に必要な時間
24～30	川上 和美	4. データ分析、結果のまとめ、考察 5. 論文作成 6. 論文内容の審査、発表	個別指導 発表 討議	研究遂行に必要な時間

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	課題研究(高齢者看護CNS)	必修・選択	選択
英語科目名	Assignment Research-CNS in Gerontological Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	4単位
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング	
担当教員	湯浅美千代※、島田広美※、杉山智子※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	看護援助が必要な高齢者とその家族がもつさまざまな問題、臨床の場で取り組む必要がある改善課題、技術開発、看護職をはじめとする医療チームの問題などから、看護の発展に寄与する課題に焦点をあて、研究課題として明確化し、探索するプロセスを通して、実践の場で活用できる研究能力を修得する。				
授業の位置づけ	自身の実務経験ならびに各分野の特論および演習（高齢者看護CNS）を基盤とし、高齢者を看護する場で課題解決が必要なテーマを取り上げ、研究計画書を作成、発表した上で研究を遂行し、論文を完成させる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	高齢者とその家族に提供されている看護の実践上の課題から、テーマを明確にし、研究計画をたて、それに基づいてデータ収集、分析を行い、論文として記述できる。				
先修要件	高齢者看護CNS選択者のみ受講可				
関連科目	高齢者看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（高齢者看護CNS）				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のテーマにより、複数の教員での指導体制をとる。 ・1年次前期は研究計画書作成に向け、関連文献のレビュー等を行い、月1～2回程度ゼミ形式で発表し、内容を検討する。 ・1年次後期は研究計画書の提出にむけ、月1～2回程度のゼミでの発表に加え、個別指導を行う。 ・2年次は、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱと並行して研究を遂行するため、計画的に行うこと。 研究の進捗に合わせ、個別指導を行う。 月1～2回程度ゼミ形式で進捗状況を報告し、内容を検討する。				
成績評価の方法					
評価方法	修士論文（50%）、口頭試問（50%）				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な問題意識と適切なテーマ設定 ・テーマに見合った方法論の選択 ・適切なプロセスによる結論の導出 ・論旨の明解性・一貫性・論理性 ・論文における文章力・読解力・自己表現力 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
修士論文提出後に主査・副査より指導する。 修士論文発表会にて成果発表・質疑応答を行う。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは用いない					
参考文献					
参考文献は適宜紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談等は随時メールでお願いします。 湯浅 myuasa@ 島田 hishima@ 杉山 tsugiya@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～7	湯浅美千代 島田広美 杉山智子	1. 研究課題の明確化 課題の明確化に向けて、文献検討、ヒヤリングなどの小規模調査、 教員および学生間や臨地スタッフ等とのディスカッションを行う。 テーマに関する、ディスカッション、文献収集、クリティークを通して、 研究課題を明確化し、文章化する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
8～15	湯浅美千代 島田広美 杉山智子	2. 研究計画書の作成 研究方法の検討を行い、計画書としてまとめる。 研究方法は、対象者への調査だけでなく、看護実践の評価、技術開発の 取り組み、看護実践の改善プロセスなど、看護実践向上に寄与する 新しい取り組みを表現し、評価する方法の開発を含む。 作成した研究計画書を発表し、内容の妥当性、実行可能性を検討し、 修正する。	発表、討議	各回予習・復習各90分を目安とし、発表準備を行う。
16～23	湯浅美千代 島田広美 杉山智子	3. 研究計画に基づくデータ収集 倫理委員会で研究計画について承認を受けたのち、計画に基づき、 研究を遂行する。	個別指導	研究遂行に必要な時間
24～30	湯浅美千代 島田広美 杉山智子	4. データ分析、結果のまとめ、考察 5. 論文作成 6. 論文内容の審査、発表	個別指導 発表、討議	研究遂行に必要な時間

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	課題研究（急性・重症患者看護CNS）	必修・選択	選択
英語科目名	Assignment Research-CNS in Critical Care Nursing	対象学年	1年
開講学期	1,2年次/通年	単位数	4単位
代表教員	佐藤 まゆみ	ナンバリング	
担当教員	佐藤まゆみ※ 池田恵※	授業形態	演習

※…実務家担当教員

授業概要					
全体内容	クリティカルな状況にある患者とその家族が抱える問題、クリティカルケア看護の充実のために取り組む必要のある看護職者や医療チーム、あるいは組織の問題などを研究課題として設定し、研究プロセスに沿って研究を行うことを通して、実践の場で活用できる研究能力を修得する。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられる。自身の実務経験ならびにクリティカルケア看護学特論や演習（急性・重症患者看護CNS）を基盤に学修する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力 DP3-高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検討等をもとに研究課題を明確にすることができる 2. 研究計画を立案し、研究計画書を作成することができる 3. 研究計画に基づきデータを収集することができる 4. 収集したデータを分析することができる 5. 分析結果に基づき論理的に考察することができる 6. 上記1～6のプロセスを論文にまとめることができる 7. 論文内容を公表/発表することができる 				
先修要件	急性・重症患者看護CNSコースの学生のみ受講可。				
関連科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、演習（急性・重症患者看護CNS）、クリティカルケア看護学実習Ⅰ・Ⅱ				
学修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミを通じた指導と個別指導を組み合わせる。 ・ゼミの際には毎回ゼミ資料を作成してゼミに臨むこと。 ・クリティカルケア看護学実習と併行して研究を行うことになるため、計画的にすすめること 				
成績評価の方法					
評価方法	課題研究への取り組み状況30%、課題研究論文70%により評価する				
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検討等をもとに研究課題を明確にすることができる 2. 研究計画を立案し、研究計画書を作成することができる 3. 研究計画に基づきデータを収集することができる 4. 収集したデータを分析することができる 5. 分析結果に基づき論理的に考察することができる 6. 上記1～6のプロセスを論文にまとめることができる 7. 論文内容を公表/発表することができる 				
試験・課題に対するフィードバック方法					
ゼミや個別指導の際に指導を行う。修士論文提出後には主査・副査より指導する。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	なし				
参考文献					
参考文献はその都度提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問や相談については随時メールで受け付ける。 佐藤まゆみ m.sato.qh@ 池田恵 meg-i@				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1～7	佐藤まゆみ 池田恵	1. 研究課題の明確化 文献検討およびゼミでのディスカッションを通して研究課題を明確にする	発表・討議	予習（発表準備）90分、復習90分。
8～15	佐藤まゆみ 池田恵	2. 研究計画書の作成 文献検討およびゼミでのディスカッションを通して研究方法の検討を行う。研究計画を研究計画書としてまとめる。	発表・討議 個別指導	予習（発表準備）90分、復習90分。
16～23	佐藤まゆみ 池田恵	3. 研究計画に基づくデータ収集 研究計画について倫理審査委員会から承認を受けたのち、計画に基づきデータを収集する。	個別指導	研究遂行に必要な時間
24～30	佐藤まゆみ 池田恵	4. データ分析 5. 分析結果に基づく考察 6. 論文作成 7. 論文内容の審査 8. 論文内容の発表	個別指導 発表・討議	研究遂行に必要な時間

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）